明治三十三年十二月廿五日第三種郵便物認可　明治四十二年十一月廿六日印刷納本（毎月一回廿六日印刷納本）

女學世界

十二月一日發行

第九卷
第拾六號



博文館

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



年暮御進物用
美顔水
桃谷順天館
大瓶 二十五銭
中瓶 十五銭
今や美顔水は年末年始の御贈答品として流行し陸續
御社交の栄を賜り本舗は其供給に多忙を極め居れり
近縣旅行中の御携帯品にも美顔水を忘れ給ふな

御子樣方の御樂み

歳暮の御進物

御忙がしい御方々が御進物の御趣向や御品定めに貴さい時間を御潰し遊ばすは無益なこと

御間合に一寸當店に御立寄下されば

どんな變つた品でも又何程でも忽ち調へます

東京日本橋駿河町

三越呉服店

十二月一日より

懸賞募集玩具陳列

萬國玩具展覽會

玩具參考品陳列

陳列の品が澤山ございますからどんな御好みの品も澤山ある道理

其上御註文物はいくらでも速くとゝのへます

春の御仕度

手拭一筋でも簪一本でも

春は春らしい物が特別に出來て居ります

女學世界 第九巻第拾六號 目次

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

新製

御料たつた

純無鉛白粉

けふ此ごろのさむ空の外出には
如何ほど御用意なさるとも



此白粉ならでは顔のアレを
防せぎまじくとぞんじ候

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

東京京橋南傳馬町

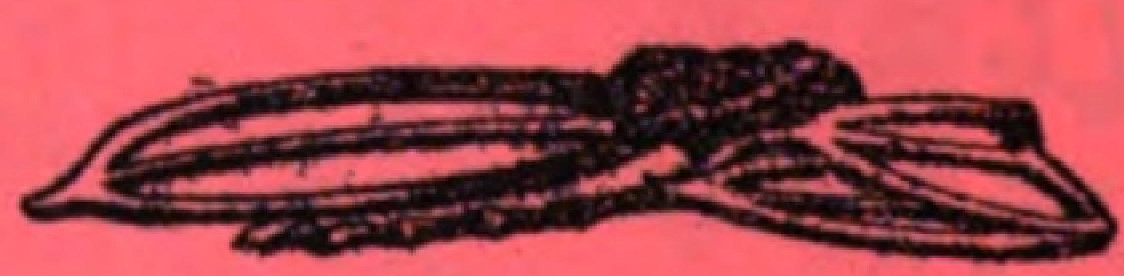
電話本局三拾三番三千番 ◎ 振替口座九二九三番

金製ブローチ 大西白牡丹

(1)



(2)



(3)



(4)



(5)



(6)



(7)



(8)



(1) 十八金サフハヤ入 金拾六圓

(2) 十八金眞珠入 金拾參圓

(3) 十八金サフハヤ入 金拾貳圓半

(4) 十八金眞珠入 金拾八圓半

(5) 十八金サフハヤ眞珠入 金拾六圓半

(6) 十八金眞珠入 金拾貳圓

(7) 十八金ルビー眞珠入 金拾圓

(8) 十八金眞珠入 金拾參圓

此外ダイヤモンドを裝嵌致せしもの數多出來致居候

女(いの一)

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



廣島名産

山まゆ織

●染織堅牢價格低廉ニシテ經濟的實用品ナリ

●御注文ハ小包郵便代金引換ヲ諸ス

●見本ハ御一報次第進呈ス

織元 ㊥ 山脇胡三郎

廣島市革屋町

電話番號六八三
振替口座大阪一三〇〇

●御申越ノ節ハ何雜誌廣告ニ依ル由御記入被下度シ●

女(いの二)

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

十二月一日より

歳暮賣出し

◎本年季節物ハ非常の破格値段にて販賣仕候

◎御仕着せ物ハ特に御安く差上申候

◎寄せ切れ、見切反物澤山取揃申置候

樂み箱

五圓以上の御買上にハ歳暮御祝として御買上高に準じ御持帰り御開きの際興味ある樂み箱呈上仕候

日本橋區通旅籠町（電車停留場 小傳馬町 人形町）

大丸呉服店

女（いの三）

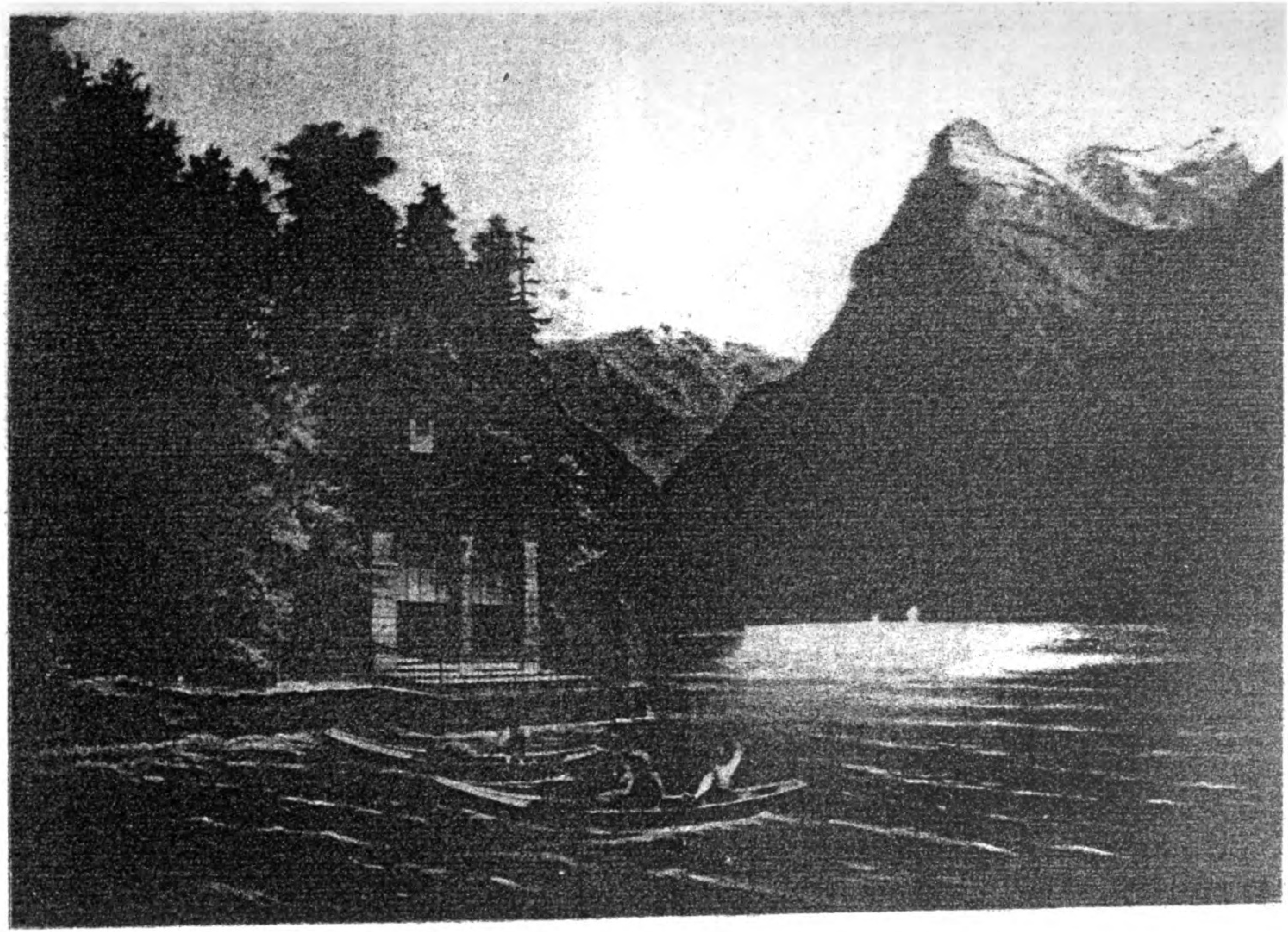
Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



女(いの四)

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

幽邃



田中製版所三色版

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

●婦人の涙
（其原因は男子の罪なり）

近來癩に苦み常に不姙を嘆つ病婦の到る處に見るが其最も多き病狀は下腹痛み鼻汁の如き白帶下あり腰筋張り顏色蒼白にて從前の病歷を聞に始め必ず「せうかち」に罹たりと云ふ其病名が子宮病血の道などに云程でも皆痳毒の爲なれば現に永引て治らぬが第一の證據である曩に痳病の病原發見後婦人病の大部分は痳性疾患が其原因と成る事が學者の研究に依て證明されて其治療上に一大革新を與へたれば最初「せうかち」の時に十分の手當最も肝要なり凡そ痳病梅毒を根治するには必ず唯一丸に限る唯一丸は現世唯一の驅毒藥を以て最も親切に調劑したれば實に面白き程効力ありて拭ふが如く根治すべし故に多毒質の人は是非服用の必要がある

根治完能唯一丸藥價三日分四十錢●七日分八十錢●十四日分一圓五十錢●三十日分三圓（內地遞送無料）

●本病患者の爲に其病理養生及治療法親切に詳述せる冊子無代施本送料三錢要す

發行所 東京市本鄉區湯島天神表門中坂上
藥劑師 **中西莊吉**
（振替貯金東京口座千五百番）

は歐米各國にて造化の妙工を奪ふの奇効ありとの賞賛好評を遁したる秘密藥を當館主が醫科大學醫院在職中深奥なる學理と老練なる技術とを以て專門的に多年苦心研究の後其有効成分を檢明し之に最近の發見



に係る生毛に關する新説を參考し最新藥を配合したる世界無比の學理的最新藥なれば其効能の非凡確實なる事世間に有觸れたる技術と學理に暗き藥が山師的に無責任の廣告を爲して販賣する藥品の比に非らず左れば普通に醫師の處方する亮膏丁幾、レゾルチン、サリシール酸昇汞等の在來の生毛劑や粗惡の賣藥にて効なきとて落膽せず是非本劑を試みよ頭髮はへぎはまゆげひげ其他の濃き薄くしあるべき所に毛なきを生じ禿頭病其他の病氣にて脱毛するを防止し拔毛の再生を早めフケ、ドデキモノ、ハツボー、キリキズ跡の禿に生毛せしむる事請合藥價送料共一瓶八十錢二瓶一圓三十錢郵券代用二割増の事

•••••••取次所ナキ地方ハ直接本舖へ注文アレ•••••••

三河國碧海郡刈谷町益世館藥局主
醫科大學卒業藥劑士
本舖 從七位勳六等 **中島龜之丞鑑製**

●●大取次ハ左ノ通リ●●大取次附近ノ各藥店ニアリ●●

東京市
本鄉六丁目赤門前 瓜生藥局
麹町區紀尾井町三 齋藤藥局
日本橋檜物町十八 龜田藥局
京橋區八官町八 野田藥局
神田淡路町二の四 森田藥局
芝田町四の二 加藤藥局
芝愛宕下町一ノ二 岩本支店
赤坂田町四の一 竹内藥局
青山北町五 西井藥局
本所吉岡町廿五 小島藥局
四ツ谷大傳馬町二 永野藥局
神田旅籠町一ノ一 瓜生支店
堺市大寺南門東入 一色藥局
京都市上京區寺町通り石藥師角
京都市下京區五條通り富小路行當り

大阪市平野町二 丹平商會
丸龜市本町 櫻井藥局
名古屋京町三丁目 飯田藤七
同 同 同 荒川長太郎
高松市片原町 新明藥局
神戸元町一丁目 西村簡吏局
廣島市橋本町 茂代藥堂
神奈川青木七軒町 水崎藥店
仙臺市新傳馬町 櫻井藥局
岡山市橋本町 加藤藥店
弘前市下土手町角 菊地藥店
大津市蔘屋町 磯崎藥局
松知 藥局
安江洋 反物店

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

◎本號を讀まずして新春を迎ふる婦人は不幸なり◎

婦人画報

十二月一日　十二月卷　廿五錢　郵税二錢　六冊税共壹圓拾五錢　十二冊税共二圓八十八錢

畫報

▼▼女子大學第二第三高女淑德青山各校運動會

▼▼菊花爛漫たる酒井伯邸こ諸名家栽培の珍菊花

▼▼タフト氏邸に於ける久邇宮同妃兩殿下……

▼▼久邇宮殿下の御歸朝▼▼諸名家令孃……

▼▼小笠原子爵邸に於ける村雲尼公と婦人會……

▼▼伊藤公葬儀▼▼將校婦人會移轉式▲平井伯爵の家庭……

▼成女高女十年紀念▲韓國に於ける岸氏夫妻

▼▼渡米婦人送別會

▼▼外國少女の繪畫

▼▼活花盆石諸流大會▲▲女流名家筆跡▲▲其他滿載

讀物

◎◎姑として嫁を見たる一年間　鳩山春子

◎◎我女子の手紙　文學士　大町桂月

◎◎家事經濟と歲の暮　佐治實然

◎◎都の風に染み行女學生

◎◎邪說を退けて正論に就け……文學博士　井上哲次郎

◎◎一年間に於ける婦人界の風潮　文學士　三輪田元道

◎◎明治四十二年の女學界……成女高等女學校長　宮田修

◎◎女學生墮落の道筋　櫻井ちか子

◎◎離婚されし若婦人悔悟

◎◎摸範的の階上臺所　鷲山彌生

◎◎世界婦人と家庭

◎井口博士夫人訪問……

◎輕便なる御歲暮品の手引……其他

東京飯田町四の四　東京社　電話番町二三三九

女(ろの二)

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

らい病

●醫師は癩病者を診察せば届出る規則なれど藥劑師には其規則無ければ決して他へ知れることなし安心服用あれ

ザノサール 一ヶ月分 貳圓

複方ザノサール 一ヶ月分 參圓

此のらい病藥は數種の有名なる癩病治療藥を化學的の方法にて分拆し其主成分に更に最近の發見に係る治癩新藥を加へ且つ當館主が醫科大學奉職中研究したる成績に考へ配劑したる新藥なれば一度使用して其効驗の確實なることを實驗せらるべし古來癩病は不治の病と稱し今日と雖も之を根治せしむる事は難事なれども其病勢の甚しからざる中に本劑を四ヶ月間服用するか或は病勢甚しく進みたる人にても繼續服用すれば病原菌を脱力死滅せしめ漸次輕快に赴き一生醜貌を免れ得る事は確實なり本劑は安價に不幸なる病者を救護せんとする主趣に基き發賣する者にして無効なる藥品に非常なる高價を貪り大言を吐て其効能の著大なるらしく見せかけ不幸なる病者を陥れんとする瞞着主義の賣藥に非ず

本舗 醫科大學卒業藥劑士 從七位勲六等 三河國碧海郡刈谷町益世館藥局主 **中島龜之丞鑑製**

●新案特許一〇三六二號 **衛生的なる改良かもじ發賣**●

●丸髷十五錢より七十五錢迄 ●島田髷三十錢より壹圓五拾錢迄 ●銀杏髷廿錢より六十錢迄 ●送料各八錢



本品の特長

一 根元に**コロップ**を装置せるにより舊式のもの、如く硬からず膚ざわり**軟**かなり

二 皮膚を摩擦すること少なきゆゑ頭の**はげ**る憂なし

三 **頭痛**癖ある婦人に用ひて爽快を覺えしむ

四 二百度の熱氣にて**消毒**しあれば毛髪の傳染病を媒介するの憂なし

●諸かもじ製造販賣 東京市神田區豊島町十七番地（振替口座東京一八一八八番）**田中金三郎**

特約 京橋大西白牡丹、本郷兼康、淺草駒形百助、淺草駒形紅勘、神田須田町三井屋、日本橋通二柳屋 外到處の小間物化粧品店に有

根治確證

わきが

必ず全治し決して再發或は他病に變ぜず

丙價七拾錢 乙價壹圓卅錢 甲價特製貳圓五拾錢 送料拾五錢

本劑を塗擦すれば主成分は皮膚及び肉の組織に吸收せられ其組織にある毒素を清潔驅逐し惡臭を根底より全滅せしむる作用を有する最近發見の特種の新劑にして如何程頑固劇烈の難重症も甲價特製を用ひよ必ず速に用て苦惱を脱せよ

毛のはへる

ヘクネス

定價壹圓卅錢特別製貳圓送料拾四錢本品は原名をベグネスと稱する現今最賞用せらるゝ有力なる最新液にして毛をはやしたき人早く試みられよ●ぬけ毛落毛を止めはへぎわうすき人●まゆ毛●口ひげ●其他の所に毛なき人用ひよ毛髪増生す◎頭などにはげのあるのは見苦しき者也

化學製

色の白くなる

ハンドコロン溶液

價A印壹圓B印特製壹圓五拾錢送料拾五錢本劑は貴紳淑女粋士間に大高評を博し殊に愛用せらる最新流行の秘方奇劑にして本劑を塗擦すれば主性分の力に依り皮膚は次第に新陳代謝を盛にし皮膚を漂白するを以て全身次第に白色艶美となる男女交際上最も必用の品なり

最良 月ざらゐる メルソピン

メルソピン此藥は子宮を痛めず如何ほど長き月經とまりも必ず下る二三月位のは壹劑も用ゆればすぐ下る二三ヶ月以上のとまり又は血塊には特製を用ひよ速に流經に害なくたやすく下る、月經不順より起る子宮血の道を全治し古血を一掃す 價半劑六拾錢 並錢壹劑壹圓貳拾錢 特別製貳圓卅錢 送料拾貳錢

專賣 東京神田區小川町東明館前 **オリエンタル藥館**

女（ろの三）

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN





（六〇四）

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

水仙



岡落葉筆

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN



女(はの一)

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

見よ◎月經なき女子◎病める婦人

▲勿驚……藥力最精實…効能確保…有効無害…

●本劑は專門博士が學理と實驗より發見せられたる物其主藥は最新唯一の通經藥にて帝國大學病院及各病院にて專用する最良藥なり二三月の月經閉止月經滯り經不順は一二劑にて必ず流下し四五ヶ月又は血塊にても特製或は別製分服用せば安心に忽ち流經す女子十七八歳になり月經なき人は二劑又毎月月經困難は三日分にて通經す

藥價一劑六十錢二劑一圓十錢特製二圓廿錢別製分三圓卅錢送料各四錢宛



博士賞贊良藥

改良 女月丸

◎肥滿病新藥（米國新輸入）

子供の折美愛ぶと〳〵と賞せられし人も年頃になりてより醜く肉太りたる爲め上圖の如く婦となる人少なしとせず本劑は獨乙ベンツォルト氏の發見藥にて脂肪多き人◎ぶと〳〵ふとり血太り◎肉太り◎酒太り◎水太り◎顏赤◎にきび◎ふき出物多き輕症一二劑如何程の惡性も四劑連服せば色は窈窕たる白となり誓て美顏美人となる事を保證す乞肥滿性の人は試みよ

誹孃姉の福音

美人となる



やせる藥

藥價	
一劑一圓五十錢	三劑四圓卅錢
二劑二圓九十錢	四劑五圓半
送料十錢	

發賣元 東京々橋中橋和泉町 振替第壹〇六七七番 小宮愛生堂

美顏料化粧水 ふじの露

本會精撰の『ふじの露化粧水』は御顏及皮膚を美しく白く艶々しくするの最良の佳品なり原料の如きは他の化粧水とは全然其趣を異にし佛國巴里の貴婦人間に最新流行しつゝある化粧水の原料と特に本會獨特の技術とを以て精撰に精撰を加へ最も善良なる香料を加入し有る故馥郁たる芳香は常に身邊に香り冬期最も貴婦人令孃方の恐る可き「ヒヾ」「アカギレ」皮膚の荒れ等を防ぎ日常白粉下を御使用ある時は恐る可き鉛毒を防ぎ皮膚の美を艶になすには驚く可き効あり……●男子方は「シエービング」の後にタヲル又手拭にふりかけ御使用ある時は恐る可き皮膚の傳染病を防ぎ剃刀負及び「ニキビ」などの恐れなく美艶なる皮膚の特色を發揮す



定價金貳拾五錢 郵送料金八錢

御最寄化粧品店に無之節は御申越次第御郵送申上可候

ふじの露本舗 東京市京橋區木挽町二丁目十三番地 近松商會

特約店 東京市日本橋區通鹽町十三番地（電浪花八〇七）大和屋商店

女（はの二）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

婦人技藝材料

營業目錄

袋物、造花、刺繡

摘ミ細工、果實、瓶細工

編物、器具并に材料

東京市本郷區弓町二丁目

倉持商店

電話下谷三五一三、振替貯金口座壹七壹壹

此切取を添へ御申越しの方へは美術技藝の栞並に定價表無代進呈す

(〇 女學世界拾二月號)

ドクトル 富士川游先生序　千日亮先生　安井洋先生共著

晩近育兒法

篇末に高島平三郎先生の兒童心理學に關する著述の二節を附錄として掲載しあり

全一册

精巧書挿入　菊判洋裝美綴　紙數三百五十頁　正價壹圓貳拾錢　郵税八錢

誕生より學齡期前まで

幼兒の成長するに當り其心身は如何に發達すべきか此等の發達を妨ぐるものは如何なるものであるか保育上最も注意を要すべきことは何であるか學齡期以前に於ける純潔無垢なる神の如き幼兒の天性は如何にして之を養護發達せしむべきか世の多くの親達は此等の幼兒を育て損こねて居ることはなきか家庭敎養と幼稚園敎育との如何兒童精神作用の健否等苟しくも多少此等の事に心を用ひらるゝ世の父母たる者未來の父母たる者幼兒敎育者及女子敎育家の如き先づ以て本書を繙くべきである

東京本郷區龍岡町●振替東京四一

發行所 **吐鳳堂書店**

女(はの三)

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



女（はの四）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

すゝき



平福百穂筆

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

雲の山



福田夸僊筆

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN





最新材料發賣

クリスマスホーリー　何れも葉、果實等有之實物色、
ミッスルトー　金色、銀色等數多取り揃へ有之候

クリスマス裝飾には是非共必要のもの此れを御使なき方は
クリスマスの如何なるものなるかを論ずる資格無之候

◉面白き有益なる圖解説明表有之候御申込次第進呈す

ホーア、リーフ、クローバー　實物色、銀色等有之候
葉の内にて一番目出度い一番幸福の葉、此れを御求の方は
幸福の來春を御迎へ遊ばすべく勿論に候

美術造花材料商　天野卯兵衛商店　東京横山町二丁目十六番地　電話浪花一六四三番

▼各商店……店前裝飾御相談申べく候

（その一）

ムレー及ランマン製「フロリダ、ウオーター」はハンカーチーフに撒らし又は化粧、沐浴等の使用に向つて最も高尚適當なる上品にして香氣優雅常に心身爽快を感ずるを以て洽く世界各國に高評を博せる香水なり



本品は芳香馥郁なる花卉及薫氣を蒸溜して採取せる純粋の原料を精選して醸造せるものなれば四時其香氣を變ずるの憂あることなし、是れ本品が殆ど過去一百年間貴紳淑女間に其聲名を認識せられ世界的流行の高等化粧品として賞讃愛用せられし所以にして決して偶然に非るなり

近時本品の成効を羨み粗惡品を僞造し廉價を以て之を市場に販賣せんとする奸商輩出し本社が古來貼用し來れるレッテル即ち蝶と小鳥とが花の飾環に息ひ中央の花壇上に噴水奔騰し右方には一青年の音樂を奏し左方には一少女の小鳥と遊べる等の繪畵を僞造し且つ英文にて印刷しある「フロリダ、ウオーター」、ムレー及ランマン、紐育市ランマン及びケンプ特製」等の文字の配置を巧みに模倣するに至れり



之に依つて本社は前記の弊害を防がんが爲め玆に圖を以て示せる如く「ランマン及ケンプ登錄商標」と記せる白色のレッテルを各瓶毎に貼付せり御購求の際は深く御注意あらんことを希望す

本社製造の「フロリダ、ウオーター」は日本帝國の各都市に於ける化粧品販賣店及び西洋小間物店等にて販賣す

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

化粧界天來の福音

美顔料オテロ

百歳の壽を保つ共皺だらけの梅干婆さんとなりて何かせん！！！！！！！！！

皺を伸し皺を防ぎ日に焼けるを豫防し色を白くするは本劑の特色なり羅馬の英雄シイザアを欺きたるクレヲパトラの妖色は實に本劑の原料を日々化粧用としたるが爲なり本劑は他の美顏料に比し高價なるが如くなれど廉價にして効能なきものと孰れかなる抑も本劑は佛國女優オテロが愛用せるより此名を得たるものにて英國交際社會にてはレデースフレンズ（貴婦人の友）と稱せられ化粧用として必須の美顏劑たり

濃厚液一壜　金壹圓

安全　除毛劑デピラ

剃刀を用ゐずして綺麗に毛を除くはデピラの特色なり皮膚を害さず色を白くするはデピラの特長なり一度本劑を塗れば五分乃至十分間にて如何なる隱れたる所の毛も綺麗にとれ肌を滑らかにし大理石像の如くならしむ本劑を用ゐて生際襟足を作れば宛から畫中の美人を見るが如くなるべし然して毛を除きたる後に再び生ずる毛は柔軟なるを以て剃刀の後の如くチクチクと刺すが如き事なきはデピラの特に効力ある所なり

大壜定價金貳圓
中壜定價金壹圓
小壜定價金五十錢

發賣元●●●東京市神田區旅籠町二丁目昌平橋袂●●●（電話下谷三一一〇番）資芳堂藥舖

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



『大學白粉』

『大學白粉』は専門大家が特に製煉せられたる最も完全なる無鉛白粉にして少しも鉛毒の憂なく、美容と衛生とを兼ねたる安全なる化粧料として夙に高貴の御愛用を忝ふし無上の光榮を得たる名譽の白粉にて、他の無鉛白粉の如く肌を荒らす事なく良く伸びて附よくお召物の襟に着ず、芳香は頗る高尚にして今や此『大學白粉』は貴婦人令嬢間に愛用せられ名優名妓の化粧料として専ら流行しつゝあり。

大學白粉本舗

矢野芳香園

女(にの四)

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

新御歸朝の久邇宮殿下と御息所



この御寫眞は兩殿下が歐洲より御歸朝の途次桑港にて御撮影遊ばされしものなり。（桑港今井寫眞館寄贈）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

大山公使夫人久子



記事參照

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

毛髪の艶を美しくする

椿製ランラン香油

ランラン香油は髪をさらりとして常に御使用被下候はゞ決して臭氣を發しませぬ



東京市内……到る所油店小間物店有……

價 大瓶 金廿五錢
小瓶 金十八錢

女(ほの一)

發賣元
大阪市新町
福田源次郎商店

電話……西千六百〇一番
振替……大阪一四八五番

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

△アイボリー石鹼は
萬國浮石鹼の嚆矢なり



△アイボリー石鹼は
品質を本位とし體裁の贅費を除く

美顔術實驗有効

衛生美顔術
（一回施術料金五拾錢）

御化粧水
ライラック水（一瓶平十錢 送料八錢）

にきび知らず
理容水（大五十錢 小三十錢 送料八錢）

芳香無鉛
理容白粉（一瓶平十錢 送料八錢）

東京市京橋區竹川町十二番地
理容館本部
電話新橋三八〇四番



太（ほの二）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

四十二年掉尾の大活動

婦人世界

十二月一日發行　四十號　價一冊　拾五錢　郵稅一錢五厘　一年分郵稅共二圓五錢

▲良人を助けて四丈の窯を築きし奮闘苦心……板谷丸子
▲大地震に遇ひて屋外に生活せし實驗……澤村つる子

活文字

▽婦人界の流行の中心三越の裁縫部を訪ふ……記者
△氣合で習字を教へる先生に令嬢と記者と書法を學ぶ
▽花蹊先生の繪畫教授振り　▽苦學の弟を助けて勉強す

▲自分の乳で子供を育てる母親の注意……加藤照麿
▲夫婦の情深きか親子の情深きか……村井弦齋
▲家憲制定の爲上京せる十夫婦貝島氏の一家……一記者
▲大酒家の良人を禁酒させる妻君の妙策……安藤太郎

好讀物

▽京都と東京の女學生（鈴木光愛）▽子供の惡癖を治す法
△七十歳以上の老人三百人の大園遊會……千葉幸十郎
▽雇人口入所の女主人を訪ふて女中の模樣を聞く

▲二十年一日も缺かさず日記をつけた實驗……棚橋絢子
▲結婚のために米國に渡つた婦人の實例……島貫兵太夫

東京　實業之日本社　電話（新四八七）　振替口座（三二六）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

各國醫學會の賞讚を博す

◎レックス石鹼は今や社會の一般を通じて愛用せらる



◎ケーバ石鹼香水とは世界の美人國たる佛國より輸入す

女（ほの四）

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

名家の令嬢



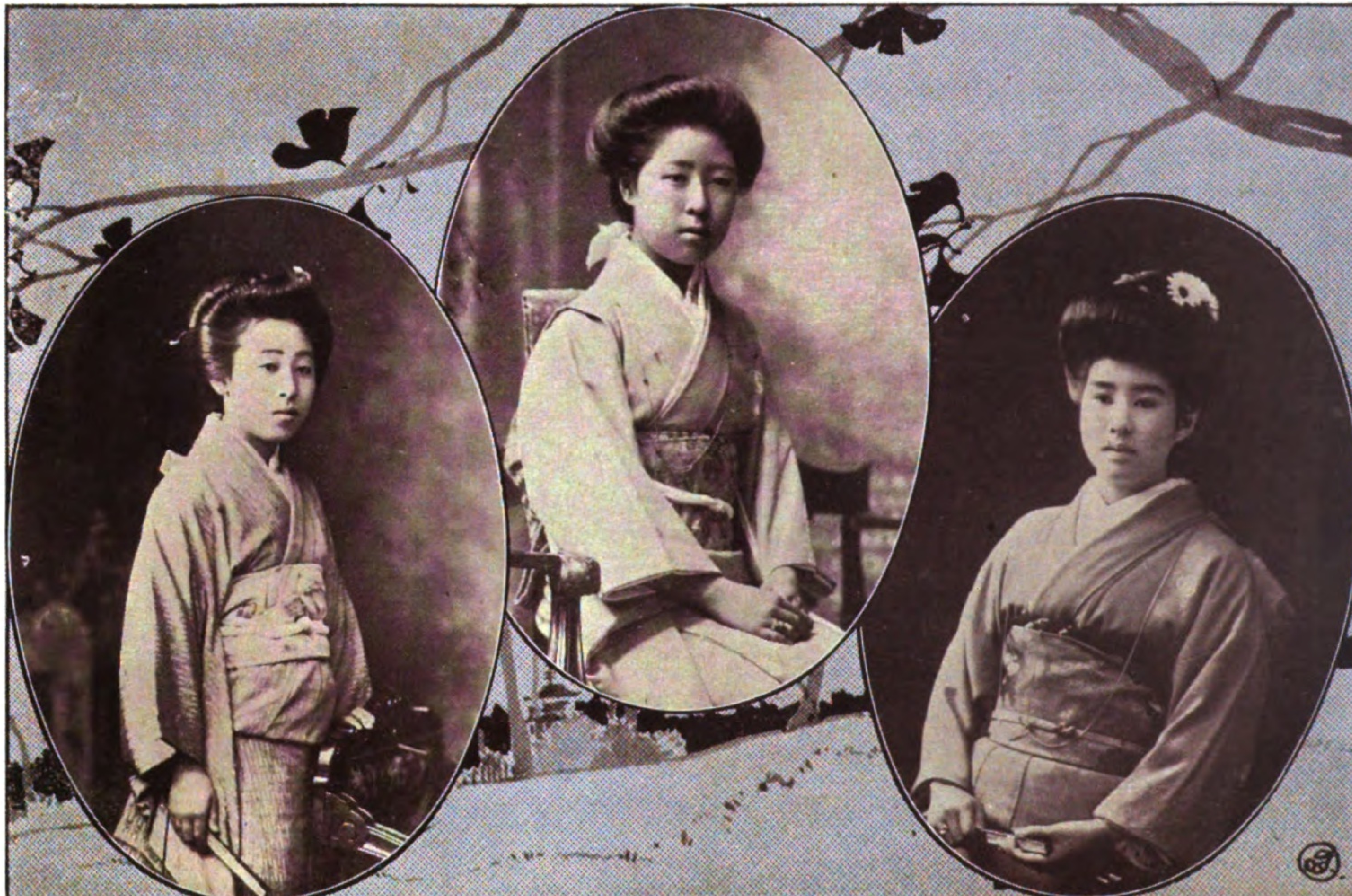
柳澤伯爵令妹武子



東郷男爵令妹薫子

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

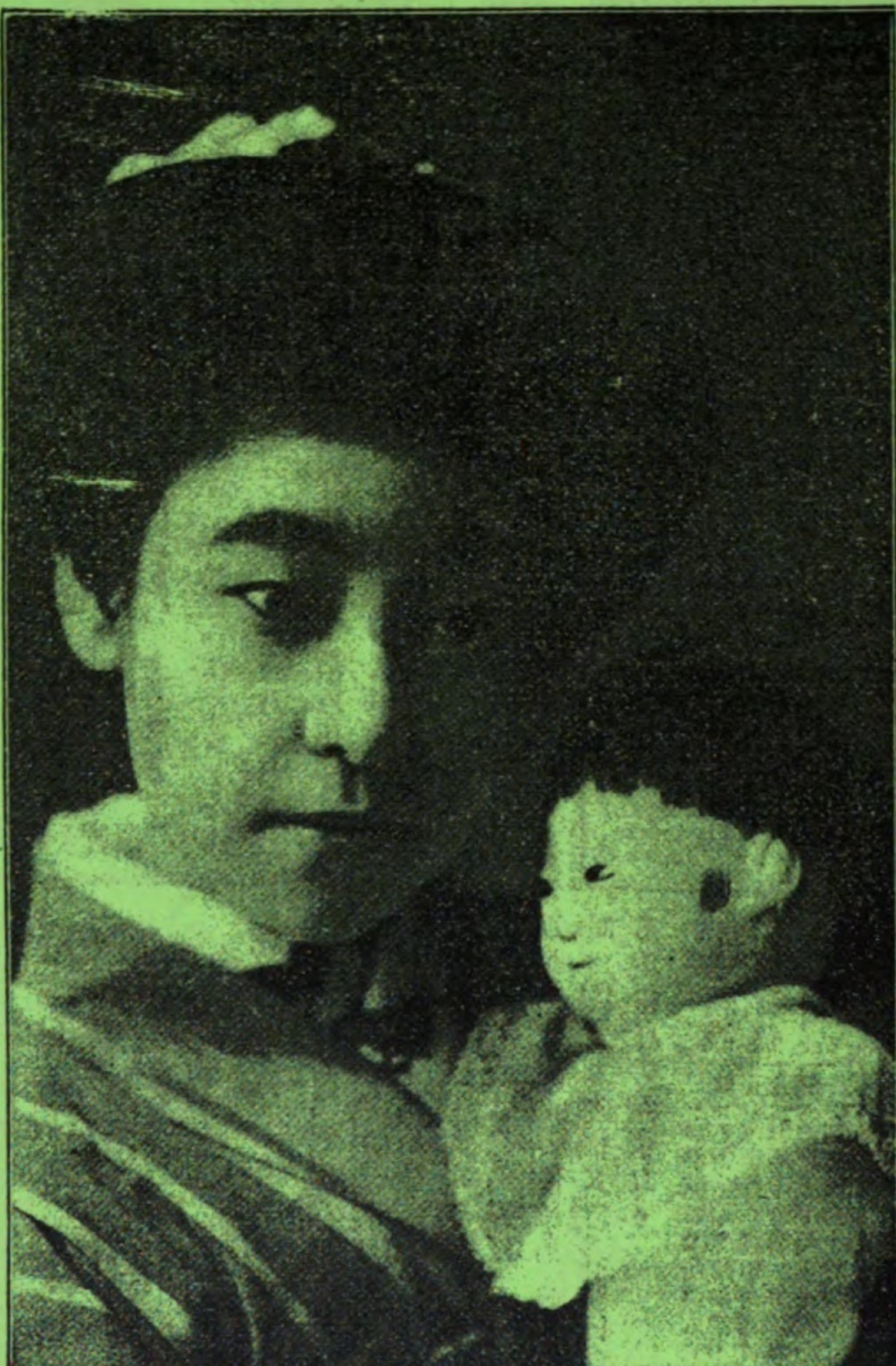
名家の令嬢



右　渡邊靜子（行政裁判所部長渡邊廉吉氏令孃）
中　室田文子（錦鷄間祗候室田義文氏令孃）
左　牧野榮子（牧野樞密顧問官養女）

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

都の花口



芳香の高雅にして品質の純良なるは紳士淑女の愛用と名譽の金牌とに依り知らる

▲全國到る處の化粧品雜貨店に販賣せり

大阪 野村製

(一〇八)

●慢性胃病新薬 大廣散

主治効能

脾胃虚弱。飲食進まず。虚勞。痰せき。ぜんそく。吐氣。くだりはら等の諸病に用ひて効驗ある事神の如し總て性質虚弱の人は持薬として常に用ゆれば益壽延年の効ある事疑なし●定價試用分金拾錢 三日半分金參拾五錢 三十日分金貳圓八拾錢

發賣本舖 神奈川縣三浦郡中西浦村秋谷 輕部廣吉謹製

●診察時間朝七時より夜九時迄●皮膚病あざほくろ

梅毒りんぢ疾わきが生殖器病神經衰弱症

東京 淺草瓦町廿八 淺草橋通瓦町電車停留場横 中央醫院

生殖器病神經衰弱 記憶力減衰萎縮遺精早漏夢精發育不充分症等

梅毒・りん病・わきが・ぢ 横根 下疳 皮膚諸病

▲各自病狀を記し郵便切手六錢を封送せば其病症を速に全治せしめ得る特効新薬の説明書を送る

東京市淺草區瓦町廿八淺草橋通瓦町電車停留場横 中央藥院

商標

時代の要求は如此安全なる月經帶を生めり

有りふれたる月經帶は皆舊來の挿入防經を行ひ其上を掩ふのみの無用の贅物たるに反し弊堂の安全帶は外部より吸收するが故、脱脂綿等の纖維の殘留に依る腐敗、焮衝等を醸す大害や經水の分泌を妨る等の憂なく衞生最良、價格は乙の方にてもガーゼ及び脱脂綿等約八十匁四拾錢以上の價値ある物壹打僅に參拾錢、故に經行時は固より產後又は長血白血等の方には缺くべからざる現世紀の至寶なり

工場新設 店舖移轉 大發展

改正定價

御運動時及西洋人向安全帶甲一ダース金六拾錢半ダース金參拾五錢御常用安全帶乙一ダース金參拾錢半ダース金拾六錢但シ之は毎月平均半ダースニテ充分ニ候◎附屬帶壹筋ニ付御運動時及西洋人向特別羽二重製金貳圓以上甲英ネル製金壹圓貳拾錢乙和上ネル製金五拾錢御常用和ネル製金貳拾錢和並ネル製金拾五錢

荷造（地方ハ安全帶貳打附屬帶貳筋迄金拾貳錢△以上ハ壹打ト壹筋チ增ス每ニ金參錢增ノ荷造送料チ要シ候○參拾打以上ハ無賃五拾打以上ハ持ニ御相談可仕候○市內ハ御一報次第御屆可申候）送料

特許安全帶 正七位勳五等藥學士藤川次郎鑑製 發賣元 東京本郷湯島天神町三ノ二 安全堂

特約大販賣店 御料御園白粉大販賣店 東京牛込區袋町二十六 御園商店

九州一手販賣店 長崎市西山四〇 安全堂

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

流行時計指環類



（1）十二金製電形眞珠入 指環 價一圓八十錢
（2）十二金製水形眞珠入 指環 價一圓四十錢
（3）十二金製中劍形光石入 指環 價一圓四十錢
（4）十二金製櫻形眞珠入 指環 價一圓三十錢
（但何れも天絹箱付）



十四金無地側無双十一形中蓋付器械ニッケル石入シリンドル頭引飾廻シ龍頭卷時計 價金拾九圓五拾錢
九金斜子側無双十一形中蓋付器械ニッケル石入シリンドル頭引飾廻シ龍頭卷時計 價金拾七圓參拾錢
九金無地側無双十一形中蓋付器械ニッケル石入シリンドル頭引飾廻シ龍頭卷時計 價金拾七圓八拾錢

貴婦人用金着鎖り 參圓六十錢、四圓五十錢、五圓二十錢
拾八金鎖り 拾貳圓五十錢、十五圓五十錢、廿參圓

●地方御注文は郵送料拾貳錢申受候

時計眼鏡貴金屬指環類
東京淺草區茅町二丁目六番地
大隅商店
電話下谷六五七番

みやけ油



東京人形町通三宅堂本舖

美を望まるゝ男女方はあれだこれだと迷はずに左の二品をお用ひなさい

現代の文豪 村井弦齋先生御證明

最良髪油

化粧用 **冬知らず**

●販賣所全國信用ある化粧品、小間物賣藥店にあり

にきび吹出そばかす

を絶對に全治し皮膚を艶麗ならしむる最新奇藥發見す
醫藥其効なき困難者は申込あれ詳細の療法書を送呈す
東京下谷區初音町日本女子美術學校前 長田

男女 ちゞれ くせ毛 赤毛

は何程の難毛も直に矯正黒化良き艶の出る新發見奇液を郵券封入申込者に教授致ますから御遠慮なく御申込あれ

東京麻布區材木町 **岩阪澄子**

女（への三）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

本品は畏多くも
内親王殿下
の御用を辱す

高等煉香油
チエリーポマード
特効
フケ取リツヤを出し
チヾレクセ毛を直す
定價（小金貳拾錢
中金參拾錢

特効
ふけを去り艶を出しちゞれ・くせを直し毛の發育を補く
高等香油
チエリーオイル
定價
大八拾五錢
中四拾五錢
小貳拾五錢

煉製美顔料
フエスおしろい
本品は佛國製にかゝる貴重なる香料を加香せし故佳香馥郁として香水匂袋の代用となるべし
定價（金參拾五錢
金貳拾五錢

發賣本舗
高橋初次郎
東京市日本橋區本町二丁目
特電話四一三番

▲婦人は股間の美を如何に保つか▼

用便の際一々取り外づす手數なく洗濯法の最も簡便にして殆ど其必要なき、子宮溫ための腰蒲團を兼ねし肌障り極めてよき最新式のハイカラなる

ゴム製猿股式月經帶

を天下の婦人に提供す、貴婦人、令孃、藝妓、女學生諸孃は申すに及ばず、女中方に至る迄、衛生上一日も缺くべからざる用具也



ゴム製猿股式月経帯

彼の婦人の最も恐るべき子宮病、生殖器病等發病の原因は月經時の不攝生にあり本品の特色はこれを未然に防ぐと共に、春機發動期の處女方にありては恐るべき自瀆を防ぐの結果花柳病の傳染をも防ぐを得る三德用の具にして、旅行時には是非共携帶せざる可らざる大々的必要の具なり（尚詳細は申込次第明細書無代にて送附す）

●定價 箱入一個 金壹圓五十錢 送料八錢

ハイカラ
ゴム製腋臭防止具

發賣本舗 キング商會
東京市麻布區飯倉片町十九番地

發賣元 キング商會支店
大阪市東區下味原町九十八番地

女（への四）

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

同胞十人の家庭



是は侍従武官長男爵中村覺氏の一家にして皇太子殿下の御沙汰に依り同氏より特に奉呈されしものなり。右より(一)三男謙三氏 二)四男謙四郎氏(三)次女節子(四)三女いさを子(五)長男謙一氏(六)七男謙七氏(七)二男謙二氏(八)六男謙六氏(九)長女貞子(十)五男謙五氏、欄外は千代子令夫人

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN



（その一）

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

腰巻附婦人もゝ引



最上等ネル製
大長一圓五錢
中長九十五錢

『腰巻附婦人もゝ引』は發賣以來非常に評判よく特に御婦人有勝ちの腰冷へを防ぎ召した姿と履き工合のよき實例は一度御召しになると又離ち難き思ひあり且つ洗濯には股引と腰巻との取りはずしが自由に出來る衛生と實用と兼ねたものです

小兒養生



最愛の兒女の健康に注意する方は是非一着を求め給へと御勸め申すなり

(最上ネル製)●二歳用卅四錢●三歳用卅八錢●四歳用四十四錢●五六歳用四十八錢▲送料代金引換小包四足迄拾七錢

東京日本橋區ふきや町(電浪二三二四八)

ねびへしらず本舗
佃屋商店

●本法は

女髪結師安部歌子女史

ちゞれもくせも
二大奇方劑
もはへうけあい

●東京市麴町區三番町六十七

多年の實驗を經たる證明秘法劑にして是迄の使用者を悉く滿足せしめたる奇劑なり住復端書紹介詳報す

濟世園



東京神田猿樂町

東洋音樂學校

本科各級、特別科、本校及東京音樂學校入學豫備科

臨時
生徒募集

科目、バイオリン、ピアノ、唱歌セロオルガン其他樂器

●詳細ハ本校ヘ照會アレ

●肥滿病の人に告ぐ

多血症●脂肪過多●中氣●酒ぶとり●便秘凡てふとりすぎて御困りの方

やせて中肉

美容となる奇藥二錢切手送れば詳報す

●東京市小石川區第六天町十七番地

池田製藥部

美術斬新
新年用繪はがき

各種目録定價表
○貳錢郵券封入御申越次第 呈

●東京芝區三田松阪町郵便局隣
越喜商店

振替貯金口座〔七二九五〕

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

女子文壇來春第一增刊

報酬確實

若き婦人

原稿募集主意

女子文壇の來年の第一增刊は『若き婦人』と定まりました、材料は凡て清新なる思想を持つて居られる世の婦人諸君に仰ぎ、記者は之を誠實に選抜し、斬新に編輯しやうと思ひます。**募集原稿の範圍は極めて廣い、**廣いから自然投稿の方法に於ても**極く自由**です。出來得る限り所謂若き婦人の代表者とも見るべき雜誌を編輯したいと思ひますから、諸君も亦出來得る限り、忌憚なく、自由に、其筆を振つて頂きたい。**創作に得意な人は創作に於て、新らしい思考を抱いて居る人は言說に於て、隱れたる事實を知つてゐる人は記實に於て、**それ〴〵思ふ通りの原稿を見せて下さい、記者は必ず現下の**若き婦人界を代表した好雜誌**が出來るであらうと信じます。

當選報酬

一等	金貳拾圓	（壹人）
二等	金拾五圓	（貳人）
三等	金七圓	（參人）
四等	金五圓	（四人）
五等	金參圓	（五人）
六等	金貳圓	（拾五人）
七等	金壹圓	（貳拾人）
表紙	金五圓以下	（壹人）
口繪	金參圓以下	（壹人）
スケッチ	金貳圓以下	（拾人）

▲**投稿の概略分類**
▲**報酬贈與の方法**
は**十一月增刊及十二月定期號**の**女子文壇**に詳しく載せてありますから御覽を願ひます

投稿受付所 **女子文壇社** 東京市京橋區大鋸町

女(その三)

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

令嬢かゞみ



左　木村政子（古川礦業會社木村長七氏令嬢）
中　鹿島いと子（深川鹿島清左衛門氏令嬢）
右　諸井德子（諸井四郎氏令嬢）

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN



經濟とはミシンを使用して
始めて知るべきなり

家庭用

シンガーミシン

月賦販賣

裁縫書無代進呈

横濱市山下町六十一番館 東洋本店 シンガー會社
東京市銀座尾張町二丁目 同 支店
大阪市心齋橋筋二丁目 同 支店

▲説明書及定價表は御報次第無代進呈▼

女(ちの一)

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

田山花袋氏著

文藝入門 第二編

インキツボ

菊半截判 洋装美本

一冊金五十五錢

送費金八錢

▼第一編 ◎島崎藤村氏著

新片町より

金五十五錢 送費金八錢

東京神田富山町 佐久良書房 發行

女(その二)

文學博士井上圓了序

文學士堀内復人校 會長古屋鐵石著

六版

驚神的大魔術

菊大判壹百五拾八頁 價送料共金六拾四錢

手品非種本、道具不要、心理哲學の應用(但し圖入)

(目次) 見神術、眞言秘密術、話術、幻術、幽靈判 日米狐狗狸術、降神術、禁厭術、不動金縛術、仙術、天眼通術、忍術、精神感傳術、火渡術、男女交際的魔術、狐遣術、讀心術、骨相術、氣合術、棒寄術、火箸曲術、武道竹折術、地獄極樂漫遊術、等悉く實驗上より科學的に解說せり

古屋鐵石著述

催眠術獨稽古

菊大判百拾六頁 價郵共四拾四錢

嶄新なる催眠法貳拾八種掲載、研究せば誰でも此書に基き人間鳥獸を自在に催眠せしむることを得む

東京芝區愛宕町一の二 精神研究會 (電話芝一九三四番)

振替貯金口座東京壹五七壹參古屋宛

催眠術獨習用書目貳錢

取次 東京神田表神保町東京堂 賣捌 大阪東區北渡邊杉本書店

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

來る四十三年一月一日發行

女子文壇 紀念號 滿五周年

わが社、女子文壇發行の事業を企てゝより、雜誌界獨創の聲名を博し、愛讀者間に信用せらるること日に厚うして、未だ嘗て一回も發行の期を謬らず、號を逐ひ、卷を重ね、早くも來る明治四十三年一月一日を以て、創立滿五個年の日に相當す、顧れば五年の星霜長きにあらずと雖、其間着實なる發展を遂げ、本誌の今日あるを得せしめたるは、一に親愛なる讀者の眷顧に基くを思ひ、感激の情禁ずる能はず。玆に聊か其欣びを表はさんが爲め新年元旦發行の第六卷第一號を以て、滿五周年紀念號と爲し、本誌空前の大册を發行せんとす。

內容の詳細は女子文壇十二月號を以て發表すべきも、其の計畫の一般を言へば、先づ紙數（例號二倍）三百二十頁となし、別に色彩燦然たる美人を描ける洋畫の大附錄を添へ、記事の方面に於ては大家の小說其他の創作に純文學の精華を拔き、併せて一般の婦人が要求せる健實なる讀物を供し、更に意想外の新材料を捉え、以て全誌血あり脈ある生きたる雜誌を編輯せんとす。冀くば滿天下の婦人諸君、此紀念號を逸して憾を遺さゞらんことを。

紀念號ニ限リ定價金三拾錢 郵稅貳錢五厘

發行所 東京市京橋區大鋸町十、十一番地 女子文壇社

女(ちの三)

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

(其の四)

悪筆は一生の損です



速に入會して頗る能書家となるべし、本會獨特の**特許速成通信教授**の方法は如何なる悪筆にても最も短日にて上達せしむ。

◎面白くて速に上達する法

特許速成練習帖は左側に手本が付いて、右側に草紙が付いて居るので手本文字を見て、併らべて草紙に白色の特許墨にて書けば直ちに手本文字に能く似たる文字が赤色に現はれて出來る。そうして漸くすると消え失せて元の白紙となる。その變化が非常に面白くて上達すること實に不思議のやうである。

書　者　文部省習字檢定試驗委員　稻川雲谿先生及玉木愛石先生

書　者（女子部）小野鷺堂先生外講師大家數拾名

▼見本　詳細會則無代進呈

東京本鄕森川町壹　電話下谷壹三〇壹

帝國習字速成學會

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

壽美禮會の集り



すみれ會は前の華族女學校に關係ありし人によりて組織されしものにて此の寫眞は去十月四日小石川區極樂坂上嘉納治五郎氏夫人邸に開會せる時の撮影なり。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

於内外博覧會名譽大賞及金銀牌受領

元和二年創業

ヒゲタ印醤油

HIGETA SHOYU
THE CELEBRATED JAPANESE SAUCE
TRADE MARK

Patronised by the Imperial Household Awarded First Class and Gold Medals and Grand Prize at the various International Exhibitions held at home and abroad

The Oldest Establishment of its kind in Japan. Founded in 1616 by the ancestors of the present proprietor G. TANAKA Choshi, Chiba-ken, JAPAN

宮内省御用達

銚子港　田中玄蕃醸造　千葉縣

ヒゲタ印醤油

Crème Simon

美！美!! 美容たらんとせば

其は實に目下世界到る處の貴婦人令嬢間に尤も盛んに賞用せられつゝある佛國シモン會社製 シモン、クレーム を常に愛用せらるゝにあり

衛生美顔 シモンクレーム

皮膚を白くし柔かにし又羽二重の如く滑かならしむ且つ手足のあれ唇のワレ、霜ヤケ、ヒ♥等に對しても亦無双の良劑なり
粉白粉（黄色、白、肉、とき色）及クレーム石鹸も共に御使用ありたし

日本代理店
横濱市山下町七十番
エー、ハイム商會



三越始め各地化粧品店及和洋小間物店にあり

（女りの一）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

女子實用教育

第二回 **新學期** 十月開始

會員募集

入會好機

●入會手續極めて簡便なり、
●修了者には多大の特典あり、

日本婦人當今の最大急務たるは**實用智識の涵養**であります、

本講義は日本女子大學校内**女子大學通信教育會**の編輯で同大學家政科に準じ婦人家庭實用の學科を懇切に講述してあります平易簡明何人でも一讀して即座に應用が出來ます、新學期は間もない好機ですから一日も早く會則を御覧なさい。

見本會則無代進呈

電話又は郵便葉書にて御申込あれば即時に送呈いたします、これによりてよく詳細を知り一日も早く入會して幸福なる校外生となられんことを希望致升

講義課目

實踐論理(成瀬校長)教育學(石田講師)心理學(福來博士)
應用兒童研究(高島教授)家庭物理(後藤教授)生物學
(渡瀨博士)生理學(大澤博士)衛生學(三宅博士)經濟學
(中隈學士)法制(奥田博士)應用社會學(浮田博士)農藝
(佐々木學士)文學(藤井學士)童話研究(芳賀博士)英文學
(松浦教授)家庭、料理、裁縫、和歌……………其他

▲發行兼申込所 東京小石川區久堅町一〇八 **精美堂** 電話番町九三二 振替口座二八三八

女子大學講義

(りの二)

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

耳鼻咽喉病

美形隆鼻術（はなをたかくうつくしくするはう）

本術は一回の注射法に依り低き鼻を隆くし鼻の恰好を整備し美形ならしむるを目的とする者にして身體に害を及ぼさゞる安全の文明的手術なることを保證す

手術 午前 夜間

九段下御嶽敎會裏通
神田今川小路二丁目十一番地

和田耳鼻咽喉醫院

和田昌訓

竹柏會は佐佐木信綱氏指導のもとに清新なる和歌に志ある人々のため添削質疑に應じ又毎月一日雑誌『心の花』を發行す入會規則書は郵券二錢『心の花』見本は郵券十二錢を送られなば直に發送すべし

東京神田小川町一
電話本局一一一四

竹柏會

第五回

會長 陸軍二等軍醫正 正六位勳四等 ドクトル 渡邊鼎

通信教授會員募集

規則要郵券二錢

産婆學講義録

東京市四谷區内藤町一

東京産婆看護婦講習會

産婆科六ヶ月卒業
看護科四ヶ月卒業

女(りの三)

●圖書目録

御入用の方は往復ハガキにて御申越次第即時送呈仕候

東京本町 博文館

にきびとり化粧水

本品は有名なる獨逸專門大家の調配にして多年の經驗と最新の學理により精製せる化粧水なり常に本品を愛用すればいかなる吹出ものと雖ども二三瓶にて必治は實驗者の證明なり幸に御試用あらん事を乞御一報次第速に郵送す定價郵送料共一瓶三十錢（但郵便切手は一割増）

化粧水パピロン

發賣元 東京市本所區緑町三の二九

小林榮進堂

器械不要

簡易複寫インキ

蒟蒻版寒天版及び其他の印類又は器械いらず此インキ一品にて簡便迅速座上立ところに文書圖版數十百枚を印刷し得べし本品はすでに諸官衙及び郡區町村役場等の採用品たり

●定價 金參拾錢 二オンス堅裝 鑵入共送料 一郵券代用 一割増

下谷坂本町二の廿四

中村屋商店

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

◎中野屋洋服店調製の男女小兒洋裝◎

女（り小四）

左に掲げたる寫眞は弊店の新調に係る最新のスタイルの一二を示せるものにて右の方は滿三歳の男兒、中央は滿三歳及四歳の女兒が佛蘭西式の「ドレッシーコート」を着けたる所、左りの方は滿二歳の男兒が洋裝したるもので何れも弊店の得意とする所のハイカラ式です

今や新年も間近になりましたから御子供衆の新裝の撰擇に心配なさる御兩親は弊店へ御相談あれば親切に御相談に應じ安價にて立派な御仕度が調へられます

男女小兒用コート。ジヤケツ。ケープ。及嬰兒用ケープ等色々出來合品も陳列してありますから御撰擇の上御買上げを願上げます

○男女格安出來合ひ服及びベビースボックス（嬰兒洋裝）澤山陳列仕り有り候に付御來店御一覧下され度候



中野屋洋服店東京出張所圖

注意

東京市内御注文のお方は電話本局二九〇一番。端書なれば神田鍛冶町廿七番地へ御申越し下されば雛形と切れ地見本持參早速御伺ひ御容姿に恰好いたす様調進致します。

（本店）横濱辨天通り（電話三四四番）

中野屋洋服店

（東京出張所及地方掛）東京市神田鍛冶町（電話本局二九〇一番）

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

新意匠の子供洋服







中野屋洋服店考案

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

最新美顔用化粧水原料

化粧香水 プラチナ

○プラチナ…は衛生化粧の原理に基づき最新大發明の美白原料液なり
○プラチナ…は牛乳中の主成分たる乳素と果實汁の美白原素の合劑也
○プラチナ…は皮膚に必要なる滋養分を悉く併有せる濃厚原料液なり
○プラチナ…の香料は花卉浸出法に依て採集せる花精エッセンスなり
○プラチナ…の實質は實用香水として殊に毛髮用に適し毛根を養ふ
○プラチナ…の單味は皮膚上の殺菌作用顯著にして吹出物等は消滅す
○プラチナ…を鹽分なき軟水又は湯に點滴せば直に乳劑化粧水となる
○プラチナ…の容器は最新式にして一滴づゝ正確に計られる仕掛なり
○プラチナ…の十倍乃至五十倍は牛乳製化粧水と同等なる効力を有す
○プラチナ…の數倍量は濃厚美顔料液として皮膚を滑澤艶麗ならしむ
○プラチナ…の數滴を洗面の湯水に點滴し用ふれば肌理能し色白くす
○プラチナ…は意匠の斬新體裁の高尚優美なる實に破格の價値を有す
○プラチナ…の取扱店は全國到る處の小間物店化粧品店藥店にあり

發賣元 東京横山町 **天野源七**

—(定價金參拾錢……郵券代用一割増し遞送無料)—

宮内省御用達

天下一品

最上醤油

醸造元 千葉縣野田町 **茂木佐平治**

賣捌所は各地とも有名なる酒醤油店に有之候

女(おの二)

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

◎産婦人科

宅診 午前
往診 午後

◎小兒科

病室並ニ産室ノ設備アリ隨時入院ノ需メニ應ズ

院長 女醫 鷲山彌生

東京至誠病院

東京市麹町區飯田町四丁目卅一番地 電話番町(二三五七)

洋畫講義錄

洋畫講義錄は水彩畫を始め其他油繪木炭畫ペン畫鉛筆畫肖像畫等すべて一切の洋畫に關する事を詳細に講述す毎號美麗なる挿畫數多あり、毎月一回發行、一年卒業、會費月卅六錢、詳細規則無料進呈

執筆畫伯
三宅克己先生
岡田三郎助先生
大下藤次郎先生
中澤弘光先生
外大家十數名

(新學期開始) 東京市麻布區飯倉四丁目 **大日本繪畫講習會**

繪畫講習錄

繪畫講習錄は日本畫の技術と之に關する各種の學科とを平易懇切に教授し如何なる初學者と雖も忽ちにして上達せしむ毎號美麗なる繪畫數葉を挿す、毎月二回發行一年卒業會費月卅六錢、詳細規則無料進呈

執筆畫伯
川端玉章先生
荒木寛畝先生
寺崎廣業先生
梶田半古先生
外大家十數名

●破天荒の新案●

吉凶を豫知するは處世上の最大急務たり

附四十三年九星吉凶獨判斷

最新式カード式 吉凶獨り占ひ 懐中おみくじ

箱入 價金參拾錢 郵税四錢

人の一生は**運命**に巧に乘ずると乘せざるとにより其の生涯に**禍福吉凶**の相違あり激烈なる生存競爭の渦中に立ちて**勝利の桂冠**を獲んとする者は自己の前途にある**運勢を辨**へ之に對する法を講ぜざるべからず盲滅法の進み方は自を破るの基なり何人も至便至珍なる「懐中おみくじ」を備へ處世法を誤り給ふ事なかれ

發行 東京神田美土代町二丁目一 **博文書院**

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

●金張縁眼鏡 本品は體裁至極高尚にして金色光澤及形狀は眞正金縁と毫も遜色なく優美にして金色光澤は十ヶ年の保險附なり故に紳士淑女の御常用として多大なる高評を博しつゝあり

紳士貴婦人用

新形眼鏡



米國製 乙號 二圓九十錢 甲號 三圓八十錢 特號 四圓五十錢

日本製金着縁 乙號 一圓五十錢 甲號 二圓 特號 二圓五十錢

●實用金縁眼鏡 本品は金質確實保險付にして最も斬新優美高尚堅牢なるを主とし精製に精撰を重ねたる裝飾實用の眼鏡なり 乙製三圓九十五錢 甲製四圓五十錢 特製五圓五十錢

●右各種共獨逸製最上等の凹凸平面白墨の御好の玉入にして優美なるサック添呈

送費各種共十二錢宛●切手代用一割増

製造元 大阪市瓦町心齋橋通北入 諸眼鏡商 貴金屬商 上村重兵衛 (電話東三〇四九番)(振替大阪六二六一番)

●子を持つ親 病人ある家人は必ず讀め 特別製品各貳拾錢上り

定價 乳兒用九拾五錢 中人用壹圓貳拾錢 大人用壹圓九拾五錢

ね小便袋

男女の區別あれば御注文の節乞注意

衛生最良嬰用輕便ね小便袋は洗濯の世話なく手數を省き小便は袋の外へ洩れず蒲團を汚す事なく常に清潔なれば老人の最も必要にして



小兒病人 ね、おき、たち、すわり等に毫も差支なきは本品の特長

●世話いらず つきやく 子宮帶 有名醫學士の說明に因り考案したる品にして月經當時又は產後用として內外國人に信用ある婦人用品なり

定價 特製壹圓參拾錢 並製九拾錢 ●送料各拾錢引替廿五錢

●衛生梅毒よけ花折袋 十二個一打五十錢 送四錢 ◎大阪東區京橋二 ◎振替東京八一九八 常盤號

●博文館圖書陳列所 館內にあり

百人一首歌かるた

上下一組 優美箱入

定價廿五錢、七十錢、一圓、一圓半、二圓、三圓 ▲送料各十錢 景品進呈

發賣元 大阪市東區京橋二丁目 日月堂商店

醫科大學藥學專攻 藥學得業士 金澤□著

肺病患者の福音

著者肺病全快の經驗と最近の學說に基き親切叮嚀に根治の法を詳述せし物也●郵券二錢封入申込者に無代施本

●東京市下谷區上根岸町 衛生書院

●佛國土產の最新白色新劑

色黑き、にきび、そばかす等にて困悶の士女よ本院特得の文明的新秘法により速に圓滿なる幸福を得られよ如何に其効能の神秘なる論より證據郵券二錢送れ美容のしるべ呈して敎ゆ



東京大森停車場上山王 愛隣藥院

女(一〇三)

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

▲誰でも容易に活用し得られる適切の作法也▼

大日本國民中學會女學部著

女子作文全書

▲菊判洋装美本‖定價六拾五錢、郵税八錢

▲女子には女子の特色がある、其文章亦女子の特色がなければならぬ。然るに近時の女子の作文を見るに殆と男子と選ぶ所がない。之は困つた者である。

▲中には女子らしい[illegible]人があるが、其れは昔の型に囚はれた、技巧澤山な、即ち虚禮と僞りの形容で固めたものを書いて立派な名文と思つてゐる。

▲本書は此二點の矯正の爲めに出たもので、女子には女子らしい文章を書かせる、而も新しい時代に適するやう其作法と適切なる其文例とを示してある。

▲本書は大日本國民中學會女子部で、作文教授上の實驗から割りだして説述したものだから空理空論は少しもない。直に實地に應用することが出來る。

▲文章が容易なれば誰でもよく解し得る作法也▼

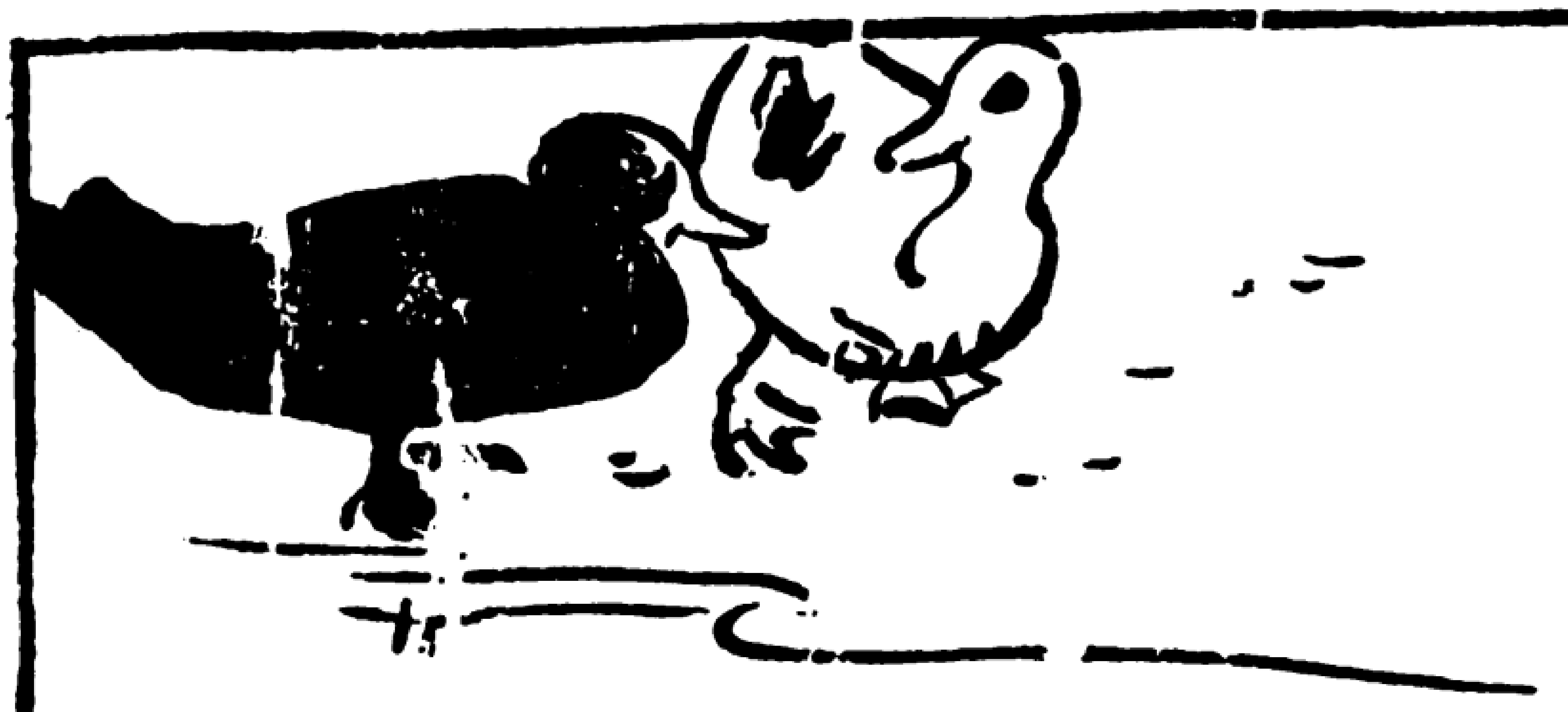
(其の四)

東京神田區駿河臺　振替東京三千九番

東京國民書院

電話本局三〇〇四番　電話本局三七〇七番

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



女學世界

歲晚號

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



伊太利の高貴と私

前伊國公使夫人　大山久子

皇后エレナ陛下は千八百七十三年に御誕生遊ばされ武勇の血統なるモンテネグロ公の姫君に渡らせられ、御幼少より露國で御教育を受けさせられました。御體格は極めて御立派で、皇帝よりは少し御丈が高い位で、黒髪濃く澤やかに麗はしく黒い御眼は大きくて愛嬌溢るゝばかり、御性情は至つて淡白で、誠に御深切で、萬事質素を好ませ玉ひ、繪畫の御嗜好深く、御手づから美事に遊ばすのです。また馬術射的など云ふ御業にも御堪能で同情に富ませられ、天災など民に不幸のあつた時は、少しも御躊躇遊ばされず、皇帝と共に恐るべき危險を冒して其場に行啓あり、親しく懇ろに御慰藉遊ばすので御座います。

私が羅馬を出發の時までには、親王、内親王は御三方で第一の皇女ヨランダ内親王は千九百一年、第二、皇女マフアルダ内親王は千九百二年、皇太子ウンベルト、プランス、ト、ピエモン殿下は千九百四年の御誕生でしたが、皇后陛下は御慈愛極めて深くましますので、皇子皇女方に親しく御乳房を含ませ、御愛育遊ばされ、御召物などをも御手づから召換へさせられました、他の貴族の夫人達は自分の子女を乳母や女中に任かせて遊び廻つて居るのですから、皇后陛下の御養育法の行屆かせ給ふには何れも恥ち入つて居りました。皇子方の御教育は却々御嚴格で御服裝まで奢侈を許させ給はず、至つて御質素な服を與へられました。又如何なる寒中でも、少しの雨天でも、少しぐらゐ御風氣におはす時でも、開いたる御馬車を用ゐさせ給ひ、毎日少くとも一回は宮中より外に御運動なさるやうに仕

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

向け給ふのでした。斯く親しく皇子皇女方の御教育を遊ばして極めて御多忙なるに關らず、皇后陛下の御務めは寸暇をも惜み給ふて御勉强遊ばすとの御事で御座います、御髪は大禮の儀式の時の外は、澤山な御髪を常に御手づから結ばせ給ひ、少しも侍女の手を借り玉はぬのです。

▲伊國皇帝陛下

皇太后マルグリツト陛下は千八百五十一年の御誕生ですから、今年は五十九の御高齢ですが、御容色いと美はしくおはしまして、餘程御若く見えさせ給ふのです。世にも稀なる御賢明の御方でして、御學問は深く博し、英佛獨の讀書を伊語と同樣に遊ばし、詩文を能くし給ひ、音樂の御嗜好深く、總ての美術を御堪能に遊ばし、趣味至つて高く、何となく人の心を引き着けるやうな御愛嬌と高き德行とを持たせ給ふのです。我國の風俗に就ては驚くべく詳細に御研究あり、非常に日本贔負で居らつしやいました。日本語を却々澤山に御存知でして、拜謁の度毎にいろ〳〵我國の事を御褒め遊ばし、是非とも一度は豫ての希望通り比類なき尙武、愛國の日本を親しく見たいと仰せられ、今年は殆んど行啓遊ばす御都合のやうに承りましたが、少々御不例にて御延引に爲り來春頃に御出で遊ばすとか仄かに承はりました。

▲皇太后陛下に拜謁の際

皇太后陛下へ各國使臣の夫人が拜謁いたしますのは、謁見日の午後一時より四時までの間で御座いますが、一人に凡そ二十分位の時間制になつて居ります。或謁見の日で御座いました女官長が名簿を私に見せて、御覽遊ばせ、貴女の御名を此通り一番終りに書いて御座います譯を御存知でいらつしやいますか。貴女は本當に御幸福なので御座いますよ。是れは陛下が特に私に御命じになりますので、貴女の後に猶他の拜謁の夫人が待たれると緩る〳〵談話が出來ぬ故、大山公使夫人は一番終りに殘して置けよとの仰せ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

で御座います」と仰せられましたので私は何と申上げて宜しいか分らぬ程恐れ入つて忝く存じました。謁見の際は陛下は長椅子の右に坐し給ひ、其傍の左の席へ私を御招ぎ遊ばし座を給はり、陛下と同じ長椅子に坐するので御座いますから私は勿體ない事と恐縮の他は御座いませんでしたが、陛下は如何にも打解けた御風情で面白く御談話を初めさせられますので、漸く心を安めて御答へ申上るので、御座いました。總べて謁見の際に通辯が入りますとどうも談話が面白く出來ませぬと見えまして陛下も簡單の御あいさつだけ遊ばして早く拜謁が終るのだ相で御座いますが通辯を要せぬ時、御傍に一人も置かせられず、差向ひで、數々の御言葉を給はりましたのは誠に身に餘る光榮と存じました。

▲思ひ出多き最後の謁見

私が最後の御暇乞に參内いたし皇太后陛下に謁見いたしました時は、特に泌々と優渥の御言葉を給はり、やがて左の御手にはめさせられし寶石入の御指輪を拔き取り給ひ、『貴女には此指輪は少し大き過るやうなれど』と仰せながら親しく私の指に御はめ下さいましたので、私は思ひ懸なき事で何とも御禮の言葉さへ出ず、唯感涙に咽ぶばかり顔も上げ得られませんでした處、陛下には二度三度私の頬にソと接吻遊ばして御やさしき御言葉が御座いました。私は最早堪へ切れずハンケチで泣顔を藏して退出いたしました。

▲感謝の涙は百萬言の御禮に勝る

盡きせぬ御別れに袖をしぼつて歸宅いたし帽子と手袋を取はづし衣服を着替へやうと致して居りますと、玄關に馬車の音がいたし、思ひがけなく女官長のヴイラマリア侯爵夫人、(此夫人は伊國宮中最高の女官で勢力のある人格高き賢明な方で御座います。女官長は宮中に一人だけ御座います)が訪問遊ばし、『今日は皇太后陛下殊の外御名殘を惜しみ玉ひ、いと悲しく思召さ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

る丶上に、貴女の涙を見ていたく感動遊ばし直ぐに見舞に參れよとの御仰せで御座いました」と仰いましたので私は益々恐れ入り「今日は陛下へ最後の拜謁で御座いますのに見苦しき泣顔を御覧に入れろく〳〵御禮も申上得ませんで退出致しましたのは實に恐縮で御座います」と申上げました處「貴女の感謝の涙は百萬言の御禮より力があるので御座いますから御心配遊ばすな」と仰つて種々慰めて下さいました。

電話の交換手

▲市内の電話交換手は總員千二百名で其上に主事補が六十四名通信手の女子判任官が三十三人ある。

▲交換手の平均年齢は十六年九ヶ月で孰れも未婚の若い娘さんばかり十三歳から二十三歳迄のものを採用する。

▲交換手一日の勤務は七時間で、四十五分毎に十五分宛休憩して交替する、未婚者の事なれば局では家庭的の監督をして居る。

▲全體交換といふ仕事は、社會の各階級に通じて誰でも相手にして夫れ相當にやつて行かねばならぬ外交的頭腦を要する事ゆゑ滅多なものは使はぬ由。

▲現在東京各局で約二百人の見習(二個月)が居るが是等の養成は頗る注意を拂つて居るので、單に交換技術のみが巧く行つても品性に缺點あれば採用が出來ぬ。

▲交換手の養成は東京だけで一年九百人位其中で立派に勤續するのが三百人位との事。

▲交換手の平均勤續年數は二年一個月になつて居れど、追々永續する傾向である、東京市内全體の電話二萬五百で内本局が三千八百、浪花が五千、新橋が三千八百、番町が二千六百、下谷が三千四百、芝が千九百である。

▲通話の模様は各方面の狀況に應じて夫れ〳〵多少の相違がある其現象が頗る面白い。

▲本局と芝には特色と謂むべきものはないが、浪花は相場があるから通話が最も頻繁である、併し通話者が慣れて居るから手數がかゝらぬとの事。

▲一番喧しいのは新橋局で、朝野の政治家など相手であるから新米の交換手は手古摺るさうである。

▲番町は朝と晩は通話が頻繁だが、勤人の多いため晝間は閑ださうである。

▲市内電話も一人の受持ちに一時に五つ六つ位通話が重なることが多いので、交換手は全く傍目も振れないさうである。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

貴婦人の世間話

婦人記者

幼時を憶ひ今日を感謝せらるゝ
大山公爵の奥方

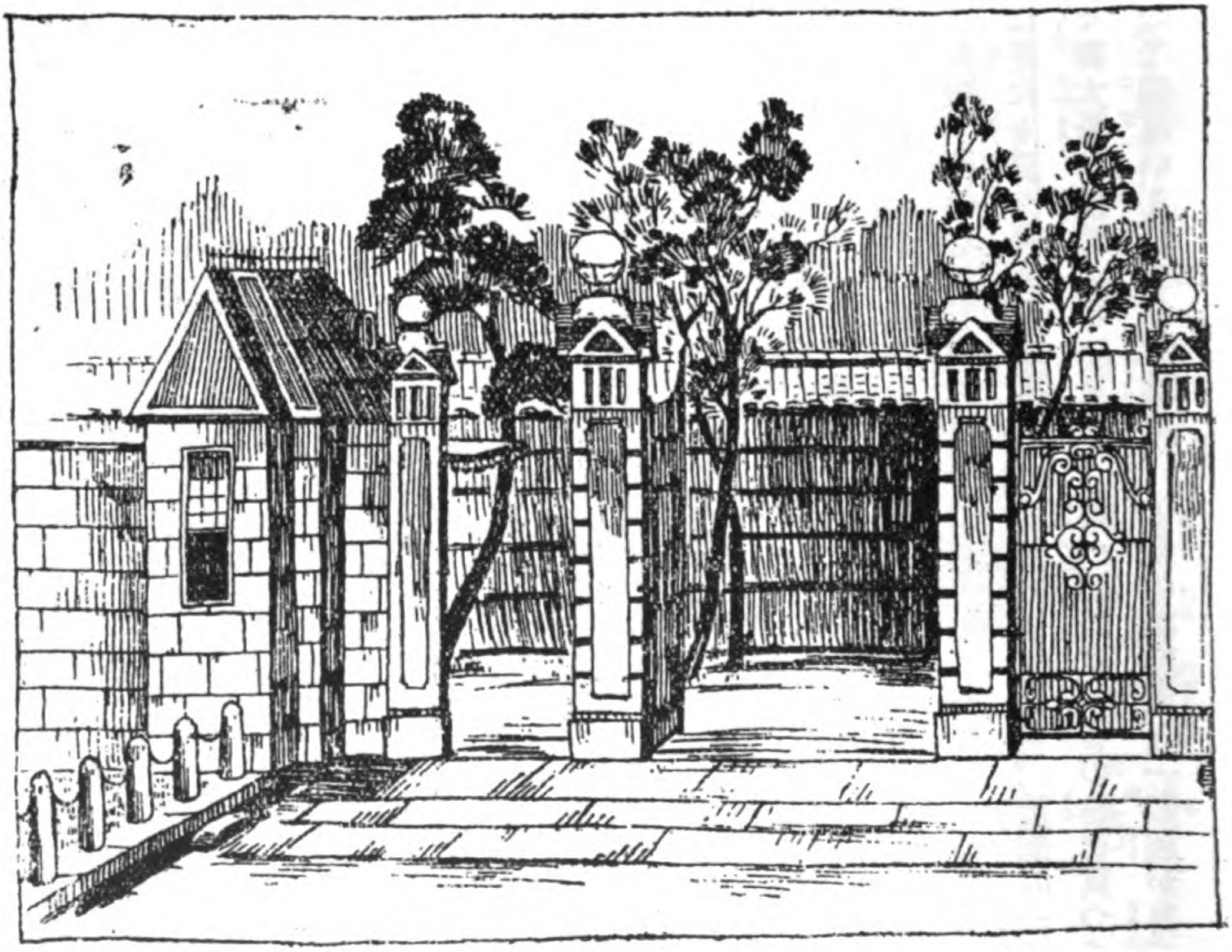
蒼欝した植込の間の廣い小砂利道を縫ふて進むと、色づいた槭樹の下に大きな觀世音が据ゑられてございました。石段を上つてお玄關のベルを押しましたが、御沙汰がございませんので、御中の口の方へ伺はふかしらと暫く考へて居ると、御内庭の方から大きな茶色の犬が走り出てお玄關側を通り過ぎ、其後から鳥打帽を被り糸織萬筋の羽織に低い駒下駄を履いた方が細い洋杖を揮り廻しながら通られたので、お出入りの方かと存じて、「あの失禮で御座いますが、此のお玄關のベルは破れて居るので御座いませうか」と御尋ね致す途端、其方は鳥打帽を取つて、ちよつと挨拶され、「イエ其樣な筈はありませんが……それでは此方へ御廻んなさい」と仰しやつた時、始めて御顏を善く見上げまして、公爵閣下であつたことが分り、ハツと恐縮致したのでございます。失禮のお詫を申上げる間もなく、公爵はズン〳〵と御門の方へお出でになつて了ひました。」で記者は公爵夫人に御めもじ致しました時、眞先に此疎忽をお詫申上げました處、夫人は打ち笑まれて

「イエもう毎度皆樣がお見違ひなさるのでございます。先頃も庭を散歩して居りました時、或るお方が入らしつて、良人を召使の男と思召し「閣下は御在宅で御座いますか」とお尋ねなさいましたのを良人は「如何ですか、ちよつと分り兼ねます」と眞面目腐つて答へましたので、其方が其後詫手紙を寄越された事など御座います。ハイ毎日彼の通りの風姿で庭内を運動致し、雨天の日は傘をさして歩いて居るので ございます。」

夫人は何時も變らず、サラ〳〵と氣輕な調子で、お話しに成りますが、松島艦の變事で御令息を失はれた事など思ひ出すと、言ふに彌勝る夫人の御心を深く御同

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

情申し上げずには居られませんでした。記者は御迷惑と存じつゝお話しを願ひ上げますと『近頃は何ですかメッキリ耄碌致しましたので、娘なぞから操伯母樣（山川操女史）の方が御年は上でも母樣より元氣が御在りですよ』と云ふやうな評を聞く位でございます。ハイ倅の事も最早一年半になりますから、徐徐出歩いても宜からうと、皆樣が勸めて下さいますけれども、如何いふものかサッパリ氣



前田侯爵邸（本郷元富士町）

が進みませんし、特に鳴り物の交る集會なぞへは參る氣になれません。今少し經ちまして次男が士官學校を卒業致し、一人前になりましたら私も少しは氣が引き立つであらうと存じて居ります。斯う云ふ風で家にばかり引込んで居りますから、新らしい事も伺へず、考へなぞ尚更ございません。近頃よく新聞記者の方なぞが見えますので、お目にだけは懸りますが、お話し申す事がないのでございま

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

す。それに良人も餘り好みませんで「お前のやうな嬢さんの云ふことが世間の利益になるものか」などゝ申して居ります。左樣でございますね、幼い頃の事も、お珍らしくなし、大方忘れて了ひましたが、一つ二つお話し申し上げませうか。

▲自由な外出

私共の幼少の頃は、出入りが窮屈なもので、一人歩きなぞは少しも出來なかつたのでございます。玄關の外へ一足踏み出しますにも仲間、若黨に女中の三人も伴に連れなければなりませんから、自由に遊び歩く事なぞは出來ませんでした。一年に一度氏神の諏訪神社の祭禮の時だけはカラクリを見たり、玩具の一個も買へるのでございますが、それも自分の手からお金を出して買ふ次第には參らず、矢張り伴の者が取扱ふのですから、好きな物を勝手に見たり買つたり致す事は出來ません。斯樣な點は却々御大層な樣でございますが、衣類なぞは極質素なもので御座いまして、大抵木綿の手織縞を着て居りました。偶に用ゐます絹物も、宅で蠶を飼つて糸を取つて手織り致した紬に限られて居りました。

▲糸車の前に坐る

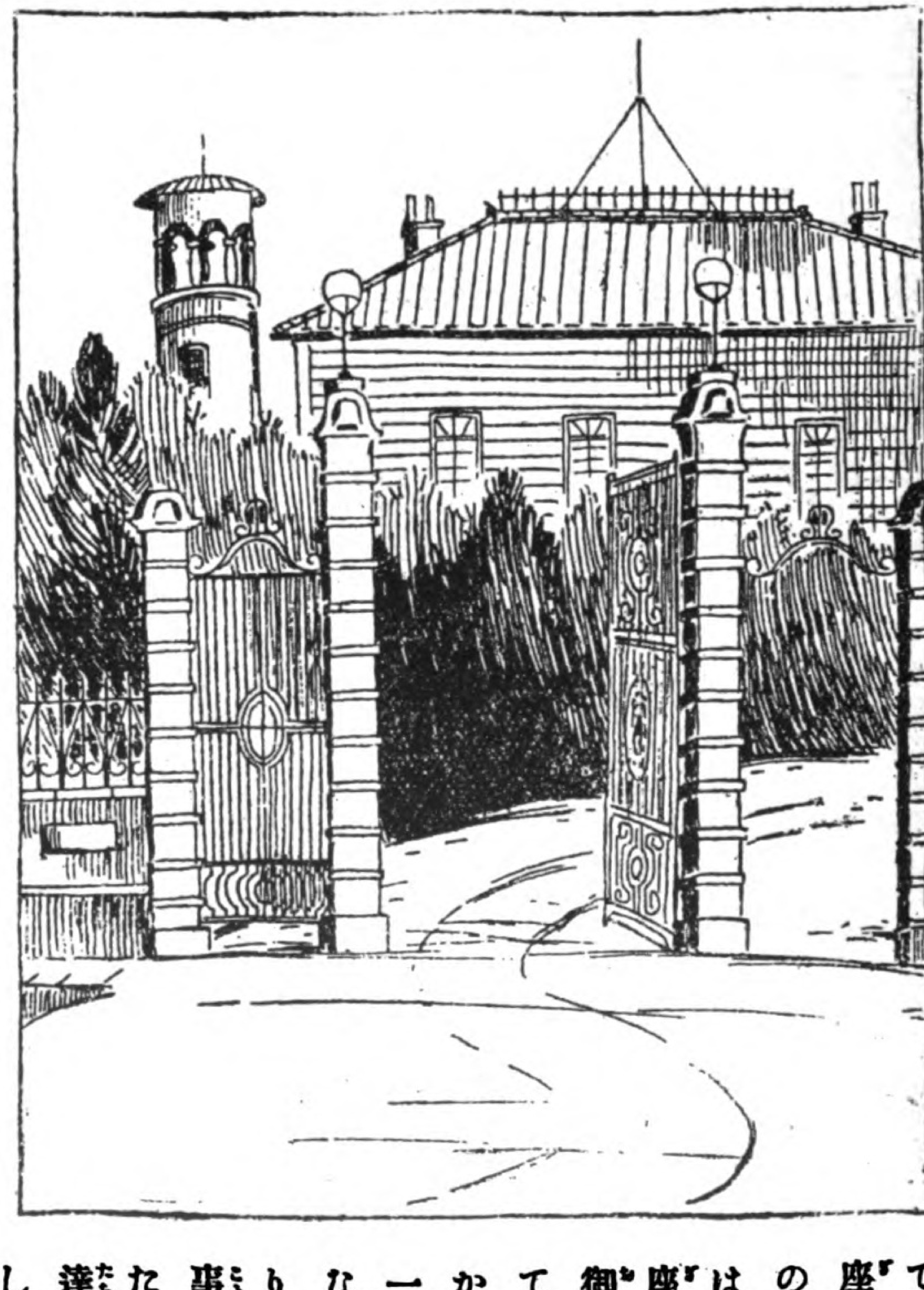
唯今のやうに樣々な學課を修めません代りに、武術や手業の稽古で隨分忙しいものでございました。姉達は薙刀を習つたり機を織る練習を致したりして居りましたが、私はやつと糸車の前に坐つて糸取りの稽古を初め出しました時、會津の戰爭が始まり、生活狀態が全然變つたのでございます。

▲大砲の響に慣る

會津に籠城致しました間は、玄米の御飯ばかり頂いて居りましたので、お菜なぞ固より頂けやうもございませんでしたが、忠實な一人の家來が危險を冒して城外へ出掛け、香の物を買つて來て與れました時は、何よりの御馳走と一家族が喜びました。衣類も着た儘で

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

城へ詰めましたので、着換へる事もなく、夜具も固よりございません。寝られぬ夜の方が多う御座いましたが、偶々寝る時には、其儘でごろりごろりとして居たので御座います。それでも氣が立つて居る場合ですから、皆何とも存じませず、幼い子供達まで大砲の音に全然慣れて了つて、平氣なものでございました。私なども家中の子供達と一緒に今日は大砲の丸が城内へ百來たとか二百來たとか申して、大砲の數取りを致して居つたので御座います。籠城の出來ました者はまだ宜しう御座いましたが、御城へ入り後れて田舍へ落ち行かれた方もあり、一家族皆悉自害なされた方もあり、隨分悲慘な事でございました。ハイ私の兄達は戰爭に出ました者と、未だ幼年の者とでした、年齢が違つて居りましたから、白



△三條公爵邸（麻布鳥居坂）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

虎隊の仲間へ加はりませんでした。

▲三合扶持の苦しい生活

戰爭が終りました後、私共一家は、若松の近村に引籠る事になりました。此際は一人前三合宛の御扶持が下つたのですが、三合と申しても一人前の衣食を一切辨じなければならぬのですから、却々困難で御座いました。前申し上げた通り何に致せ家老の家族が俄かに其日生活の境遇に落ちたので御座いますから、一時途方に暮れたやうな有樣で御座いました。それで私は毎日山へ登つて薪を採り、可なり大きな束を背負つて參つたり、秋には畦道に落ちてゐる稻穗を拾ひに參りました。落穗も馬鹿になりません。精出して拾ひますと可なり御飯の足し前になつたので御座います。私は唯今でも收穫期に田舍へ參りますと、何時も此落穗拾ひの昔を偲び、今日斯うして居られるのを誠に勿體ない事と感謝致して居ります。それですから娘達にも、心の弛まぬやうに、毎度私の幼時を話し聽かせるのでございます。

▲御氣丈な母君と聰明な兄君

會津藩が南部へ國替になりましてからも、私は非常に難儀な生活を致しました。扶持には全く離れますし父は疾くに世を去つて若年の兄が官吏として得ます薄給で多勢を過すのですから、普通の御飯を頂いて居つては却々暮し切れません。それで私共は粟のお粥を頂いて飢を凌いで居つたので御座います。母は一體讀み書きが好きでございましたので、如何程困つても子供達の敎育を等閑にしてはならぬと申して、讀書や習字の稽古に通はせて吳れました。お粥を頂いて居る中で子供を敎育致したのですから、母も餘程確乎として居つたので御座いませう。兄も敎育には熱心の方で、これから追々外國との交際が盛になるのだから、女子でも外國語を學んで置くのが必要だと申して、函館の或佛蘭西人に私の敎育を託しました。それで私は十歲の時、母の膝元を離れて函館へ參つたのですが、其佛蘭

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

西人は商人でありました。其頃は未だ詳しい事情が判りませんで、兄も外國人の許にさへ居れば教育を受け得られる事と存じて居つたのでせうが、商人は極冷淡なもので何時まで居つても何も教へませんから、二個月ばかりで横濱の或外國人の方へ參りました。併しこれも矢張り理想通りに參りませんでした。彼れ是れ致す内に開拓使廳から留學生の募集がございましたので瓜生さんや津田さんと御一緒に米國へ參つたのでございます。十歳の時母の膝下を離れました切り一度も母に會ひ得ず、十二歳の時米國へ參つて了つたのでございますが、母は氣丈な人でしたから、年のゆかぬ私が遠方へ參ることを格別クヨ〳〵致さず、大層喜んで與れたので御座います。

▲難儀に慣れし幼な心

子供の内は先を案じることもなく、夢中で御座いますから、外國へ參るにも却つて大人より都合が宜しかつたかも知れません。私は二年前から外國人の側には居りましたけれども、前申し上げた通りの次第で、言葉もロクに覺えては居りませず、唯だ食事や習慣を少しばかり見覺えた位のものでした。それでも子供の事ですから、平氣で押し通して居る内に自然と慣れて了ひました。それに彼地で皆様が非常に親切にして下さいましたから、誠に幸福で御座いました。

私が最初から餘り心細く感じなかつたのは、幼少の時に難儀して、辛い事に慣れて居たからであらうと存じます。

●瑞西育兒十戒

瑞西のセルテル博士は、小兒の養育に關し左の如き十戒を公にしたり、

一、牛乳にて育ちたる兒は人乳にて育ちたる兒より四倍多く死す、故に各自らの乳にて養ふべし、
一、離乳後は少量の牛乳と若干のソップとを與ふべし、
一、食事時間の外は何物も與ふ可からず、
一、食事は三回とし、其外定時に一回良好なる飲食物を與ふべし、
一、光線と空氣と清潔とは健康の柱なり、故に狹き往來等にて遊ばす可からず、
一、子供は空氣及び汗等の拔け得べき物質にて着物を作り着せしむべし、
一、日沒に當りては直ちに子供を眠らすべし、
一、寢室は空氣を流通せしむべし、
一、子供の病氣に就いては賣藥を用ふ可からず、
一、傳染病を防ぐが爲め子供には一定の食器を用ゐしむべし。又大人と同床に眠らす勿れ、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

家庭に於ける故伊藤公爵

婦人記者

維新の元勳、國家の柱石と謡はれ給ふた伊藤公爵は今や世界的偉人として歴史上の人物となつて了はれました。最早、喜樂や富貴樣の女將の口から逸話を聽かされる時でないと存じて、久しく公爵の左右に侍つた某氏の母堂を訪ひ、公爵が家庭に於て何樣な風に振舞はれたかを訊きました。某氏の母堂が涙片手に話された所は、ホンの一斑に過ぎませんが、餘程ゆかしい點が御座います。

▲同じ日が吉凶の極點

昨年の十一月一日には、公爵の御誕生祝と奥方の還暦祝ひを兼ねて、御知己の方々へ緋縮緬の折鶴を御馬車で御配りに成り、私共までも頂戴致しまして、誠に御芽出たい限りと喜びましたのに……今年の十一月一日は御靈柩が横須賀から靈南坂へ參りましたのですもの……奥方の御心は何樣でしたらう。失禮な申分ですが、本當にお可哀想で堪りません。

▲新聞の記事と反對

萬朝報でしたか、奥方が御棺を開いて御對面なさりたいと仰しやるのを、側の人が拒んだやうに書いて御座いましたが、これは事實と全然反對でして、御棺は自由に開き得らるゝ樣になつて居り、井上樣が對面なさいと勸められましたが、奥方は「もう十分です……」とピッタリお斷りなさいました。これは奥方の御心強い故ではございません。これほど辛い哀しい思ひで居るのを知つて呉れないかとの御心持が御一言の中に見えて居ます。井上樣は氣早な御方ですから、直に御呑込みなすつた樣でした。

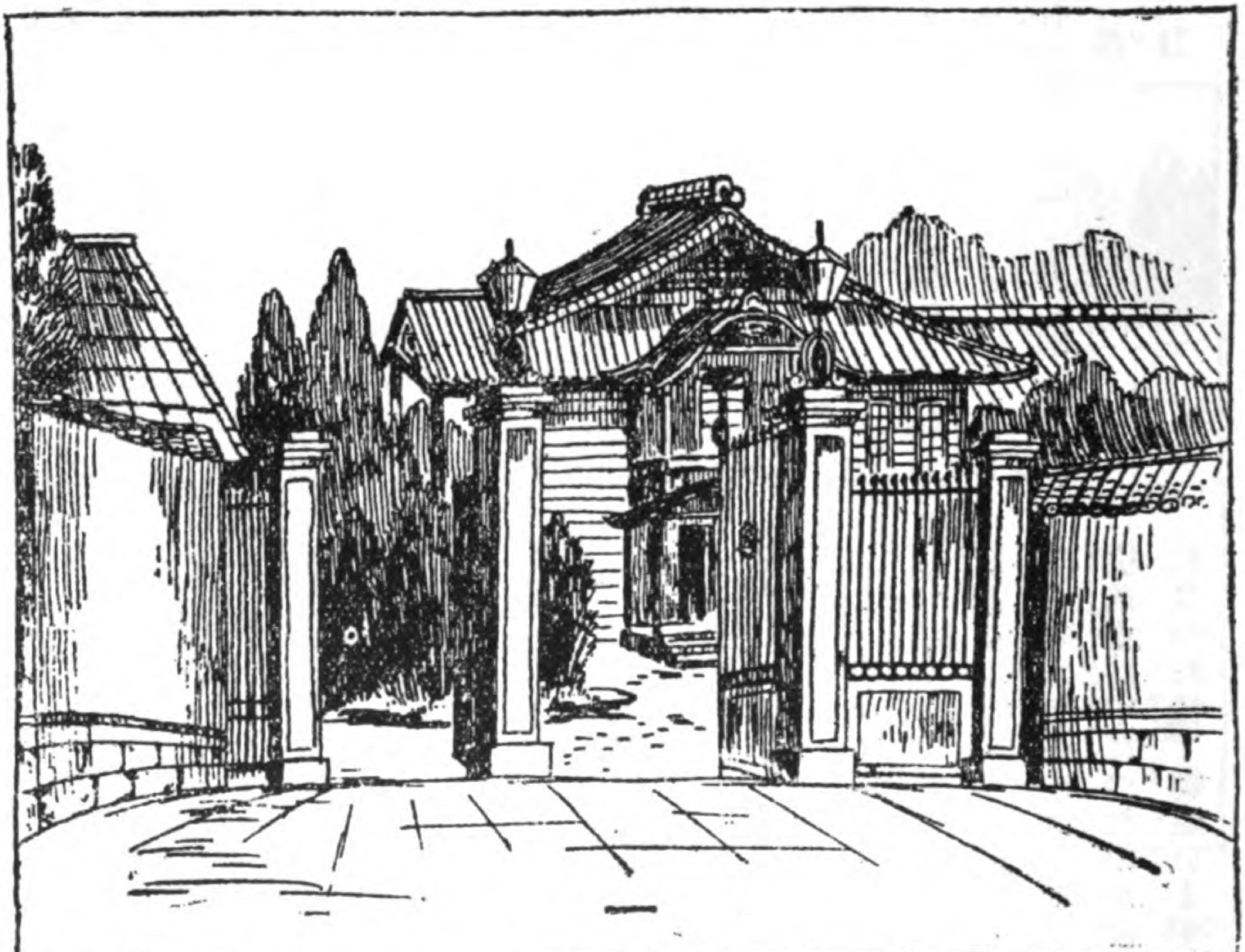
▲一時に御年を召した奥方

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

奥方は元から繊弱な御綺麗な御方で、濃い御髪を何時でも整然と丸髷に遊ばして居らつしやいましたから、還暦の御年ばえとは御見受け申しませんでしたが、今度御髪を御下しなさいましたので、一時に御年を召したと皆様が仰しやいます。ハイ御髪は井上様に頼んで御下しに成りました。

▲公爵御夫婦の御孝養

六年前まで御存生なさいました公爵母堂は、大磯に御住居でしたが、御



戸田伯爵邸（駿河臺甲賀町）

高齢の故ですか、宛然子供のやうになられ、公爵が外國へ御出立の御支度をなすつて居らつしやると『博文さんや、お前さん何處へ行きなさる』と御訊きなさいました。幾度申上げても御忘れになるのですから、公爵は『ちよつと東京まで參ります』と仰しやる、母堂は『左様かお早くお歸り』と澄して居られました。時としては公爵に向つて、『お梅さんは如何しました、今朝から私の部屋へ一度も見えません』なぞと仰しやるので、奥方は

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

「今朝から幾度も御機嫌伺ひに参つたのですのに……

……」と困つて居らつしやると、公爵が「モ一度お出で」と仰しやつて、果は御夫婦笑ひながら母堂のお傳りを成さるのでございました。始終斯様な風で、永い間御大切に御孝養なさいましたので、母堂のやうな御幸福な方は無いと皆様が羨んで居らつしやいました。

▲お前は乃公の姉ぢや

私が御邸へ上りますと、公爵は直に御座蒲團を下さいますので、恐れ入つてはづして居りますと、お前は乃公より一歳姉ぢや無いか、年寄は冷えては可けぬ、其様な遠慮は要らぬと仰しやつて下さいました。私に御盃を下さいますから、不調法でございますと御斷り致しますと、公爵は『それぢや葡萄酒が宜からう』と仰しやつて大きなコップへ御注ぎ下さいました。而してお前は息子が堅いので仕合だナア」と仰しやつて下さいました。

▲鳴り物がお嫌ひ

公爵はあれで御芝居や鳴物を嫌つて居らつしやいました。奥方は御好きでしたから、末松様の奥様や若奥様（博邦氏夫人）も御調べなさる事もあり、私共までが御相手致した事もございます。何時も公爵の御不在の時ばかりでして、公爵が御在邸の折には決して成さいませんでした。

▲恩賜金を奥方に見せ給はず

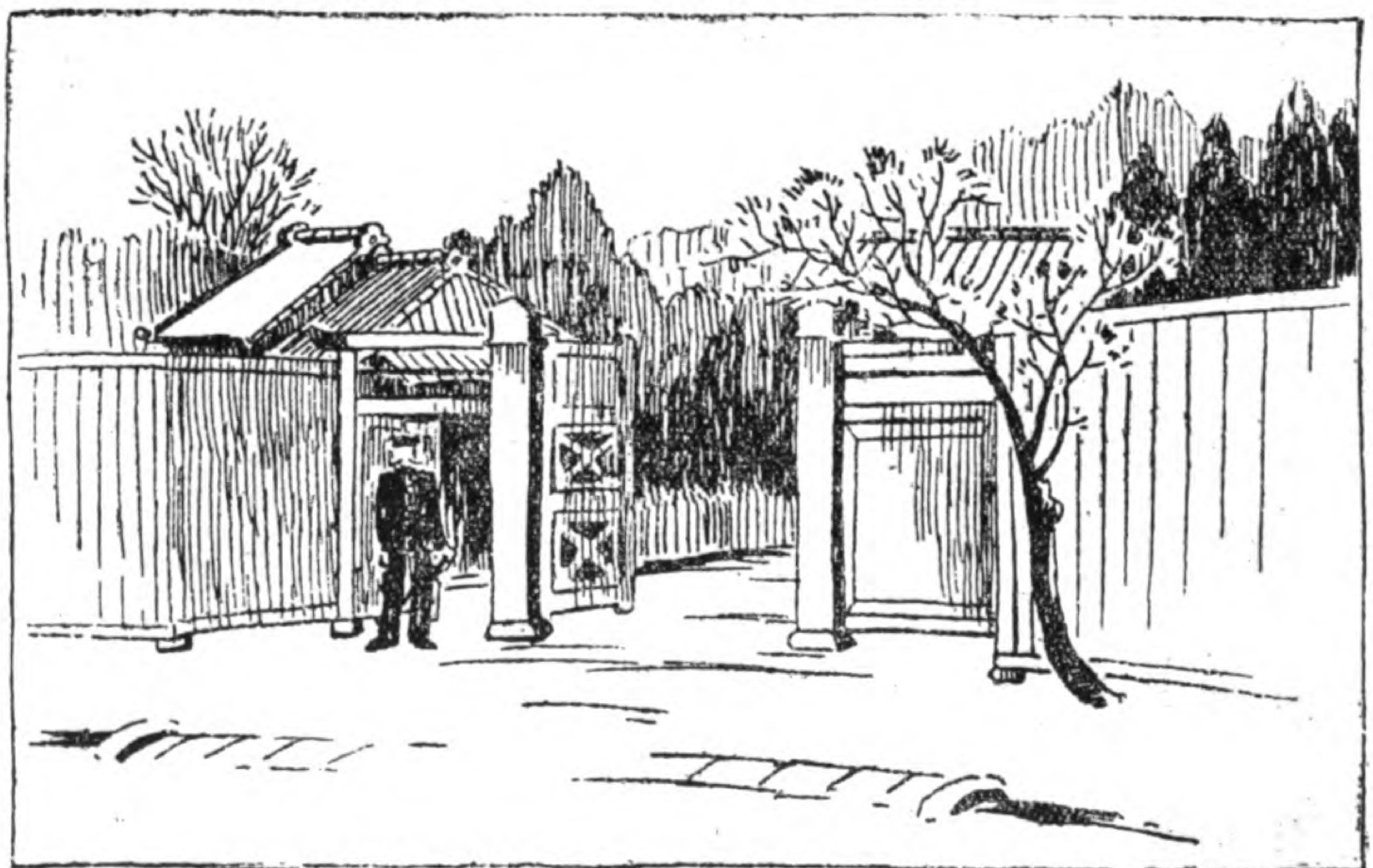
一昨年でございましたか、五萬圓とか十萬圓とか御恩賜金を頂戴なすつたのですが、公爵は忝く拜受なされて間もなくバラ〳〵とお費ひ遊ばして御仕舞ひに成りました。それですから、奥様は御恩賜金を全然御覧成さらなかつたので御座います。ハイ公爵のお道樂で一番お金のかゝるのは別荘のやうで御座います、[illegible]去前普請中だつたのが彼處此處に在りましたが、中止になつた様で御座います、ちよつと景色の好い土地だ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

と、直に地所を御買取り遊ばして、別莊をお建になる御準備が出來るのでございました

▲奥方最初の御參內

御恩賜金を奥方にお見せ遊ばさぬ位ですから、宮中の事も御話しにならなかつたので御座います奥方が初めて參內遊ばす時は、非常な御心配で、四五日もお寢み遊ばさず少し御所の御模様を聞かして下さいと仰しやつたのですが、何も格別六ケしい事はないと仰しやるばかりでした。奥方は御參內が滞りなく濟んで御歸り遊ばした時『本當に今日のやうな辛い事は無かつた』と



麻布御用邸　（富美宮泰宮兩殿下御用邸）

仰しやつたさうで御座います。

▲公爵還暦祝ひの當時

公爵の還暦祝ひには、大磯の御邸で盛な宴會や園遊會が御座いまして、私も面白い御芝居を拜見致しました。彼の時は菊五郎を始め良い役者が澤山參り、家從の方々の素人芝居を見物すると云ふので、其前々から歌舞伎の振り付を頼んで稽古するやら、却々の騒ぎで御座いました。公爵は赤い御服装に赤い御頭巾で三日間御客あしらひを成さいましたが、其陽氣な賑かな御容子は、今でもアリ〳〵眼に殘つて居ります。指折り數へますと、それから丁度十年目、浮世は本當に夢で御座います。（文責在記者）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

各宮家の御歲暮品

今年も最早や暮に迫り、歲暮進物の贈答に忙しき頃となりたるが、今各宮家の御歲暮品いかにと洩れ承るに、

◎北白川宮邸　每年六月と十二月の二期に限りて各皇族家と物品の贈答を行はせらるゝが、中元には反物、鷄卵、歲末には鰹節を御使用ある由、家臣及び御川商人等に至る迄も御心附けを缺かせ給はず、是等には便宜ならんとて金子を下附せらるゝ由。

◎閑院宮邸　同邸にても同じく中元、歲末の御贈答を取り行はせらるゝが、鰹節と反物とを適宜に用ゐられ、又家臣一同へも夫々御沙汰ある由。

◎竹田宮邸　二宮とも昨年北白川宮邸より高輪の新御殿に移らせられたる時より御贈答を行はせられ、極めて御質素を旨とし給ふが、よき御趣向を凝らさるゝやに承はる。

◎山階宮邸　東伏見宮家初め御親戚間に限りて物品の御贈答あり、中元には鷄卵、鰹節、歲末には鴨、鳰の如き禽類を用ゐさせ給ふ。

◎有栖川宮邸　一般に華美なる御交際を避けさせられ、中元歲末の贈答の如きも既に數年前よりお廢しになり居る由。

◎久邇宮邸　御成立後未だ年淺き事とて出來得るだけ質素を旨とし給ひ、二季の禮物も御昵懇の間柄にのみ限りて御贈答あり、同邸にては他宮家よりは聊か風變りて中元の贈物は鷄卵、鰹節等なるも、歲末は林檎、バナヽ、梨の如き極めて淡白なる果物の數々を美しき籠に入れて贈らせ給ふ由。

◎伏見宮邸　一般の皇族家及外國の貴賓等と禮物の贈答を行はせらるゝが、物品は種類甚だ多く、鰹節、吳服物、鷄卵、及び季節折々の珍しき鳥類果物等にて、何れも之に目錄を書き添へ給ふと承はる。

◎梨本宮邸　伏見宮初め御親戚間に限り御贈答ありて、物品は鰹節、鷄卵の二種に限られ居る由。

◎華頂宮邸　中元歲末の贈答は御家例として以前より行はせられず。

◎東伏見宮邸　御親戚の間柄なる伏見宮、梨本宮の二家と御贈答相成る由なるが、若宮殿下が殊の外鳥類に趣味を持ち給ひていろ〳〵の禽鳥を好愛遊ばすより、御贈物には鴨、駝鳥、七面鳥等の如き極めて珍らしき禽類を撰まる。

◎小松宮邸　中元歲末共御親戚間に限り頗る質素に贈答せらる由にて、贈物は鰹節、鷄卵等なり。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



新奥様の家庭談

外務参事官佐分利貞夫氏夫人

佐分利文子様は外務省参事官の佐分利貞夫氏の夫人ですが、小村外相の御長女で、前にも一度御話を掲げた事がありますから、皆様は御存じの筈で御座いますお實家にお在りの頃は御病身のお母上に代つて家事萬端の御配慮から、御父様のお世話までもよく遊したので、御孃様でなければ家が治まらないとまで言はれた方で御座います。お宅は小石川區久堅町のずつと奥の方で、植物園の森に鳴く梟の聲も聞えさうな極く閑靜な處。「母が御承知の通り病氣で居りますもんですから成るべく私が近くに居る様にとて、此様な處に住むことに致しましたが、いかにも田舎で不便で、御訪ね下さる方にも御迷惑をかけます。主人なども宴會などがあつて夜分おそくなります時は、自家まで歸るのがつく／＼嫌になると申して居ります」と申され、それから色々お話を伺ひました。

△難しくてなか／＼骨が折れる

宅には舅姑もなく、小姑も御座いませず、ほんの私共二人限りで御座いますから、まことに氣樂で御座いますが、それでも一家の主婦となれば、又相應に骨の折れるもので御座います。私は實家に居ります時から、及ばぬながら母の代りになつて家の事を見て居りましたので御座いますけれども、さて自分で家をもつて見ますと、なか／＼難しくて、何うしてよいかと思ふ事ばかり多う御座います。主人は昨今は別して用事が多いさうで、朝は八時から出かけて、夜は七時半頃迄も居て隨分疲れて歸りますから、何うかして氣を休

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

ませ心を慰めるやうにしたいと始終心懸けて居るので御座いますけれど、手が屆きませんので實に御恥しう御座います。

△嫁いでから趣味が變る

家庭を樂しくするとか、主人を悦ばせるとか云ふ事に就ては何も定つた一樣の方法がないのですから、實際困つて了ひます。一概に男子と申しましても、心持はまち／＼で、賑かにしてよい人もありますし、又それではいけない人も御座います。私は女の姉妹がなくて實家に居りますうちは、何でも兄とばかり相談をして事をいたして居りましたから、兄とは趣味が一致し、話もよく合つて居つたので御座いますが其の代りに何も男のやうな處があつて、時々女らしくもない言葉が出ましたり、またあまりものを打開けすぎるやうな傾きがありました。それですのに主人は兄などゝはすつかり氣質が違つて居りますので、いろ／＼可笑しい事も御座いました。しかし女は同化され易いもので御座いますから、此頃では却つて兄などゝ話をしても合はなくなつて居るだらうと存じます。私は一體讀む事が大好きで、雜誌類も婦人向のものばかりではなく、手當り次第に讀んで居りますが、其外小說も好きで御座いますけれど、氣樂とは申しながら、これで一家を構へて居りますと、それほど暇がある譯でも御座いませんから、これは餘り讀まないで居ります。芝居も嫌ひの方では御座いませんが、主人が好みませんから近頃は餘り參りません。其代り日曜日なぞには御友達などと御一緒に、郊外散步などによく出懸けます。

△外交官の樂みと苦み

外交官には今月は一日しか家に居なかつたなどゝ仰しやる方は珍らしく御座いませんが、主人などでさへも一週間に三度位は乾度宴會があるのですから、實際次官とか局長とかいふ方になりますと、それはもう每日のやうに公私の宴會がおありになるで御座いませう。それ故家に居ります者は、お氣ごしらへの心配がなく

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

て、誠に氣樂で御座いますが、其代りに張り合ひが御座いません。婦人同士の交際も御座いますけれど、これは大抵公の席で御目にかゝりますから、少しも面倒な事はありません。さやうで御座いますね、特別に苦心をするといふやうな事は、まだ私に經驗が御座いませんが、時々は外見を張る事も要りませうから、外から見て華美な丈けそれ丈け内に苦しい事もありませう上になる丈け其心遣が多くなるさうですから、いづれその苦みをなめなければならない事と覺悟いたして居ります。とにかく隨分氣骨は折れる樣で御座いますが又外へ出て人樣と御交際いたす事が多くて自然氣が快活になりますから、從つて物に耐えるといふ心が練ら



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

れることになるかも知れません。

△交際社會の習慣

外交官には特に夫人の助けが必要だと申ましても、私共などではまだ〳〵其様いふ事は御座いませんが公使とか大使とかいふ人になると、それは隨分大切だと申します。西洋の交際會と申せば、夫人が主で、旦那様はほんのつきものと申した工合なので御座いますから、私共の父など、外國に參つて居りますと、まあ交際上の片輪といふやうなもので、實にみじめなものなさうです。それ故日本では石井さんの奥様が、いろいろ御つとめ下さるのですが、此頃はお產遊ばしたので、餘り御出ましになりません。ハイ私も少しは出た事もありますが、私のはたゞ母が病氣で止むをえない場合丈けで、それも主婦の資格ではなく、ほんの娘として御挨拶をいたした位のもので御座います。夜會の時の主婦でゝもあれば、隨分心配でもあり、骨も折れることでせうけれども私のやうにたゞ娘として出ますのはまあ面白いと思ふ位で、譯は御座いません。

しかし兩方を西洋人で挾まれて色々話しかけられるのには一番困ります。せめて片方が日本人ですと、よい加減に逃げて居られるので御座いますけれど……。

△服裝は案外簡單で濟む

此家へ參りましてからは季節でも御座いませず、たゞ二三度一寸した宴會へ出席ましたばかりですが、この冬は少しは忙はしいかと思ひます。受日と申しては仰山ですが、自宅では手狹でも御座いますから、或は一週間に一日位、官舍の方へでも出向きまして、皆様に御目にかゝる事にいたさうかなどゝも考へて居ります。二葉會ですか、もう長く參つて居りますが、語學といふものは難かしいもので御座いますね。……ハイ服裝も大切で御座います。そして本當ならば午餐、晩餐、夜會と三度とも衣物を取り換へなければならないのですけれど、皆々さういふ事にも參りませんからよい加減に略して濟して置く事も御座います。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

それも偶の事なれば、随分氣もつけますが、度々になりますと一向もうおめかしする氣にもなれませんので……それに天長節の夜會などでも、男子は必ず燕尾服といふ規定で御座いますが、女子は白衿紋付でありさへすれば、變色でも何でもかまはない事になつて居りますから、よくいたせば限りも御座いませんけれど、簡單に濟して置く事も出來ます。

○青山學院祝賀會

十一月十三日より同十七日迄五日間同院に於て創立三十五年紀念會を執行、第一日の運動會を初めとし、順次に紀念説教會、女子教育講演會、紀念會、文學會等の催しありて、なか〳〵の盛會。

○大日本婦人教育會

去月廿日午後芝高輪毛利公爵邸に於て秋季總會を開かる、午後一時半頃に總裁閑院宮妃殿下の御成あり、會長毛利公爵母堂の挨拶ありて、次に總裁宮妃殿下御會釋遊ばされ、毛利五郎男の會務報告、阪谷男の家庭教育の本義といふ講話あり、集れる貴婦人令孃三百六十名に達し、模擬店餘興等の催ありて會を終りたるは四時半頃なりき。

○女子大學運動會

去月十五日催さる、當日午前は、香雪化學館に於て大澤醫學博士の家庭叢談、長井理學博士の家庭化學の實驗、豐明圖書館に於て福來、芳賀、浮田諸博士の講演あり、午後より運動に移りて、松風、キヤプテンボール、第七アマゾン以下二十數番の競技あり、尚ほ別室に生徒の考案に係る教育展覽會も開かれて、例年よりも更に工夫を凝らされたるものあるを見たり。

○戊申婦人倶樂部發開式

二條公爵夫人の主唱にかゝる同會は去月二十一日午後華族會館に於て發開式を行ふ、式は會館樓上の大廣間にて執行はれたるが、先づ二條公爵夫人の戊申詔書の奉讀に始まり、次に委員は同會設立の趣旨を述べ、それより會長の選擧に移りて二條公爵夫人其任に擧げられ、終つて餘興として講談、琵琶等あり、後樓下の大食堂にて茶菓を一同に供し、靜肅に式を終れり、

○杉浦看護婦會祝宴

日本橋區久松町同會長杉浦絲子女史は産婆を開業してより二十五年、看護婦會を起してより三十年に達したるより、其の祝宴を去月九日吾妻橋札幌ビール庭園にて催せり、種々の餘興了つて式に移り、女史の挨拶に次で、日本橋區長の祝辭、山根正治氏の演説、其他各病院長の祝辭或は演説等なり、來會者五百餘名、模擬等もありて午後六時會を終れり。

○寒翠園観楓會

赤坂區新坂町九番地の同園にては、去月廿一日例年の通り觀楓會を催したるが、誠によき眺めなりし上は、丁度好天氣にて杖を引く者頗る多く、園主の接待又行屆きて、孰れも十二分の歡を盡して歸れり。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

再婚して今日の資産を作つた私の經驗

小野崎　たつ子

▲先夫の人となり

私は今の小野崎とは再緣でございまして、初めに緣づいたのは、高橋能登と申しました。高橋は德川の旗本で、彼の榎本武揚さんあたりと仲好く交際して居ました。時は恰も、維新前後でございますので、夫の常に唱ふるのは、慨世憂國の事柄ばかり、頂度榎本さんより一つ年が長けて居ましたので、榎本さんは義兄として、敬つて呉れましたのです。何分世は刈菰と亂れつゝ、內憂外患交々至るといふ時代で、德川の直參たる高橋は、一寸身の立場にも困るといふ有樣でしたが、高橋は常に申しますには、日本は天皇の國であるから、どうしても德川方になることは出來ぬ。只德川の恩義を忘れてはならぬと申して居りました。

▲先夫の遺言

高橋は、色々の事を憂へてか、重き病に罹り、終に起つこと出來ぬのを知るや、私共を枕邊に招いて申すには、お前は年も未だ若いから、必ず再緣せよ、日本の國の內輪と外交とは、益々切迫して居る。己れ命なくして只今死ぬるのが誠に殘念である。お前は長命して日本が能く治まり、又外國の我が國に服するのを見屆けて呉れよ、これには、氣概ある憂國の士を夫と擇び、そして、長男は、私の相續者として、夫に嫁ぎながら、お國の爲になるものに仕立てゝ呉れ、これより、外に思ひ殘すことはないと、從容として死去なりました。

私も、この時は悲嘆遣る瀨なく一時は剃髮して尼となり、夫の菩提を弔はんと思ひましたが、それでは、子供の前途を見屆けることは出來ぬと思ひつゝ暮して居りました所、何分叔父と母とが非常に再婚を進めますので、私は、先夫の遺言を思ひ出し、寧ろ、相當の夫を持つのは先夫の意に適ふものと考へ、且つさうせれば十分なる子供の敎養も出來ませんと思ひましたので、明治八年、今の小野崎と結婚する事になりました。その時は、小野崎も獨立の青年の事でございますから、殆ど自炊の有樣でございました。私は先父の三回忌を終らぬ內は、結婚することは致しませんといふので、その間は約定丈に止め、臺所行つては、臺所の

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

仕末なして置くといふ位なことでございました。

▲再結婚の條件

私の再婚は以上のやうな理由によりますので、今の小野崎に對し、先夫の遺言と自分の志とを話し、小野崎家に盡す餘裕を以て、高橋家の萬事を監督し、子供を教養するは勿論、先夫の法要を力め、先夫の親族と交際することを乞ひました所、夫も快く承諾しましたので、私は、先夫と今の夫とは一心同體の者と信じ、今に何の紛紜もなく、悉く先夫の親族と交際して面白く暮して居る次第でございます。

▲再婚當時の家政

再婚當時、私は巳に三十路でございましたので、花笑ひ蝶狂ふといふやうな優しい考へはございません。家庭の事は經濟を基礎とすると思ひます所から、當時置いてあつた老婢に暇を遣り、何も彼も自分ですることとし、先づ下級軍人に有り得べき負債若干を返却することに全力を注ぎ、どうかして苦しき生活より樂な生活に移りたいと努めたのでございます。

▲私の勞働主義

初め夫は私に向つて、小野崎家の經濟を一任させましたので、私は、この上は、自分の腕次第で、貧乏にも金持にもなると思ひ、只管勤儉の二字を心掛け、朝は他家の戸を明けぬ内に、家内は勿論庭や門まはりの掃除をし、洗濯をした上で、朝飯を戴くことにしましたので、隣人は、小野崎さんでは何時掃除や洗濯をなさるかと申した位でした。そして朝飯後は、家の裁縫なり、人仕事をいたしまして、只管經濟を謀つたのでございます。

▲私の儉約主義

このやうに致します内に、自ら廢物利用の方法も覺え、物を粗末にしないことを眼目と致しました。夫の衣服は、一通り丈は備へねばなりませんが、私は再婚後一年間は、只の一枚の衣服なも新調しません。食物は、夫丈には、多少滋養分を取らせますけれども、自分は殆ど香のものやお汁ばかりで濟ますといふ位で、極質素でございました。が、それでも、先途に光明があるのと、又身體をまめに働かす爲に、疾病などに

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

飾ることはなかつたのです。私は、この時代には、服装にも擧動にも構ひません、裾をはしよつて水を撒くといふ有樣でした。

▲お互に張合となる

私の宅は、當時麻布宮下町に居ましたが、丁度今の呉服橋の處に、隊がございましたので、片道凡そ二里もございましたのでしたが、夫は、お前が、左程に稼ぐなら、私もうつかり出來ぬといつて、雨が降つても雪が降つても、てく〳〵徒歩いて通勤したのでございます。でありますから、お互に張合ひになつて、一分時間も徒に過さず、一厘も無益に使はないといふ有樣でした。

▲一ケ月の貯金二十錢

所が、明治十三年の頃と覺ひますが、夫が新發田の隊詰となりましたので、早速出發せねばならぬのでしたが、此時は、未だ少々負債も殘つて居りましたので、道中金にも苦しんだ位でした。併し新發田に行つてから田舍のことだから、人前もありますので、下女を使ふことに致しましたが、私の心掛は、前と同樣でございます。當時、夫は[illegible]年中尉となりましたが、從來は負債返却に努めました爲に、貯金などは、びた一文も出來ません。新發田に行つてから、一ケ月二十錢づゝ貯金いたしました。一ケ月二十錢といへば、實に僅かでございますが、初めより多くは望りませんし、又無理をした金は、直樣引出さねばならぬことになりますから、少しも役に立ちませんのです。當時夫は村田銃を欲しがりましたので、私は、この貯金の内より足して拵へたことがございます。

▲五十圓の貯金

それより數年經ちまして、新潟の方に轉勤することになつたが、この時は、負債なく、大分經濟が裕になりまして、丸きりなかつた家道具も、今は二十二の行李に一杯になることゝなり、又大勢の見送り人にも、儀禮の酒肴を出すことが出來るやうになつたので、非常に喜びました。

それから程經て、高崎の方に轉勤することになりましたが、この時は遞信省に預けた貯金が漸く五十圓となりましたし、年金の方も不時の費用が入らぬ折は、丸きり殘るといふ有樣で、大分面白くなつて參りました。それから後は、今迄の心掛さへあれば、自ら金が貯まるといふ有樣で、前程の苦心も骨折もなかつたのでございました。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

▲只今の邸宅

それから私は東京に歸りましたが、餘り經濟に熱心する爲に人より狂氣と呼ばれ、馬鹿と呼ばれましたが自信のある私は、毫も之を苦と致しません。結果を見よと思つて居りました。その內、主人が退職となりますのに近づきましたので、私は、委細な相談もせずに中澁谷に地を撰んで、今の邸宅を建て、夫の歸京を迎へましたので、主人も、大に滿足の意を表しました。私が、邸宅を設けざるに先立ち、或親しき二三人の來客に向つて、私は、これから、これ〲の邸宅を設けると申しました所が、彼等は、私の大言を嘲りました建てゝ後、先の兩三人に示しました處、何れも感服して前の過言を謝しました。所が初めに言ひ出した人丈は、何となく好い顏をしないばかりでなく、私の陰言をいつて居るさうです。私は、どうかして親しくしたいと思つて居ります。

▲思ひは屆くもの

私は常に思ひますに、一旦思立つたことは、必ず出來るものであります。併し、それには、一日一時も忘れて居ないといふ熱心と、骨惜みなしない、惡い心を持たないといふ點がなくては叶はぬと存じます。私が貧乏の最中、私の一生中三千圓丈は殘しますと申しました所、誰れも彼れも笑つて居ましたが、今日では三千圓に十倍する邸宅も出來ましたので、我れながら案外な思ひを致して居ります。

▲夫は引立つべし

私は思ひますに、一家の主婦たる者は、責任を以て一家の經濟を料理せねばならぬ。又夫を引立てるやうにせねばならぬと存じます。如何に學才あり、容色あり、淑德あり、貞節があつても、夫に同情し、夫を引立てるといふことがなかつたら、到底良妻賢母と申す譯に行きませんと思ひます。これに就いて思ひ出すのは、私の再婚當時、夫が徵に應じて、山田少將に從ひ西南戰爭に出發する時は、私は竊に、接戰の事を豫想して、從僕某に日本刀を隱し持たせたる處、(荷物のやうにして)愈々接戰といふ事になり夫の必要を感じたる間際に、奧樣の預り物として、之を出したるに、夫

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

は、思はず勇氣百倍したといふことです。又夫の服を新調するに困つた時、極内密の貯金百圓を出したこともございます。自慢話でございますが、妻は、夫に對し、この位な氣轉が利かなくてはならぬと思ひます。

次に思ひ添ふるのは、先夫の遺れ形見ともいふべき男の子が、今は海軍藥學大監となり藥學博士となつて先夫の志を繼ぎたるは、私の極めて喜ぶ所であります。又十一月六日、先夫の三十三回忌に當り、この子并に親族、現在の夫と共に、樂しき寺參りをしたるは私の滿足する次第であります。



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

貴婦人の世間話

婦人記者

和洋折衷の生活をさるゝ
尾崎市長の奥さん

京濱電車を南馬場で下りて二三丁もどると、村役場があつて學校があつて、學校の四ッ目垣について一寸曲れば、もう東海寺跡の御表札をあふぐことが出來ます。記者が御伺しましたのは、午前十時頃で、市長のお出懸けになつたあとゝ見えて至つてヒッソリしたもの。「何うぞこちらへ」と言はれるまゝに導かれて應接室に通る。此處は三間打通しの大廣間で、西洋七分日本三分の御飾付、お待ちする程もなく、サラ／＼と衣ずれの音してあらはれたまひしテオドラ夫人は、純白の御洋服を品よく着こなしたまひやゝ黄金色せる御髪をば、前髪ふくらかな束髪にお上げ遊して、いかにも美しくて在らつしやる。記者は此度ボストンで御出版しになるといふ御本の事などから御話を伺ひました。

○讀書執筆の時間

ハイ、古代の日本武士の事を書いたもので、もう今月出來る筈になつて居ります。源平盛衰記、平家物語大日本史などを參考とし、またお伽噺を譯したものなどもは入つて居ります。落合さんの孝女白菊の歌も意譯して加へて置きました。……イ、エ自分で讀みはいたしません。主人や其他の人に話をしてもらひましたり、讀んで貰ひましたり、或は直譯をしてもらひなどして書きました。ハイ、今日の小説は一向存じません主人が讀んでは惡いと申ますから……。著述に使ふ時間？ さうですね、主人が出懸けましてから一通り家の事が片づきますのは十時ですから、それから十二時までを讀書執筆の時間と定めて置きます。午後は訪問の方などに御目にかゝるのですが、御客樣がなければ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

二時頃から主人が歸るまでの間も自分の仕事につかはれます。それから主人が歸宅いたしますのを待つて、二人で一寸散歩でもいたす事にして御座いますが、しかし晩餐會でもありますと夜がおそくなりますから、必ずさうとは參りません。

○飽き〳〵した頃に閉會

愛國婦人會などへはちよい〳〵出ますが、何分婦人の會と申しますと、一時から始まると言つても、時間通りには決して始まりません。さん〴〵煙草を吸ふたりお茶を飲んだりして後れた方をお待ち申して、始まるのは何時でも三時頃、もうそろ〳〵飽きて歸りたくなつた時分です。そして六時頃日が暮れかゝつてから閉會といふ事になりますが、これでは家事と衝突してまことに都合が惡う御座いますから、會へは餘り出席いたしません。主人にしても家に歸つて家内が留守ですと、氣がすゝまないでせうし、それに五時間も六時間もつゞけて、會に出て居りますと第一身體がつかれて了つて、歸つてから家の用が少しも出來ません。

○嫁入前の娘の着物

着物は習慣上家でも外でも始終洋服ばかりを用ゐて居ります。尤も自分の部屋ですと浴衣位は着て居ることも御座いますし、冬になると日本の家は寒いので、洋服の上に被布などを着ることもあります。着物といふので思ひますが、日本の娘達の服裝は餘り贅澤すぎる樣で御座います。西洋では交際會に出るか、お嫁にゆくかするまでは、みな木綿か羅紗の極惡いものばかりで、決して絹物は使ひません。それを日本ではまだ學生の時分から縮緬だとか羽二重だとかと實に立派な奢つた服裝をいたします。嫁いた娘なども周圍の事情から止むをえず、お友達方と同じ服裝をさせて居りましたが、この風は何うかできないものかと始終思ふて居ります。

○毎日の料理の工夫

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

料理は和洋どちらも好きで頂きますが、主人は洋食の方を好みますから、つとめて、西洋料理をいたすやうにして居ります。男子は誰れでも、外に出て疲れて帰りますので、美味いものを食べたいと思ふのは自然



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

の要求で御座いませうから、成るべく上手に拵へやうと思ひまして、英米邊で出來るお料理の本を買つて置いて、暇のある時にそれを讀んで、中からよさゝうなものを撰んでは、女中につくり方を話してきかせます女中はそれを聞いてすぐと帳面に覺えをして置き、作えて見てよくわかつた處で、再びそれを綺麗な帳面に書き取つておくことにしてあります。かうして置きますと、料理番が代りましても、主人の好きなお料理は何ういふものであるかといふ見當がつき易く、又主人の方でも度々いひつける面倒がなくて、大變便利で御座います。

——夫人は斯くいひ終ると共に、手を叩いて女中を呼ばれ、その御料理の帳面を御取り寄せになつて見せて下さいましたが、商家の帳場にでもありさうな厚い野紙の帳面の表紙に筆太に西洋料理と記され、中はスープ、肉類、魚類、サラダ、菓子の五ケ目に分けられて、かず〳〵のお料理法が細々と叮嚀に書き込まれて御座います。「嫁いだ娘も其帳面にはよほど書いたので御座います」などゝ御話になる。——

パンは、買つたのは不味くて頂けませんから家でこしらへることにしてをりますが、至つて加減よく出來ます。東京では小石川關口臺町の天主公教會内でつくるフランスパン、あれが一番よろしう御座います。其他はいづれも食かれません。あの酸ぱいやうなパンがありますが、あれは不味いばかりでなく、胃のためにも惡う御座いますから、奥さん方は組合のやうなものでもお拵へになつて、ほんとうのパンを製造る人を一人招んでおやりになつたらよくはないかと思つて居ります。

○一番やかましく言ふ事

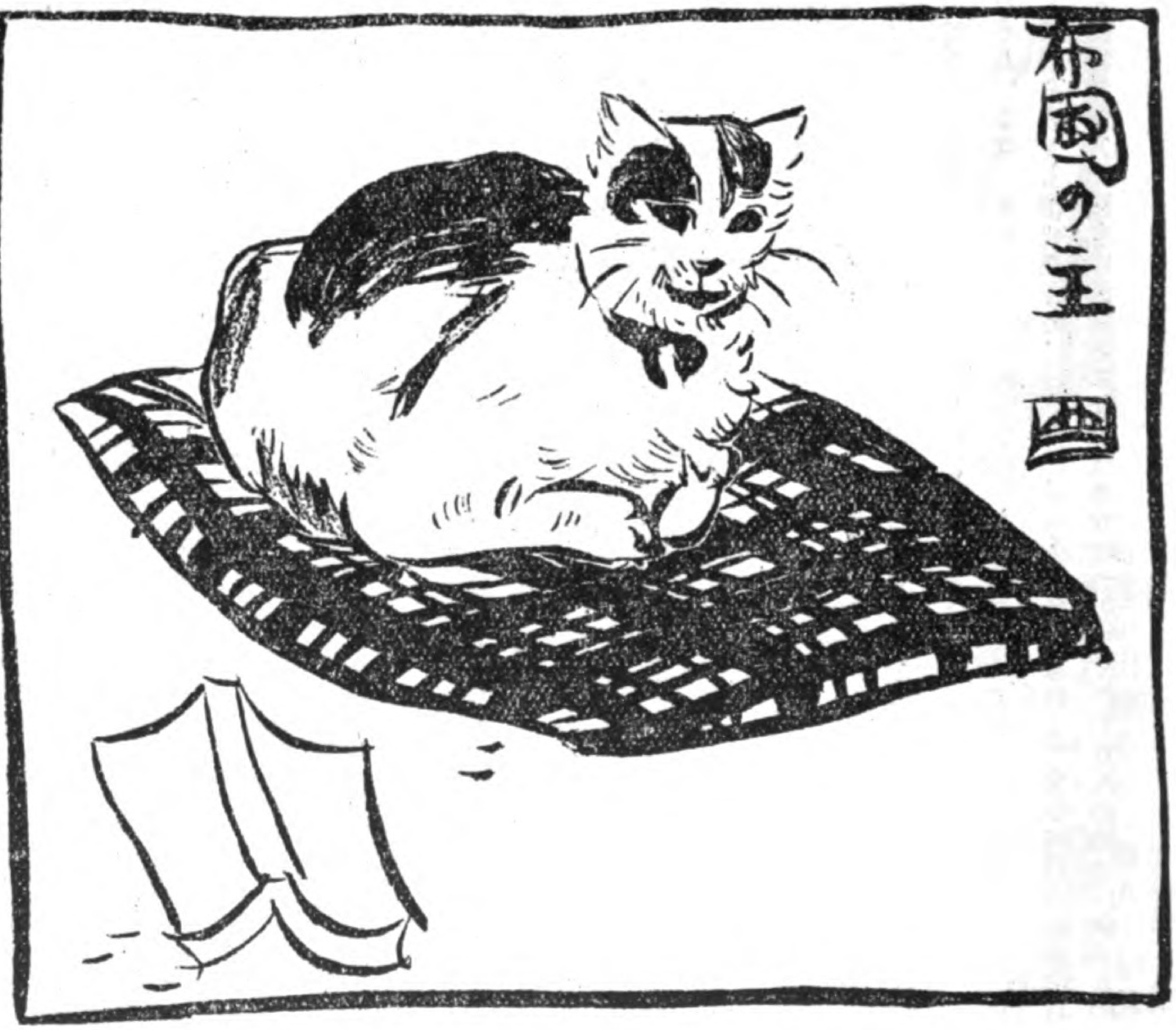
食事の時間の一定して居らぬのは何かにつけて都合の惡いもので御座いますが、私共でも最初女中が時間通りに仕度をしないので大變困りましたが、私が嚴しく申ましたので、此頃はもうキチンと出來るやうになりました。子供の育て方に就いては、ことに時間をや

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

かましくいたして居ります。只今三歳になる子供が生れました時に日本の乳母を雇ひますと、時間には全くおかまひなしで、子供を泣かせまいとしてお芋とかお煎餅とかいふものを何時でも與へて居りましたが、これをやめさせるのはなか／＼の骨折りでした、西洋では三時間毎にお乳をやつて、其間には何も食べさせない事にして居ります。

○悪い癖を直す方法



又最初は子供は毎晩十二時頃まで目を覺まして居つて、其間乳母が抱き上げて居るといふ始末でしたから、これではいけないと思ひまして、經驗のある二三の西洋婦人に聞いて見ました處、それは可哀想でも三日もお泣かせになればよい癖がつくと教へて下さいました、で翌晩から七時になると必ず赤坊を抱いて寢床に入りましたが初めは非常に泣きますので、乳母なども見兼ねて攻撃いたしますし

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

主人もそれは餘り可哀想だと申し、家中の人がすべて私に反對いたしましたが、それが一週間も經たぬ内に夕方お湯に入つてお乳とパンとを食べて了へば、別段手數をかけないで溫順く眠るやうになりました。もう三歳にもなりましたから、近頃は御飯も私と一緒に頂いて居りますが、もし惡戯でもいたしますと、忽ち食堂から出して了つて、もう致しませんと詫ります迄再び内へ入れませんから、此頃は全く行儀が宜しう御座います。

伊藤公爵夫人の平生

◎克己的生活　公爵夫人は生來あまり壯健の方ではないけれども何樣精力絶群の公爵に伴れ添はるゝので、自然日常生活の上に克己的規律を守られつゝあつたさうである、故公爵在世の頃は平素二時三時頃まで夜更しをされた爲め夫人は大分健康を損はれたさうであるが、でも朝は大概六時頃に起床し呼吸運動をした後八時頃朝飯として牛乳を採り、夫より前日の來信を調べて一々返事を認めらるゝ、之が午前中の夫人の日課で午後からは必ず二時間程侍女を連れて自邸の附近を運動される、この運動以外何か外出する時も大抵は徒歩で車は用ゐぬ、其間に令孃や令孫や、親戚やの訪問に接する、昨今は殆んど是等來客の迎接に忙殺されて居られるさうである夫人の夜深しは要まり公爵に感化されたものか、若い時分からの習慣になつて居るか、それでも徹夜なぞは決してされた事はないさうである。

◎習字と作歌　大磯のお宅では奥の十疊間が夫人の居間になつて次の八疊と十疊は客間に充てゝある、侍女は二人、裁縫女が一人、でこの三人を相手に夫人自身で着物の見積りをされることもある、服裝は公會の席に出られる外は何時も和服に丸髷でこの十疊間に立籠り、時間さへあれば手習をされる、歌をよまれる習字のお手本は中島歌子の書、和歌は佐々木信綱氏を師として、新聞雜誌は餘り見られぬ方で日々の重なる出來事は執事から申上ぐるさうである。

◎嗜好と食物　夫人は小鳥、金魚、盆栽いろ／＼趣味を持たるゝさうだが、中にも自から手を下して世話を燒かれるのは盆栽である食物は滋養物を主として居らるゝも消化惡き物には如何に珍らしい物でも決して箸を付けられぬ茶は平生番茶に限られて大抵の來客にも之をすゝめられる斯樣に夫人が攝生に注意さるゝのは畢竟精力のすぐれた良人の感化に依るものであらう。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



都人士に珍しき農家の食卓

小島女

上品な都會と異つて下品な農家の暮し食事も毎日決まり切つた麥飯におさつ、おかずは自家に作つた野菜る爲肴と云つては紋日か節句、其他は月に三四度買へば之れが頂上、誠に慣れは生活狀態恥かしくて人樣に言はれた譯ではない、而し米も麥も野菜も何一つとして買ふでなく、味噌も有れば醤油も醸て居る、少しも食物に心配する事がない粗食する代りに和氣藹々として一家の者が三度が三度腹鼓を打つて樂しく食事をする事が出來るのは都人士が其日〳〵の買食に御馳走の心勞に比べると、何程安氣だか知れない、私は是れを無上の幸福として粗食に滿足する事が出來るのです。

△朝　茶

九人の家族がづらりと食卓を圍む、薩摩の丸煮如何にもうまさうなり、昨日の晝漬けたお茄子のどぶ漬が紫の色もいと美しう漬かつたので取り出して、小さく切つたのと大きく丸切りにしたのとが鉢の面を半分づゝ占領して居る、飯は例の麥飯、午前の六時まだうす暗い中に、小さいランプの光りの下に四方山の話しをし乍ら食事を濟ます、今日は芋掘りに出掛けるので落付いて朝飯をして居る譯には行かぬ、我勝にと先を爭ふて食ひ終つた。

△牛も家族

青草の毛氈にむしろの絨氈を置き總勢圓座を作り持參の辨當を開いた、副食の品々は檜の曲物に入つた味

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

噌漬、重箱に盛つた小芋と昆布の煮〆め、平塞栗の葉漬も程よく漬つたのが有る、白黒青の色の配合は中々によろしい、大きな飯櫃を中に取り捲いて、掘り出した芋の數量を豫言したり、四邊の風色に眼を轉じたりなどして晝食をした、牛も農家に取つては家族の仲間いつもの樣に飯の幾分を與へた。

　花見遊山の折柄は田舍は田舍丈けにそれ相應の馳走をして來るけれ共、野に出て働く時にはそんな呑氣な眞似處ではない、毎日々々同じ樣な麥飯に味噌と香の物の副食、たまには煮〆め位が上の上、之れでも空腹になつた時分には山海の珍味も中々及ぶ處ではない、殊に作物の收穫時に其實入りの樣を眺め乍ら食事をするのは春の美しい櫻の花の見乍ら御馳走を食べるのより尚一層の味ひが有る、こんな味は其境遇に在る者でなければ分らぬ、都會の人達が迚も思ひ及ばす處ではない。

△野戻り

　今日は仕事の都合で夕食がいつにない晩くなつた、例に依つて賑はしく一家族寄つて麥飯のお櫃を取り捲いた夕食はいつも溫飯にきまつて居る、お露が出來て居る、汁の實は茄子の短冊切りにいり子の煮出し、お父さんは味噌好きなので一昨日拵らへた柚味噌を大事さうに殘して居られる。

　九人の家族が一時に狹い臺所へ押し掛けると中々の騷動、片端からずつと御飯を盛りお汁を注いで廻る、早お代り、それ御飯、それお汁と給仕役の母と私しは中々忙がしい、杓子も目が廻る程使はれて居る、お母さんがやれ忙がしい事のうと言はれると、お祖父さんが結構々々、御飯を食るのに忙がしい樣で無ければ默目だ、飯さへうまふ食べて居れば是程結構な事はないと被仰る、實に其通りで有る。

△薪の宴

　年に一度の天長節のお祝日だ今日は仕事を休んでお祝の宴を開かうではないかとお父さんの仰せ、お母さ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

んは、今日はお料理をお前に任すと被仰つて一向臺所の方はお構ひがなかつた。

拵御馳走は酒の肴に蛸の櫻煮大根の生酢に海老の天麩羅、御飯は赤飯、之れが今日を晴れの我家の御馳走で有る、お客にとて上町の伯母さんを招いた家族合して十人、裏の小庭にお祖父さんが隱居役に作つた菊が黄白紅と各がじゝ、今を盛と競ひ咲いて居る、其見處よき處に床几を運んで午後の四時頃から菊見



を兼ねて祝宴を催した、まづ朱塗の木盃をお祖父樣から始めて順次一同が戴いて終ると後は互に勝手の宴、お祖父さんとお父さんがお酒を食る丈けで夫も左程いけぬ方なり女では、叔母さんが少々食るので後は話しの相手お父さんが誠に目出度い今日のお祝ひ日分けてこんな美しい菊花を眺め乍ら酒を呑むのは一層うまいと被仰つて、まあ一杯過しなさいと伯母

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

さんに盃を進める、伯母さんも大分過したと見えてほんのりと目元が色付いて居る、平生一口も食らぬお母さんがたつた一杯のお酒に顔を耳元迄眞紅にして皆の者に笑はれた。

和氣靄々たる一家團欒の小祝宴、菊の香は床しく四方に薫じ、樂しき談笑は小さき庭内に響き渡り、得も云はれぬ愉快を感じた。

△珍　客

大阪の叔母さんに何の御馳走がよからうかと今朝から考へて居た、どうも田舍ではいざと云ふ間に合はぬので困る、おひるは有合で濟ましたが扨てお夕飯となつた、小さい肴を一尾買つて昨日取つて來た黒茸とでどうやら斯うやら料理が調つた。

叔母さんが折角大阪から下つて被入つても御承知のこんな田舍では何うも御馳走に困りますと挨拶をするとお父さんが、何に叔母さんは大阪の樣な都會に居るのだから御馳走にはもう飽いて居るよ、それよりか名物のお芋許りを食べさせて上るがよい其方が御馳走だよ、と云はれると皆ながハヽヽヽと哄笑する、叔母さんほん統にさうかも知れませんねえと相槌を打つとこれでもお前が精一ぱいの御馳走だから叔母さんにも其積りで食つて貰ひませうねえとお母さんの言葉、叔母さんもさうです共お手並頂戴しますよと箸を取る、一同高笑ひ。

始めて來た叔母さんだから恥かしいが遠退いて居た子供等はいつの間にかみんな寄つて來た、叔母さんが色々子供を冷やかす、こんな田舍に居て麥やお芋ばかり食べて居るより大阪へ行けばお米斗りの御飯に常もお肴を副へて食べさすから私と一緒に大阪へ行かぬかと云ふと大きなのは無言、九ッが僕はいやだ、どうしてかと聞くと學校が休みになるからだと答へる、五ッになるのが私おばさん家の子になるわ、叔母さん大阪へ連れて行つて頂戴と女は女丈けに無邪氣な可愛事を言つて居る、また大笑する。

叔母さん黒茸の味を知らぬからこれは何かと問はれ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



る、黒茸ですと答へる、えらい風味のよい菌ですねえ此邊に澤山有ますか？　何うして料理するのですかと尋ねる、お母さんが私に、お前叔母さんはこんな上品な料理を知らないのだから教へてお上げと冗談半分に被仰るのでこれは茸を根元を去つてよく洗つて燒いたものです、松茸を燒くのと同じです、さうして木酢をかけて擂大根を副へたのです、煮ても食られます、而し此茸は決して鐵物に入れてはいけません、苦味が差して食へぬ樣になりますから煮るのには行平か何か金製でないもので煮ますよ、格別美味いと云ふではありませんが中々風味がよいでせう、此土地に澤山ありますから何時か取りに行きませう、此頃が出盛りです、叔母さんのお土產になさいませ、と長々と説明して上げる、それは何よりよいお土產あすにも連れて行つて貰ひませう、……茸も茸だが魚類の味はまた格別ですねえと叔母の賞め口上、「それは大阪邊のとは値打が違ふよ、町場の樣な腐りかけた肴ではおまへんからねえ此邊のは生きてぴん／＼して居るやつを食ふのだからこんなに美味いのだ、金さへ出せばいつでもあるから好なら食べさせて遣るよ」とお父樣の自慢、叔母さん此樣なものでも食べられますかと云ふと、誠に結構大阪邊のとはまるつ切り味が差いますねえ、私まだこんなおいしい肴を澤山食べた事はありません、どうぞ度々願ひたいものですねえ、おやあ明日も差し上げますわ、と笑ひの裡に今日の夕食も終つた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

女學校評判記　九

女子美術學校

河岡潮風

△振袖火事に緣ある校舍

本郷三丁目で電車を捨て、勸業場「本郷館」に添ふて左に一二町、右へ菊坂町の方へ曲る通がある。行きどまりは振袖火事で名高い丸山の本妙寺、丹塗の鐘樓が芝居の夫れ然と見えて、手前の方に石塔五六基、賢愚貴賤の別なく、皆なつひにわが下に來るべき也と云ひ顏に、頻りに葉の落る中に立つてゐる。スルト是に面して地を拔んずる數十尺の三層洋館が、わが若き姿を見よやとばかり、秋空に聳えて、窓からはピアノの音、女の笑ひさゞめく聲を響かせてゐる。

洋館は女子美術學校の新校舍だ。本年七月出來立てのホヤ〳〵。今や正に新興國の勢ひ凄まじく、一と働やらずばおかぬと云ふ狀がある。僕は今日此學校を參觀に來たのである。イヤ待ち給へ。かうして應接室に待つ間に、學校の生ひ立ちを話しておきませう。

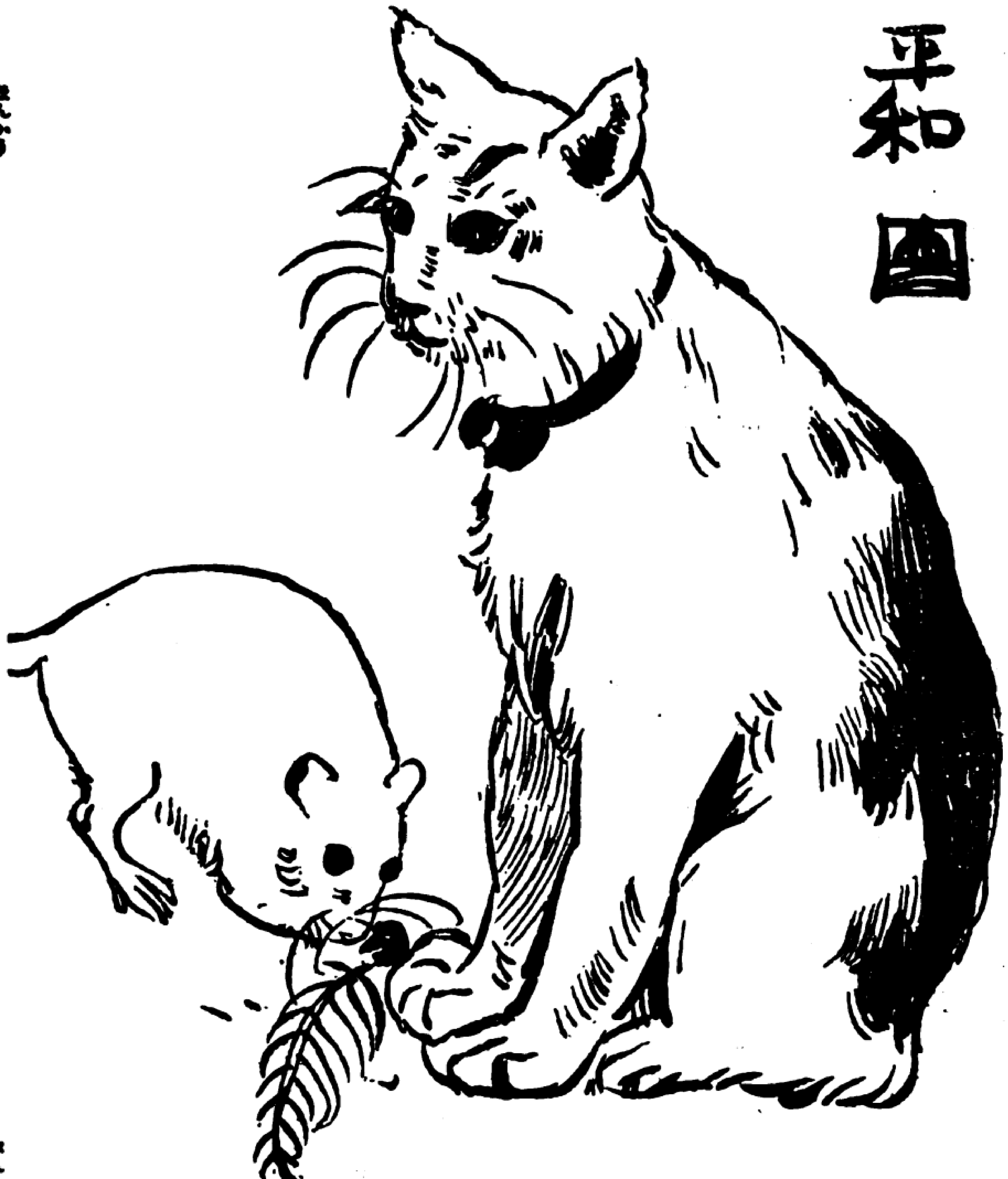
學校の沿革といつても長い事。たゞ骨子だけ拔けば、創立は三十四年の十月、谷口鐵太郎、藤田文藏、中田晋、横井春子等の諸氏が發起者で、校長は藤田氏であつたさうな。時運が向かなかつたのか、來月から開校といふ前月下旬に入つても、志願者タッタ二十五人！これではならぬと、一同血眼になり、規則書を貰ひに來る者は片つ端から引き止めて、無理々々にも入學の手續をさせ、やつと七十數名を帳簿の上に見たのである。

とは云へ私學校の經營の困難なる爲め、財政頗る窮乏し、一進も三進も行かなくなつて仕舞つた。たま〳〵この種の事に興味を持つ順天堂病院長佐藤醫學博士の令閨靜子夫人の物質的援助を得て一と息ついたのである。處が次には內輪喧嘩がおこり、藤田氏が去つて主文美術學校を起すやら大騷ぎ。夫れが收つて、少し芽

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

が出かけると、昨四十一年十月、奇蹟的に不思議の火を失し、十年の苦心、一夜にして、めら〳〵と祝融氏の舌に舐められたのだ。

幸ひと現校長靜子夫人が思ひ切りのよい人であり、夫ればかりでなく金持ちであるから、數萬金を投じて現校舍を作るを得た。今や生徒六百名、女子美術なる名のもとに堂々とやつてゐるのは本校ばかりとなつたのぢや。



平和圖

オヤ。靴音がする！　沿革談は中止々々。

△酒に醉つた山茶花

「やあお待たせしました！」

快活さうな人が入つて來た。名刺には「女子美術學校教務係、早稻田大學文學士、引田久次郎」と記されてあつた。忽ち打ちとけて色んな話を聞いた。

「日本畫、西洋畫、彫刻、蒔繪、刺繡、編物、造花、裁縫の八分科があつて、夫れ〳〵本科

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

選科、師範科、研究科がある事」

「本科、選科はまた別にて二つとし、普通科と高等科に別れて居り、その普通科といふのは改正の小學卒業の學力あるものゝ入學を許し、年限四年。高等科とは普通科卒業生及高等女學校卒業者を入れ、年限三年。選科の方は普通科三年、高等科二年である。師範科の入學資格は本科の高等科と同じで年限は二年であるといふ事」

「生徒の最も多いのは裁縫科で、二百六十名。現在一名もないのは蒔繪、彫塑の二科目。どうも女には滿足な線一本を引き得るに二年を要する難課目には向かぬだらうといふ事」

茶を飲んでゐると鐘が鳴る。案内されて授業參觀に立つ。新築だから心地がよい。

最初が裁縫教室。一同椅子に腰かけて、靜かに針を運ばしてゐる。小さい女の子は木綿着をさへ持ち扱ひ兼ねてるが、上級生は絹物でも美事に縫ひ上げる。裁縫では色々専門の學校があるにかゝはらず本校また光彩を放つは慶すべきではないか。

次が造花の教室だ。糊と鋏とで冬にも春の花を咲かする、この造花翁――でない造花孃の工場はこゝである。

「本校では單にかうして造り花をこしらへると云ふ方法を敎ゆるばかりでなく、天然物を平面に寫して色彩を加へる練習もやらして居ります。結果は實によい樣です」

と、引田學士は曰ふ。成程一方では孜々として菊を寫生してゐる。立派な人物畫を描くのに解剖學の頭が必要であると同じく、造花には花そのものを理解せねばなるまい。學士は色々の作品を見せて說明して呉れる。一年級の作品には酒に醉つぱらつた樣な山茶花や、本より枝の太い菊があるが、上級になると、巧妙で實物を欺くものがある。

「近眼の者が見たら眞物と思ふでせう」

と云はうとしたが、學士も僕も近眼で御座る。うつかりした口は利かれぬ。

「一と頃は非常に此科の志願者が多かつたが、今はメツキリ減りました。造花は子供を寢かしつけ乍らでも出來るものですが、女には手腕が少ないから金にならぬのが原因だらうです」

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

との事であつた。次が日本畫室。

△顏色わろき留學生

光線の充分な一室に二三十人の椅子とテーブルが置かれ、みな粉本を眼前に懸け、筆洗と繪具を使つて傍目もふらずやつてゐる。見る〳〵うちに一本の線から四方へ竹の葉生じ、遠山に霞棚引き、枯木に花が咲く。粉本が川端玉章氏の直筆で、なか〳〵雄健な筆づかひなのもある。この先生を有する生徒は幸である。

他の教室では生徒の作品を見せられた。高等女學校の一二年程度で美しい繪を描いてゐる。

編物の教室では數人の淸國婦人が目立つて見えた。

「留學生は幾人程？」

「二三十人も居ませう。皆な熱心です」

熱心は結構だが、皆な揃つて顏色が惡い。命あつての物種。少し運動でもさつしやい。

科外の料理實習室を覗く、日本、西洋、支那料理、乃至は菓子の製造までやるのだといふ。一切の道具が整頓したる事東京第一だと誇つてゐる。此時は時間外であつたから火の氣絶えたる厨に、冬の蠅が一匹リップル鍋の邊を飛んでゐるばかりであつた。

△女子美術の三宿老

早いものでこの時正午の鐘が鳴つた。中食だといふので應接室へ戻つてしばらく待つ。夫妻の西洋人が入つて來た。學士は此の案内をする事となり、僕には教務主任の谷紀三郎氏がついて下さる事になつた。氏は三十一年早稻田の文科を出たので、長谷川天溪氏に遲るゝ一年、成女學校の宮田脩氏と同年であつたと記憶する。溫厚の君子で、坪内博士に愛せられてその名を假りて教科書に文章を草したとも聞いてゐる。しかし、そんな事はどうでもよい。僕は是から見殘した教室へ行くのだ。

刺繡教室は二つあまり。最初は木綿色で簡單な模樣を縫ひつけてゐるが、仕舞になると絢爛眼を奪ふ人物をやる樣になる。始終胸を壓して仕事をしてゐるので

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

非衛生此上はないとの事。

洋畫科初年級生徒の單純な寫生を見てゐると、洋畫家主任にして本校幹事たる磯野吉雄氏も居合して色々話をした。同氏は上野の美術學校の出身である。腕の確かな畫家ではあるが、校務にかまけてあまり大作は出來ぬ。一つにはかうして女子美術の主頭として、谷氏、白石氏（庶務主任）と三元老と稱せられてゐる處は如何にも景氣がよさゝうなので、ツマラヌ事に嫉視される折もあると聞いてゐた。痩せたりと云へども精力主義で、一日も缺勤せず人一倍の働きをしてゐるさうなが、細い僕には一知己を得た感があり、かつ氏が體格の弱からぬ者を代表して氣焔を吐いてゐる樣に思はれた。

急に仲がよくなつて三人でモデル室へ。

△裸男が肩を聳かして

扉を開けると先づ生温かい空氣と、油繪具の臭ひが面を撲つ、十二疊敷あまりの教室——畫板の間——に一人のモデルを圍む六人の庇し髮の人が眼に入る。

モデルは立派な壯漢、漁夫風の體格、越中一つの裸になつて、肩聳やかして天の一方を打ち仰いでゐる姿勢だ。繞る六人は六人の見る儘をカムバスに撮つてゐる。モデルこそいゝ面の皮！ 動きたくても動かれず、作りつけられた樣になつて少くとも二十分間ジロ〳〵見られて居らねばならんのである。

兎角するうちに鐘が鳴る。モデル君はやれ〳〵と云つた顏で、手早やく着物を着込んでチヨコナンと椅子に倚る。學生は窓を開けて換氣法を行ふのであつた。十分の後又々畫の姿勢になつた處で三人はこゝを出た。

谷氏が學課があるとて、磯野氏の案内で寄宿舍をめぐる。矢張棟續きで百二三十名も居るとの事。美術生にしては非美術的な！ と思つた外に特記する事なし。

△卒業生の嫁ぎ先

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

來てから三時間、案內してもらう人を更ふる三人。吾輩の任務はやつと濟むだ。實申せばお互にウンザリした。

茶を飲み乍ら折ふし手の明いた學士を加へて物語る磯野氏からは本校卒業生の賣れ口よく、近來外國の邦人へ多く嫁ぐといふ話を聞いた。婦人が生涯をミューズの神に捧ぐることは疑問であるとしても、高尚なる此の藝術の趣味を解する母からは、必ずよき子女が生れるであらう。これだけでも本校の價値は認められるではないか。更に其人天才あらば、獨身で押し通し、パレット握つて五十年を過すともとがむべきではない。現に今年の文部省の展覽會にも本校出身者



の逸品が掲げられてゐる。

學士ばあまり茂からぬ髭をひねり〳〵、いま參觀に來たのは佛蘭西のキャプテンサージャン——で、多少金のありさうなので、世界を家として個人の滿足を追ふて旅してゐる夫婦者だと云つた。各國人が來るが、佛國人は流石に藝術の國民で一言一句みな通なさうである。天下を家として快樂を獵る彼らは羨ましき哉。

辭して出づれば秋の日傾き、茶腹は石段の一つを下るごとにダブ〳〵と鳴つた。

渡邊女學校と
共立女子職業學校

△腕の人を要する時代

「婦人の自活」といふ事を手ッ取り早く考へれば、何より簡單なのは腕に藝をつける事である。頭に藝を仕込むのは長い年月と、多い學費が要る。腕は頭に較べて安値だ。オイそれと役に立つ。腕の人はアニラン色素がどんなものか知らぬが、古着を仕立てなほして新らしい樣にする術はお手のものである。女の學者は一國に七人あつても充分であらうが、腕の女は何人あつても足らぬかの東京裁縫女學校や共立女子職業學校は此意味よりして、その存在の價値を有する女學校である。

東京裁縫女學校は通稱を渡邊女學校と云ふ。本鄕東竹町に三層樓の白堊洋館を有し、一千人に垂んとする學生、七十人の教師を含んで居る。

その門を過ぎる人は設立者渡邊辰五郎氏の銅像が、行人に演說しつゝあるを見るであらう。此人千葉の裁縫職であつたが、一朝志を立つるや目ざましき勢ひで世の波と戰ひ、今日の運に漕ぎつけました。すでに故人となつたが、生前實子滋氏をシカゴ大學に遊ばしめ、歸路歐米を廻らせて、他日に備へておいたから、物故の後はさして動搖はなかつたのである。設立以來二十九年になるさうだ。

共立女子職業學校は神田一ッ橋通り二十二番地で高等商業學校の近所、明治十九年に、手島精一、服部一

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

三、(現兵庫縣知事) 永井久一郎 (現日本郵船横濱支店長) 宮川保全などの諸氏の發起によつて生れた。目的は高尚なる學理を詰め込むを能事とする女子教育に慊らず、專ら實用的婦人を養成せんが爲めであつた。かの渡邊女學校も此の主旨であつたので、當時の民心に投じ、爾來この兩校は、追手に帆的に進んだのである。而かも共立の方はお手揃ひであつた故か、遲く眼醒めて早く成長した。現在の學生數千二百。校舍が狹いとて入學者を謝絶した折もあつたと聞く。兩陛下も大御心注がせ給ふて、行啓、または賜金、敷地の御下賜を辱ふした。　相似たる二校の外形は右の通りである。

△兩校の課目

渡邊は左の七課に分けてある

本科 (修業年限二ヶ年、十二歳以上の尋常小學卒業生を入學せしむ)

速成科 (六ヶ月) 普通科、高等科 (各一ヶ年) 以上は十四歳以上の尋常小學卒業生にして裁縫の素養あるもの)

師範科 (二ヶ年、十四歳以上、新令の小學二年卒業のもの。裁縫科及家事科教員の養成を目的とする)

高等師範科 (三ヶ年十六歳以上にて、四ヶ年以上の高等女學校卒業生及小學校又は尋常小學校本科正教員の免狀を有するもの。女子師範學校、高等女學校の裁縫、家事教員を養成す)

高等師範別科 (三ヶ年。師範に似たる目的を有する十六歳以上のものを入學せしむ)

此女學校以前は墮落女學生の本場の樣に見なされ、評判が惡かつたが、近頃は風紀革新されたさうだ。

共立の課目は、

教科を甲乙二科とし、どちらにも裁縫、編物、刺繍、造花、圖畫の五科目を置いてある。甲科生二科目、乙科生は一科目を專修するものである。外に補習科と割烹科、但、これは附錄と云ふべきだ。以上を術科とし、他に國語、算術、修身、家事、理科の五科目を教へる。

甲科の修業年限は三年、乙科は二年、新學期は毎年四月一日より始まる。

甲科十二歳以上、乙科十五歳以上で、小學六年の課程を終へた者より入學試驗をして入れる。

△兩校の設備

渡邊では殆んど年中大工を入れてどこかの建增か修築かやつてゐる。幾分か學校を擴張するにはつねに怠

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

らず普請する必要があるのだらうな。現在總建坪、六百九十八坪。校長は

「社會が是だけにして呉れました」

と云つてゐる。圖書閲覽室があつて、東西の參考書類を聚めたのはよいが、餘裕なき私學校の觀念さ、只一人の司書係を置く經費の出處なく、參觀人に向つて設備の完全を説く一方便となつてるのみ。裁縫參考品も千點ばかり揃つたが、陳列する場處がない。

教員は六十名あまりと號してゐる。一體裁縫の教員は、男教員で云へば體操教師と云つた風に「頭腦は空なもの」と信じられてゐて、一寸した會があつても、一番末席を辱ふするのである。先生に貫目がなければ教へる課目にだつて價打がない。

「お針なんか一通りでいゝわ」

「それよりも學問がカンジンよ」

と、こんな口實を作つて輕んずるのが多くの女學校の通例である。渡邊では先づこの風を打破し、將來の裁縫教員たるべき學生に根柢ある教育を授ける事に苦心して居る。前校長の遺言により相談役となりたる帝國大學教授の坪井正五郎博士や、早稻田大學の鹽澤昌貞博士など、時々常識を養成する課外講話を試むる外修身は女子高等師範教授の下田次郎文學士が受持つてゐる。

渡邊を參觀して共立へ來ると、何となく「學校へ來た」といふ感じがする。渡邊の方は裁縫ばかりであるし、今猶ほ私塾の面かげがあつて、俗に云ふ「オハリ屋」然としてゐる。共方の方は校舍は古ぼけてをれど、學ぶ事は裁縫が主で、造花その他はホンノ附屬であるが、夫れでも、一體の空氣が學校めいてゐる。敷地も二千坪に近く、校長は高等工業に令名ある手島精一氏だ。この差のある處は、一寸寄宿を見てもわかる。

渡邊の寄宿は七十名あまりの寄宿生があつて、校舍の棟つゞきで校長の家族もこゝに住ひ、監督してゐる共立の寄宿ははじめ學校の敷地内にあつたが、今は今川小路一丁目九番地に移り、某辯護士の住み拔いた家を流用してゐるが、專任舍監があり。普通女學校の寄

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

宿舎らしいのである。

△兩校の出身者

渡邊女學校の方は誰が何と云つても裁縫では敵がない。前校長渡邊辰五郎氏が自ら針の人で『渡邊式裙形』『婦人改良服指南』などの著書があつた位だから出身者も他校以上であるのは當然ではないか。

東京で云へば上は女子大學の如き、女子高等師範の如き最高學府の裁縫敎員より女子美術、女子職業、府立四高、下は津々浦々の小學の裁縫敎師は大多數本校出身である。月給は十五圓から始まつて三十五圓止り。女でこれだけ頂戴出來れば充分と申さねばならぬ。

共立の方も女敎員となつた者が多いが、自家營業など少くない。すでに二千四五百名も産出してゐるから、意外の方面に成功した意外な特例がある閨秀書家、馬杉靑琴女史・閨秀小說家岡田八千代女史などもこゝの卒業生なのだ何にしろ渡邊と共立はよいコントラストである！



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

活動する婦人と整理する婦人

小崎千代子

△婦人の出歩く目的

今の婦人は昔の婦人のやうに年百年中、家の中で針を持ち竈元を守つて居るばかりでは役に立たない、見聞が狹くては良人の話相手になれないと云ふので、婦人の出歩きが盛んになつて參りましたのは、至極結構な事で御座います。ちよつと近所へ買物に行つても電車へ乘つても、何かしら益のある見聞を得るものですから、旅行でもしたり集會へでも出たり致したらば、必ず澤山な獲物はあるに違ひありません。併し此出歩きも一の目的がありませんと收益が無くつて損を招ぎます。私は或婦人方の中に目的なしに出歩かれる方を往々見受けます。勿論目的なしに出歩く者は一人もありませんけれども、其目的が職業の爲めとか、衞生の爲めとか、修養の爲めとか、交情を温める爲めとか云ふ風な意味は無くつて、服裝や髮飾を見られたいとか他のを見たいとか、其樣なくだらぬ目的で出歩きますのは目的なしの出歩きと申しても宜しからうと存じます。

△目的消滅

芝居見物を致すならば、狂言の筋を味つて、幾分か自己内省の料にするとか、花見を致すならば、自然を愛する優美な心を養ふとか云ふのなら、一の意味がありませうが、實際其場に行つて見ると、服裝の見つ競、見せつ競が眼目になつて了ひ、芝居見物や花見の衣裳には隨分良人を苦めると云ふ工合、目的は全く服裝に變じて了ふのです。併し斯樣な場所は虛榮の共進會ですから不思議も御座いません。けれども療養の爲めの旅行や、俗塵を避ける爲めの轉地先で綺羅を競つたり、交を温める集會にまでも我後れじと服裝を競ひ合ふ實例が往々御座います。これでは目的が全然消滅して了ひ、折角益のある出歩きも、各自心に傷手を

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

産科婦人科專門 醫學士 北畠孝夫先生閲

最近

婦人病心得

子宮の病 自宅療法

無代進呈（但送料貳錢を要す）

目次（婦人病の總論◉血の[illegible]の原因病理及び自宅療法◉神經衰弱、貧血、萎黄病とは如何及其療法◉しらちながちの病理及其根治法◉[illegible]經時の手當月經諸病の療法◉姙娠の原理、受胎すべき塲合姙婦の攝生、つわりの養生法

女の一番つらい病は。子宮の諸病であるが。此病にかかりし婦人は。大抵之れを秘して、適當の手當をなさず。亦妙齢の頃などに。月經の閉止とか。不順等あれば、獨り心を痛めて、素人的の通經劑などを試み、遂には恐ろしき難病となつて。生涯の苦みを遺すことのあるのは。洵に痛歎の極である⊙著者は多年の實驗と。最近の學説を基礎とし。（婦人病者の心得）と題し上記の各項に分て丁寧親切に詳説せり⊙病める婦人は勿論一般の婦女は。本書を一讀して、自宅の療法を會得せよ

●當分の内無代進呈す送料貳錢封入至急申込まれよ

發行所 東京築地新榮町四ノ一（電話新橋三六〇一番）笹岡省三

造花原料

東京九段坂 吉住商店

電話番町二〇五六番
振替口座六六七九番

●營業目錄●＝御入用ノ方ハ二錢切手封入東京九段坂＝吉住商店宛申込マルベシ直ニ進呈可仕候

女（その一）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

新刊廣告

（その二）

早稲田大學講師 五十嵐力著

新文章講話

背皮金文字入 高雅製本 全壹册 紙數七百四十餘頁

正價金壹圓七拾錢 小包料四百匁

本書は文章講話を原材として新に稿を起したもの、著者十年の苦心によつて古今東西の文章論を統括融合したものである、期する所は、

一、材料引例の全く新なるもの、

一、組織説明の新なるもの、

一、新思潮に觸れたる青年の心情に響くもの、

一、國民の文章趣味を高むるもの、

一、アリストートルの『レトリック』以來、劉勰の『文心雕龍』以來、空海の『文鏡秘府論』以來、和漢洋の主要なる文章論を收めて、活きたる新組織、新説明を與へ、文章修辭の專修者にあらざる限り、此一書を讀めば十分といふ程に備つたもの、

本書は斯樣なものを作りたいといふ眞面目なる努力に成つた自信ある作である、

發行所 東京牛込 早稲田大學出版部 振替口座一二二

發行所 東京本町 博文館 振替口座二四〇

Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

日本唯一の演藝專門大畫報

第三年

演藝畫報

十二月號

十二月一日發行　一冊參拾錢　郵税貳錢五厘　三月分郵税共九拾四錢　六ヶ月壹圓八拾錢　壹ヶ年參圓半

●三都十一月狂言寫眞　三十二頁數十種　舶來光澤紙印刷

◎繪畫　名優の似顔畫（鳥居淸忠）　忠臣藏三段目（吉沼晩汀）　◎漫畫　演藝諷刺畫（北澤樂天）滑稽演藝模樣（森青山）

◎脚本『此婦人』瀬川如皐　『小鍛冶宗近』　榎戸賢二

◎芝居見た儘　四谷怪談（巴之助）大經師昔暦（孔雀船）女殺油地獄（公孫樹舍）

◎喜劇の意義　草野柴二　能樂趣味と芝居趣味　高濱虚子

●名家眞相　（東京）坂東三津五郎　尾上榮三郎　守田勘彌（大阪）市川市藏

◎一役一言　政岡（片岡仁左衛門）平手牧師（村田正雄）　鳩宮庸之助（嵐芳三郎）松王丸（實川延二郎）

◎役者の顔　尾上梅幸　市川團藏　樂屋見た儘　澤村源之助の部屋　大阪朝日座の部屋

◎劇道虎の巻　本號より掲げ始む　讀めば劇通たらん　竹本組春　其音容見るが如くに活寫

◎芝居裏面畫　本號より新掲（尾竹國觀）　◎寫生畫　明治座（春仙）市村座（緑水）（春仙）歌舞伎座（緑水）

●十一月狂言選擇撮影　本郷座十一月狂言ボンドマン

東京京橋區南佐柄木町　演藝畫報社　郵便爲替貯金口座六〇〇〇貳番　電話新橋五〇五七番

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

安藤謙吉君著
●福引集　全一冊
洋裝全一册小判百四十四頁
正價拾貳錢　郵税貳錢

石橋思案君序文
加野孤雁君編
●新案福引種本
正價拾八錢　郵税四錢

加野孤雁君
有田鐵笛君　共編
●續福引種本
正價拾八錢　郵税四錢

本福引集は新案ハイカラ形裝釘優美にして滑稽の粹頓才の妙を盡したる數百題の福引を網羅し加ふるに珍趣向の一トロ噺を鼇頭に收めたる趣味多き種本にして一度之を繙けば春風駘蕩の感あらしむ。
續福引種本は又最新式の編成にて本書著作の當時は日露戰爭中に係りしを以て專ら軍事に關する新題を作成し就中◎戰爭當時の師團所在地◎軍團長師團長旅團長等の姓氏◎激戰地名◎海軍將校◎軍港及び軍艦名等學齡兒童の記憶に存し置くべき要件多く福引遊戲中晴々裡に之を知らしむべき便益ありて小學校賞與品等に用ひて最も有益なるべく◎附錄いろは歌留多福引◎義太夫文句福引等は又逸興あり。

佐々木信綱君校註
●百人一首講義　全一冊
洋裝中判紙數三百頁
正價貳拾錢　郵税四錢

定家卿撰
●錦葉百人一首　全一冊
和裝大判錦繪刷美本
正價貳圓　小包料拾五錢

下野遠光君著
●百人一首略解　全一冊
洋裝菊判紙數百七十八頁
正價拾五錢　郵税四錢

女(ろの四)

販賣用電話　本局二六二〇番
東京本町　博文館
振替貯金口座　東京二四〇番

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

好評再版

幸堂得知翁海賀變哲君序　中村青江君編

新案福引

附 繪入地口百番 室内遊戲

一本の紙撚、福が出るか蛇が出るか、灰殻の令孃檽小木を抱えて顔を眞赤にし、髯武者先生白粉下を取りて澁面を作る、福引の興此にあり、本書は奇想天外の珍趣妙案、一粒選りの福引題解五百餘を集め、二十一種の類別を立て、景品を配當せるもの、附錄には新作地口百番挿畫と相俟つて腹の皮を捻らすべく、『室内遊戲』亦家庭團欒の絶好侶伴なり

全一册

洋裝三六判美本 紙數約百六十頁
正價拾八錢
郵稅四錢

東京本町 博文館 振替口座東京二番

新版

春日局

東久世伯爵題字　本居博士題歌　宮中月次御歌會御題春日局詠進歌

東京朝日新聞記者 武田仰天子君著

口繪 新平癒寫眞版 挿畫木版 版密畫數箇入 研山畫

德川幕府の大奥に無比の異彩を放ちたる女丈夫、雄心、妬心、俠氣、慢氣、機智、辣腕を兼ね備へたる春日局を赤裸々に描き出されたる女傑が成功譚。

菊判美裝全壹册○正價金八拾錢

大高評小說

◎小說 新ほとゝぎす　第十六版新刷　みかつき著 口繪研山畫　價金四拾五錢

◎小說 新かつら川　第五版新刷　みかつき著 口繪山本畫　價金四拾五錢

送料要せず

女（るの五）

發賣元 東京神田表神保町 東京堂

大阪○盛文館○寶文館○杉本書店

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

月分新派句選

好評再版

内藤鳴雪翁題句
巖谷小波君序文
結城素明齋藤松洲
両畫伯挿畫

有田風蕩之編輯

内容

▽第一
▽第二
▽第三
▽第四
▽第五

▲‖特色なきものは平凡也‖▼

節物時令を新暦十二ヶ月に分配し其所屬を明にしたること
題名をいろは順に排列して索引に便ならしめたること
題名に傍訓を配して初心者に讀み易からしめしこと
太陽暦に節物を配したれども陰暦即ち舊暦を便とするもの
の爲めに舊歳事記に據れる分屬を題名下に注したること
新題並に多く用ゐられざる題は成るべく之を收容し後進の
不便を避けしむることを力めしこと

▲‖現代俳句の精華‖▼

全一冊四六判横綴
石版表紙洋製美本
紙數六百〇四頁
正價金五拾錢
郵種六錢



今井柏浦君編
小杉未醒君畫

古今滑稽俳句集

花の春こんな親父ぢやなかつたに　大江丸
錢湯に裸同士の御慶かな　鳴雪
鳴く猫に赤ン目をして手鞠哉　一茶
逃げまはる蚊の聲や水祝ひ　子規
祖父の目に鳶をほめけり凧巾　乙二
おれとしてにらみくらする蛙哉　一茶
風呂敷へ落ちよつゝまむ舞雲雀　惟然
足と鍬三本洗ふ田打かな　也有

再版

菊半截裝釘瀟洒
紙數二百五十頁
正價金參拾錢
郵税金六錢

此等の句を讀んで感興を起さゞる人は讀む可らず

此等の句を讀みて趣味を感ずる人は必ず讀むべし

俳士といはず文人といはず凡上枕頭此書無かる可らず

東京日本橋本町三丁目
博文館
振替口座東京二四〇番

女(その六)

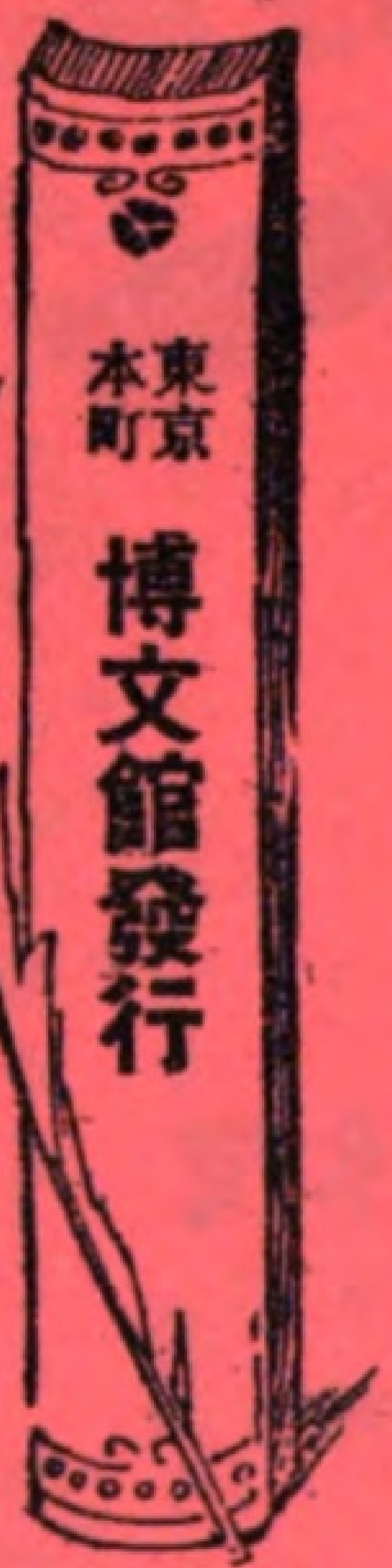
Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

マクス、オーレル氏原著
桐生悠々君摘譯

婦人國

全一册　洋裝三六版上製　紙數約三百頁　正價四拾五錢　郵税六錢

マクス、オーレル氏の文は簡潔にして辛辣加ふるに奇警なる觀察を以て滑稽百出人の頤を解く蓋し一代の奇才也本書は即ち同氏の著に就き戀と女とに關し趣味あり且つ實益ある部分をのみ摘譯せるもの人類の根本的二大本能に關して日常男女を警醒するの訓言所在指を屈するの遑なし未婚者も讀むべく既婚者も讀むべく家庭の平和を期して社會の進歩を欲する者に於て特に然りとす



衞生改良酢發賣

貳合入罎詰一本　金二十錢
送料十二錢



本品二合は普通品の二升六合に當る

在來の食酢は腐敗し易く貯藏法に至難なるも本品は防腐性を有する醋酸を資料とせし者なるを以て有害なる黴菌を生ずる憂なく永久不變なり而かも之れを菜肉に使用して風味云ふべからず是れ本品の特點にして殊に衞生酢と命名せる所以なり家庭に於て御試用の上御高評を希上候

東京日本橋區本町三丁目

藥種貿易商　合資會社　博愛堂

電話本局長一八六番
振替口座東京八八一三番

女(ろの七)

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

キハク印

最上醬油

香

東京支店

中野長兵衛

日本橋小網町三丁目

電話浪花七百七十番

醸造元

茂木七郎右衛門

千葉縣野田町

電信略號ハク又キハク



専賣特許 臺所重寶 名和式テンピ

大三圓●中二圓五十錢●小一圓九十錢●說明書御希望の方へは無料送呈

専賣特許名和式テンピは曾て實業之日本誌上に於て「改良されたる臺所重寶器」として紹介されし和洋兼用のテンピなり

東京日本橋區蠣殼町二丁目十五番地電話浪花一一七七振替口座一〇二五四番



特許カマド据風呂

名和商店





文るの八)

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

負ふて歸ると云ふやうな次第になります。

▲出歩きと家の始末

婦人が出歩きますのには、家の取締りを深く考へ、人一倍家の事を働いて、穴の明かぬやうに致さなければなりません。

私なぞは御承知の通り隨分外出の忙しい身體で御座いますから、在宅の日には片附物や裁縫なぞをセッセと致し、娘や下女にも留守中の仕事を善く呑み込ませて置きますので、私が何時出ましても差支ないので御座います。私共では幸ひに永年能く勤めた忠實な下婢が居りまして、先達而米國へ立たせました。此女は留守の家事を任せ切りにしても差支ないのでは御座いますが私は大體の監督を等閑に致しませんでした。特に金錢の出納は嚴重に注意致しまして、私が晦日に出ます場合には勘定を一日延ばすとか、據ろない拂ひの分はそれだけを下婢に預けて出るとか致しました。一家の事を餘り明け放しに致しますと、主婦の權が次第に消え失せて、下婢が自然我儘になつて參ります。特に留守を任せますのには如何しても恩威並び行はれる樣にせねばならぬと存じます。



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

各地風俗の變遷

羽二重に名を得し福井市

稻花

此地は北莊と申しました遠い昔から、代々英傑の居城地として、一盛一衰ある爲めに史跡に富み、その後德川幕府の初めに、中納言秀康公三十五萬石の提封を受けて御家門を以つて威勢を振はれ、以後三百年間は太平を福井小江戸の城下と歌はれたゞけあつて、かなり名勝古跡もございます。

△市中見物

廣さ東西二十四町南北二十二町といふ當市は、舊城址を圍繞して發達し、足羽の川は東から西に貫流して、全市を四分六分に分ち、九十九橋、幸橋の二大橋を以つて南北を通じて居ります、それで俗に南部を橋南北部を橋北と申します。市の最殷賑な處と申せば、先づ位置もよく區域も廣いだけ橋北の方にあつて、舊本町通りを中心として、大橋通り、片町通り、東北の方へいつては田舍向きですが松本通りなどでございませう橋南の一隅には、紫翠滴るといふ足羽の丘陵を控へてゐて、市の風致を添へる事一段で、それに此丘陵は鬱散地としては市の生命とも申したい位の所、日曜日、祭日などの散歩は此處に限るといふ風で多勢の人出でございます。明媚絶景と誇つてゐる足羽山またの名愛宕山即足羽公園は、此度東宮殿下北陸行啓あらせられるに先立ち市民一萬餘人の勞力を得て、天然の遊園に人工を加へてなつた紀念の公園でございます。

山の頂上には高さ一丈四尺もある繼體天皇の御石像が見上げられます、これは天皇の未だ男大迹皇子と申された時分當國に駐まらせられて、治國安民の大業を成し給ひしその御恩澤を永く忘れぬ爲めの印として建てたものでございます。それから三段下に天魔が池といふ水漫々としてゐる池が御座います、これは天正年

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

中將公が柴田勝家公を攻めた時、此地に陣取り油時に床几を据ゑて軍勢を指揮した所だといふので、勇將の昔が偲ばれて去り難い所でございます。

山の裏手に廻つて、南朝の忠臣湊川神社と世にも尊い正成公と併べ稱へられる新田義貞公を祀れる藤島神社に參りますれば此處は又一しほ。境内の神々しさ、建築の古式に法つた處の奥床しさに襟を正うし自づから額づくやうになる處でございます。其他戰國の名將柴田勝家公丹羽長秀公の墓、英傑橋本景岳先生の墓なども御座います。

△產　業

流石絹織物の名ある產地だけに町をあるいて機音をきかぬ所はございません、從つて大きな工場も澤山御座いまして、職工二十人以上使つて居る織物工場が六百七十軒職工が一萬六千四百餘人、精練工場が八軒職工が百六十餘人と云ふ大數です、其中松本地方で野澤屋機業場實永上町の黒川精練工場とは、共に模範工場として有名なものでございます。此外賃機業の多い事は大抵の裏町などでは、奥樣もお孃さんも誰も彼も機織に忙はしいといふ有樣で、土着の大方の婦人は此業を必得ぬものはないと云ふても恐らく過言ではないでせう。兎に角此機業ですべての事業が起り、當市が保たれるといふ位、之がなければ暗夜も同樣だといふのですから、隨分と工業は盛んな處と御推察が出來ませう。其絹織物の年產額が凡そ八百萬圓以上に昇るとはちと誇つてもよろしからうと存じます。當地の特產物は昔からある奉書紬に輸出品として名高い羽二重、それには平地、綾地、紋地など、其外ハンカチーフから帶地リボン等で御座います。今一つは人樣によつて好き嫌ひはございませうが、之も「處かはれば品かはる歌の節まで皆かはる」と云ふ通りこれも名高い名物の一つ先「酒なくて那んの己れが櫻かな」と御酒と仲のよい方には殊に知られて居るのが越前の雲丹でございませう、煉雲丹、鬼糖などいろ〳〵あります。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

△人情風俗及宗教

利益の爲には昨日の味方も今日の敵と云ふ有樣で、徳義心には乏しい方かと存じます、すべて金の世の中此處ばかりではないでせうが、隨分特筆して差支への無い土地かと存じて大膽にも申上げます、一般に狡猾で兎角に人の能を妬み、商人の如きものは互に裾をかき遂には相方破目に陷るといふ樣な事が多いのですから土着人には大した金滿家はないと斷言してもよろしからうと思ひます。小賣商人のやうなものも、他國人と見ると法外な懸直を申します、又一般福井にはみかけ取りをする惡風がありますから、お孃樣ぶつて買物などなさらうものならそれこそ大變、隨分つけこまれますよ、しかと御用心が肝要と存じます。

宗教はよく北陸の門徒と申しまして、本願寺では隨分勢力のある土地でございます、それでお寺の數も多うございます、一向宗が勢力がありますので他宗の者は人でないといふ樣な極端な信者もございます位。年中爪で火を燈さぬばかりの儉約をして貯へた金を年に一度か二度京參りと申して京都に行きそれを本願寺へ納めてよろこんで居る人が少なくないので御座います。

祭事はすべて新暦で致します、神明神社、佐佳枝廼社、足羽神社、白髭神社など以前は隨分賑はつたさうですが、今は殊更御吹聽致す程の事もございませんが只一つ盆祭の後前に神社などの隅でしかも眞暗がりな所を撰んで盆踊を致すのは一寸外では見られない珍らしい習慣だらうと存じます。

茶の湯、生花、謠物のお稽古は盛んではありませんが是も只一つ琴は今餘程流行して參りました、それに謠曲は以前からの大流行で、職工から車挽きなどまで存じて居ります位で、よく歩きながらうなつてゐるのやお湯の中などでもその聲を聞く事がございます。

△生活

當地は大陸的寒風が日本海を吹きまくつて參ります

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

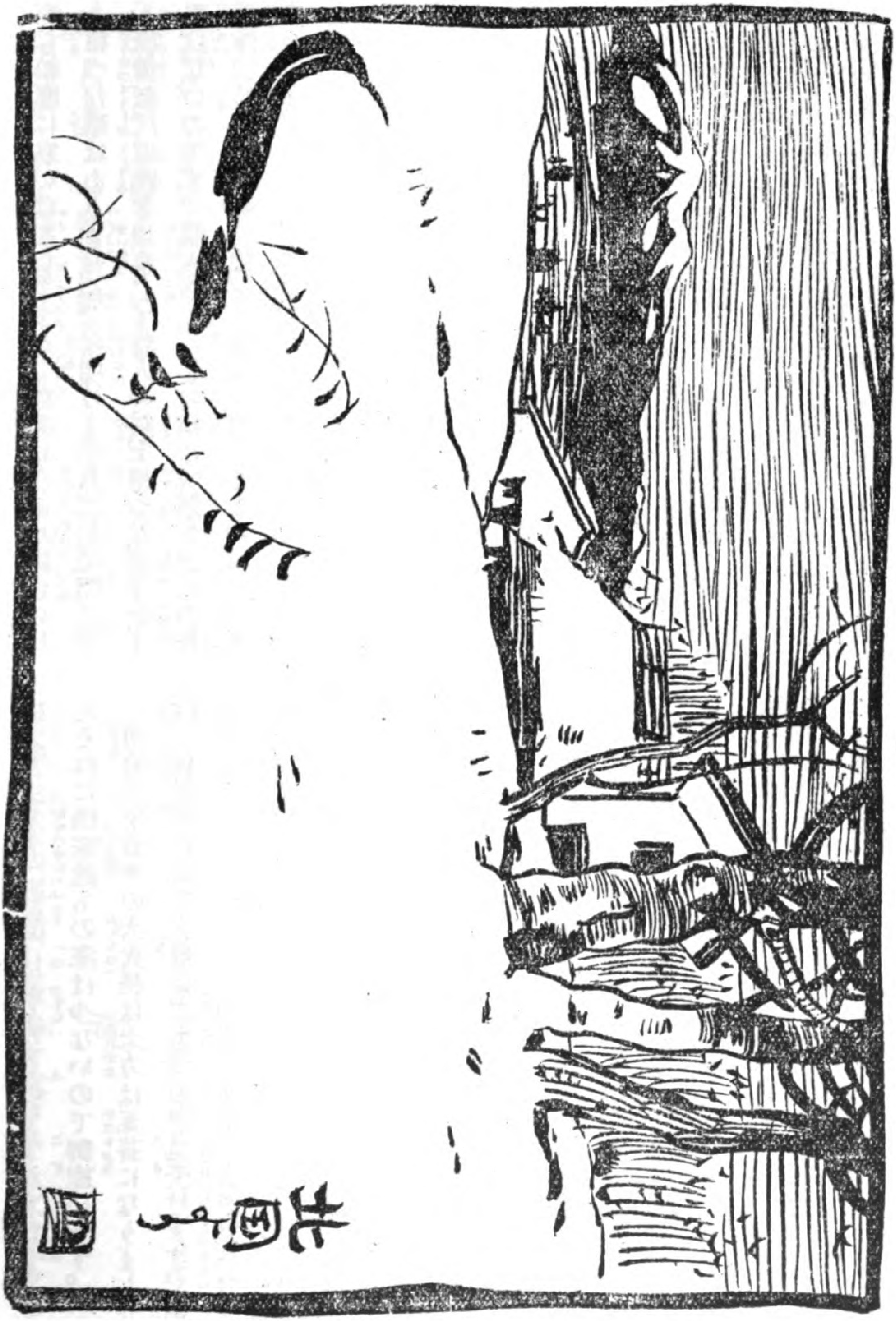
から相應に寒いは寒いですが、近年は年前に降雪の尺と積つた事はありません、年明けて一月二月の頃にでも積雪數尺道路を埋沒して行人の跡を絶つなどゝいふ事はないのです、唯大根おろしの樣な雪解の爲に道路泥濘、時には下駄の齒をも沒する事のあるのは一寸難澁致します、それとて左程には思ひませんが、氣色のわるい掩ひ被ぶせる樣な重い暴雲が始終晴れないので、十一月頃から二月の末頃迄は高下駄ばかりの入用にはほと〳〵困じはてます、それもその筈一年の中快晴の日といへば四十日足らずだといふのですもの、隨分陰氣な處です、けれども此の濕氣が羽二重機業の上に便益を與へ、自然に生業の發達を助けてくれるとは、世の中は人の手業の及ばぬ處に幸も不幸もあるものだと自然の力に感心致して愚痴も申しませんが、此處は隨分輕くない稅金を負擔せねばなりませんので皆困つて居る樣子です。

田舍市の割合に家賃は先お高い方で、八疊二間六疊一間門構への庭附きで七圓も取ります、これで又場所によりますと二三圓は高くなるのですからたまりませんそれに借家建ちの家は少ないので御座います。

明治三十五年の大火後は大方は瓦葺になりましたが時々板屋根に石など置いてあるのを見受けます、何分是はみすぼらしいもので御座います。會社商店などは藏作りになつて居るのが目につきます、これは以前の大火の時福井百三十銀行支店が藏作りであつた爲火難をのがれたので、それに習つて建てたものださうで御座います。

お米は澤山で只今では白米四斗入一俵五圓五六十錢で一等米が得られます。此處には十月頃から汚買といつて田舍の女が豆類に栗柿などを持つて來て「ごしんさん（奥樣）おぞいもの（わるいもの）とかへておくんなさい」といつてねだります、それに古い小切を出してやりますと好むものとかへてくれます、先日も古い襦袢の胴ばかりのものを出してやりましたら栗二升も置いて行きました、それでむかふは歸つてすぐ子供にきせられるといつて喜んで歸ると云ふ樣な仕末ですか

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN



Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ら小豆大豆空豆等も此者と換へる樣に致しますと、案外割のよい廢物利用が出來ます。

魚類は海に隔つて居りますから、日によつてお値段の高低のひどいのには驚くほどです、又種類も少ないのですが、鯛、鯖、鮎、蟹などは京阪へ送る位です、殊に當地の蟹はなかなか美味しく頂けます。

青物は珍らしいものとか品のよいものは大抵名古屋地方から送つてくるのですが、その割合にお値段は他と變りません。

俗に京の着倒れ大阪の食ひ倒れと申しますが、此處は此二つを合せ習つたものといつてもよろしい位です、殊に衣服は華美を競ひます、春秋二季のお彼岸に俗に御坊と申す本願寺別院に參詣する田舍人の衣服でさへ大方絹物です、いつも品はないがあまり服裝がよいのでどこの金滿家の令嬢かとよくよく見ると草鞋ばきの田舍の娘さんであつたり、ちびた下駄ばきの工女であつたり致しますので、見上げたり、見下げたり、人の品定めもをかしう御座います、こんな風ですから衣服には氣がはります。食物も是は土着人一體にはさうでもないでせうが食倒れといはれる位羽二重商家などは隨分派手ですから相當におごります、これは市内に散在する料理屋、飲食店の多いのを見ても證明する事が出來ます。肉食は牛馬肉が主なもので、鶏肉が需要が少ないのです、是は佛教の盛んな處だけに殺生誡を犯さないといふ心から出たものでございませう？

上等牛肉ロース百目四十錢、馬肉二十一二錢、鶏肉四十五錢、酒上等六十錢位が相場です。醬油は品がわるくて一寸召上がられませんでせう、丸で醬油くさい水同樣、是はちと酷評かも知れません、それでゐてお値段は一升二十四五錢は致しますからたまりません。

△敎育と言語

敎育は近頃餘程盛んになつてまゐりましたのは何より喜ばしい事です、殊に振はなかつた女子敎育も現今では家庭にまで重んぜられる樣になつてまゐりましたから結構です。重な校名をあげて見ませうなら師範校

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

同附屬小學校中學校女學校農林學校工業講習所商業學校商業補習學校女子技藝學校私立第二佛教中學仁愛女學校等でございます。是は慾目かは存じませんが當地の學生は一體に質素で眞面目の樣に存じます。女學生は尙更他校と競爭するといふやうな事がありませんから一般に氣風がよろしい樣に思ひますが其半面には或は進取の氣象に乏しいとか何とかの不足が伴はつてはゐないかとも思はれます。

次に當地の方言に就いて申上げます、浪花の蘆も伊勢の濱荻聞苦しいとてお笑ひ下さいますな。敦賀地方は京阪地方とさまで違ふ樣にも思はれませんが木芽峠を越えて所謂嶺北の地へ入りますと、まるで言葉が違つて北へ行くにつれて益々變痴奇になります、福井でも隨分特殊の方言が用ゐられます、ですけれど普通眞面目な言葉即お正月言葉になりますと京阪よりか江戸辯に近いのです。よく耳にしてをかしく感じます方言をあげてみませう。

びどく（めつぼう、すてんぼう、どくしよに）つらいとか病氣（てきない）可憐な（もうつけない）生意氣な（こつぺな）下さい（んだい）

ばうと申しますのは中流以下の子供が自分を云ふ時につかひます、女兒もつかつて居ります。殊に十五六歲の女子がばうといつて居るのは聞苦しう思はれます先此位に致して置きませう。

「何につけ暮しにくい土地だ」と現今では土着人でさへ此言葉を口にする樣になりました。

先當地は黃金萬能主義で無趣味な土地と申せば適評かも知れません。



Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

女子教育に疑問を抱く 地方の女學生

むらさき

△

夜半からの大嵐……空に六花は見えぬらしい、から寒と云ふのであらう。

障子は鳴り戸は倒れ軒にさげてある非常用のバケツは遠慮もなく落ちて居る。観音堂の例の曉の鐘―風が手傳つてか恐ろしい程よくひゞく。いつも私に大阪流で「嬢はんや」と云ふ尼さんがこんな寒い薄暗い朝だからふるへながら目をこすつてゴン〱と撞いてゐるのであらう。

此頃は、父様も母様も支店詰、休暇の時御目にかゝるきり、世話して呉れる伯母様があるではなし、従姉妹と名のつく者さへ持たぬ身の心細さ、廣い此處にはたつた一人のしかも年召したお祖様があるばかりだもの、云ふまい思ふまいと決して居るけれど、あゝ何だか淋しい。

小學校時代は弟と交代で、毎朝一升炊きの釜を七輪に掛けて御飯をたいて一緒に食べながら、今朝のは柔かくてグタ〱だと云はるれば、お前の炊いたのはいつもこげ臭いと云つて返して喧嘩もして辨當にも詰めて、朝だけは少しも女中の手は借らなかつた。其時分の辨當の御菜は大方鰹節をけづつてか、さなくば、ゆで玉子かであつた。

其相手の弟は昨年から寄宿舎住い、殘された私は、お晝を食パン半斤ですますから、大さわぎして自分一人朝から熱い御飯を戴き度くなし、姉弟二人の爲にわざわざ買つて貰ひ二三年此方手塩にかけたあの釜も、今は臺所の棚の奥に隱居して出ない。

御茶だけは熱くわいても、御飯は歯がスピク程冷えて居る、こんな場合は衛生も何も逃げてしまふ、始めからザブ〱と御茶漬で三杯しまつて、パンは途中で買ふとして砂糖を少し紙に包んで、行つて參りますを述べる。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

今日は圖書が無いので幸ひ風呂敷包は小さくて樂だけれども、吹く事〱往來は塵が舞ひ上つて目はあけられぬ位、それに一昨日洗つた髪の後れ毛が無暗に散つて頬は飛ぶ様に痛い。薄い一枚の靴下で辛抱して居る足の先はピリ〱と、はては我物ではない様にしびれてしまふ、校門の前の並木の松の様は灰色と變つて居る。

第一時間目が厭な體操……舞踏となると三十何名かの同級生がしきりと喜ぶ、私はなぜこんなにきらひだらう。

學習院や女學館では、うつゝには恥かしい話だがまだ見ぬ馬車で通學の生徒があると聞いて驚いた事もあつたけれど、思へばそれはあたりまへ云ふだけが馬鹿げた野暮だらう、馬にしても、立派な車に華族方や金滿家の令孃達を花とかざつて載せて、意氣揚々と引きまはるのが幅もきかうし、又、名譽のいたりだらう。

△

同じ名のつく學校にしてもそれは九重近き都の話、縣下に天にも地にもたつた一つの女學校故、無論、高等官の令孃も、數十萬の財産家のお孃さんも見える、が自用車での通學さへ一人もない。制服は必ず木綿と嚴定されても決して不足どころか喜んで實行して居る質素の土地。

いくら西洋が文明開化の國だと云つて、一も西洋、二も西洋と聞かされては、私達はどこの國に生れた者だと迷ふ様になるかも知れぬ。

家政の御講義の時、西洋では〱とよく先生は仰せになる、三百人あまりの私達が將來必ずしも外交官の夫人としやれる譯でもあるまいし、酒屋、米屋、菓子屋はまだしも、どう運命の神の手に弄ばるれて、燒芋屋のお神さんと下るかも知れぬ。中には、外務大臣邸の夜會、さては、帝國ホテルの舞踏室で、公爵、伯爵、外國の貴顯とも相組あつて、交際社會の蝶よ花よクインよと歌はれる樣な人も無いとも限らぬ、大にあつて欲しい、しかし、私達の前途はちやんとわかつて居るから西洋〱では却てむつかしい。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

此間、西洋ぎらひが話し合つて一體一時間に西洋が何度出るかしらむ、ともかくしるして置いて見ませうと、例の通りノートブックを前に、鉛筆を持つて筆記しながら一度おつしやる度に棒を一本づゝ引いて、授業がすんでから數へたら何でも十七か、十八かあつた樣に覺えて居る。學校で聞いた通りをもし萬一家で西洋々々と振りまはさうものなら早速退校させられると木下さんが笑つた。

それに、左はゼントルマン、右はレデーだ其積りでと、まだお若いしかも男の先生から親しう手を取つてまで敎へて戴くのは、變屈な私は腹が立つ。分けてゐらつしやる頭はテカ／＼と光る、目はキヨロ／＼と動く、人格に關する樣な噂さへ生徒は知つて居る。でも修身を敎へて下さる先生ではなし、何や彼やと攻撃じみた事をするのは、私等の本分と違ふからと、かたくいましめて居つたものゝ、今日コチロンとか云ふのを敎へて下さるについて、先づ一の組になつて居る私逹の方から練習させになつた。私は先生と組まねばならぬ樣になる！　どうして私の右の手が先生の方へ出て行かう、ピアノに合せて七人は踊りはじめたが、最初の禮さへ腰をかゞめず立つたまゝ動かぬので、皆が私を見てクス／＼笑ひ出した、笑はれてもかまはぬ、例へ先生にもしろ手を握られるのは厭だ。

「あなたなればこそ、あんな事も出來ますほんとに愉快でした。」と中島さんが私を調子に乘せかけた。そんな橋を渡りかけたら大變と獨りで思ふ。

無邪氣を以て自慢の中村さんが、當番の掃除もせずに下校したと、學級當番はブツ／＼つぶやいて居る。ほんとに、自分がせねばならぬ仕事もはたさずに忘れて、人に迷惑を掛けるのが無邪氣なら、少々意地は惡くても責任を重んずる有邪氣の方が餘程ましらしい。

△

もう正月も今夜限り、夜に入つてから小遣帳を整理する。月謝の一圓と食パンの代はお祖父樣から頂き、別に母樣から二圓送つて貰ふのを小遣にするつもり、今月は雜誌や、靴下や、東髮櫛や、半紙等で丁度八十

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

九錢遣つて居る。先月よりも三十錢少い。こゝに殘つて居る内一圓だけ、明日郵便局へ持つて行かう。斯うして毎月少しづゝ貯めたのが知らず〳〵の裡にもう通帳に八圓五十錢となつて居る。

斯うして、私を手放しにしてゐらつしやるだけは兩親は猶一倍案じて居られるだらう。いつも母樣の御手紙に「よく勉强して呉れよ」と其ことの書いて無い事はない、夢愚かに考へては罰があたる、私は更に更に勉强せねばならぬ。と思ひながら又ふいと、私は現に今、お祖母樣と申さねばならぬ人から、さまづけで云はれて居るが其樣づけが何の嬉しからうか。決して不足は云ふまいと、自分の爲の勉强とは云ふもの丶、毎日小一里の道を行つて歸つて、日脚の短い冬の今頃當番や何かの時は大方うす暗い折が多い。寒かつたらうと云つて熱い御汁を用意して呉れるでなし、女中に注意して風呂を暖めて置いて呉れるでなし、あゝ母樣がなつかしい！　と兩親の御傍で物學んで居る友のたれかれを數へて涙をのむのも度々。

思ふまい〳〵、艱難汝を玉にす！　艱難汝を玉にすぞや、忘れまい、忘れてはならぬ。

△

昨日屆いた新しい久留米絣の袷と着更へて登校。勿體ない話だが、學校で二た月もかゝつて小袖を縫つても、自分の着るべき着物はまだ一枚も縫はぬ。此絣の襟のつけ加減はどうやら母樣のらしい。いそがしい中から暇をひらつて縫つて下さつたのであらう。

「グットモーニング」と寄宿舍の三島さんから、「よい事を敎へて上る、授業開始まではまだ二十分ありますと手を引かれて芝生の方へ連れられた。「まあ御坐りなさいよう聞いて下さい。」

野菊の花を昭信に渡す房江のしをらしさ、ニッコと笑つて右左互に見合す顏と顏。

ま一つは、

由井が濱邊の泣き別れ武田貞次の胸の中、あはれ里野のうき思ひ…………。

「なぜ、そんな變な顏をなさるの？　もう止めますよと然し自慢さうに「寄宿舍とは神聖限りなき所で苟且

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

にも俗歌なんどの出入する事は無いと思ひ込んでゐたので。一寸には何とも返答が出ぬ。

「どこで御習ひになりました？」

「ちやんと日曜の外出！　上手でせう。」

△

日あたりのよい作法室で、柔かに頰をさする微風をあみながら、叮嚀に敎へて下さる先生の本膳の運び方を見る。假床に投げざしの白桃は春告げ顔に淸い。

中島さんの番になる。モヂ〳〵してゐらつしやる。中島さんと先生の御聲がかゝる、シホ〳〵と立つて步みはじめた、道理で！　右の靴下の後の方には黒雲の中から、肉色の一錢銅貨大の御月樣が顔を出して居る左は、右を御月樣とたとえたので宵の明星とでも云はうか。先生は知らぬ態をしてゐらつしやるが、心中乾度無作法限りなきものと笑つて居られるだらう。とは云ふものゝ、破れの恥をあみ上の長靴でかくして來た私、もし此時間中に番が廻つたら第二の中島さんは自分になる、第一犧牲になつた中島さんも氣の毒だが私も安い心もせず、戰々兢々として居たが、僥倖にも立たずにすんだ、私はベルを鳴らすボケた小使さんを今日だけは拜んだ。

正午の休に連戰連敗三度共二年生に頭を下げた綱引がすんだ後が、皆んな腹ふくらして待つた修身。ひよつとすると今日は面白い芝居が見られると云ふ。

それは、修身の時間には懺悔もしてよい、又、日常行爲の上に就て不審があるなら質問にも應じてやると先生の御許しが出た。

自然淘汰だの優勝劣敗だのとやかましく理科の時に敎はつてゐる生徒だもの、何の一寸でも人に引けを取らう筈はない。まして勝てば官軍、敗くれば賊軍の世の中、大將株は勢ひ反目の姿を互にとる。同じ束髪に同じ袴をはいて居ても、十八世紀の遺物と自任して居る私は、二十世紀の舞臺は活動がはげしくて恐ろしくて堪えきれぬ。しかし、其活芝居を見物だけはいさゝかの後學、敢て毒にはなるまいと靜粛に腰をすゑる。

級中の覇王とやらは、浦川さんと濱口さん……濱口

さんが媚とやらを以て友をつくるとかで浦川さんの傾分へまで侵入しやうとして居るので、其曲直を敎場でさばいて貰ふと云ふ事さうな。

役者はきまつて、注意人物は先生と共に三人ー　大勢は、一擧一動を目を丸めて見て居る。

「先生、友を擇ぶには德行才藝を以ていたしますか、又地位身分を以ていたしますか!?」

相手の顏は赤くなつて來た。先生は薄々事情を知つてゐらつしやるとかでうつむき勝ち。一同は今やおそしと判決を待つて居る。

中島德藏先生を哲學館でやりこめたので名盛頓に上つたとか聞く前の長崎高商の校長隈本有尙さんは、或る場合、處世の最良法としては長上への媚びであると云ふ講義が動機となり、慘々な目に逢つて今は朝鮮の京城中學とやらの校長をしてゐられるさうな。

濱口さんが、隈本校長の講義的の行爲を敢てするとも、それを腹立てゝ殊更に先生に質す、冷靜な態度を缺いた、浦川さんの行爲も、何かの目的があるのであらう、春だから陽氣になつて勝手に逆上されてもそれは向の權利、善惡を云ふ義務はこちらにはない。すまぬ事だが「狂人走れば不狂人も亦走る」ぞと自分を戒めてゐた。

だが先生は御困りだらう、華族の令孃はゐらつしやらぬけれど、軍醫總監のお孃さんも、局長のお孃さんも、博士と名のつく人のお孃さんも、ちやんと列らんで居る。あたりさはりはあるものを、思つた通り、明快の御答は無かつた、いゝ加減にあしらつて話を他へ轉じたなり、もう、三年生の終りだから一學年を通じて感じを述べ樣と、

よい方

暑中休暇以來凡てがよくなつた、
よく學科に忠實に且質素になつた、
快活に運動をつとめる、

わるい方

ならして心が小さい、
約束を充分守らす、自活の念とぼし、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

折からのベル！　幕はせかつた。先生の姿が職員室へ消えるや否や、敎場の鼎のわく樣なさわぎ「ならして心が小さい」が變だとか何とか彼とか、私も二言三言、しまつた！　昨夜も昨夜とて「自他を益するにあらざれば言を發すべからず」と云ふ、フランクリンの戒をつくづく感じた身が、あゝ惡かつた、習字室の當番にかゝりませうと急いで小使室のバケツを持つて水道の方へ行く。

「今から閉門まで殘りませう、昨日は、野村先生からひどい目に、しかもゼロゲーム」と一年生の愛らしいのがテニス場へ、輕々しう。

水も、バケツへ波々と入つた、さげ樣とする拍子に顏を上ぐれば、白いのが交つた顏をなでながら中庭に立つて校長さんは、ニコニコとあちらこちらを眺めてゐらつしやる。

三國婦人の特色

◎佛國婦人の理想は交際場裡の花と謳はれて貴人公子の顧眄を一人で占領したいと云ふ野心、朝起るが早いか自己の化粧室に入る髮の毛の縮れを正し睫眉の毛穴を數へ、紅粉の濃淡に氣を採み、香水の是非に思を勞し、先づ室を出るのが十時、約半日は外觀の裝飾に徒消して了ふ、食後一二時間は讀書、或は定まれる日科、三時過からは友人知己の訪問、來客の應接、用が無ければ附近の公園を逍遙して其美を衒ひ馬車を驅りて何々公使の晩餐會、貴公子の夜會抔へ出かける夫故交際費が嵩んで子供の雜用までには手が屆かぬといふ風である。

◎獨逸の婦人は一般に實業で獨立生活の出來ない內は決して華美な衣服は着けさせぬ、子供の內は餘り目に付く樣な派手なものは與へぬ樣にする隨つて家庭向きのことも下男や下女の手を假らずドンドン自分で處理する、故に臺所へ出入する商人輩のお諂ッかを眞に受ける樣な馬鹿はせぬ、一錢、二錢の品物まで自身に出かけて行つて品物を選擇して買つて來る一般に女子の地位は男子に讓歩すべきことを覺悟してゐる。

◎米國婦人世界中一番女子敎育の進歩してる國は米國である、大抵は高等普通敎育の素養があるから、女子の中からは相當の文學者も出れば、科學者も出る、新聞記者もあれば辯護士もある、從つて其擧動活潑にして男子を凌ぐ、從つて小膽な男子抔は動ともすれば壓倒せられんとする勢ひ、本當に女子の言ふまゝに社會を改造するとせば男子は遂に其軛の組を結ばねば爲らぬかも知れない

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

家庭生活

當世妻君小言（二）

黑頭巾

(4) 辯護士の妻

まああなた、私共の稼業位ゐ、表裏の相違の甚だしいものはありませんよ、全く後ろ天神、前びつくりなのですもの。

定めし外から御覧になれば、赤門の出身、法學士で辯護士、郷里からは代議士の候補者に推されようと申すのですから、どんなに愉快な幸福なマダムぶりが内政を致して居るかとね……

住居だつてあなた黑板塀の冠木門に、一寸した洋風の應接室迄備はつて、金紋ゴム輪の車の二三輛はいつも玄關に乗り捨てゝある、食客だの、書生だのも五六人はごろ〳〵致して居りますし。料理屋の印袢纏を着て岡持さげたのがしげ〳〵と勝手口を出入をする。

と申す様な有様ですから、内情を御存じ無い方などは、ほんとに腕のある御主人をお持ちになつて、さぞ御滿足でせうとか、ほんとにうらやましいとか、さぞ申されますが、これは御無理もない次第です。

よそ様では決してこんな事はありますまいけれ共、手前共はなか〳〵火の車なんですよ。財政ばかりではありません、身持も餘りよろしい方でもありませんし、ちつとも面白くありませんよ、家庭の内情、親族間のごた〳〵、もう〳〵思つてもいやでたまりませんよ、私なぜこんな家に嫁に來たのかと今更悔いても追付くものでなくもう自分の不運とあきらめては居ますものゝ、時としては前後の考への出ぬ程苦しい事も度々ございますが、折角あなた方の御參考に恥を申上て見ませうか。

私はね師範の出身なのでございますよ、卒業後義務年限がありますので、しばらく某女學校に奉職致して居りました。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

其時はほんとに一番愉快でした、若い生徒達と朝夕に我世の春の長かれと、歌へるといふこと辱いといふ事のおもしろさは、此道にお入りになつた方は誰でも御經驗があるでせうが、もう月給なんて金錢上の事以外に、高尚な樂しみのあるものでありました。

其内に兩親の方で此縁談が持上りまして、昔し氣質の父ですから、自分の信じた事は遂行するといふ風で無論私も異論もなくて、二十四の春當家に參つたのでありますよ。

その當時は主人の考へでも稼業柄で人の出入も自然と多いし、從つて複雜な家事は、女學校卒業位な者では間に合はぬ故、今少し教育のある者をと望まれたのです。

家柄なり、血統なりは、充分に取調べを致して、大學在校中の成績、行狀も、出來るだけ調べましたが今から考へてもぞつと致しますよ。

お嫁に來てから一週間ばかりした後の事ですが家の樣子さへまだ充分にわからぬのに、突然と財產差押への處分を受けたぢやございませんか然しそれは今迄主人が關係致して居つた事業が中途で不振の爲めであつて、決して一個人の不しだらから出來た爲でないから、痛痒を感じる事は無いとすまして居りました。

里の父などは其度胸が末賴母しいと申て、却つてよろこぶ位、何が賴母しいのでせうほんとに私どうしようと思つて居ます内に、示談が調のふて事なく終りましたが、この時良人が「花嫁君嘸ぞびつくりしたゞらうね、だがあれ位の事は何でも無いさ」と申して平氣で居ました。

その内に訴訟事件の方も段々と可なりに繁昌して參りますので、淺い女心につい引込まれて其眞相を見拔く事が出來ないのでありました。

天下に名をなす人、政治にでも關係しようと云ふ人は品性の高潔な上に、どことなく豪傑肌のあるものだ多忙な生活の内にも悠々として閑日月を樂しむ大量な人よとうれしく思つて、眞誠のあるだけ盡して居ります内に、春の花はいつ迄も盛りでは居りません、無情

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

な嵐に散り〳〵になる時のあるもの、私共の方にもぼつ〳〵ぼろが現はれてまゐりました。

一昨年の秋などは、全く生活難の波に巻き込まれまして、月末の拂ひは出來ず召使の給料さへ滯るといつた始末で、今迄あり餘る程では無いけれども、つゝましく致して月々の拂ひなどに事を缺いた事の無い私はもうどうしようかと途方にくれてしまひました。

ほんとに、金錢上の事は夫婦間と申ても、妙に氣のさすもので、小遣がなくなりました。と申出る度毎にいやな顏をされる様な氣が致しますし、時には二十錢の銀貨にさへ事を缺ぐ様な事もありました。

一度や二度は待つても呉れますけれども、出入の商人だつて、月が重なれば、いつ迄も〳〵よい顏は致して呉れません。支拂がないので商人は申合せた様に品物をよこしません。

と申てこれだけの門戸を張つて居て、まさかにお米の升買ひも出來ませんからね。

田舎とちがつて、東京の桂庵から賴んだのですからどうも形勢不穩と見れば下女だつて足元のあかるい内にと歸つてしまふ。、何處へ泣き付く島もなし、立働きは覺悟の前ですから、朝から晩迄たすきがけで下女同様に致しても入つて來る大切なものが無いのにはつくづく閉口いたしました。

主人の方では、ちやんと當があると見えて來月の半頃にはと申て居りましたが埒があきません、仕方なしに誰に敎はつたともなければ、家政學のどの頁にも書いてはありませんが、一六銀行と取引を開始する様になりました、初めは出入の車夫の家内にそつと賴んで居りましたが、時々は自分で行く事もありました、ありませぬ私の衣服を行李に積めて持つてまゐりまして一寸八十圓餘り出來ました時にはこれが嫁入前に拵らへて頂いた時五百圓近くもかゝつた衣裳だとおもふと何だか涙がこぼれましたが併し又手柄のやうでもありました。

主人も見かねて實に氣の毒だけれど今しばらく待つて呉れと申ましてよろこばれて見ると、女ですわね、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

勿體ない事仰しやいますなんのこれ位な事をと申て一生けんめいに盡して居りましたが　折あしく母親上京するといふ通知が來ましたのですよ、勿論國元へそんな不ざまな事は話しも致しませんか



ら見物かたがた行くといふのを來て下さるなと申すわけにも行かず　新橋迄迎ひに參りますと、　家持ちになると、氣苦勢が多いと見えて大分にやせた樣だね、　といはれた時には、もう〱胸

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

が一杯になりました、今日はお天氣もよしするから、年寄の退屈しのぎに簞笥掃除をしてあげやうなんと申された時には胸に釘を打たれる樣に存じましたが、私共では不用心ですから、夏目樣のお土藏へ預つてしまつていたゞいて居ますからと、

生れて始めて親を僞はつた時のくるしさ、ほんとに御察し下さいまし、ほんとに內部の火の車を廻すつらさは、あなた方には御想像も出來ませんでせう。

母親は何にも知りませんから、數日滯在の後、まあまあそれで安心だ、さうして立派にやつて居て呉れると、國の人達でもどんなに面目がよい事であらう、とよろこんで歸國致しました。

其後或事件のために、一寸まとまつたお金が入りましたので、夫も快よく私の品を戻取して呉れました、長く苦勞をさせたと申て、いろんな物を求めてくれたり致して見ると。

いつそ大川の流れの樣に、平々淡々として居るよりもこんな工合に、いろ〳〵と變化があつた方が面白いと、だん〳〵と度胸が据つて平氣になつて參りましたが、

或時、奥樣にお目にかゝり致いと申て五十餘りの老婆がまゐりました、

何の氣もなく勝手の方に呼び入れて、話をきゝますと、これはどうも驚ろいた次第、噫々其事が萬一眞實であつたなら私はもう〳〵此家に居らぬと決心をして主人の歸りを待ちうけました。

其れはこの老婆の娘が、料理屋に奉公を致して居るうちに、まだ、主人が學生であつた時、關係をして居たのが、とう〳〵姙娠を致したので、仕方なく自分の家に歸つて女の子を產み落した後、月十二圓づゝの手當を頂戴して、外妾となつて居たとの事、然るに此頃は少しも主人が御寄りにならぬので、親子三人生活に困つて居る、それで段々人を以つて申入れたところ、二十圓のお金を下さつた切りで、一寸も御顏出しにならぬから、此上は娘の方にも覺悟がありますが、さしづめ子供は旦那の子故、幸ひ奥樣もある事故、引取つて

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

お世話をしていたゞき度い、とあつて、扨て附け加へていふには、手前共でも大切な娘をなぐさみものにされて、子迄產まされて、出世の妨げになつた、とんだ災難に合ひましたとの申狀。主人は夕方に歸宅致しましたが、私は頭痛が致しますといつて迎ひにも出ず、寢て居りましたが、今日の話しを致しますと、

主人は悉く赤面致して、全くすまぬ事をしたが然し子供はお前の來ない內に出來る樣になつて居たのだと苦しい申譯を致して後、實は云ひかねて居たのだが、子供は正しく自分の子である、女にはさつぱり暇を出すにしても、子供はこつちに引取つて世話をしたい、前の子として育てゝ與れと申ました、

けれ共私はこればつかりは出來ません、ときつぱりと斷りましたところ、夫は大變立腹してではもう賴まぬ、勝手にするからと申て、それから急に夜遊びを致す樣になりました、尤も今迄もお付合ひだと申ては待合入りをする事もありましたけれ共、此頃はもう箸にも棒にもかゝらぬ有樣です。

全く夫婦の間に堅い垣が結ばれたのですから、致し方がありませんが、もう〳〵出て行けと云はぬばかりに仕向けますのですよ、小遣を渡さなかつたり致すのはまだしも、

敎師上りの奴は氣がきかぬとか、まるで半狂亂の有樣、

私は男の心と秋の空と申しますけれども、こんなに迄立至つたのは何故であるか、頭の冷靜で、決斷力のある可き筈の夫が、私が出來ませんと斷はつた其心の判斷がつかぬ事もありますまいに、きつと他に理由があるのでせう。

けれ共私は出て行けと明言される迄は、たとへどの樣な目に合つても、じつとして居るつもりで居りますと。

苦勞は苦勞で共にしても、樂しみの共に出來ぬ程不愉快な事はありませんよ、私などは今迄にいつそ犧牲的に盡して來たゞけに、其反動かもしれませんが、まあ〳〵夫婦の愛は冷却してしまつたと申てもよろしい

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

でせう。

(5) 醫師の妻

紺屋の白袴、醫師の不攝生とは、よく申したものであると、しみ〴〵思はれます。

宅などは兎に角、父祖傳來の家業ですから、鳥無き島の蝙蝠かもしれませんけれ共、可なりに病家もありまして、婦唱夫和でやつて行けば、家作は多少にしろありますし、だん〴〵と面白く行けるべきですけれども、好事魔多しで思ふ樣にもまゐりかねて居ります。

主人は二男で家督は兄が相續致して居りますし、妹はもう他家に嫁いで居りますから、別にどうのかうのと申樣な事はありませんですけれどもね、

私は女學校だけ卒業致しました年の夏に、嫁になりましてもう八年になりますよ、

あの子ですかよく似て居ますつて？

まあ〴〵話しをおきゝ下されば、おわかりになりますでせう。

主人は赤門ではありません、岡山の醫學校出なんですが、私共の實家とは姻緣になつて居りましたので、望まれる儘にまゐつた樣なわけなのでございます。

父はもうほんとに好人物で、多く兄の方に參つて、時々私共へもまゐりましたり、至つてやさしい大まかな人でございますし。

母も世話好きな人で、姑なんて氣は致しません程やさしい人でありますから、當座は茶碗一つ洗はせも致さずに、

三度の食事は据ゑ膳で、主人の世話さへして居ればよいといつた有樣でくらして居りました、或時に岡山から參りました手紙を、主人が見て居りましたのを、私は何心なくそばに立ちますと、夫はいつに無く妙な顏を致して、

人が手紙をよんで居るのを見る必要はあるまい、と申ますの、はつと思つて私は後へ下りましたが、其後別に何事もありませんでした。

或日郡部の患家から、危篤だから急に來診して下さ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

いと申て參りましたので、二人引の車で無論一兩日歸宅せぬ豫算で行きました。

私は餘り書架が亂雜になつて居るから、かういふ時に整理して置かうと思つて、取りかゝりましたが事件はこれからなのでございます、

小兒科の本が面白さうなのでやがて母となるべき身には一寸見たい氣が致して、開けて見ますと、臺紙つかずの寫眞が二枚出てまゐりました。



一枚は解剖室の内部を寫したもの、他は三十四五の粹な眉の無いお神さんと、主人とが並んで撮影致して居るのでございます、でも私は怪しいとも氣づかず、以前の儘にして置きまして、そこを掃除した後、今度はぬぎ捨てた着物をたゝんで居りますと、くしや／＼と丸めた反古紙がありましたので、取出て見ますと

「此頃は何の御音信もなく、奥様をお迎へ遊ばした後

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

もう何事も申上は致しませんが、私共はもう此世に何の望みもない老ひ行く身、どうぞ昔の事を思ひ出して哀れと思つて下さるならば、時々どうぞ御手紙を下さいまし。奥様の御きげんが悪くては御氣の毒ですけれど」

なんてどうしてもたゞの手紙の文言では、ないのであります、けれども嫉妬は婦人の最も謹しみを要する事と、色にも出さずに過して居ります内に或時良人が申ますのに、

夫婦間に秘密のあるのはよろしく無いから、話して聞かせるが、僕が岡山に居る頃に下宿して居た肴屋で亭主が病死後妙な事から未亡人と關係したが、先方でも今にどうのかうのといふ譯ぢやなし、無論僕の方から好んでしたわけぢや無いから、あゝして與れ」と申ましたので、扨はと驚きましたけれ共打あけられて見れば、立腹も出來ず其儘にくらして居ります内に、

私は流産を致しましたのですよ

それで京都の病院に三ヶ月ばかりも入院を致してよくなつて歸りますと、

何だか妙に看護婦が、今迄とちがつて私に氣がねをする樣子に見えましたり、

良人が何となく其者をかばふ樣に思はれたり、致しますけれども、邪推をしてはすまぬ、今迄にずゐ分養生させて下さつたものを、と思つて居りますと、或時下女がひそかに報告を致しましたのは、

看護婦の吉村さんは、此頃威張つて仕方がない、奥樣の御留守中あのお鏡臺の前で、髮を結つたり、先生と診察室でくしや／＼お話しをしたりして居りました

そして着物を買つていたゞいたり、するもんだからほんとに書生さんでも、私でもまるで一文の價値も無い樣に頭ごなしに致しますと、

良人と看護婦の關係を自分共の不平から、はした無い無教育者の常として、申立てるぢやありませんか、

私は旦那樣が左樣な事をなさるものかね、

めつたな事を申すものでないと却つて叱り付けて置きましたが、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

だん〳〵と包めぬ因果の小車で、其女は良人のたねを受胎致したのでした、

今更仕方なく産をさせた上、子供は當方へ引取りまして看護婦には東京で産婆の修業をする事の出來る程手切れと申性質のた金を與へて、出しましたがその子があれなのですよ。

今迄も申上た樣に、

父や母は誠に親の樣で、勿體ない程私共にもよくして下さるのですけれ共、

良人の不品行だけが、私しの苦心の種子なんですの

私はいつも申ますよ、

女の貞操を傷けるのは、其罪が多く男子にあるのであるから、どうぞ普通の女などに手を出して下さるなお金で操を賣る女はいくらもありますが、例へ看護婦でも人の娘に傷をつけてすみませんぢやありませんかと、申ますけれ共

どうも此道ばかりは困つたものでございますよ致し方がありません。

此惡いくせが無ければ、私もこんなに泣に苦勞も致しませんけれども、人の子を自分の子として育てる一種の不愉快は何とも申樣がありません。



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

古今の和歌にあらはれたる
歳の暮

金子薫園

今年も此月一月で限りと云ふことになつた。諸嬢は今年中の出來事を振り返つて見て、樂しかつたこと、悲しかつたこと、取りあつめて、多少の感があらうと想はれる。年の終りは物を思はせる時である。しかし此時は、何人でも事の多い、忙がしい時であるから、凝つと物など考へて居る暇がない。此月位あわたゞしく過ぎてゆく月は無い。十二月だなと思ふと、いつか押し詰つて、煤除や、餅搗き、年を迎へる準備に大晦日は瞬く間に來る。その日になつても、忙しない心は未だ明日が新年の第一日であると云ふことを考へさせない。が、此日を名殘に靜かに暮れてゆく夕ぐれのひと時は、忙しい中にも、あゝこれで此年の日が盡きるのだなと云ふ心細さを覺えやう。此しばしの寂しさはすぐ又物に紛れやうが、つく〴〵身に沁みるものがある。諸嬢の中で、此暮の休みを樂しい故郷に歸られて爐邊で、都のめづらかな物語りに、一家春のやうな喜びに滿つるころでも、年盡くる日の夕ぐれに、背戸に出て、遠く炊烟の騰るのを眺めては、一種の哀愁を覺えずには居られまい。都會に在つては、此感じが僅かで忽ち物に紛れやすいが、田舍では邊りが靜かなだけ歳晩と云ふ感じが、切に又長からうと想ふ。しかし、その隣りには、何となく樂しさに心そゝられる新年が迫つて居るので、うら若い、華やかな心持には、直ぐそれに紛れて了ばう。大晦日と元日とは擦れ〳〵の背中合せに一夜の闇で、一方は暗く一方は明るく輝やかしくなる。年立ちて初日のうらゝかなのを仰いでは、誰か昨日のあわたゞしさと、舊年の返らぬ恨みを憶ひいでよう。机の上の一輪貰のにほひを吐く福壽草を眺めつゝ、古今にわたる歳暮の歌を誦むことにする。

○

凡河内躬恒

わが待たぬ年は來ぬれど冬草のかれにし人はお

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

とづれもせず

躬恒と云ふ人は、紀貫之と共に古今集の立者である。貫之の名が出ると、此人の名を屹度憶ひ出させる。で、此歌の意味は、待ちもしない新しい年はもう来ると云ふのに、丁度今冬の草の枯れたやうに離れて遠く隔つた人はふつつりと音信もないと云ふ意味、此人と一緒に迎へる新しい年ならば、楽しからうが、一人で迎へて、何の興があらうぞと、歳暮れむとして遠人を憶ふ心細さを詠じたもの。「年は来ぬれど」と云ふと、年が来たもの〻やうに取れるが、こゝはもう年が来ると云ふのに位に解くがよい。此歌の主眼は「冬草の」以下にある。比喩に冬草を取つて、霜からの寒い、心細い感じを與へた所をおもしろいと想ふ。初句と二句とにもつと情趣のある心持を寄せたら、此歌の價値はずつと揚つたことゝ思はれる残念なことをした。

○

雪ふりて年の暮れぬる時にこそつひにもみちぬ松も見えけれ　　讀人不知

これも古今集に出て居る。雪が降つて年こゝに暮るゝと云ふ時、松はどんな事があつても、色を變へないで、青々として居ることを今見て知つたと云ふのである。松の翠色が降る白雪に一きは目立つて見えると云ふのだ。此歌はよく人の節操の堅いのに喩へて引かれるやうだが、人事を引き合ひに出さずに、何處までも自然に観たい。松の色のたゞ青いと云ふことに、歳の暮のよろづ心細くはかなげなのを對ひ合せて、強い感じを持たせたいのである。

○

行く年のをしくもあるかな增鏡見る影さへに暮れぬとおもへば　　紀貫之

あゝまても暮れて行く年の惜しいことであるよ。曇りない鏡に映る自身の影までが、此年の暮るゝやうに老いゆくのを思ふと、堪へがたいものがあると云ふのである。歳の暮れるのに對して、身の老い行くさまを嘆いたのである。鏡を持つて来たのは、面白い。併し今日から観ると、老人の心持とするよりも、若い華やいだ人のまだ過ぎてゆく寂しみを鏡の前に述べるとある方が面白い。此種の公設展覧會に鏑木清方氏が此情緒のさまを描いたのを見たが、よく其感じがあらはれて居つた。鏡と云ふと、何うしても若い女人の方が感じが適切に来る。白髪頭のおぢいさんや、おばあさんでは、ちと始まらないやうに想ふ。

○

昨日といひ今日と暮して飛鳥川流れて早き月日なりけり　　春道列樹

これも古今集に出て居る。随分人口に膾炙した作で、歳暮の歌として、誰も知らないものは無いと云ふ位。解釋をするまでもないが、昨日

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

は既に過ぎ去つたが、今日もまた明日から見れば、過ぎ去つた昨日となるのである、かくて飛鳥川の水の流れて早いやうに、月日もいつの間にか過ぎ去つて、今年もかぎりとなつたのであるといふ意。飛鳥川は明日を掛ける爲めに用ゐたもので、大和の高市郡に屬して居る。すらりとした歌で、調子が素直な爲めに、多くの人におぼえ易からしめたのである。

○

われながら二心ある世なりけり春も待たれて行く年も惜し　　黒澤翁滿

平安朝時代から飛んで徳川時代に及び、先づ此作者の此歌を見た。近く春の來るのも待たれるが、また此年に別れるのも惜しい心地がする。つまり心持が二様に分れて居ると云ふのだ。「二心ある」と云ふ二句が此歌の山だ。四句と五句とは誰れでも起す感想で、めづらしくない。それを上の句で面白くしたのである。この上の句は自然な言ひ方で、イヤミがないから好いのだ。

○

たらちねの母の病も癒ゆときく思ふことなき年のくれかな　　木下幸文

これは他郷に出て居つて、作つたもので母の病氣の事を聞いた時、非常に胸を痛めたが、或る事の都合で歸ることも出來ないでゐたところ、全快の報せを得て、やつと安心したので、歳の暮に對つて、何の思ふ事もないとの意。他郷に出て居ると云ふ心持、母を想ふと云ふ心持、何れも此無雜作に詠み下された中に、歳晩の感じをよく表はして居る。「たらちねの」は「母」と云はむ枕詞で、意味がない。

○

くれぬとて松きる賤が斧の音のほと〳〵しくもなれる年かな　　清水濱臣

新年の門松の料にと生業に松を伐つて居る　斧の音のほと〳〵と云ふやうに、今年も押し詰つて來たことであるとの意。巧みな言ひ方ではあるが、「ほと〳〵しくも」（近く迫つて居る意）は「斧の音」を承けて、わざとらしく厭味である。單に斧の音が忙しげに聞えるだけで、外に細工しなかつたら、よかつたと想ふ。前の作者のやうに事を構へない方がよい。

○

いくつねて春ぞと待ちしをよびより身のかゝまれる年のくれかな　　蓮月尼

幼きころ幾夜寢たら、嬉しいお正月が來るであらうと指（をよび）折つて待つたことであるが、其折つた指からして、今は其の儘に腰が屈つて老い行く年の暮に會つたと云ふのである。尼、晩年の作である。三句と四句とが、此一首の面白味をなして居る。

○

同

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

春秋は夢野の小笹霜をへて一夜ふた夜となりにけるかな

春秋は夢の野に立つて居る小笹のやうで、夢のやうに過ぐして來たがはや霜を受けて、笹の一節二節が殘つて居る如くに、今年もう一晩二晩でかぎりになると云ふのである。「ひと夜ふた夜」は、笹の節を「よ」と云ふので、節に夜を掛けてかう言つたのだ。「夢野の小笹」としやれて云つた比喩が、少し廻りくどくて一首に徹つて居らぬ傾きがある。

○

柴の戶に落ちとまりたる樫の實のひとりもの思ふ年のくれかな　　同

柴の戶に落ちて來てとまつたきりになつて居る樫の實のやうに、年の暮にひとり淋しく考へ事をして居ると云ふ意。「落ちとまりたる」は奇拔な譬方である。しづかな境にひとりで凝つと今年の中の出來事を考へて居ると云ふ心持が、いかにも淋しく寫されてある。

年のくれの寂しみは、春の暮や秋の場合に起るものと違つて、過ぎ去つたあとの還らぬ事を憶はせる、一時は十重二十重とほぐしかねる糸のやうに胸にまつはつて解けないが、百八の鐘が鳴り終つてほの〴〵と明くる東の空に初日の影を仰げば、いつか胸にこんぐらかつた糸が不思議に解けて、物皆新であると云ふ感じを起させる。

○　　落合直文

ふたりまで親にわかれしうき年もかぎりとおもへば悲しかりけり

これは先師が母君を失はれたその年のくれに又父君にわかれて、行く年に對する特別の感じを詠まれたのである。四、五句は感慨堪へがたい心持が切にあらはれて居る。即ち二人までも親をなくした此樣不吉な年は疾く暮れて行けばよいやうなもの〻、今日で暮れるとなると、又此年にも別れなければならぬのかと云やうな感じが起つて、うら悲しいことであるとの意。

○　　佐々木信綱

一とせのをはりの夜半を尼寺の讀經のこゑのしづかなるかな

大晦日の晩に、尼寺で行く年を送る讀經の聲が、もの靜かに聞えることよと云ふ意。尼寺と云へば、直ぐ淋しい蕭やかな感じを起させる。秋の景色と取り合せて、あはれを詠んだ歌は多いが、歳のくれに結びつけた所に、作者の手柄が見える。いかにも、しつとりと物淋しい。

今の新しい歌人の作に歳のくれの景色なり、心持なりを詠んだものが少ない。詠んで趣がないかと云ふに、決して然うでない。他の季節に見ることの出來ない一種の淋しさ靜けさが籠つて居るのだ。

次には「新年」の歌を紹介する。

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

花の思出

うた子

庭の面に秋更けて、野薊の花も少うなりぬ。銀天の星の涙此世に通ひてか、小庭の秋草に露繁き朝なく/\、色とり/\の姿をめでゝは、今更に思出多き花のみぞ多き。あはれ過し形見のその面影、忘れ得ぬ物語も今更に胸に新しくて。

〇白菊

曾て姉とも親しめる人の在しき。逗子なる別荘に秋を病て、「死なん命を惜しけれど、只一目相見て。」とばかり。力なき筆にものいはせし文に我は暇なき暇作りて音なひしが、其節るまゝ、「盡きぬ名残を如何にせん。」とて、枕邊なる瓶の白菊一枝手折りて、痩せたる手して一つの花をかざし呉れぬ。雪なす色の目覺るばかりなるが、輪さへいと大きくて、頭重き心地さへしき。あはれ清き花の姿かなと見入れる友の、止むるをもきかず身を起して、「せめて窓によりて君が行く影を見送らん」と、看護婦の肩に手をかけつゝ、「亂し髪にかざゝんも惜し、せめては我も。」と殘る一輪を胸にさして、「夕の風の寒ければ、道の程も心し給へ。」とばかり涙ぐめる、揺れる手放さんよしもなきばかり淋しかりき。

門を出れば黄昏の色四方をこめて、早人の姿も稀なる中に、顧みすれば猶其窓にして立てる友の、姿もやゝにやゝに遠ざかり行きて、夕闇の中に只一つ、胸なる大輪の白く/\幻のごと見えたる、今なほ忘るゝ方なし。

かくて友は、幾日もなくて果なくなりぬ。我が訪づれを見給ひて、其母君は語り給ひき。「失せぬる際の清き様の、思ひ出づるにつけて一入胸迫りて。」と。「今宵や危きと醫師のいへる日、只波の音響けき小夜中を、眠れる目開きて、聲さへ凉しう、人々皆退き給へ。」とて、只一人母君を近う招ぎて、枕邊なる白菊一輪を乞ひぬと。母君は又宣ひき。「眞白き花の匂さへ高きを手にうけて、接吻するよと見れば、大なる輪は中ばかり顔を隠して、眉のあたりもほのかに、眠れる目さへ媚う、長き睫毛も美しかりき。餘りのさまに手を執りて、心地やよきと尋ぬれば、微にうなづけるやうなりしが、見る間に頬の色も褪れ行きて、眞白き花をさながらに萎り行きぬ。あなやと人々招きつれど早遅く、愛しきものゝ魂は早去りて、萎へる白菊の花取りのくれば、微けき笑ぞ顔に殘りし。」と。實に清くも美しき臨終のさまかなと思ふにいとゞ袖ぬれて、過し菊花の名殘ぞ何時までも忘れん方なき。

〇萩

世に只二人ばかり睦しうせる妹の、果なくも立つ秋風に世を去りては、袖の涙の何時乾く時あるべき。我は亡き人の又なき好める萩の一枝を土産にして、日毎に御墓に詣づるを務としぬ。斯くて一日は過ぎぬ。二日は經ちぬ。五日七日と經るほどに、怪しうも我が心を引ける御墓のさまよ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

誰がひを傷むる醜しものならん、日每に變る花の手向、今日白萩の清き色と見れば、明日は紅の新しきとうし其へて、一日も怠らぬぞ寄じき誠なる。あはれ如何なる人の情ぞと懇しきにつけて嬉しくて、主はと求むれど只しら露の置き添ふのみ。

萩の咲もうらがれて、力なく散る花ながら秋は暮れんとしぬ。今は誰にか亡き人の靈をぬ喜びを述べんと心を碎く時、一日又變れる御墓のさまに驚きぬ。懇しき人の塚を圍みて、誰が植ゑけん萩の幾株、咲せたる枝の花ながら、白に紅に裔名殘を見せて、懐しき姿のいとゞめでたき。我はわと呼びつゝ、馳け寄れば、枝に結べる一片の紙に又書かれつ。昔さたる文字もいと亂れて「此手向の萩の花咲かん年毎、永久に我がひな事け給へ。何事みなき身を今日異國に向ひては、生ある程は又此國の土踏まぬ我なれば、何時か再び此御墓を訪はん。さらば、さらば靜に眠りませ。さらば。」と。

我は直に誰逃らんとも知らず新橋に車をかりぬ。人の群集にまぎれて端に立てば、嬉しげなる人、悲しげなる人、百千々のひな其車に乘せて行くや一瞬の間を後に。我は涙ながらに其影を眺めて、幸おはせとはかり知らぬ名殘を惜しみぬ。慕ふ、懐しき君は必ず其車にこそと。亡き人の魂の如何で我が手を導かであるべき。其君も亦同じ跡に心ひかれて誰にともわかず其萩子を譲り給ひけん。

○梅鉢草

同じ樣に生ひ出し一株を、頒ち分ちたる我が花の年每に咲くに、蕾ながらに枯れしてふそれも君が幸なき行手の徴なりけん。伊香保の山より得來し梅鉢草は、秋を違はで今年も咲きぬ。其一株を分け植ゑし重雄の君の御行方は何所。見る每に花に置き添ふ露の繁きも、忘れかれたる我涙なり。

目に見えぬ人と人との緣の糸は、如何なる邊に其果を引くらん、見も知らで廿年近う過ぎ來し人と人と、計らずも伊香保の野邊に廻り合ひて只一株君が手にし給へる梅鉢草を、美しき花よ優しき花よと我の愛でしより、「さばかり御心に染まば、中を分ち參らせん。」とて、御宿りは何所我は某の温泉の宿になど語らひけるまゝに、我も「弟の友ほしゝ幸せは多ず。」と言葉交して別れしが、それよりは如何に此旅の樂しかりし、雨の日よく、月の夜面白く、新しき友と隔てなく睦みては、一月の程も夢と過ぎて。

重雄の君は、我より二つ年下の弟に在しき。御住居も同じ都の内なれば、其旅より歸りし後も親しうし給ひしが、弟とは二つなき友と睦みて我をば姉と呼び給ひき。

翌る年の秋、雨いと繁き夕、例のこと音なひ給ひしが、弟の在らざりければ、其儘我部屋に來給ひて、「御手に分ちし梅鉢草は、此秋を花や開ける、同じ一株の草ながら、我が花園に植ゑしは、芽も出さで枯れ果てぬ。」と、例ならず聲も打ち濕りき。「そは甲斐なき事しけるよ、こたびは此方の根を分ち參らせん。」といへば、「否、幸なき行手持てる身には、如

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

何に堵ぶとも花は咲かじ。」とて、初めて涙の父君は早く亡せ給ひぬるよしの悲しき物語を聞かせ給ひぬ。雨の音繁う窓をうちて、只さへ小暗き部屋の中に、燈火に面そむけて嘗涙を拭ふ若人を見ては、如何に我袂を絞りけん。同じ女に在さば、此儘御手執りて共に泣かんものを、さりとは甲斐なき人の世の分ちかなと思ひ歎きしが、流石に君は男に在せばか「よしなき事に姉君を泣かせ參らせしよ。人の運命の行末は神ならでは知るを得れば、益なき事に思ひ歎んより、只其導の御手のまに／＼、己が手して開かんよりは詮なし。歎き給ふな。姉君も近くめでたき人に嫁ぎ給ふと聞けば、只其梅鉢草のごと幸多き行末を花さき給へ。我は今宵の嬉き御言葉を身にしめて、自ら我が行手の幸を作らん。」と雄々しうも宣ひて、只さりげなく歸り給ひき。

斯くて秋も暮近うなりぬ。梅鉢草の花は大方散りて、殘る一つぞ秋の形見と見る時、思ひもかけぬ一片の便を得て、我は如何に驚きけん。裏書には只一首梅鉢草の歌書きて、「我が異しき門出の途より。」と、別れの言葉記したるのみ。名は無けれど、人は彼の君、所は神戸と、筆と消印とより推せられぬ。

あはれ懐しき人の行方よ、今夏にして其夜の宵の窓に、自ら幸を開かん門出とは知れど、何所の里に此秋の月を見るらん。餘りに懐しき思出の花と又此家に移し植ゑし梅鉢草の、幾年の秋を恙なく咲けど、分ちし人の便だに聞かず。我が見る毎に注ぐ涙の思出も、其在す空に通ふや如何に。

○紫　苑

「……温泉の宿の小庭にして、ゆかりの色の花蔭に見し君が面影……」色褪せし紫苑の花を中にこめて、美しき水莖の跡も亂れ勝なる玉章の我が手箱の底深う今も藏ると。

去し一年の秋を箱根の温泉に共に遊れる芳子の君の、明日ぞさる君に嫁ん夕、「心に染まぬ緣の糸を結ばん我の、よしや身は生くとも、心は今宵を限りの命なり。御共に樂しかりし過し日の思出よ、其所にして得し此懷しき胸の形見は誰に止めん。さながらに、姉君を慕ひ參らす君にこそ。」とて、許に記せる名のみわざと削きて、手づから我が手函の奥に納め給ひき。

あはれ戀しき友の形見よ、よしや其御名は今なくとも、優しき人の面影は心に知りぬ、叶はぬ戀の闇に迷へて、若き命を失せしといへば、そを聞ける友の心や如何なりし。まして其日まで包める胸の苦しさを思へば、雄々しき心も偲ばれて、悲しき人の運命の痛しきかな。

あはれ其友、今も尚三年を病みて西の國に在すと聞くに、何時の日か身も心と共に露と散りて、此水莖の主の後追ふらん。年毎の秋を同じ花は咲けど、秘めたる形見の一日々々褪せ行くぞもの憂き。

○吾　亦　紅

秋の野のとり／＼なる中に、吾亦紅ぞ我にはとりわけ思出多き。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

自ら花の奴と稱し給ひし祖父の君は、數多き秋草の中にも此花の飾らぬ樣をめでゝ、秋毎に庭に其姿を喜び給ひき。幼かりし其昔よ、水やり給ふ邊に遊べる我を顧み給ひて、「汝は女の身なり、何れの花に似んと願ふ。」と宣ふに、只「萩の美しきにこそ。」といへば、「其姿の優しきもよしさりながら、此吾亦紅の風情を見ずや、何美しとはなけれども、見るまに倦かぬ面影の偲ばれて、捨て難きは如何に。秋の七草のとりぐ\に花よき中に交らひて、同じ譽をうくるも其德なるべき。女の身は、見目美しからんより、此花のごと包める風情の床しきぞよき。」とて、惜しき一枝を賜りしもはかなき思出なりかし。

懷しき昔の夢は甲斐なくて、覺めたる後のなど斯く悲しき。兄妹數多き其中にも、祖父の御情は我にのみ厚くて、宵々の昔話も其御膝の上に聞き參らせしを思へば、今將た御面影の偲ばるゝかな。

其夜も月清き宵なりき。御病篤ければとて幼きは皆離亭に遊びしが、何の用ありてか我のみ彼方に歸り行きて、御臥戸の廊過ぎ行きしに、「雪は」と微に尋れ給ふ御言葉の内より洩れければ、我は障子朗らかに開きて驅け入りき。御手に縋りて、「祖父の君」といへば、「汝が愛しき姿を見んも今日を限りぞ。祖父が敎を守りてよき女となれよ。」と宣ひて、淋しき御笑顏ながら眠るが如く亡せ給ひき。

あはれ悲しき其夜の思出よ、庭の吾亦紅花咲く毎に其御姿偲ばれて、其御姿偲ばるゝ毎に「包める床しさ」と諭し給へる御敎の心深う思はるかな。あはれ又秋飾る其花の一枝、今日ぞ御墓に手向けて幸多き身を捧げ參らせん。

◎持參金

A「夫では君の細君は持參金を當に貰つたンだれ、
B「勿論さ、
A「ウム、して如何位持つて來たれ、
B「少つとも
A「なかしいぢやないか、如何云ふ譯でれ、
B「君あつたら外へ往くつもりだつたさうだよ

◎豫想外

金が拂へない時には此方から往つて言譯をするのが一番好いと聞いて私は出掛けましたよ、夫れ第一番に魚屋へ往つたが主人が不在でした、夫から米屋へ往つたら、茲でも亭主が留守、家主酒屋、薪屋とヒ八軒を廻はつたが皆留守、是から明日來ても昨日持つてつたに居なかつたからと言へと大安心をして家へ歸つて見ると、豫想外にも大勢の客、誰かと思つたら、今歩いた方々の主人達。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN


もみのきれ衣襷のきれはらませし
張板ふきぬ小春日のかげ

クラスメートの評判記

覆面記者

三十餘人の同級生のうちから選り出した十人の評判記、あんまり素破ぬいて失禮ですからほんとうの御名前だけはおあづかりにいたしました。

△富子樣

筆頭第一に記すだけあつて三年間の優等生、級長を二年間も務めた人、何の學科もお得意の諳誦で書物の通り丸のみ込、クラス一の勉强家です。辯舌さわやかに淀みなく答へる處は誰にも眞似の出來ない事、先生親友、普通の朋友と先は三段に言葉を遣ひわけて、人をそらさぬ其口前、腰の低い事、されば如何な先生でも富子樣〳〵と御信用あつく、殊に受持の先生と來たら富子樣ならでは夜も日も明けぬ大さはぎ、人も斯うまで賢かつたらと今更ながら自分の愚が悲しくなつて御全盛の程お羨しう存じますわ、然しあまりお口前がよすぎるので却て其心が量りかね、先生方の御信用に引かへクラスの人望はありません。

ちと僻見かは知れませんが、たゞ一番になりたいと云ふヴアニチイの心ばかりで勉强して居らつしやる樣に見えますね、學科はよくお出來になりますが裁縫と數學がどうやら思はしくない樣です。

△松子樣

全校は愚か他校の生徒も知つて居ると云ふ評判者、お腹にそれ程惡氣はありませんけれ共、何しろ、新入生で一度此人に泣かされぬ人は無い位、思つて居る事は誰れの前でも憚らずポン〳〵云つてしまふのです、松子樣と當番にでもならうものなら、御自分は教場日誌でも書いてすまして居らしつて、厭な事は何も彼も人にさせるのですもの、其上『貴女ほんとに氣がきかないのね』位云はれぬ事は珍らしくないのですわ、同級會の相談の時なぞ何時も色々文句をならべて皆樣を

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

困らせる、先生始め同級生の持てあまし、先づ當らずさはらずに居るのが何より、學科は遊んでばかり居らつしやる割合によく出來ます、作文や習字は中々うまいもの、大嫌は裁縫。

△花子様

クラス一のバンカラ、流石の御母様が「お前の束髪は何處にも類がありませんよ、マアも少し前髪を出して横櫛でもさしたらば……」と仰しやる位、腦がお惡いので學科はあまりお出來になりませんが裁縫は級で一二と云はれる程、書と畫がお得意、何事にも熱心なのは少し眞似たい事ですが何かにつけて御兩親から御兄姉の御自慢ばなしを聞かされるのは閉口ですわ、見かけは極く人のよい方の様で居てちよい〳〵と底意地の惡い事をなさいます、富子様とは内心大にスレ〳〵ですと。

△八重子様

睫の長い二重瞼のパツチリした目、高い鼻、色がお白いので一段と美人に見えます、少し赤いお毛でフツクリと前髪をお出しになつた處はどう見ても西洋式の美人ですね、それ故クレオパトラと云ふ異名、其上丈がスラリとしていゝ御姿なので畫の先生の御花です人物寫生の時なぞ「八重子様貴女モデルになつて下さい貴女はいゝ姿だから」なんて仰しやるので、他のお多福連いさゝか面白くないですね、英語が大のお好きで裁縫が大のお嫌ひ、ちと自分勝手をお愼しみになればよい方です。

△きみ子様

八重子様のキリツとした顔形に反して丸顔の温和しい美人、惜しい事に髪の毛に癖がありますけれど、それでもハイカラに束髪になすつて、何の學科もよく御出來になりますが殊に英語、圖畫、裁縫、習字はお得意、畫の先生のお花です、品格があつて温和しやかで外見は大家の令嬢と見えますね、併し裏にまはれば口の惡い事、意地の惡い事、クラス一、松子様の仕打も

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

半ば君子樣の入智惠と知れては（蛇くふと聞いて恐ろし雉子の聲）とでも云ふところですかね、中々油斷は出來ません。

△うめ子樣

富子樣とは羨しい程の御親友、癖のないお毛で何時も見惚れる樣桃割れに結つて入らつしやいます、學科の中では修身、國語、數學が、お得意修身の先生のお花又富子樣と共に受持先生の御信用があつい。

△美代子樣

各學科の點數が平均して



居るのではクラス一、最もお得意は裁縫です、御家庭が圓滿でない爲めか少しヒステリーの樣で、今面白い事を云つて人を笑はせて居らしつたと思へば、何が御氣に入らぬか原因もわからないのにブツ〳〵して居らつしやる事があります、此樣な時には平素親しくなさる方とは口もお聞にならないで他の方と樂しさうになさるのです。皆樣が召物のお談でもなさらうものならそれは御不機嫌で、「私なんぞ着物の御談は出來ませんわ、」とついと立てておしまひなさいます。ドウかして僻

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

んだ心をなほして上たいと何時も思つて居ります。

△靜子樣

クラス中靜子樣程御深切でよい方は御座いません。御宅は有名な財産家で何御不自由ない御身であり乍ら御兩親共居らつしやらないのです、色々御家庭の御心配がおありの樣ですが學校では何時も元氣よく笑つて居らつしやいます。學科は普通。

△英子樣

八重子樣に尋いでの美人、キリヽと結んだ口元、意志の強いのを示して居る、何時も品のよい束髮に薄色リボンか銀の横ざしを淡泊り、花ならば野菊か白萩といふおつくり眞のハイカラですね、御母樣がお喪ひなさるので何かにつけて御心配が御ありの樣ですが、靜子樣同樣元氣よく笑つて居らしつて、御不機嫌なお顔を見た事がありません、柔和で優しいお生れつきしかも剛毅なところがあつて、誰彼の別なく御交際なさる御利口さ、人望はクラス一です、御弱いので缺席の多いのにもかゝはらずよくお出來になります。英語、國語、習字、音樂が御得意、中でも英語のリーディングと唱歌の獨唱は校一とうたはれて居らつしやいます。

△やす子樣

エンゲーヂメントが御國に待つて居らつしやるから卒業なさればすぐスキートホームを御作りなさる筈ですのに、「私卒業して國へ歸へるのが何より厭ですわせめてもう一年當地に居たいけれ共」としみ〴〵有仰る如何いふ譯かと内々伺つて見れば、滿身の愛を捧げて居らつしやる戀人がおありなのに義理にせまられての許婚、御互ひの身の爲めと未來を契つて戀人は米國にやす子樣は當地の學校にと三年前お別れになつたさうな、來年の暮は其戀人が御歸國ださうですよお樂しみ一番身體が小さくつて一番大人びて家庭の事には甚だ趣味をもつて居らつしやる、動もすると、「私二三年の後には模範的な家庭を作つてお目にかけてよ」なんて眞面目で有仰る、クラスの氣取り屋ダンスの時なぞお目にかけたい樣ですわ、御得意は裁縫に數學。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



長崎料理十二ヶ月

崎陽　桑原東涙女

一體料理と申しますと、御客様でも御出遊した時の御馳走の様にも聞えますし、又料理屋か仕出屋からでも御取寄になつた物でなくては、他人様への御馳走にはならない様に思はれてをります様ですが、何方様に致したところが、其都度店屋に馳付けて參られるものでもなし、又今日の暮向から申しましても、左様々々は許せないので御座いますから、勢ひ巳を得ず、御宅で御手料理を遊して、御間に合せなさらねばならぬ事となります。左様なると多少庖刀の使方や、魚とか肉とか野菜などの調理方や、味の加減位は御心得遊ばさねば、イザといふ場合に御役に立ちません。それで平常から何かと御心掛遊ばす様になさると、他所に御出になつて、御馳走を御受け遊ばした節も、其調理方に御注意遊ばす様になり、之を御宅で御試になる、又之を應用して外の物を御工夫になるといふ風で、自然と調理といふ事に趣味が出て參ります。それに左様なさる方が毎日の事に致したところが第一御徳用でもあり御調理になツた品が、滋味出來ますから、食事の度勝の上の御話が、何位樂しみを増すか知れません。結局一家團欒の樂を求むる基とも申す可きで、家の内に平和な生活を送り、福德圓滿を招きます原因の一ともならうかと思はれます。

此頃は料理の御稽古が大流行になりまして、何處の女學校でも此課目を加へられ、その上彼處にも此處にも、やれ講習會だの、やれ研究會だのと、それは〲御盛な事で御座います。結局多少趣味が出て來たのと今日の必要に迫られて來たのかと思はれます。しかし料理と申しましたところで、眞魚箸の使方を御習になり、鯉の生作の御稽古が濟んだからとて、之で料理が

出來ると申す譯でも御座いませんし、直樣之を家内で實地に御行りになる譯にもまゐりません。之は只云はば理論とでも申すもので、それよりも實際に行ッて見て、出來易く、御德用で、見格好が好く、滋味くて衞生に適ふのが肝心で御座いませう。それ故何でも毎日の活計を土臺と致し、種々の用事を辨じてまゐります片手間に、其期節に應じた材料に據りまして、御德用で滋味物を工夫致す事が大切です。實際一家の主婦となりましては、種々の用事のあるもので、左樣日がな一日御菜調理に掛り切ッて居られるものでは御座いませんから、別段に時間の掛らない事でなくては、行り通せるものではありません。して見ると結局る處、御惣菜物を土臺として、多少風味の變ッたものを時々加へてまゐり、日々の御膳の上に變化を爲せ、且ッ賑はしくまゐりますのが、主婦たる人の御働で御座います。實際少し注意さへ致せば、只一度に食べて仕舞ふにも足らぬ物でも、二度や三度に使へるもので御座いますさうなりますと、一事が萬事、物事に氣を附けますから、浪費といふ事がなくなりますし、又非常に興味が出てまゐり、自然一家の御爲になります。

例へば晩の御膳に、おさしみにお吸物に、何か別に一品添へたいと思召して、其日の午頃參る魚屋におさしみを作らせ、それにお吸物種の魚を御取りになり、又煮物に致すものを何か八百屋から御求になるとすれば、只今の相場にして、おさしみ御夫婦二人前で三十錢、お吸物種も別にお求めになれば、松茸に靑味を加へて十五六錢は消て仕舞ひますし、煮物にしても、少くも五六錢の材料は要りますから、晩の御献立を積りますと、五六十錢は譯もなく懸ッて仕舞ます。しかし多少お魚の調理方を御心得になッて居らッしやる方ならば、魚屋の持つて參ッた魚の中で、御自分が如何いふ樣に使はうといふ考を御附けになつて、一番使ふのに都合が好くて、使ひ出のあるものを御撰みになりますから、假りに一斤四十錢といふ高價の鯛を使ひましたところで、片身をおさしみにおろし、頭は汐と致し松茸二斤宛に靑味少々を見計ッてお吸物とし、殘りの

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

骨付を切味として、煮るなり、焼くなり致し、尙ほ其日限りに使果す筈は御座いませんから、殘餘は翌日のお惣菜に何か野菜物を添へまして、アラ煮の材料位に致します。さすれば一斤四十錢の鯛は隨分高價なものですが、使方次第で、二日間の用を足しまして、添野菜を十錢と見積ましても、二日で五十錢、一日が廿五錢宛で滋味物が食べられる譯です。之を只今の期節で御座いますと鯛でもお使になれば、調理方こそ多少違ひはありましても、僅二十錢かそこらで二度の用を足す事となり、非常に御德用で、お口に適ふ物が出來ます。何でも其材料に應じて變化させさへ致せば、先づ此樣な風に安上りになるもので、御自分でお手を下し



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

御工夫さへなされば、確になさる丈の得はあります。

そこで別に目新しいといふ程の事でもありませんが長崎邊で日々遣つてをります料理の中で、御徳用であり滋味しくもあるといふ様なものを、其期節に分けて御話し致す事と致しませう。之を日常のお惣菜に應用遊して滋味物が出來ましたら、何よりの仕合と存じます。

今月は行交ふ人の足音にも知れるといふ誠に忙しない時で、皆様方も悠然と他人様の處に御話遊ばしてゐらつしやる譯にも參りませんから、何の地方でも別に大した御料理はないもので、一通りの期節物と、御正月の御仕度位なもので御座いますが、先づ長崎邊で本月に入りて普通致しますものは、

◎金頭の白味噌汁

當季に入りましては、彼地では此魚が非常に多く、上品で、御格好ですから、種々に此魚を使ひますので蒲鉾、半扁まで之を種に致します。此汁を拵へますには、金頭を開らきまして、尾頭を附けた儘、中の骨丈を拔き取りて仕舞ひます。勿論鱗は始に綺麗に挽いて仕舞つてから開きますのですが、此様に致しますと、御客様の御食りになるにも勞すところが少く、それに尾頭を附けて置きますのは多少敬意を含んだもので第一見綺麗です。それから淺い目笊か何かにお魚を並べて、水を切りて置きますうちに、白味噌を摺りて、味噌汁を立て、その沸騰たところへ、金頭の開きを入れまして、今一度之を好く煮立てます。此汁は可成濃く立てる方が、味が宜しう御座います。煮立ちましたら、三葉の芽秋を少し計入れまして、直ぐ下して仕舞ます。或は椀に注ぎます時、三葉を二三本入れて、上から煮立ッた汁を掛けても宜敷く、此方が御客に出しますのには、却つて格好が好い様です。尚ほ香に柚子を一片浮かせるか、椀の蓋の上に乘せて出しても宜敷う御座います。之は至極簡單な物ですが、味が好く、自宅用にも御格好で御座います。

總てお汁類に魚をお入れになるには、其肉の軟で崩

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

れ易くないお魚ならば、可成此様に、中の背骨をお抜きになる方が、煮るにも火が通り易く、椀の中も召食つた後で見苦しくない様で御座います。之を應用遊ばして、金頭に限らず、上品な輕いお魚を撰んで御使になれば、相應な御料理が出來ます。

◎烏賊の[illegible]煮

之は尺八烏賊と申す烏賊を使ひますのですが、大きな烏賊なれば差支はありませんから、黒烏賊を用ゐても宜敷御座います。先づ烏賊の墨を好く抜きまして、鹽を附けて肉の破れない様に洗立てますと眞白になります。そこで烏賊の足を切取つて置き、別に玉子を鉢に割つて白味と黄味を分け、黄味丈を白砂糖と鹽と、それに酒を少々入れまして、全く汁氣の無い様に煎ります。之は烏賊の大小に依りますが、烏賊一匹に玉子の黄味二ッ分位の割合です。そこで煮上げました黄味を、烏賊の袋の中に詰め、序に足も黄味に包んで入れます。併し袋に一杯になる様に詰めますと、袋が切れますから、八分目位に入れて、糸で其口の處を括ります。扨て之を白砂糖に鹽を加へ、酒を注し、好く鹽加減を見た中へ入れて煮、煮上ッたら皿に移し、其冷却るのを待つて、三四分位に切りますので、切口が渦卷の様に見え、手際が綺麗に上り、味も宜敷御座います。それに赤蕪を鈴蟲切にして、チョット鹽にて揉み、三盃酢に漬け、味の附いたところで、袋煮の添物として粧點ふと、誠に手綺麗な御料理になります。鈴蟲切と申しますのは、蕪を三四片位に切り、其切目に縦横に庖刀を入れまして、碁盤目を附ける事で、東京でも能く皆様のなさる事なのです。

◎手輕な煮物

其他種々惣菜物も御座いますが、多くは煮〆めたもので、其の少し汁氣のあるのを煮物と申します。亦甘煮とも申します、全然汁氣のない、カラ〳〵に煮上げたもので、東京の甘煮と同じ事で御座います。只今の時節の煮物は、蕪と、骨共に刻みました鳥肉を、

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

銀杏の實と、木耳とを、砂糖と醬油に酒を入れました汁にて煮ますので、砂糖はホンの少しで、食匙で一匙位、酒も盃に一盃位で澤山です。棗は只煮ますと、誠に藥臭くなりますから、最初に棗の目に切りて湯煮で、其湯煮汁を捨てゝ、鷄肉を入れ、銀杏の實の殼を割り、砂焙で煎ッて甘皮を採り、木耳も水に浸して軟くして水を切り、共に鍋の中に入れて、能く煮ますので、煮物としては滋味いもので御座います。

◎除夜の福大黒

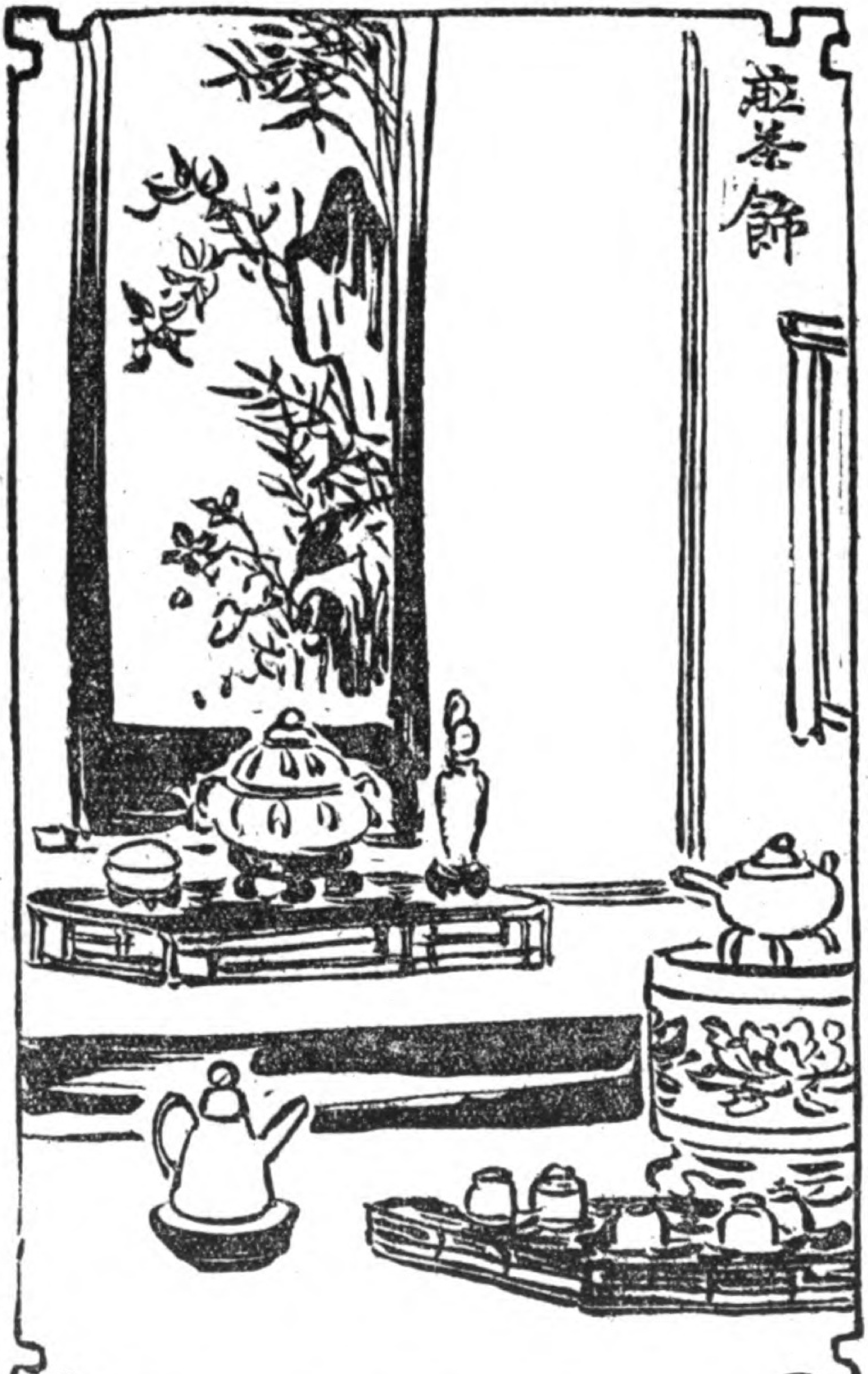
ずいと押詰つて除夜になりますと、長崎獨特の御料理が種々御座いますが、其内でも一寸面白いものは、福大黒と申しますもので、古來よりの習慣で其一家族の者だけに食べさせるもので、決して他人には御馳走致さぬ事となつてをります。福を他人に取られまいといふ慾張根性の御幣を擔いだものらしう御座います。福大黒と申しますと、大層緣起の好い名ですが、之れに河豚を使ひますから此の名が起つたのです。長崎邊では河豚を殊の外珍重致しますが、之をフクといひますから又福と轉じさせ、それに大根を添へますから之も大黒と訛ッたもので御座います。之には干河豚を用ゐます。河豚には種々種類がありますから、危險な魚で、生では經驗のない者は、決して調理致しませんが干したものは少しも中毒致す事はありませんから、安心して使へます。そこで干河豚を白水に浸して、軟になりましたら、程好く切り、湯煮溢しまして、松魚節と醬油と、砂糖多分を入れ、それに酒を加へまして、汁が飴の樣になる迄好く煮込みます。結局味が甘くして少し鹽氣のある加減に致すのです。煮上ッたら、河豚の肉丈鉢に取分け、其後で大根を七分位の厚さに丸切にして湯煮たのを其汁で煮て、干河豚の煮たのを、皿に取ッた時、其側に添えます。此料理は大晦日の晩には、何處の家でも、舊家では乾度拵へますもので、其味は又別段ですが、若し干河豚のない場合には、棒鱈を使ひます。倘何の家でも拵へますものは、芥子齏で、是は火除の呪で、是非々々しなければならぬもの

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

と致してをります。

◎火除呪の芥子韲

此習慣は一向譯が解りませんが今日に至るまで行はれてゐますもので、先芥子を擂きまして、白味噌に交せ、砂糖を程好く混じ、お酒を盃に一盃位入れて、擂交ぜておき、別に人參を笹の葉切に致し、唐人菜又は松魚菜を極ザット湯煮て菜を小さく刻み、大物（鯨の事）の「湯煮物」といふ白味の處を短册に刻み、右の三品を前の味噌の中に加へ、混合せて皿に盛るので御座います。又鯨を御嫌なら、烏賊を湯煮て使つても宜敷御座いますが此鯨を色々に使ひますのが長崎料理の一の特色で御座います。



◎大魚の「おさしみ」

大魚と申しますのは、鰤の事で、之に酸味噌を附けて食べますので、妻は白髪獨活に限ります。一體に長崎では鰤を珍重致し、何事にも使ひます。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

○酸物は鯨の百尋

鯨には其肉に種々の名がありまして、白味とか、赤味とか、又「セジカラ」といふのもあります。此「セジカラ」といふものは鯨油を搾取りました肉の事で、煎じた殻といふ意味かと存じます。又前にもあつた「ウデモノ」といふのは鯨の皮に近い赤味と白味と段になつてゐるところの肉を、湯煮たもので、肉も軟く、味も宜しく、料理致すのに手が掛りませんから、大概之を使ひます。又百尋は腸の事で、能く洗つて湯煮て用ゐますが、鯨の肉の中で一番風味も好く、値段も高いもので御座います。以外「オバヤキ」だの、雑巾鯨だのと、種々な名が御座いますが、酸物には百尋が、一等で、之を極薄く切りまして、橙子酸で食ますので、なかなか結構です。附合は赤蕪の花切を添へます。

○吸物は玉海老に限る

當季節の吸物では、先づ玉海老が宜敷う御座いますが、之は東京邊でも手易く出來ます。尤も車海老なら此上もありません。又芝海老でも、河海老でも構ひません。で海老を求めましたら、先づ殻を採り正身計と致しまして、擂鉢の中で潰し、之に山芋を擂つたのを入れて繋と致します。山芋の繋は味が輕くて宜敷いのですが少く堅固になさらうとする時は、之に少量の米利堅粉を加へますと、堅硬と出來ます。尚ほ見綺麗にするには、別に海老の身の潰さないのを殘して置いて、圓める時一二尾宛上に蓋せますと、煮上つてから其處丈赤くなつて見事です。此樣にして繋を入れたら、少し宛圓めて團子とし、別に松魚節を水から入れて好く煮出して、酒を一二盃分量に應じて加へ、其後醤油を注して加減を試、今一度煮立て、煮出汁を漉しますと、之でお汁の仕度が出來ますから、以前の玉海老と尚ほ鯛の身とを入れて又煮立て、煮立つた處へ湯煮た鳳蓮草を青味に入れます。それからお椀に移しますには、玉海老一二箇、鯛一片、それに青味を少し入れ、汁を注いで出します。これは品物次第で、値段は高くも安くも出來ますから、お惣菜にも、御客膳にも附けられまして、誠に滋味もので御座います。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



鳥類の本能と智惠

森下巖

「人は萬物の靈長である、人より以外に智惠を持つてゐるものも、道理を辨へてゐるものも無い、偉い者は己達ばつかりだ」と云つたのはもう昔の事で、近頃は彼方此方で鳥や獸にも智惠があるといふ事をいふやうになつて來た。雖然よく考へて見ると、鳥や獸には生れながらの本能作用といふものがあるから、色々利口さうな事はしても、何處迄が本能作用か、又何れ丈の智惠であるかは、隨分解りにくい事である。例へばユイダー、ダックといふ雁に似た水鳥は雛が水へ入るのを嫌ふ場合には夫を背へ負つて池の中へ泳いで行つて、好い加減の所で不意に水中へ潜り込む。すると雛は仕方がないから自然と泳ぎ初める。といふ風にして親の務を全うするといふことである。これなどは本能でするのか、智惠があつてするのか、一寸判斷に苦しむのである。

△記憶力のある鳥

それは兎に角、先づ鳥に記憶力があるといふ事からお話すると、之れは鸚鵡を見れば直ぐ解る事で、詳しく云ふ迄も無いが、尚ほ一二の例を擧げて見ると、目白や百舌、頬白なんどを二三年も飼つてゐると、自然と慣れて來て籠を開けてやると、外へ出て行つて自分で餌を拾つて、お腹が一杯になると何時の間にか籠へ歸つて來る。中には一人で籠の口を開けて、出入をするのもある。又鴉も中々利口な鳥でウィルソンといふ人の著書の中に斯んな事が書いてあつた。ある人が三年餘り一羽の鴉を大切にして飼つてゐたが、ある日どうかして夫を取り逃して終つた。非常に殘念に思ふて

附近を探したが、一向に見當らない。仕方がないので締めて居たが、それから十一ヶ月も經つてゐる日の朝、附近の川緣を歩いてゐると澤山の鴉が自分の頭の上を南の方へ飛んでゆくので、顏を上げて夫を見てゐると、不意に一羽の鴉が大勢の中から飛び降りて來てその人の肩に棲つた。はてな？ と吃驚して見ると、一年餘りも前に取り逃した鴉である。でその鴉は又肩を離れて四邊を飛び廻り乍ら嬉しげに鳴いてゐたが、暫くして又群を追つて飛んで行つたといふ事である。又鸚鵡は寢て居ながら口癖になつてゐる人の名などを呼ぶ事がある。之れも記憶力のある一例であらう。

△巧者な餌の求め方

一般に鳥は餌を求める場合に中々利口い方法をとるものである。と言つても無論人間のやうに立派な智識があるといふのではない、難しい理窟を考へるといふのではないが、例へば鴉は市中や道路でパンの皮などを拾ふと、それをくはへ乍ら水のある所へ飛んでゆくこれは堅くて食べられないから、水に浸して軟くするのである。又鷗の一種のパーリング、ガルと云ふ鳥は雀を捕へるのが上手だが、それを捕へると先づ暫く、水の中へ投げ込んで置く。そして好い加減に濕り氣のついた時分に呑み込むといふことである。

△驚くべき名案

又鴉や鷗は海岸へ行つて、貝を澤山拾つて食べるものであるが、その堅い貝の殼を奈何して碎かといふと、彼等は先づ貝を嘴で銜へて高く空へ飛び上り、好い加減と思つた所で岩の上に夫を落す。すると殼が岩に當つて碎けるから、中の肉を摘んで食べるといふ樣にしてゐる。一度で碎けない場合には二度でも三度でも碎ける迄は繰り返してやるのである。お日和の好い日なんどに海邊の岩の多い所で數十羽鴉が飛んでゐるのを見る事があるが、これは皆せつせと貝を碎いて居るので暢氣に遊んで居るのではない。又兀鷹といふ鳥は色んな骨を拾つて來て矢張り同樣の方法で中の髓を食

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

べてゐる。此等鳥は地中海の海邊にも澤山に居る樣であるが、此處にゐるのは貝や骨の代りに蟹を捕へて食ふと云ふ事である。

△鴫の綺麗好き

鴫も中々利口い鳥である。或人が之を捕へたから、飼つて置かうと思つて籠へ入れて小蟲の餌を與へて置いたが、何分澤山食べるので思ふ樣に與へる事が出來ない。で代りにパンと牛乳をやらうと思つて、先づ手始めに小蟲とパンとを交じへて入れてやると、



鴫はじろ〳〵と變な眼付で見て居たが、それでも空腹じいから食はねばならぬので小蟲をついと啄むだ。然も夫を直ぐには食べずに、傍の水壺へ持つて行つて一度綺麗に洗つてから食つたといふ事である。

△熟練な技術を有つ鳥

一層利口いのはセイロン島にゐる一種の鴉で、この鳥は船から陸へ上げる荷物を目的に飛んで行つて、袋や紙箱を開けて中に入つてゐるサンドウイッチや色んな美味いものを盗むことが上手で、中には箱の蓋を打

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ちつけた木釘を抜くに熟練してゐるものもある。そして思つたよりも澤山な獲物のあつた時には、鴉の屆かぬ處へ穴を掘つてそれを埋めて置く。

夫から鴉が銃とステツキとを見分けると云ふ事も一寸面白い話である。米國などの廣い畑の澤山ある處へ行くと、何百羽何千羽と云ふ鴉が群を爲して畑を荒しに來るが、其時に棒などを振り廻していくら叫んで見ても一向に逃げないけれど、銃を持つて行くと直ぐに見えなくなつて終ふさうである。

△鵲の習性と團結心

鵲に就ても面白話がある。此の鳥に關しては亞米利加で鳥の研究者として有名なベンデール氏が詳しく說明してゐる氏は鵲の非常に澤山ゐる北米のイダホを旅行する時分に一匹の犬を伴れてゐた。此の犬は鳥の巣や卵を探し出すことが素敵に上手だから、日頃大切にしてゐるので、毎夕スープのだしがらをやる事にしてあつたが、犬は夫を喰へると直ぐに芝生の上へ行つて骨をしやぶり始めるのが例であつた。すると或時庭の木に棲つて犬の出て來るのを待つてゐた五六羽の鵲がさあ來たと云はんばかりに犬の傍へ飛んで行つた。どうするかと見てゐると、鵲は時を移さずに犬の周圍を取り圍んだ、一羽は犬の鼻の先へ、一羽は尾の傍へ、他は總て犬の横腹の所へ集つて骨をしやぶり始めるのを待つてゐた。彌々犬が食ひ始めると尾の所に居るのが尾をコツ〳〵と啄むだ。犬が吃驚して振向くとその間に鼻の處にゐるのが逸早く骨についてゐる肉を啄んで食べる。二度も三度もやつてゐる中に犬が怒つて飛びつくと、その間に今一羽の奴が急いで肉を食べる。四度も五度もやつてゐる内にだしがらは殆んど骨ばかりになつた。遂に犬はそれを喰へて逃げて行かうとしたが、鵲は中々逃がさないで、肉が全く無くなる迄何處何處迄も追つて行く。それで一羽が始終尾の處に居るかと思ふと、さうではない、始終周圍に居る六七羽が交代して、順にぐる〳〵と犬の周りを廻つてゐたので、結局は六羽の鳥が皆で御馳走になつたのである。」

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

斯る鳥は滅多にあるものでは無い。ベンデール氏も如此き團結心に富んだ理性を備へた、智慧のある鳥は珍らしいと云つてゐる。

△珍らしい感心な鸚鵡

鸚鵡は鳥類の中の猿と云はれる程あつて、色んな點に於て猿に似てゐる。惡戯好で、愛嬌者で、物覺えの好い點に於て全くの猿である。

西洋の話であるが、或人が子供の爲に一羽



の鸚鵡を買つてやつた。で皆が樂しみにして色々な事を敎へたが、中々利口い鸚鵡で、直ぐに「お早う！」「失敬！」「難有う」など〻言ふやうになつた。そして五月もすると何時の間にか家内の數や名迄も記憶えてしまつて、家の人を見ると直ぐその名を呼ぶやうになつた。又子供達の泣く眞似や笑ふ眞似なども非常に上手い。子供が父に叱られてズラヽ、ズラと鸚鵡の處へ識らず知らずに來ると、俄に

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

はゝゝ〳〵と笑はれて思はず顏を赤くして逃げてゆく事なども度々あり、或は誰も遊びにいつて遣らないと泣いて子供を呼ぶ事もあつたといふ。又時として下婢が餌を持つて來るのを忘れることでもあると、「可愛さうに！、可愛さうに！」といつて泣いたさうである。恁ういふのは鸚鵡の中でも珍しいであらう。それが傷を受けて死んだ時なども鳥とは思はれない程嘆いたさうで、他の見る目も氣の毒であつたといふ。感心な鸚鵡があつたものである。

△上手に魚を捕へる鳥

川縁を歩いて居るとよく見受ける魚狗といふ綺麗な鳥があるが、之れは魚を捕へるのが頗る上手である。先づ魚の澤山居さうな川岸へ三つ四つの足場を拵らへる。それは水面へ突き出た岩か又は枯木の類で、そこへ棲つて水中を凝視めてゐる。足場は下の水流のゆるい、餘り深くない所を撰ぶが、夕方などには魚は小蟲を求めて散歩がてらに遊びに來るから、彼は其處へ棲つて一心に水中を凝視てゐる。で小魚がやつて來ても最初は却々飛び付かない。暫くじつと見てゐる彌々大丈夫といふ迄は一分一厘も動きはしない。

その内に大丈夫といふ距離へ小魚が近寄つて來ると、魚狗は矢を射るやうな急速力で眞逆樣に水中へ飛び込むのである。的は充分に狙つてゐるから、十中九迄は必ず小魚を銜へて上つて來る。そして棲木へ上つて來ると、先づ魚の頭を銜へたまゝそれを岩か木へ打きつけ。今度は取り直して二三口ばかり魚を横に嚙むで、又打きつける。亦嚙む、又打つ。恁うして好い加減に魚が軟くなつた所で其を呑み込むのであるが、その場合にも屹度頭部から呑込む。もし逆しまに呑む樣な事があると、屹度吐き出して呑み直すのである。つまり逆に嚥めば鰭が咽喉に掛る故である。そしてその鳥は卵を產む場所を見付け出すのに非常な苦心をする。多くは小山の麓の赤土などを撰んで深い〳〵穴を造つてその奥へ卵を產むが、何處迄も注意深い鳥である。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



△巣立前の訓練

雀も中々利口な鳥である。之れは諸君の眼に始終觸れてゐるから、或は疾うに氣が付かれてゐるかもしれないが、雛が巣を出つ前になると、親鳥が蜻蛉なんどを銜へて來て巣の前を飛び廻つてゐる事がある。これは巣立ちをする雛を誘ひ出すのである。

これと好一對の例は鷹である。之れも巣出ち前になると、親鳥は雛の眼前へ餌を持つて來て、やつと雛が達くか達かぬか位の所へそれを置く〳〵、すると大抵の雛は夫を見て段々と巣を出て來るのであるか、中には存外怠けものもあつて親の思ふ通りに行かぬのもある。さう云ふ場合には親鳥は無理にそれを追ひ出すと云ふことである。

燕の一種のハウス、マルチンといふ鳥などは時としてはその雛を嘴で引き出すさうである。又鷲は好い加減に大きくなれば、威嚇しつけて、巣を出させるといふことである。

以上種々の鳥に就て述べましたが、恁ういふ事は果して智識があつてすることか、或は又本能の作用で自然とすることかは今日はまだ能くは分らない樣である。由來本能作用と智識作用との區別は隨分と困難しい問題であるからそれは何れ重ねて述べることゝして、玆には單に面白い鳥といふ話しだけに止めて置く。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

各地風俗の變遷

九州第一自慢の博多

澪づくし

九州線の小さい汚くるしい汽車にゆられて門司から下りまするとまず第一に眼を驚かすものは八幡製鐵所の偉觀でせう。それから更に二時間形容しがたい洞海の景色のいゝ處を眺めながら早や着きましたのはこれぞ九州第一の都會福岡市博多であります。まづ停車場の白い洋風の立派さが眼につきます。

九州と聞きまするとまず歴史を考へましても今もなほ荒涼しい開けない土地の様に思はれますが、博多は實際三府についでの大都會ですべての點に於て他の都會と競べて負けない處でありますそしてこれからまだどれだけでも發達する見込のある市であると信じます。

元より四十萬石の城下であつた福岡市のことですから昨日今日急に出來た都ぢやありませんが金澤のやうに百萬石をきどつて今もなほお臍をうなつて夢みつゝあるやうな處ぢやありません。前途多望英氣に滿ちた青年とでも譬へませうか。とにかく鎭西の一雄市たることは事實です。

△歴史に富んだところ

まあ近い處だけ申しましても宇美の箱崎の八幡樣。それから三韓征伐の時の帆柱の化石と、風景で聞えた名島の磯。多々羅濱邊。龜山天皇御銅像と日蓮上人の銅像を仰いで元寇の時を偲ぶべき東公園千代の松原。香椎の宮や大宰府天滿宮など忘れることの出來ない歴史の紀念でとり圍まれて居ます。その上袖の湊と申しました博多灣の景色は實に恍惚とします位で灣の入口に長くつき出て居る沙洲は西戸崎と申しますそれから岸に沿つて幾里もつゞいた千代の松原はいつまでも變らぬ千代の榮を示してをだやかにうちよする小波は過去をさゝやくやうで實に去りがたい好景です。公園は東西に二つ御ざいまして東のは前に申しました東公園

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

の松原で西公園は市の西端にありまして東は荒津山の櫻花に市民を醉はし夏から秋の月を眺めるのに面白う御座います。この西公園からは博多灣内の景色は一望の中に集まりましてどんなに晴々といたしませう。兩公園とも兼六や後樂園のやうに人が作つたのでなくて自然に與へられた公園ですから何よりも氣持のいゝのと見晴のいゝのとは求めて得られない市の幸福と云はねばなりません。

△氣候と文明

昔は博多の津と申しまして大きくはありませんけれど港として此の上もないをだやかな處ですから隨分榮えました。このやうに土地はいゝし景色はよしその上氣候に於きましても又申分は御座いません。何分九州と申しますから冬でも雪が降るのは珍らしいのです。二寸も積りましたらよほどの時ですが、その代り濱風がふいて來る時は寒いと思ひます。若い人などは綿入を着ない時もある位です。夏は又海水に調和されてよほど凌ぎよいので風が始終ありますから寒暖計もそんなに昇りません。降雨も少なう御座います。交通も水陸共に便利がありますから誠に住み心地のいゝ處で自然人は多く集まります。

商業地であるし又九州第一のいふのとも一つは醫科大學がありますので會社なども多くて隨分澤山の他縣人が來て居ます。そんな調子で土地の人も自然九州風のゴツ〳〵した風で滿足して居られませんから新文明を輸入するのにあせつて居ます。それで進歩は眼に見えるやうで今ではすつかり開けました。町なども一日一日體裁を改めまして世の文明に伴なはんとする氣象はたしかに見受けられます。まあ博多ッ子の意地として保守的で居られないのです。

△人情と風俗

このやうな境遇にある博多ッ子こそ活氣のある派手なものです。何でも一寸でも一分でも負けることは大嫌でそしてお國自慢は又その特長で博多ッ子は皆博多

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

こそ日本一だと信じて居ます。そして何で博多のため名譽とか面目を施すとかいふ事のためには財を惜しみません。何事でも共同していたします。それでこそかくまでに榮えたのでせう。何しろ活氣があります又情に激し易い性があります。そしてその底には强い意志があります。まあ意地つぱりの處があるので隨分思ひきつたことも致します。そして人に對しては親切ですが上つ調子といふ缺點は免かれません。流行なども隨分早く飛んで參ります一たいに富



裕な土地ですから生活の程度も低くはありません衣食住ともにまあ派手な方で流行を追ふ風があります。流行も奥様や學生などには多く東京風が用ゐられ、商家か玄人筋には大阪風がもてはやされて居ます。食物もお魚は勿論新らしいのが澤山ありますし、野菜でも果物でも充分にあります。無いものといつてはありません、その價も安い方ではありませんが別に高いといふのではなく。どうしても生活のお易い處で御座います

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

をかしいのは食物で隨分立派なことをいたしますが料理の拙いことは驚きます。食物で珍らしいのはオキウトといふもので冬になりますと朝早くから子供が賣りに來ますオキウト草といふ海草からこしらへたもので丁度コンニャクのフワ〳〵としたやうなもので紙のやうに薄くて別に味はありませんそれを細く切つてそのまゝだしをこしらへたおしたじでもつけて喰べます。口に入れますと冷やりとして磯の香りがしていゝものです。これを毎朝お味噌汁の代りにたべるのです。

又博多ッ子は男でも女でも大抵藝があります。それは博多名物のどんたくの時にするためでせうが何か知らないと恥かしい位です。筑前琵琶は本元だけありまして非常に盛んで女の子等も漸う小學校へ行く位の子で上手なのもあります。師匠は幾人もありますが何處も皆大勢行きます。會社員や何かの奥様方や學生などもお稽古に行きます。品のいゝもので上手な人のを聞くと全く魂もぬけてゆく氣がいたします。

この博多ッ子の氣性を最も痛切に現はしたものは所謂博多の三騒ぎ、どんたく、放生會、山笠でせう。これはこゝでなければ見られない騒ぎです。このことは又改めて申しあげませう。

△言語

私の從兄が始めて當地へ遊びに參りまして翌日一寸散歩に出まして歸つて參りまして申しますのに、「こゝは大變恐ろしい處だね、今一寸烟草を買はうと思つて店へいつたら「そげなもんはくそありまつせんばい」といつておこりつけたよ」と申しましたので大笑ひいたしました、とにかく妙な言葉です。別におこりつけたのぢやありません。

さうです　ソウバイ　　ありがとう　ダン〳〵
けれども　バッノン　　さようなら　フレハ
おや〳〵　フチンガッテンドウジャローガイ

そのほか言葉の間や終りにクサをつけたりいゝといふのはヨカと申しますが、始めは通辯がなくては買物も出來ません。この節は學校でやかましく正して居ま

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

すから追々開きにくいヲ行とダ行との誤りなどはなくなるでせう。

△産　物

産物としては御承知の博多織は帯地として幾多の婦人を喜ばしてますが、只今でも非常に盛んに織つて居ます。この織物ばかりは女の手でどうしても出來ませんので男子が皆織つて居ます。それに次ぎまして博多絞と博多人形などは大變によく出來て居ます。その外にも御座いますがまあこれらが著名です。

博多がこんなに繁榮になつた理由はこんなことからで御座いますがまたそのほかに一つは近くの炭坑のお陰もたいしたものと云はねばなりません。實に炭坑のお陰でこんなに富裕な市、派手な市として誇ることが出來るのです。そしてなほこの後も益々榮ゆべき運命にあることはたしかで御座います。

まあどんな人でも一度行つたならばふしぎに福岡市博多のチヤームに引きつけられてしまふでせう。さればこそ、日本一の市と誇るのもさらく無理はありますまい。

◎樂　天　家

子供「お父さん樂天家つて如何な人、
父「樂天家つて云ふのはな、奥様を貰つて喜んで居る人の事だよ。

◎惡　習　慣

立場にて晝食を濟せ是から出立しようとしながら旅人が、代は如何かと尋ねた、立場のお神さん、
「あの何で御座いますよ、七十五錢宛頂く習慣になつて居りますよ」、と聞いて旅人
「ウム、夫れあ惡い習慣だ、廢めた方が好いれ」
と云ひながら五十錢銀貨を一ツ置いて行つた。

◎女　の　舌

醫者が婦人患者の舌を見ながら
「もつとお出しなさい」と二三度云つた、處で其婦人が、
「先生女の舌でも長さは男と同じですよ」
醫者「や左樣でしたかな。」

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

綴の錦は何ぜ彼の樣に高いのでせう

（家庭工藝夜話の二）

石井研堂

縫針の製造法を合點しました多子さんは、又、新らしい質問を出しました。

「おツかさん、直ぐ此間の新聞に、淺野總一郎さんの新宅の、格天井へ張る綴の錦を、京都の或る工場で織つてますが、横縦が五十尺に十三尺で、お直段が何十萬圓とか出て居りましたが、あれが本當ですなら、一圓札を並べたよりは、ずつとお高いでせうね。」

おツかさんは、能く其の樣な雜報に、注意してました、感心だといふ風に、聞て居りましたが、

「まさか、お札を並べた程でもないでせうが、お高いとは、あの位のものは無いね。」

「どうして、その樣にお高いのでせう。」

おツかさんは、其の値のお高い理由を說明しますために、其の織方を話されました。

「彼の織物は、織物と言ひますよりは、刺繡といひます方が適當な位で、並の織物とは全で違ひ、機械の力を藉りますのは極少く、手のさきばかりでやりますので、日に五十反百反と織り出すなどとは、夢にも見られないのです。

「繻珍や何かは、どんなに込み入つた模樣でしても、ジヤカードや、バンサンジーなどいふ高機で、どしどし織るとできますが、綴の錦ばかりは、氣のつまる樣な織方をしてますのです。

「格天井のことは知りませんが、帶地を織ります位のは、其の道具といふたら、極々簡單な、田舍で手織縞を織る諸道具と澤山違ひません。綾取が二枚、可愛らしい小さい梭が二三十あるに過ぎません。

「梭には、緯糸を一色づゝ卷いておきますから、糸の色數を三十使ひます時は、梭も三十無ければなりません。小さい梭ですから、網針かと思はれます。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

「先づ、一枚の綴の錦を織らうとしますと、最初に圖案を致します。松に雪の圖案ですなら、空色、雪の色松葉の色など、好みの色をさして、一枚の圖案紙を作ります。

「機は、並の織物の通り、經糸が向ふから來て、手元へ卷込むやうになつてます。

其の經糸の下へ、圖案紙を當てゝおきますから、織手は、糸を透かして、よく圖案が見え、其の圖案通りに、經糸へ細工を加へますのです。

足で蹈んで、綾取（綜絖ともいひます）を上下させますから、斯う經糸に綾ができませう。並の縞物などですなら、右から左へ梭をなげ、筬でカンチ〳〵打ちつけますが、綴の錦織りますには梭を右から左へ一度に通すとできず、其の一本通りに色が幾色あるかを見、其の色によつて、梭を一々指さきで潜しますのです。



「雪中松の、挿繪にある樣な圖案としますと、一二の處は空色、三から七の間は白色、八は草色、九と十は白色、次の十一から十三までは、空色の卷いてある梭で、經糸を縫ふ樣に通します。そして、梭を通し、糸を貫く毎に、爪で手前へかきよせ、其の上、毛筋通し見たいな道具で寄せつけ、筬で打つたと同じ結果にいたします。

「併し、本當の場合には、こんな簡單な色は有りません、もつと込入つてますから、三色や四色では濟まず一本通りの色ばかりでも、十も二十も使ひます。それを一々手さきで通します苦心といふたら、有りませんです。先年、あちらの川島さんが、大阪の內國博覽會に出品なさつたコロンブスの圖の壁掛は、七百餘の色糸を使ひわけてあつたさうでありました。

「綴の錦は、この樣なことをして織りますから、工手間が馬鹿にかゝつて、法外にお高いものになりますのです。」

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

と、織方の一通りを話されました。姉妹の娘さんは、いと興味を以て聞いてましたが、冬子さんが又、

『では、外の織物は、箴で手前に打ち付けて、緯糸をしめますのを、綴の錦は、毛筋通しと爪のさききり使ひませんのですね。』

さうです、織物の幅だけの箴といふものがありません。

『職工の爪は、どんなになりませう。』

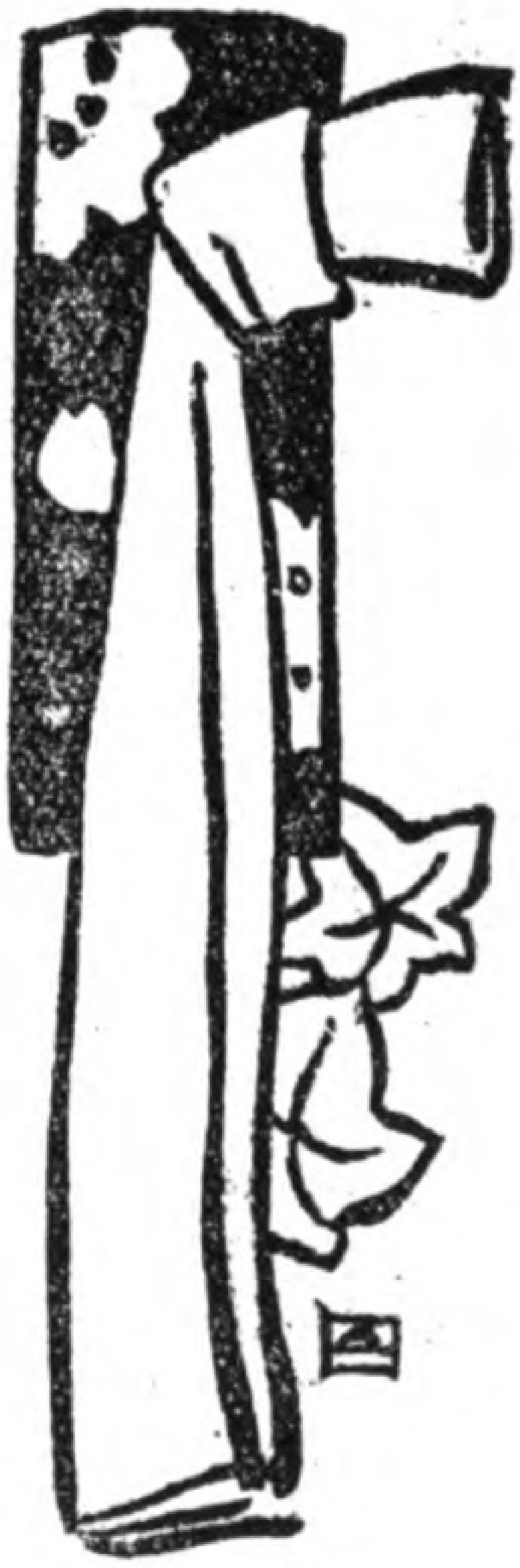
『あの職工は、爪が身上道具ですから、それは〳〵爪を大事にしてますよ。冬などは、どんなに寒くとも、火鉢に手をあぶるなんといふとありません。脆くなつて、かけるのを恐れ、火に當りませんし、風呂によく入つて、彈力の失せないやうに保護して居ります。支那や安南邊の貴族には、爪の長いのは、勞働しない證據として、五寸も六寸も伸ばし、其のさきの巻かつたのに、袋をかぶせ、大事に護つてる者がある樣に聞てますが、西京の機場では、爪が長ければ、綴織の職工と見られませうよ。



『ゴブラン織と綴の錦は、どんな處が違ふのでせう。』

『一つものですよ。其の昔、白耳義のジャン、ゴブランといふ方が發明なされた織物なさうで、只今では、ゴブランともいふてます。西京の高臺寺に傳はつてます太閤さまの陣羽織といふものは、糸織のゴブランで名高いものですよ。

『冬ちやんも秋ちやんも、えらいおッかさんになつて綴錦を天井どころか、お蒲團やお寢衣にまで用ゐる樣におなりなさいよ。』



熱烈なる少女の戀

内藤千代子

一

「詩の御神の性うけて
　崇きが中に優しうて
詩に榮ある君ぢやもの……………」

重い高髷を俯けて、夕べ凭る縁の柱、櫻紅葉がはらはら散る、櫻紅葉がはら〳〵散る。あゝ湘南の佗住居今年の秋も逝かんとすなり。君居ますあなたの空を仰いでは、日毎こゝに泣く萩香がせめて御夢には入りませんか。

迷ふて悶えて罪の子はいまに魔となる、鬼となる。炎と燃ゆる胸を抱いて、ほつとつく息から火焔の吹かぬは不思議、あゝ私の身は燒けつくされる。

戀して成るべき戀でもなく、またこの戀とげやうとは思はぬに、何故すつぱりと思切れないのだらう。どうせ私は人知れぬ片戀の苦痛をなめて、生きねばならぬ運命なのだ、たとひ思死に……戀死ねばとて、我が戀しいいとはしい人に何として打明けられようぞ。

それや打出したとてまさか、まさか、恥しめる樣な事は成さるまい。あはれこぼるゝ露にさへ、燃え立つようにあふれたる、深き情の血はゆれて、涙惜しまぬ君だもの、よし御立腹なさるにもせよ、御蔑み遊ばすにせよ、一掬の同情はそゝいで下さる筈、いつそ……いつそ、思切つて申上げようか。どうしても何うしてもあきらめられぬ。あの涼しい御眼、凛々しい御眉、まだ愛度氣ない丸顔の、笑かたむけられる度氣の遠くなる程勇しくなつかしうて……。併しもう病重つて半

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

年あまり、日毎の咳嗽と咯血に身をけづられて、どんなにお痩りなすつたらう。

　それを思ふと澄さんにせめて、半月一月でも介抱させて上げたいわ、何にも御存じない澄さんは、晩翠寮の夕のお窓に亡い母様の事でも思出して涙ぐんで被居るでせう。あゝ純白雪のやうな乙女、この間お目に掛つた時、どこかおわるいの、大變お顔色が悪いわ、と美しい眉をひそめて憂しげに覗きこまれ、この人なくばとひそかにのろつて居た私は、正面に顔を合せ居なかつた。

　曉の草葉に下りる露よりも、清い儚かない美しい戀よ大原さん、澄さんならばつゆ御無理とは思ひませぬ。早く御本復なすつて、たのしい家庭を造つて頂戴、いいえいゝえ私の思ばかりでも、決して決して死なせはしないわ。病床には福音がある、身健なる人の到り得べからざる歡喜の境がありときく。ミユーズの神の奏でます、現し世になき靈韻の慰藉の曲は永久に、君の幸をば祈るらむ、萩香も遠く祈ります。涙を飲んでお二人の上を…………。けれど、けれど私は苦しい。

あゝ大原さん…………

「澄さん……」と口をついて出ると同時、はら／＼と熱い露の玉が散つた。

　戀のかたきと恨むにはあまりに清い澄子さん、無心で居るだけおいとしい。けれどかの君のあれ程の熱情を意識したなら、屹度お泣きになるでせうね。不治の病人だからとて、無情なそぶりはなさいますまいね。

　澄さん、萩香が手を合せます、薄倖詩人に身を捧げて頂戴。名をすて誇りを捨て病床に侍して上げて下さい。人もあらうに我が口から云はねばならぬこの胸は、熱湯をつがれるよりも辛いけれど、何もこひしい人のため。私は命も入らないんですもの。あきらめはせぬが堪へます、生きた死骸になつて……。ふたゝびお目には掛れないのよ、遇つたら萩香は鬼になる！

　あゝ逝く春の落花の夕べ、かりそめの御歸國と見送つたが、永久の別れとは知らざりし。西と東と三百餘里の山川へだてゝ互に成らざる戀に泣く。つらいわ、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

つらいわ、大原さん。エ、いつそ私も病床に倒れて了ひたい。かつと血を吐く身になつて見たい。私は死んだつて縫子さんがある。縫子さん縫子さん、私のやうに母様に御心配かけてはいけませんよ、お母様、堪忍して下さい、萩香はお先へ行きまする。

我知らず襟かき合せて、夢心地に眼をあぐれば、あたりの空一面、ミルクに紅をとかしたやう、夕焼の美しさ。颯と尾花を渡る夕風一陣、袂に孕んであやしうぬれた頬を吹く。

二

今朝目がさめたら八時過ぎ、いそいで飛び起きた、秋晴一碧、空高う澄んで絹糸を散らした程の雲もなく、仰げば我が影の映るかと疑はる。

風邪を引いたのか、二三日前から咳嗽が出て、殊に昨夜は傍に氣兼で寢られない程だつた。玻璃越の日のまぶしさに目をはそめ乍ら羽織に手を通して居ると

「萩さん、おや起きたの。どうだえ」と母様が入つてあらつしやる。」

「お早う御座います。大變な寢坊しちまつて……、縫子さんはもう學校へ行きましたか。」

「あゝ。萩さん貴女今日は山川さんへ行つてらつしやいよ、昨夜なんか大分切なさうだつたぢやないか、ほんとに咳嗽は心配だから早く。」

「あらお母様、これつくらゐ、一寸風邪引いたんですもの、直ぐ直りますよ。厭だわ。」

「だつて、まア行つてらつしやい。若い者が咳嗽をしてるのくらゐ厭なものはないからね。和さんを御覧なさいな、あの——」

不安な目つきを遊ばすので私はだまつて了ふ。

御飯食べてから髪を束髪に直し、銘仙の被布引はをつてポーア卷いて、仕方なく山川醫院へ行く。入口に佐野さん（看護婦）が立つて居て

「あらお孃さま」とびつくりする。

「また來ましたわ。先生は。」

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

最新發明 肺病。肋膜 新藥に就きて

獨逸ドクトル 高平氏報告（醫事週報二七號報告再錄）

新治療劑主藥の諸結核による熱度下降に可驚著効あり四十度を示す熱は本藥應用後は常溫下に減じ患者は藥劑が無味なるを喜び之が服用を嫌忌せず食慾を增進す

右の外本劑の著効ある事は既に諸家の試驗報告及賞賛により明らかなれども今本院服藥患者につき其成績を左に報ぜん

●金森某（當人の希望上住所姓名を秘す）女子三年前發病遂に末期重症の**兩肺結核**に陷り咳嗽たん盜汗動悸呼吸不利。不眠。發熱激しく度々喀血し非常に羸瘦す服藥壹週頑固なる熱を去り咳嗽喀痰を輕快す服藥貳週喀血やみ臥蓐せしもの屋外に出で日光に暖をとるに至る連用三十日病全く治し食慾進み體重を增加せり

●兵頭某 卅一歲男 **肋膜炎**（喀血無し肺病初期の疑あり）胸部痛み食不振身體倦怠盜汗。咳嗽、頭痛あり身體羸瘦を見る卅九度に至る發熱あり服藥五日奏効あり二週にして全治す僅々二週にて全治する如きは病輕症なるに因るとは云へいかに新治療劑が肺病。肋膜。肺炎。肺尖加答兒、氣管支加答兒。腹膜結核等の諸症に對し可驚効力ある全治藥なるかを知らん以下病歷を細述する時は冗長に亘るを以て左の通略式とす

患者	性	病名	成績	患者	性	病名	成績
三村	男	兩肺結核	全治	龍谷	男	兩肺結核末期	無効
中川	男	肺尖加答兒	全治	宮本	女	結核性肋膜炎	全治
松信	男	結核性肋膜及腹膜炎	微効	岡田	男	氣管支加答兒及肺炎	全治
笠井	女	肋膜炎	全治	阿崎	男	右肺結核及腹膜結核	全治
上野	男	右肺結核及腸結核	全治	神村	男	肺結核初期	全治

斯の如き好成績は從來の藥物に於て見る能はず我國藥劑界名譽の發明藥として報告する義務あるを信ず又効力多大にして持長服藥するも副作用なく殊に**喀血**と其豫防に可驚効あるを以て醫藥の傍ら服用最も妙ならん吾人は病者に向つて新治療劑は現今に於て完全なる發明藥なるを紹介し安心服藥せん事を勸むと共に醫師は自家患者に本劑を投藥せん事を勸告す ●本治療法を知らんとする患者は貧富の別なく（貧者にも療法あり）遠慮なく送料郵券二錢添東京神田竪大工町拾三番地療養院製藥所村尾明治堂宛申込あらば新治療法の書を無代 貰ひ得らる・故是非一讀あれ益する處多からん、之れにより全治の幸福を得らるべし

藥價

壹週 金二圓
貳週 參圓九十錢
參週 五圓七拾錢
四週 七圓貳拾錢
五週 九圓

療養院
製藥所
東京神田竪大工町 **村尾明治堂**
電話本局參千七百五十二番
振替口座東京壹四參壹九番
（私書函神田本局第三號）

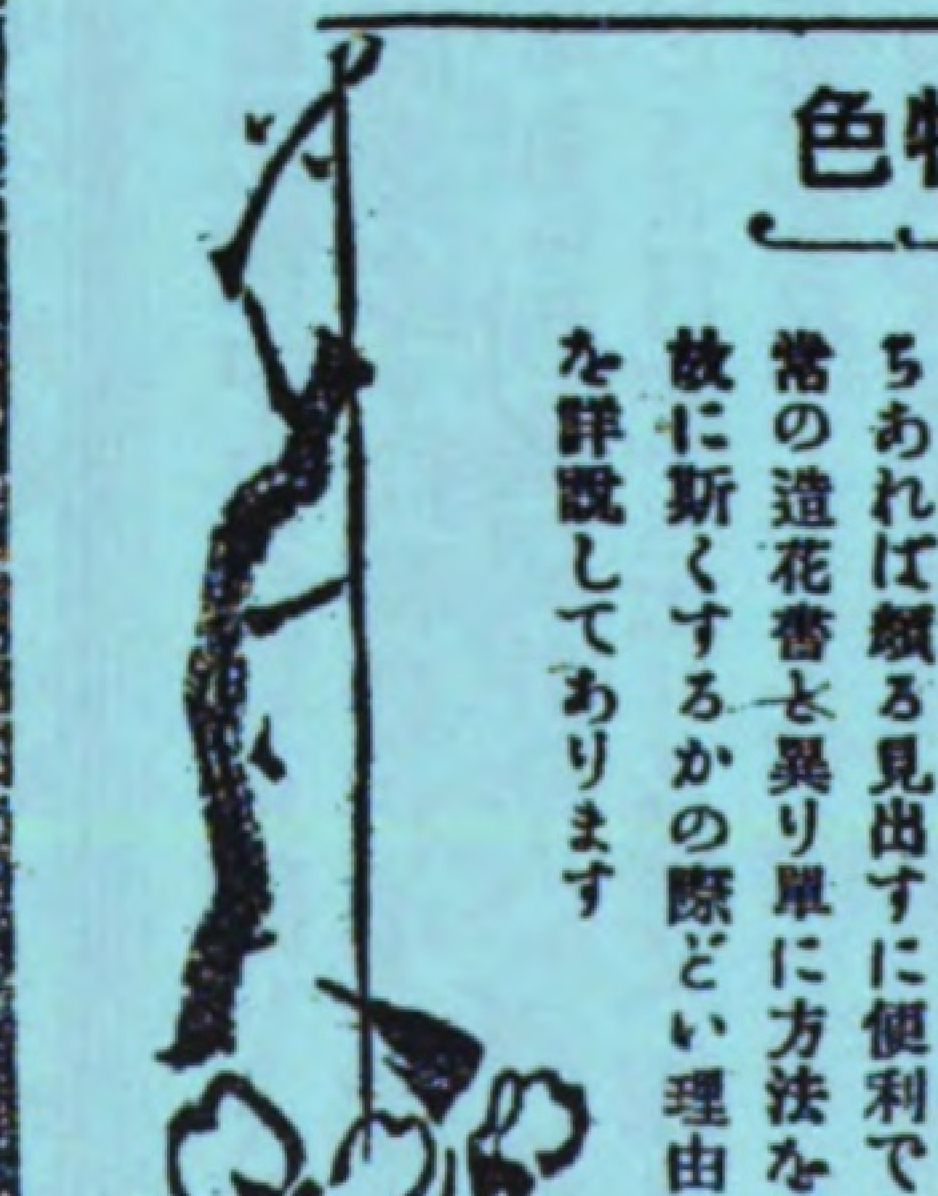
跡見花蹊女史題詠
東京女子美術學校卒業 鈴木松子女史著

家庭實用 新式美術造花

全一冊洋裝菊判 石版着色美製本 正價五十五錢 郵稅六錢

本書の目的と特色

●本書の目的は家庭用、學校參考用或は獨學者の爲め拵へたもので內容豐富說明懇篤婦女幼童にも極めて了解し易く最も恰好の良書である●本書の特色は從來の造花書と大に其選を異にし植物學を基礎として著者多年の研究を著はしたるものゆゑ正確にして且最も進步せる造花を拵へるに適します●本書は從來最も閑却せられた枝組又は葉の製へ方に最も注意し精密なる插圖數百を揭げ丁寧に項目を分ちあれば頗る見出すに便利である●本書は通常の造花書と異り單に方法を示すに止めず何故に斯くするかの際どい理由を詳說してあります



◁發賣元 東京日本橋本町三丁目 博文館▷

女(その一)

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

明治四十三年 當用日記

賣捌所は各國各地の書籍雜誌店及紙類文具店等到る所にあり▲（その二）

博文館發行の當用日記懷中日記の正確にして便益なること既に定評あり世間幾多の同種發行中に獨り異彩放ち其發行部數の如き到底局外の人の測度し難き高に及び今日にては日記と云はゞ博文館を聯想するが如き盛況を呈すること本館の榮とする所なり從て四十三年度分は此たび輸入せる最新式の印刷機械と製本諸器械とを利用し特に用紙を精選し印刷を鮮明にし改良を加へ部數を増加し一點遺憾なき計畫の下に發行し全國賣捌店より發賣せり乞ふ倍舊の愛顧を賜はらんことを

當用日記は卷頭に皇室皇族の御繁榮歷代の天皇大祭祝日日曜表等を色刷として掲ぐ

（當用日記定價）

大形（菊判）上製（舶來洋紙總クロース金文字入）▲正價金五十五錢　郵税十四錢

中形（四六判）特製（舶來洋紙背皮美製金文字入）▲正價金五十錢　郵税十錢

中形（四六判）上製（舶來洋紙總クロース金文字入）▲正價金三十八錢　郵税十錢

小形（菊判半裁）上製（舶來洋紙總クロース金文字入）▲正價金三十錢　郵税八錢

（紙數各五百四十頁）

附錄 ●金錢出納錄●知己人名簿●雜錄●諸統計表●米價換算早見表●諸税則摘要●郵便電信諸規則●新式萬年暦●徵兵規則

發兌元　東京日本橋

販賣用電話　本局二六二〇番

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

博文館發行

懷中日記

（懷中日記定價）

新形（舶來洋紙頗美本綫クロース金文字入細長形携帶至便）
▲正價金貳拾錢　郵稅貳錢

上製（舶來洋紙頗美本綫クロース金文字入紙數三百〇六頁）
▲正價金拾八錢　郵稅貳錢

並製（舶來洋紙模クロース表紙金文字入美本紙數三百六頁）
▲正價金拾貳錢　郵稅貳錢

（紙數各三百〇六頁）

附錄
◉雜錄◉統計表◉利子早見表◉諸稅規則摘要◉郵便諸規則◉徵兵規則大要◉年齡早見表

（當用日記）……日々欄には過去同月日の重要歷史、七曜、干支及び詩歌俳句等を上欄に錄し天氣、寒暖、發信、受信及び摘要の記入欄を其傍に新設す尙各月の初めには其月中に行ふべき事項を豫記すべき欄を新設し、毎日記入欄には細罫を附し秩序ある記錄たらしむ
附錄としては紙數十二頁の補遺、金錢出納表、收支一覽表、友人住所錄、農家年中行事、某醫學博士の衞生心得及び內外の最新重要統計數十頁を載せ卷末には日常必須の諸規則を網羅せり。

趣向
體裁

懷中日記卷頭には皇室皇族の御繁榮歷代の天皇大祭祝日日曜表を色刷として掲げ新形は背面に他の二種は腹部に鉛筆挿みを設く

（懷中日記）毎月の初に當月の行事、食品月令、遊覽案內等を掲げ日々の上下欄に內外名家の格言を掲げ其他七曜、干支、天氣、寒暖を附記し卷末には當用日記の如く日記補遺錄日常用の事項諸稅則及最新重要の統計表等百頁を附す

▲取次希望の方は御申込次第精々御便利に御相談可仕候▲

（その三）

四

本町三丁目　博文館

振替貯金口座
東京二百四十番

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

博文館發行明治四

新案紳士淑女用

明治四十三年

ポケット日記

▽甲
▽乙 ……二種

甲種……(厚形)
洋裝 總革製三方金縁 舶來紙薄手美本 紙數四百十頁(日々記入欄一日一頁宛)
正價五拾五錢 郵税四錢

乙種……(薄形)
洋裝 總革製三方金縁 舶來紙薄手美本 紙數二百二十頁(日々記入欄一日半頁宛)
正價四拾五錢 郵税四錢

(その四)

特色

●本日記の特長は何れも特製總革を用ゆ其手當りの滑かにして三方金縁を附したる、共に見ざる逸品たり。又製本の堅牢なる、日常携帶に至便なる紳士、淑女諸氏用として優美高尚なる日記なり。

●本日記は何れも薄手の舶來用紙を用ゐ、ポケット用として携帶至便なり、尚前記二種を調製し發賣せり。

●附錄＝金錢收支表、郵便規則、税法、年齢表、補遺記事欄等の如きは日常座右缺くべからざるものなり。

販賣用電話 本局二六二〇番

發兌元 東京日本橋

Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

十三年度重要日記

明治四十三年

家庭日記

家庭日常の寶典

家事整理の塞繩

洋裝總クロース金字入頗美本紙數五百餘頁　正價參拾八錢　郵稅拾錢

家庭日記は最も進歩したる。且つ最も文明的なる日記にして新家庭の要求に應じたるもの也、術も我家の規模を知り我家の地位と品格と勢力とを知らんとする人の机上に缺くべからざる重寶日記なり其の目次も左の如し。

（要目）

▲婦人の修養と身嗜み
▲良人慰藉の心得
▲一家安全のいしづえ
▲花嫁花婿選び方
▲家事經濟の心得
▲器物衣服保存法
▲四季の惣菜料理
▲日常生活心得草
▲健康長壽法
▲簡易美顏術
▲姑舅の待遇法
▲子供躾け方
▲世間交際の心得
▲婦人の言葉遣ひ
▲音物贈答の栞
▲勝手元の憲法
▲年中の仕事配り
▲家庭看護の心得
▲姙産婦の養生
▲手紙の書き方

本書内容の一斑

本書は始めに一年三百六十五日の日々欄を置き、七曜干支を順記し、天氣、寒暖の各座を設け、以て日々の事項を記入するに適せしめ更に月の始には其月の行事、季節、食品、花暦の各項を抄記して月令の栞となし次に此の日記の特色ともいふべきは他の日記簿に類例なき約二百頁に渉る家庭重要記事を始め、交際、通信音問、祭祀以下日常諸般の事項を分類し兼れて財產、衣類等の品目を掲記して以て複雜なる家事を整理して一目瞭然たらしむ。猶前掲附錄十數欵は家政智識にして家事當局者の心得にして朝夕必要なる家政智識にして其他これに必要なる諸規則をも網羅せり。

家庭日記は日常の家事を整理する金針にして又家運振興の指南車なり、其内容は從來有觸れたる日記簿とは全然面目を異にし統一あり秩序あり教訓あり趣味ある日記にして眞に一家の重寶たる實質を具備せり

（三の五）

本町三丁目　博文館　振替口座番號　東京二百四十番

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

英學新報社編纂

明治四十三年英文日記

當用 價五拾錢 郵税八錢

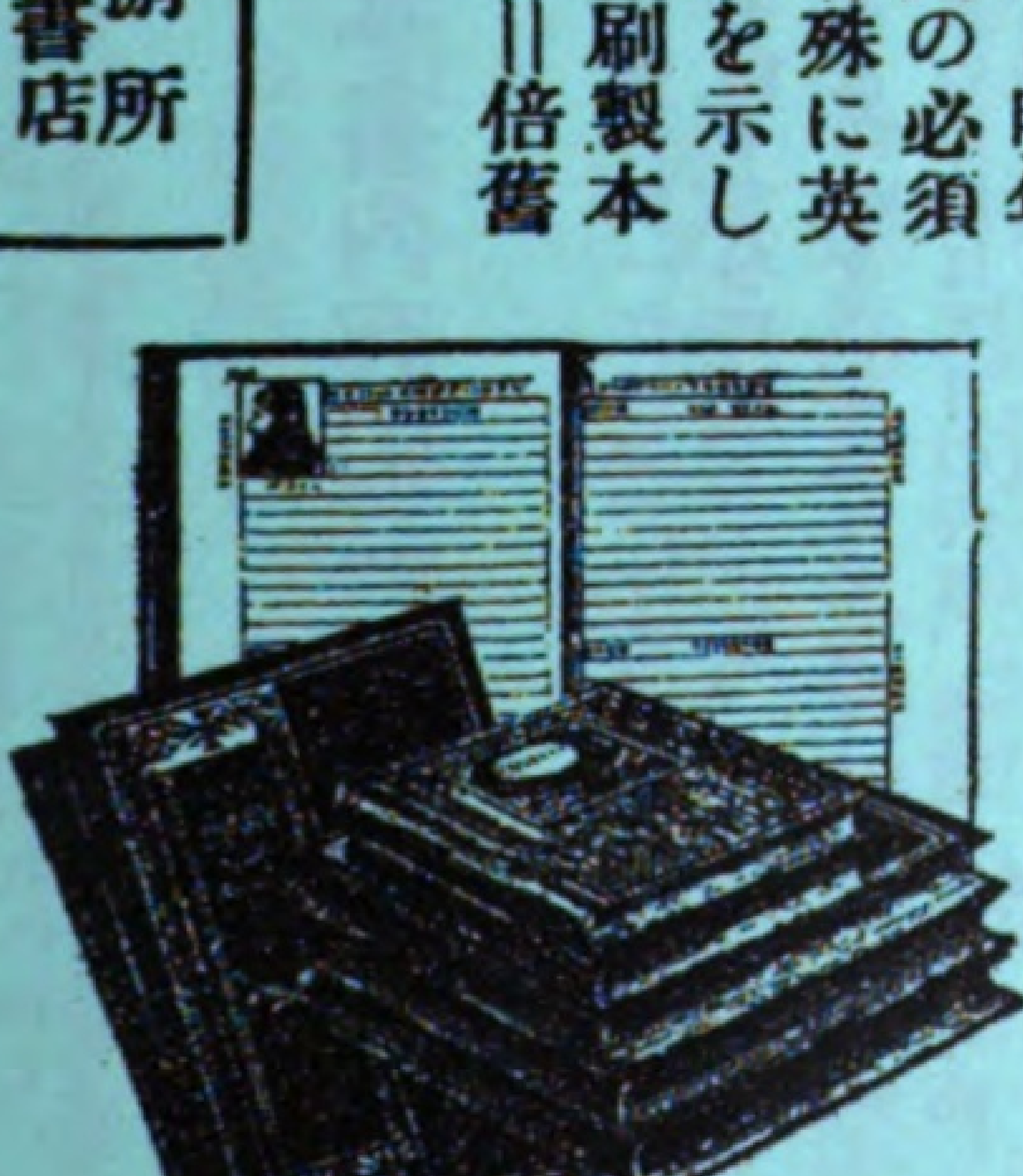
懷中 價參拾錢 郵税四錢

毎歳喝采を博しつゝある最良の英文日記＝明年度用には更に内容を根底より覆して日用の必須事項に至るまで一層の精撰を加へたり＝殊に英文にて日記の書き方を和英對譯して一例を示したる如きは最も參考するに足るべく＝印刷製本又た多く意を用ゐたり其の他敢て贅せず＝倍舊の御愛用あらんことを偏に希ふ。

DIARYS FOR 1910

發兌 東京本町 **博文館**

賣捌所 東京神田 **東京堂** 各地書店



女（たの六）

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

博文館編輯局 少女世界部編纂

少女日記

◉洋裝精巧石版表紙

◉四六判紙數百廿頁

▲定價壹册金八錢（郵稅四錢）

少女諸子のために少女世界部で編纂された日記です。はじめから終りまで、少女に適するやうにやさしく美しく而も書きやすく出來てゐます。日記の必要と趣味とは、今更申すまでもないことですから四十三年の正月を迎へるとともに、是非この新らしくて有益な日記帳を求めておつけなさい。月々の行事や面白いお話も澤山に書き加へてありますし亦必要な少女心得や、お友だちの住所書き入れる欄も設けてあります。少女の日記として、これほど完備した麗はしいものは他にないのです。

發賣元

東京市神田區錦町一丁目
㊌ 文運堂
振替口座東京一九七〇〇番

大阪市東區瓦町二丁目
㊌ 文運堂支店
振替口座大阪八三六五番

東京市日本橋區本町
㊌ 博文館
振替口座東京二四〇番

東京市日本橋區駿河町
㊌ 三越呉服店
振替口座東京三〇〇番

女（その七）

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

謹啓當四十二年度中は本誌外各雜誌上の廣告に關し大方諸彥の深甚なる御同情を蒙り御蔭を以て倍ます盛運に赴き弊館の光榮不過之候然るに本誌も當號を以て今年の終刊に相成候從つて本年度弊館發行各雜誌廣告の形勢を顧るに全部を通じて前年度よりは遙かに好成績を擧げ稍大方諸彥の御愛顧に酬ゆる事を得たるものと窃かに自信罷在候其今日の盛運を來たせる原因固より多々あれども畢竟御得意諸彥年來の御眷顧厚きによる次第と弊館一同深く感謝する處に御座候茲に乍略儀紙上を以て謝禮の微意を申陳べ尚來年度は倍舊の御引立を懇願申上度如斯御座候

追て**四十三年度本誌初刷**は廣告**十二月十日**を以て〆切期日と確定仕候へば歳末御多端の事と奉恐察候へども右期日迄に是非共御用命仰付らるゝ樣乍憚御手配被下度是又併せて奉希上候

東京市日本橋區本町

博文館廣告係

女(たの八)

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

「丁度よう御座います。今日はまだそんなにこんで居りませんから……。またおやせ遊ばしましたね。」

「左樣？　有がたいわ――」笑ひながら代診の大島さんにみちびかれて診察室へはいる。眞白い診察服を着けた山川醫學士、鼻下の美髯を捻り乍ら顏をあげて優しく微笑まれた。こゝへと指さゝるゝまゝ椅子へ腰を下ろす。



「先生、私また風邪を引きましたの、今度は少し咳嗽が出て困りますので。」

「はア成程」卓上のゴールドウオッチパチンと開けて、指輪の輝く手を差出される。脈をとられ乍ら私は無理に俯いて居るが可笑しくつて堪らない、この人去年まで脛つきりの袴に大道

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

を濶歩して居たバンカラ大學生。何故山川さんは醫科になぞなつたんでせうと和さんが氣にする位だつた。のが少しの間にこんな立派なカイゼルを仕立たり、凝たネクタイをぶら下げたり、すつかりドクトルの風釆がついて、角帽時代とは別人の觀がある。レートでもお取り遊ばすか、美顏術のトイレツトボツクスでもお取よせに成たのか、きめが細かくてお綺麗なこと、この樣子ぢや白粉もつけかねないわ、お醫者樣つて云ふと何故みんなかうおしやれするんだらう。だから私Mなんかつける人大嫌ひ……

「は、鳥渡お舌を……」口を開かせる、咽喉をけんした、そして小首をかしげつゝ胸に手を當て、こゝが痛ますかときく、寢汗は、發熱は、と連發する、ヒトを肺病扱ひにしてるわとむら／＼腹が立つたが、大原さんのこと思出して急に胸が一杯になつた。いつそ私だつて同じ病氣に掛れば本望だけれど……。

けれどあゝほんとうにもしや……もしや……私等姉妹もいまに母樣を泣かせるやうな運命なのではあるまいか、大原さんはお母樣からの感染……、逝きましゝ父樣の血統をうけついた身のもしやほんとに……ぞつと寒氣がして目を閉ぢた。

ドアーをおして出て來たら、もう患者が三四人たまつて居た。私は佐野さんから二日分の水藥と含嗽藥を渡され、ちつと咽喉をお痛めになつたゞけですけれど氣管でもわるくなると大變ですから、亂暴な事遊ばしちやいけませんよ、と念をおされた。よつ程私のお轉婆には驚いて居ると見える。

藥瓶をさげゴム草履に音もなく敷石をふんで門外へ出たが、お母樣は秘して被居るけれど、私の父樣は……父樣はね、血を吐き給ふ御病で……あゝ遺傳……遺傳……結核……おいつと熱い涙が沸いて我知らず醫院の門を振りかへつた。

三

あゝ今日も好いお天氣、玉のやうに透けた青空に、綿雲が一ツ二ツ浮いて、赤蜻蛉が力なく飛んで居る。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

桂子様へ手紙を書きかけた途中で厭になつちやつて、お座敷の縁へ安樂椅子を持出し、雑誌を二三冊かかへて來て身を投げかける。

私ねえ、與平さんの繪が大好なのよ。あら櫻井伯爵令嬢……まアこれあの櫻井様の姫様かしら。だけど些とも若様に似てゐらつしやらない、若様のお妹ならもつと〳〵、傾城傾國の美人でなくつちやならぬ筈だわ。さう、さう、櫻井伯つてば美登子女史は何うして了つたらう、あれ程約束して置きながら、葉書一枚よこさないとは餘りひどい、あの人も一種のデカダンだからみんなに嫌はれるので、私も同情はして居るが随分だと思ふ事がある。それは女の細腕に繪筆を握つて、男の中に立まじつてやつて行くのだもの、なみ大抵の女ちやあるまいけれど、でもこれが一度は妻と呼ばれて、家庭を造つたこともある人だとはどうしても思はれない。八歳になる子のお母様だなんて嘘のやう、薄化粧して華手な廂髪、紺カ



Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

シミヤの袴裾短かにズックの書板懸けて、寫生に出歩いて居る姿などは、小説の女主人公にでもありさうだつた。熱心なクリスチヤンで作家では白鳥さんと葉舟さんが大好き、豊かな頬を薄紅にそめては盛んに文學を談じたつけ。櫻井伯の寵妾――だつて？　まさか……でせう、乾度。

桃割式部さんの食卓日記、私これがすつかり氣に入つて了つたのよ。ほゝゝゝふゞちやんちんぷら下げて自轉車走らす白面翼眉の學習院君、夕美さんもずゐぶんねえ。

神よ勝せ給へ、か。兄様？　約婚？　たのもしいのね、私の野球狂も久しいもの。母様には狂的じみてるねと笑はれ、鏡子さんまでがお姉様はベースのチヤンよなんて冷かす。だつてだつて勇しいんだもの選手は前途洋々春海の如き學生、あの希望に輝いた顔、生生した眼、ユニホームに身をかためてしづ〳〵とグラウンドに出場する武者振、女と交際して嬉がつてるやうなものは男のカスだ。長揮一撃すれば熱球砂を噛んで飛び、カツーンと云ふバツトの音が青い無限の大空に響く時なんか、思はず渾身の血汐が沸き立つ。まゝになるなら私もあの三角の應援旗を振りまはし

「見よや早稻田の野球團……」

でも咽喉のやぶける程怒鳴つてやるんだわ。振へ!!　振へ!!　早稻田!!　フレー、フレー、フレー。

「御免下さい。」

がらりと玄關の格子が開いて

「お嬢さんはお出ですか？」

男の聲がする。吃驚して椅子からすべり落ちた。はて誰だらう、私んとこへ來るやうなお客はなかつた筈だのに……西さんか。

きよがお取次に出たのをじつと聞いてると

「は、お出で御座います。お名前は。」

「僕山田です。お嬢さんにさう云つて下されやわかりますから。」

「は、山田様で御座いますね、一寸お待遊ばして……」

オヤ〳〵オヤだ。襖を開けて「あのお嬢様……」と

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

云かけるのを「きよ」と手でせいして

「何んな人？」

「は、若い書生さんで御座います。山田さんと有仰いまして。」

「人違ひだわ、きよ。私山田なんて人知らないよ。まさか縫子さんとこへ來たのでもあるまいしね、左樣云つて御覧？」當家は江崎ですがどちらかとお間違ぢや御座いませんかつて。」



「へえさう申上げますので——」

怪訝な眼つきをしながら引退つて行たが、

「あのお孃樣は御存じないと有仰います。」

「エッ。」

「お孃樣つて萩香樣で御座いますか。縫子樣の方で…

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

…。當家は江崎で御座いますが……」
『イヤこれは、失敬しました。茶店の婆奴、たしかにこゝだと敎へやがつたんで……どうも、失敬、甚だ……」がらりぴしやん。
あんまり可笑しいから出て行つて見るときよがたまげた顏をして
『まア厭で御座いますねお孃樣、隨分そゝつかしい人もあるもんで。やつぱりお門違で御座いましたと。ヒトを馬鹿にしてますわ、お孃さんはゐらつしやいますかなんて參りまして。」
『ほゝゝ一體どんな人なのよ、きよ。』
『何ですか黑木綿の紋付羽織を着て居ました、電車の車掌みたいな帽子をかぶつて……。私お孃樣がどうしてこんな人にお近づきだらうと思つて吃驚しましたので、そしたらまアホヽヽ、、、。」
『まア白條!……』
かつては向陵舍寮の窓に、輝く前途を夢みて、燃ゆるが如き血潮をたぎらしたこともあるとやら。さこそは三ッ柏の徽章凛々しかりけむ人の、夢のやうにも目に浮ぶ……ふいにさし迫り來る腥き咳嗽、せき入り乍ら座敷へ馳けもどつて椅子の上へつゝ伏して了つた。あゝ生きた死骸……萩香は……。

四

『お姉樣ッ……』
雲美しき夕方、兩袖を胸に重ねて緣に立つて居ると、木戸をおし開けて綾子さんが飛びこんで來た。
白茶地の友禪メリンス、ひわのリボンでくゝつた袖口を高くまくし上げて、ふさ〳〵と鴇色のしごきを後に結だ愛度氣なさ。年よりも三ッばかりは幼くて、とても五年生とは見えないが、我が妹ながらほんとに容色よし、朝日に榮ゆる櫻の面に新柳の眉、蕾のくちびる、(それで私には些とも似て居ないと云ふから癪に障る)先生がおハナに遊ばすのも無理はないと思ふ。
『お姉樣、散歩に行きませう。其處までね、さア、ねよ、よ。』

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

柱につかまつて甘へかゝる、大きく結んだ白リボン夕日に映じて木目のあやがチラ〳〵と、ぬれたやうに黒髪が光る。

「厭ですよ私、山川先生に叱られます。夕方外へなんか出ると、またのどが痛くなるもの。」

焦らかすので身をゆすぶつて

「いやアお姉様ア、鳥渡よ。いゝぢやないの……。よ、さア。」

「ぢやお母様には内密よ。」

「エヽ。」

手を引かれて庭下駄のまゝぬけ出した。夕栄の富士、さながら金屏にゑがゝれたやう。見渡す相模野の秋更けて、みだれた尾花がわびしくなびき合つて居る。

足にまかせてそこらをさまよつた。

「お姉様……」

「ハア。」

「あのねエンゲーヂメントつて何のことなの。あの今日學校でね、先生達がうちのお姉様のことをいろ〳〵お訊になつたのよ、そしたら花枝さん達が、江崎さんの姉様は陸軍中尉のエンゲーヂメントだつて云ふんですもの。私ウッツだと云つても聞かないのよ。ねえ、ウツだわねえ。」

「馬鹿な……」私は思はず苦笑ひした。誰がそんな下らぬ事云出したんだらう、豊とお門が違ひます。お京さんと安藤中尉のあの蜜のやうな戀中、そんな風評が耳に入らうものなら、放心すると取つかれるわ、桑原桑原々々

「だつてお姉様……」繼子さん少ししよげて手を背へまはし、自分のお下げのしつぽを引張り〳〵

「先生が。」

「いゝわ、もう歸りませう。」

と歩をかへす。門内へ入ると靴脱に立派な編み上げ靴が揃へてある。あらお客様？　何時の間に……。

二人はそつと茶の間の緣から上つた。何誰――でせう――。

「は、左様、左様、はゝゝゝ。」

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

快活な笑聲。ふと簞笥の上にあつた名刺をとつて見て二度吃驚！　法學士、佐藤敏雄。どつきり胸が躍る。まア佐藤さんとは意外な……。綾子さんは夢中でお座敷へ走つて往つた。いきなり縋りついたであらう。

私は居たり、立つたり、坐つたり、

「荻香……荻香さん。」

母樣がお呼びになる。「はい」と柔順に出て行つた。

「入らつしやいまし」襖を開けて手をつくと

「やあ、はゝゝゝゝもうお忘になつたかも知れませんが四年前……佐藤です」との御挨拶。

「まアあんなこと、始終お噂申上げて居りますのよ」なつかしさは胸一ぱい、語るにあまる思ひをのんで、私は俯いて了つた。角帽姿で別れた人はいま敏腕の法學士、荻香もあの頃の下げ髮が頭高の束髪にかはりました。御新調の冬服、快いらしやの香が鼻を打つ。

「何ですか、まだ御妻子は――」

「あら」何と云つていゝか、眞赤になつて了ふと

「いゝえ貴郎、これはまだ十二月生の十七で御座いますもの。なりばかり大きくてもカラねんねですから仕方が御座いません。裁縫のけいこに參つて居りますのですが。」

あゝ私は何にも知らないねんねかしら。母樣はいつもまだねんねですと有仰る。

青春は人の花だもの、かまやしない、けれど母樣がお知りになつたら、何んなにおなげき遊ばすだらう、だつて乙女はいつまでねんねで居らうぞ、日に日に人生の階段を一つづゝふみ昇つて行く。

「どうも困りますんですよ、とかく裁縫なんかは嫌ひましてね、學校へやつてくれなかつた、やつてくれなかつたばかりを申します。貴方、父が亡くなつてからはそれつきり、學問の方は致させませんのですが、何分机にばかりかぢりつきたがつて……」

「御無理もありません。けれど女に學問は入らんですよ、ま、お母樣のお手傳や裁縫を專一、それが結構です。」

やつぱり母樣と云合せたやうなことを有仰る。ほん

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

とにお嬢さんがお可愛想ですわ、學校へでも入れて存分に勉強させて上げたなら、と云つてくれたのは美登子女史と木村の夫人ばかりだ。が、何も今更女學校へ入學たいなんとは決して思つて居ません。併し向上心はまだ火と燃え立つて居るものを。

「どうせ私なんか駄目なんですわ。學校へはやつて貰へず、折角習はせてくれる裁縫は嫌ひですし……こんな不幸な性質なので……つまり自分が惡いんですけれど」思はず云ふと



「此頃の若い女はみんなさう云ふ傾です。併しまつたく學校なんか駄目ですから。僕もその學校を……つれて來て居ます、今夜お話にゐらつしやい、お相手させませう。」

母樣が「あの萩さん、佐藤さんは夫人をお迎になつたんですつて。この五月……」

「あらさう。」と云つたきり、言葉がつゞかない。

夫人お貰ひなすつたのが不思議でもなし、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

まうとは覺悟して居たけれど、今更に今更に一種の淋哀な感が胸にあふれた。と共に前髪ふくよかなきやしや立の優しい嫁君を想像して見る。紋羽二重の羽織でも召して、東屋の二階の欄により乍ら淋しく待つて居らつしやるでせう、連れてらつしやればいゝのに……

勝見の出身だと有仰つた。

「お幾歳？」と誰にともなくきくと

「二十一です。」

火箸で灰をかきませながら

「丁度貴女の姉さんです……」

姉様ならば貴方は兄さま。あゝ本當にこんな兄さまが欲しい。あつたらどんなに嬉いだらう。

暮れ行く室内に雪のやうなカラーと、金のカフス釦と、床の間に投げざしの白菊の花があたりをはらう。あと青く一文字にしまつてた口もとが、濃い口髭にかくされたので、大變更けて見えるけれど、相變らず可愛い顔してゐらつしやるわ。むつみ遊んだ四年の昔……。併しもう私のお友達ぢやない、母樣のお相手だ。あの溫和しい無口な方がどうしてこんな話上手にお成りだらう、よどみなく皆さんの御消息など語らるゝ櫻田さんは地方の中學校に敎鞭とつて居らるゝとか、それが一番意外であつた。

　やがて私がお茶をかへに立たうとすると

「や、どうもお邪魔しましたッ」と手をついて立上られる。みな引とめる勢もなく共に玄關へ。

「どうも失禮致しました。ほんとうにようこそお訪ね下さいました、有がたう存じます。お目には掛りませんが夫人にどうぞ……」

　手早く靴を穿かれた後から、母樣が外套を着せかける。

「明朝は七時の汽車で一まづ東京へかへります。それから任地へまゐりますが、しますと當分――御きげんよう。」

「佐藤さん、左樣なら。」

「御きげんよう、夫人によろしく。」

「や、」とまた帽子をとつて格子の外で更に一禮、靴音

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

勇しく門外へ消えて了つた。

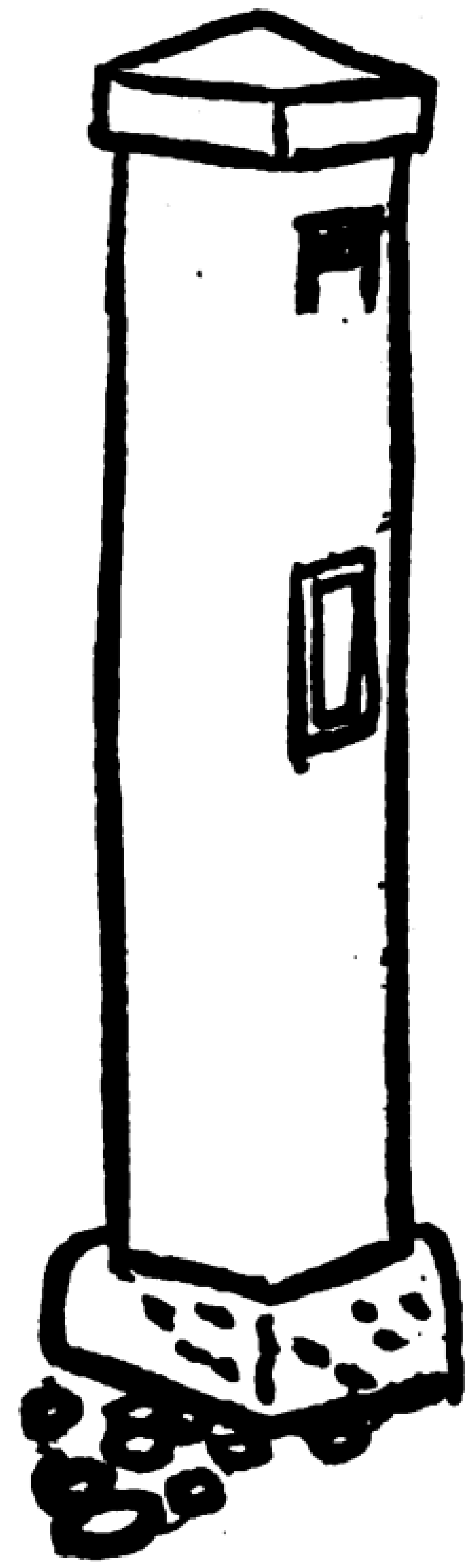
はかなき別れかな。

四年の間、ふつとも便のなかつたまにあんな立派な紳士になつて……。あゝ佐藤さん、ほんとによく訪ねて來て下さいました、忘れ給はねばこそ——嬉しう思まする。

けれどまたそんな遠くへ御赴任遊ばしては、いつまたお目に掛れる事やら、今度はお父樣になつてゐらつしやいませう。新夫人の幸を祈りまする。御兩人永久に——御幸福で御榮え遊ばせや。



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



東洋女學校を訪ふ

藤井瑞枝

村上先生(文學博士專精氏)の東洋女學校を、一度拜見したいとおもひながら、つひ其折が無かつたのですが、此の間上京中、御近所に滯在せるを幸ひ、島地(默雷師)の老夫人を誘つて、先生に御無沙汰の御わびながら伺つたのです。

小石川の白山前を、ズーッと眞直に北へ指して往くと、巣鴨の精神病院が在ります、その少し先の横町を左へ折れると、淋しい裏町、そこが即ち先生の經營せらるゝ東洋高等女學校の在る所です、……あたりの閑寂なる晩秋の光景は、恰も、今度の美術展覽會の、優等品菱田春草さんの「落葉」の樣な風趣を感じました。

門を這入つて、右手の小使部屋で、事務所のありかを聞きつゝ、コスモスや、ダリヤや、其他色々の草花の咲き亂れて居る園藝場の傍を通つて、玄關に訪ひますと、あやにく、今日は先生は「宗教大學」の御講義日で、此校へは御出ないといふ。さらば、和田文學士(秋頭)は?と、おたづねしますと、それも、今日はまだ御出勤なさらぬとの事。

やれ〳〵、田舍者のみそ桶が、はる〴〵出かけて來て、御二人とも御不在と聞いては、豈に失望せざるを得んやです。

そこへ、事務員の岩上行坡氏が出て來られて、まづまづ此方へと應接所へ案內せらるゝので、兎も角も上つたのです。

この岩上氏は、曾て村上先生の「人生の要路」の編纂者として、御名前丈は一寸知つては居つたのですが、よく伺つて見ますと、私とは同鄉の方で在るとやら、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

それで、やつとお話の糸口も開きましたので、今日伺つた譯をお話して、學校を一順見せて頂いたのです。

まづ拜見したのは、廣やかな講堂で、此處は學校の式場に使用するばかりではなく、日曜日の午前には村上博士が、人道講話をなさるので有名な所です。而かも男女を選ばず、聽講を許さるゝとの事で、チャント男女席が別々になつて居ります。

「なる程、……これが至誠堂と申しますですか？」

と私が伺ひますと、岩上氏が、

「まだ確かとさう極めたのでもありませんが、致誠といへば、誠を致すと働らきがついて來るし、至誠といへば、最上の誠といふ事になるし、何れに仕樣かと、先生が申して居られます。」

などゝいふて居られました。正面には式日に高貴の御肖像が掲げらるべき折釘が打つて在つて、今日は何もありませんでしたが、右側には、松島の瑞巌寺の寶物たる。呉道子の石摺の觀音像、左側には、宋の文天祥の、忠孝の二大文字の石摺。……

「其中に檀林皇后か、光明皇后様の御影像でも掛けたならばとの話もありましたが、まだ一向そこまではこびませんで、……」

とは、やはり岩上氏の御話。

そして、人道講話といふのは、

「釋迦や、孔子の如き、古代の聖賢が、人たる者の心得を、如何な風に示されたか、其敎訓の一樣ならざる事を并べ擧げ、又、その敎訓に從ふ、吾人の心得方に就いて、通俗平易の講話がありますから、男の方も、女の方も、成るべく誘ひ合ふて、參聽して下さい。」

といふのが、その趣意で在つて、此の間の十一月第一日曜に在つた。演題は、

「古代聖賢の敎訓に從ふ人の心得」

といふので御座います。

講堂から、廊下を通つて、敎室の方へ往く途中で、よく運動場が見えるのです、花の如き大勢の生徒さん達が、テニスの競技中、監督の有髯の先生が、洋服姿に竹箒を持つて、落葉をかたへにはきよせて居られる際

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

子は、一寸「樂天」式の圖案で在ると、微笑まれました。これらの生徒は、皆四年生で、今は體操の時間で在るのを、自由運動に任せて在るのとやら。

然るに、このむれよりはなれて、此方の島地夫人の方に來り、慇懃に挨拶せらるゝは、清國在勤の〇〇氏の令孃にて、曾て、島地家に寄寓された因縁が在る方です。

教室の方は、五年の國文、三年の音樂、二年の數學と、一わたり瞥見し、機械室にては、生徒の製作品なども種々拜見しまして、再びもとの事務所の方へ戻つて、階上の一年生の裁縫室をも參觀し、最後に、割烹室をも見せて戴いたのです。壁に掲げられたる「衞生試驗所分析」の食品養價分析比較圖解はたしかに參考になるものだとおもひました。

もと〳〵、此校には生徒の寄宿舍が在つたのですがだん〳〵校舍が狹隘を感ずる爲に、寄宿舍を廢して、事務所やら、教室やらにしたので、今の割烹室は、即ちもとの寄宿舍の賄所で在つたさうで、それが爲めか、場所も稍廣く、器具などもいろ〳〵澤山に在りました、割烹室を出てから、もとの應接所の方へかへらうと、致しますと恰かも、放課時間となつたので、階上から、ドヤ〳〵と生徒さん達が降りて來られる、服裝は、別に普通の女學校と變つた事はありませんが、胴即ち袴のひもの上に、（丁度西洋婦人の胴にしめる帶の樣な體裁で）櫻花の校章のついた、巾廣のおびどめを、皆さんがお揃ひにしめて居られるのです。これは御茶の水の女學校でも用ゐて居るとかいひましたが、一寸珍らしく感ぜられました。

最後に、學校の規則書やら、繪はがきやらを戴いて、御暇したのですが、繪はがきは三枚。

一は　學校の全景、

二は　講堂の正面に村上先生の立たれる所、

三は　校歌をかいたもの。

そして、今一寸その校歌を寫してみますれば、

「とよさかのぼる朝日の、光輝まづさす大八洲、
匂ふ櫻をしるしにて、我等少女は集ふなり。」

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

「窓にならぶる文机の、清き心はひとつにて、
うつろひやすき世の中の、あだなる色はおもはずよ。」
「遠きひじりのみをしへを、今めの前に仰ぎつゝ、
唯一すじのほかになき、誠の道をたどるなり。」
「いざや數多の少女子の、なかのそとめといはれつゝ、
名に負ひきつるひんがしの、海の光をそへてまし。」

おもへば、今から殆んど廿年以前、私のまだ娘時代に長らく、村上先生の御講義を伺つた事が在りますが、其後は、行違つて久しく御目にもかゝらざりしに、五六年以前、先生がわざ〳〵御たづね下さつた時に十年も生命をちゞめるつもりで女學校の設立をおもひ立ちましたなどゝ御話が在りましたが、それがいよ〳〵三十八年に開校なさつて、以來、だん〳〵擴張されて現在の生徒は二百餘名といへば、私立としては可なり多い方で、なか〳〵、監督にも、經營にも、御骨が折れませうが、先生には此頃はどんな此容子で御出遊ばすやら、私もはや可なりのお婆さんになつたのですから、先生は、定めし白髮が御増えになつた事でありませうなどゝ、島地夫人と語りつゝ、歸途につきました。

「此校の生徒さんは、みんなよい家庭に育つた方達ばかりだと見えまして、落ちついて、品が在りますね、」

とは、島地夫人の觀察です。

家へかへつてから、東洋女學校の創立趣意書なるものを、よく拜見しますと、其一節中に、

「……夫れ學と云ひ、智と云ふ、是れ世界に共通して人類の具有する所、固より東西古今を問ふの要なし。但、其の業と云ひ、德といふに至りては、國土の狀態に隨ひ、民人の習慣に因り、必ずしも、一樣に範出する事能はず。……然れども、其德器を成就するの道に至りては、未だ曾つて、能く其民人の習慣に順應して、遺憾なきの擧あるを聞かず……。」

と、先生の抱負、以つて知るべきではありませんか。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

出入商人の見たる奥樣

覆面記者

◎米屋の見たる無愛想な奥樣

左樣で御座います。私共は八方御得意樣で、大概の階級の御家へは、御勝手まで御用を伺ひに參りまするから、氣を注けて居りますれば、それはもう種々の奥樣の御樣子が分りは致しませうが、別に人樣の缺點を見出しましても、何の利益も行かないことゝ存じて大して氣にも留めませんから、これと取り立てゝ申上げる奥樣も御座いませんけれども、爰にたつた一人――、お得意樣の惡口を申しては何とも相濟みませんが――それはもう大變な無愛想な奥樣が御座います。

昨日の朝の事で、私は其お宅へ、平常の通りお米を持つて參りますると、生憎女中衆が居りませんので、もとより其儘置いて歸るわけにも參らず。勝手口で、「エ、今日は！」と聲をかけますると、奥の方から「誰？」といふ聲が聞こえるぢや御座いませんか。それが慥に女で、女も奥樣らしいのです。たれも、誰？と云はれるのに、不足は無いのですが、私がお出入の米屋だから能う御座いますが、奥樣は、まだ米屋とも他のお客とも御存じは無い筈、よしや、誰が出入商人といふ事を、奥で御察しになつたとしてからが、どうも、人が聲をかけるのに、誰、といふのは、あまり穩當なお聲がゝりでは無いと存じます。と理窟を申しましても仕方が御座いません。そこで私は、

「エ、桝田屋で御座います。お米を持つて參りました！」

と奥へ聞える樣に申しますと、

「米屋かい！」と襖を開けて出てゐらつしやいましたまだ二十を二つ三つより越さない年頃、眼の釣り上つた瘦ぎすの、其癖鼻は餘り高くないお方で、

「お米、持つて來たの？」と私の前へ突立ちました。

米屋かい、といふのは如何です。私共に對しては失禮も、はつ禮も無い樣なものゝ、其處は女は愛嬌、所

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

謂世辭愛想といふものが無いぢやありませんか。よくそれは、私共の御得意の中でも、六十前後の隱居でさういふのが御座います。豆腐屋を呼ぶのに、豆腐屋――、といふ様な調子ですが、此婆さん達は、何でも昔は與力とか同心とか、碌でも無い身柄でありながら、直參といふ事を鼻にかけて、町人共を眼下に見たのが、習慣になつて今もなほ町人が賤しく見えるからでも御座いませう。棺桶の中へ兩足突つ込んで居る婆さんならとにかく、良人を助けて、家を興して行かうといふ、大事な役目のある主婦たるものが、此様なことでは、他の事が推して知られます。オット、生意氣なことを申して、へゝへ、相濟みません。


歳の市の買物

◎肴屋の見たる小言澤山の奥様

何商賣に砕は御座いませんが、私共の商賣は、其日其日に品物の種類が變るので御座いますから、酒屋や米屋の様に、單純な譯には參りません、同じ鯛でも鮪でも、お素人が御覧になれば差異はない様なものゝ、昨日持つて行つたのと、今日持つて行くのとは、丸つきり品が違ふと云ふ様な工合で、買つて下さる御得意様、殊に其お邸の奥様が、少し目の明いた方と、明かない方とで、私共大變に仕能い仕難いが御座います。

まづ、朝川岸から歸つて參りまして。直ぐとお得意

廻りに出掛けるのですが、「今日は――肴屋で！」と勝手元でいふと、下女が直ぐと奥樣の處へ取次ぎます。勿論、大きなお邸になりますると、老女の樣な方が、お上の召上り物から、下下の惣菜まで、萬事きりもりをなさるんですが、ま、普通のお宅では下女が取次で、奥樣直接のお役目です。で、

「肴屋さんかい。何があるの？」と氣輕に出て來て御覽下さる奥樣は、心持が好う御座いますね。別に用事も無いのに、下女を二度も三度も行つたり來たりさせて、ドゞのつまり、何々を置いて行け、と仰しやる樣な奥樣が、どうも後で小言が多くて、露骨に申せば、分らずやで困るので御座います。

二三日前の事で、私がある御得意樣へ參りますと、いつも下女取次の奥樣が、今日は珍らしくも出てゐらつしやいましたから、これは何でもお客でも澤山あるので、種々の肴の御用があるのだと思つて居りますと、イキナリ

「肴屋さん。昨日の樣な甘鯛は困るね！」と來ました。

「ヘイ。如何で御座いました？」

別に腐つたものを賣つた積りはありませんから、私は何の氣なしに伺ひますと、

「如何で御座いましたつて、よくぬけ／＼と云はれたもんだ！」

形勢頗る不穩なので御座います。私も詮方なく、

「ヘイ。」

「ヘイぢやないよ。あんな不味い甘鯛、中鐵あたりのとは比較になりやしない！」

驚きましたね。私は。御存じの中通りの中鐵、向うは甘鯛が賣物なので、それはあなたお金が違ひます。私が其お邸へ買つて貰つたのは、一尾十五錢ですせ。隨分大ぶりで。十五錢のわりには食べられるつもりなんです。それを賣物にしてゐる老舗で、一尾四五十錢も頂く中鐵の甘鯛と、私のと同じ樣に食べられたら、それこそ中鐵が身代限りを致します。

「それにあの鰕ね。あれも良けなかつたよ！」

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

「ヘイ、イヤ、其樣な筈は無いので御座いますが？」

「イエ、フライにしたら良いかと思つたら、さつぱり食られないの！」

フライの仕方が惡いのぢや御座いませんか、と餘程云つて遣りたかつたが、此處が商賣の弱い處だと、グッと唾を呑み込むと、

「ヘットから米利堅粉から玉子から、少しも違はない樣にしたのだが……あの鰕はダメだつたよ！」

違はない？　違はない、とは何が違はないのか、少少解し兼ねて、

「違はないと仰しやいますと？」

「本とさ！」

云ひ得たりと云はぬばかりに、少少肩をいからして奥樣、ヤレ〳〵もう斯ういふ家庭料理人困らせの奥樣は、大分に減じたぞと思つて居りま



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

したに、此家にまだ斯ういふ奥様があつて、見當違ひの小言を出入商人に浴せかけるのがあること、私は暫時默つて居りますと、

「眞實に氣を注けてお呉れでないと困るのよ。旦那様が六ヶ敷のだからね。お酒でも、お肴でも眞實に大變だよ。何しろ、いつも○○館や、○月あたりの物ばかり召上つてゐらつしやるんだからね！

「左様で御座いますか。以來精々氣を注けます！

と云つて歸つては參りましたが、一かど旦那の料理の六ヶ敷いことを吹聽した奥様は、實は旦那が料理法や肴については、少しも六ヶ敷がらぬことを吹聽したので、○○館や、○月は、成る程大きなお茶屋には違ひはありませんが、料理と云つても普通以下で、材料も一向撰ばないほんの集會茶屋、それはあの小言奥様が本に首つ引でこさへたよりは、少しは好いかも知れませんが、其處邊のものを上等の料理として、一つぱしの食道樂めかすは、大道天ぷらと丸新の薄ころもとを一緒に論ずる様なものだから、もうお話しにならぬ、分らずやの小言奥様で御座います。

◎呉服屋の見たる奇妙な奥様

お引立に預りまする、御得意様の惡口を申すに忍びませんが、如何も御婦人が流行をお追ひになるのが、自分を御存じないと、折角の御苦心が、却つて厭な感じを他人に起させる様な事に相成つて參ります。

私共のお得意で、今年二十七八の奥様、お年の割には氣がお若くて、中々派手な方が御座います。處が、申憎い事ですが、其御容貌といふのがあまりお美しくない。否、寧ろ醜いといふ方が適當で、丸顔の色黒、猪首で、背が低く、まことに引つ立たぬ御様子なのです。

此間、縞御召が入るから、持つて來いといふ御注文で、早速伺ひまするると、奥様にはニコ〱もので、

「早速、難有う。持つて來て呉れましたの？」

「ハイ、種々持つて參りました！」

「瀬田さんの奥様、此頃何を召して？」

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

此奥様の處へ參りますると、先第一に此お尋ねがあるので御座います。瀬田様の奥様に仰しやるのは、此奥様と同じ學校の御出身とかで、今でも頻りに御往來があるので御座います。此頃二人は、もとより仲が善いお友達ですが、着物となると、大の競爭の體で、これは瀬田さんの方に左様でもありませんが、此方の奥さんの方が、すべて瀬田さんに、おくれまい〳〵と成さるのです。處が其瀬田さんの奥様といふのは、これはまた絶世の美人で、片方のヅングリムックリに引きかへ、スラリとしたる氣高きお方、何をお召しに成つても、着物が大に引つ立つので御座います。



「は、矢張り、縞御召を召しまして？」

「縞御召、左様だと思つたよ。此間チラリ其様事を聞いたから、……どんなの？」

「ハイ、只今、それと同じ様なのは持ちませんが、これに似たので御座います」

と私が取出しましたのは、鼠地に黒の亂縞のお召です。

「さう。是れに似たの？」

「ハ、ま、似寄つたので御座います」

「ぢや。これ、私買はう」

お話しは早く定つて、此方は結構で御座いますが、感心其着る人が、雪と炭とでは、同じ色合と、同じ縞柄を召しては、向うを引立つると共に、此方が却つて、餘計に見劣るわけに相成ります。と申すことも出來ません。

『奥様、此方が、中々上品で！』

私は、奥様に親切のつもりで、取り出しましたのは、黒鐵地に薄茶の亂竪縞、目立たない高尚なもので。

『これ、地味ね！』

一向お眼に留りません。

『至極上品で御座います！』

『だつて、厭だわ。此様なの、如何にもお婆さんじみて、瀬田さんの奥様の様なのが好いわ！』

好いことは好いでせうが向様はあなたとは姿形が違ひます。と云いたいが止めにして、鼠地の方を願ひましたが、あの黒丸顔のチンチクリン奥様では、いつそ目立たない黒鐵地の方が、どれだけ好いかも知れません、梅には鶯、竹には雀、其物々で周圍の自然物も違はねばならぬのに、況して身體に着ける物を、其容貌態度におかまいなしに撰ぶのは、如何に女は自惚が強いものとは云へ、あまりに自から知らんと申物、オット、もう此上申しては、私も商賣冥利が盡きて了ひます。

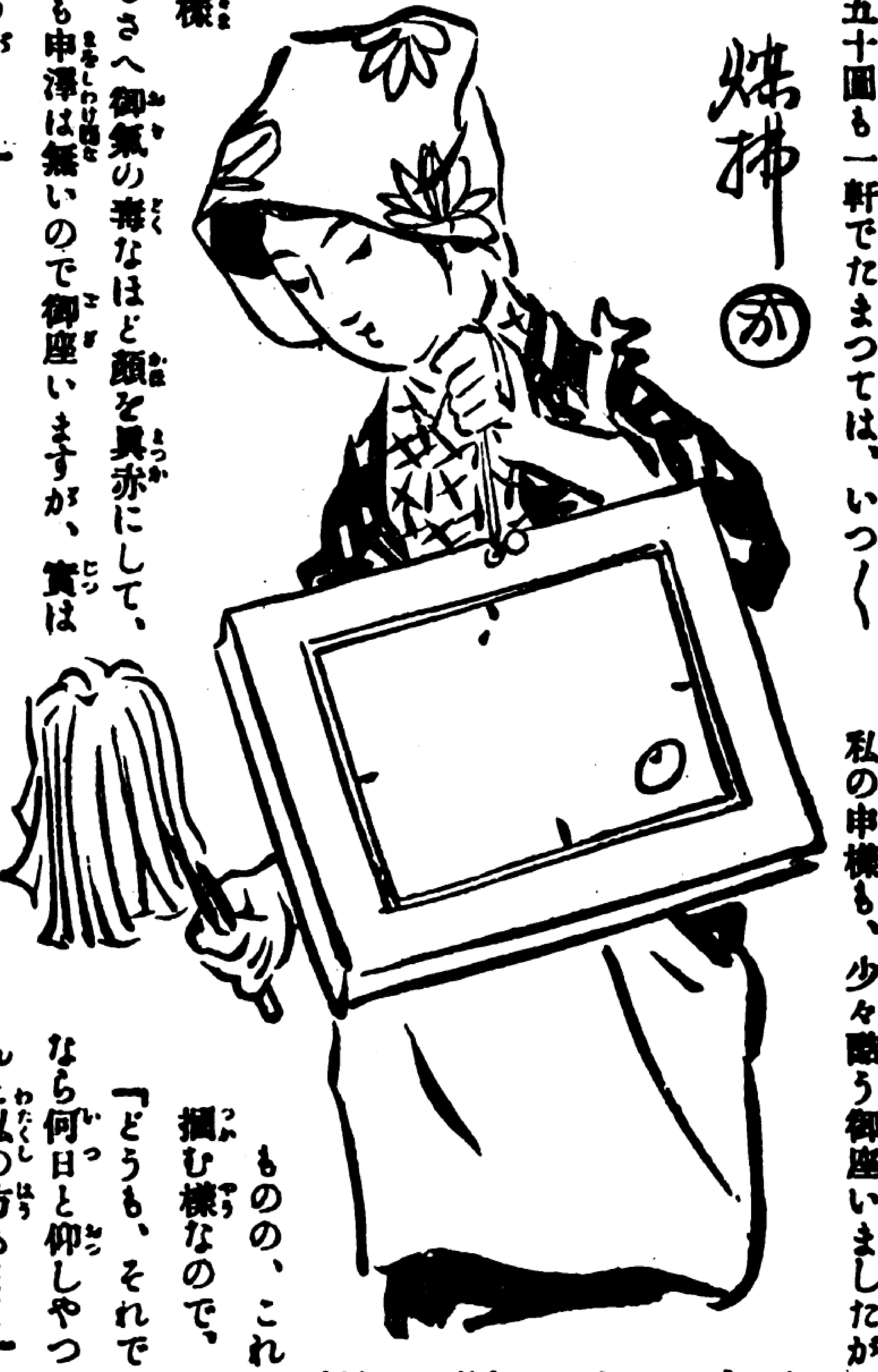
◎酒屋の見たる可憐で幸福な奥様

こゝに可憐想な奥様が、私のお得意様に御座います。

私は、其お得意へは、こゝ足掛五年も御用を聞きに參りまするが初めの内は、酒、味噌、醬油、鹽、油などを引つくるめて、先一ヶ月七八圓のお拂、それがちやん／＼と濟んで行つたのが、昨年あたりから、御親類の厄介が殖ゑたとかいふので一ヶ月十二圓、今年は一ヶ月十五圓とだん／＼增つて參りまして、つい半分頂いたり、三分の一頂いたり、此月も十圓殘つた、此月も八圓殘つたと、殘り／＼が重つて、今は五十何圓といふ滯り、もとより其御得意一軒ではなし、こんな

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

に多く滯る處は、稀れにしても、彼方此方に、三圓五圓と頂き殘りがありますから、資本の薄い私共は、中中の傷事、特に五十圓も一軒でたまつては、いつ〳〵までも苦い顏をしてゐる譯には參りませんから、つい
「御都合は如何で御座います？」
と厭な事を度度申しまする
と、其度毎に奥様は、如何にも見るさへ御氣の毒なほど顏を眞赤にして、
「あの――何とも申譯は無いので御座いますが、實は家内に病人ばかりが……」
あとは云はずに、俯向いてお了ひになるのです。斯う云はれると、何だか此奥様をお可憐想に思ひましたが、



それでは此方が困るものですから、
「それでは、奥様、何日頂けるんで御座いませう？」
私の申様も、少々酷う御座いましたが、奥様の手はわな〳〵と震えて、
「眞實に申譯は御座いませんが、それが其の何日とも……」
お可憐想だとはいふものの、これでは全く雲を掴む様なので、
「どうも、それでは……、何日なら何日と仰しやつて下さいませんと私の方も……」
奥様は下唇をは、噛んでゐらつしやいましたが思ひ入つたといふ風情で、

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

「伊勢屋さん、左樣仰しやられると、あの私は、もう、身を切られる樣なのですよ」

と袖口でソツと眼を拭いて、

「實は良人は、大變な變人でしてね。あなた初め外々の方にも、何日お拂ひをするといふお約束はする事はならん。お金が出來たら必らず拂ふが、お約束をして、萬一その時日が間違ふ樣では、たとへ先方は何處であらうと、金高の多少は如何あらうと、これは盜賊より惡い罪だ。近々金の這入る的はあるが、金といふ物は手に取つて見ない中は、確といふ事は出來ん。もし、先方の都合で、此方に金が拂へないとすると、此方は、他人から違約をせられたゝめに、又他人に違約をせんければならん。自分は友人やら他人から、欺された處が、此方が惡いと思つてジツと辛抱をするだけの心は持つてゐるが、その爲に他人に對する約束を破るには忍びん。何卒、大變にアヤフヤの樣だが、金の出來るまで待つてゝ貰つて呉れ。と私に申すので御座いますよ。ですから、私はもう、誰方にでも日限が申されませんので、あなた方のお顏を見る度に、身體が縮まる樣に思ふので御座いますよ。」

と誠を籠めて仰しやいました。私は初めは何だかアヤフヤだとは思ひましたが、段々聞けば、こゝの旦那樣は、鬼に角人を踏倒して夜逃げをする樣な人ではない。人を引つかけるつもりなら、ヤレ十四日とか、二十日とかもう四五日とか、的も無いのに口前ばかり善い事をいふものです。私は男らしく、

「能く分りました。奥樣、それでは御都合の時に、何卒……」

とその後は少しも催促をせずに、品物も持つて參りました。私の思ふに違はず、それから一月程して、お拂ひを一時に下さいました。斯ういふ精神の旦那樣を持つてゐらしやる奥樣はお仕合せで御座いますね。

(丁)



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

社界觀察

男子の眼に映じたる 鐵道院の女雇員

玲瓏

新宿發午前七時。——この山手線上り列車へ始めて乘つた人は、何の客車も何の客車も滿員なのに驚かされる。そして其の中に數多の妙齡の婦人が立ち交つてゐるのを見ては更に驚くであらう。私も曾ては驚いた一人であつた。誰でも驚く筈である。この列車は鐵道院官吏の通勤列車で、無論普通旅客並に小手荷物を取扱ふが。人員の大部分は新橋の鐵道院本部或は中部鐵道管理局勤務の人達で、總て無賃の恩典に浴してゐる女子は即ち女子雇員である。

さてこの列車に乘り込んだ人々は、新橋へ降りてからそれ〴〵自分の屬する部課へと辿るのであるが、女子は總裁官房の保健課と計理部の調査課、管理局の計理課に最も多いやうである。新橋品川橫濱其他に出札掛をしてゐるのもあるが、それは知れたものだ。八九分は前の三課の内に含まれてゐると見て差支ない。

翠袖玉簪、華美驕侈の弊風が、滔々天下の婦人を風靡してゐる姿は、一寸往來へ出て立つてゐた許りでも直に認め得られる、十年以前には華族の令孃でもなければ持たなかつたやうな品物を、現今では四五十圓位の月給取の娘が平氣で持つてゐる。衣服にしろ髮飾にしろ洋傘にしろ下駄にしろ、總てがさうである。從つてそれ以下の官吏、會社員の娘でも、それに準じて不相應な贅澤をしてゐる。それで生計が立つて行けば結構だがさう旨く行く者ばかりはないに相違ない。

この弊風は鐵道院の女子雇員の間にも幾分見られる私等の考では十五六位の少女を役所へ出さうと言ふからには、さう〳〵家計の豐かな人計りはあるまいと思ふ。無論女學校を卒業して嫁入前の小遣取りに這入る人もあらうけれども大抵は家計の補助——少くとも自

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

分一身に關する費用の一端を父母に貢ぎたいといふ殊勝な心懸から出るのが多からうと思ふのである。しかし實際を見ると女學館あたりの生徒が結ふハイカラな髮を結ひ、白粉をこて／＼塗り、立派な靴を蹴上げて歩いてる人が少くない。まづあのマガレットとかいふ髮に結つてる人の多いには驚いて了ふ。あの髮で、第一御容貌から、リボン、櫛、衣服、袴に到るまで相應に金目の物をつけなければ、似合ふとかふさはしいとかいふ讃辭は呈し兼ねる。不經濟でせうから御止めなさいと言ひ度くなる。

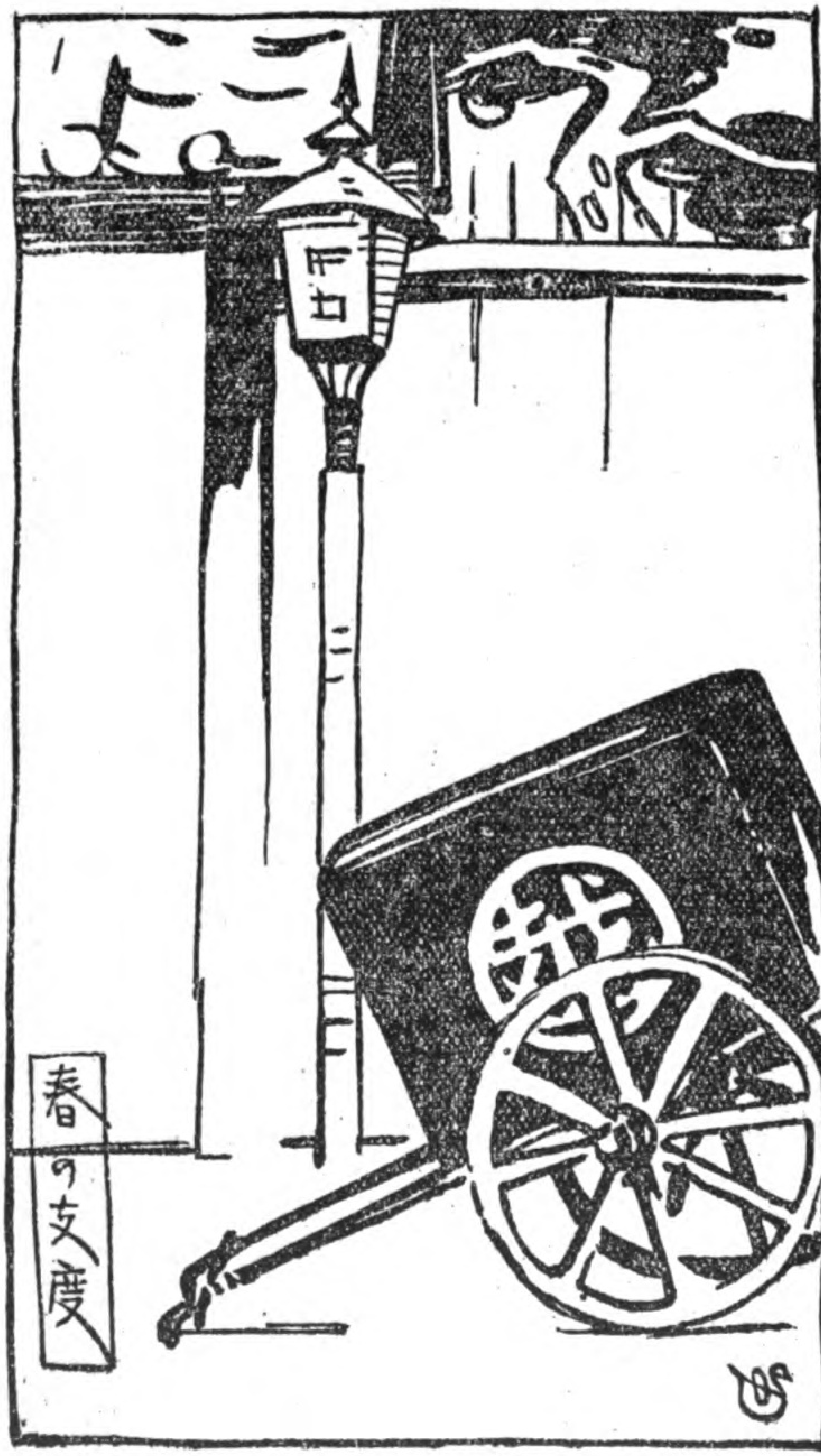
事務室に於ける女子は、單調なる役所の事物に對して、確に一の光彩たるを失はない。殊に彼の張のある甲高い算盤の讀聲が、男子の太い法螺貝の音見たいな中に交つて聞える時いつもさう思ふ。算盤の上手い人も澤山ゐるらしいが、役所では男子一人に對して女子二人といふやうな勘定の仕方をしてゐるさうだ。しかし普通簡易な仕事ならば、女子二人の方が確に早い、加之經費は却つて男子一人よりも安く上る位だから、役所に取つては使へ方に依り、利益なることは明白である。唯、困ることには女子は缺勤が多い、早退が多い、當にして當にならぬやうな箇所がある。も一つ女子の現金なのに驚いて了ふことがある。それは當該係の主任がゐる時には、蟲も殺さぬ顔付をして仕事をしてゐる者までも、一寸主任が座を立つと直ぐ内密話をする、くす／＼笑ひをする、廊下を通る男の批評などを遣り兼ねないに相違ない。

女學校などでもさうだが、女子の交際といふものは餘程難しい。否誰が別嬪だ、否誰の方が別嬪だ、誰さんは別嬪だから贔負される、昇給が早い、賞與が多かつた、あれは怪しい、誰さんが廊下を通る時誰とかを見る眼眸がをかしい、あの人は少し古いと思つて威張くさる、あんな顔面の癖に……と言つたやうな、讒誣嫉妬、猜疑臆側が盛んに彼等の間に交はされてゐるとは、種々な擧動やら言葉尻やらから推量することが出來る。ある時列車の中でこんな會話を聞いたことがある。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

「あのNさん位嫌な人はないわね、私が始めて入つた時には、貴女は新しいから何でも私の言ふ事を聞かなくてはいけませんなんて言つたのよ。」「ほんとに生意氣ね、今日もね、Aさんの惡口を言つてね、初めて見た時は随分美人だと思つたけれども、今見るとさうでもないのねッていふんですもの、私返事に困つちやつたわ。」

「アラ、Aさんは随分美人だわねえ、Nさんは自分を如何思つてるんでせう？」



「屹度日本一の美人だと思つてるのでせう。」「呆れるわね、……私AさんとNさんと喧嘩すると面白いと思つて待つてるの。」

小さな葛藤は何處にもあるものと見える。

も一つかういふ話がある、ある日甲女と乙女とが事

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

務のことから論爭を始め、論は延びて私事摘發となり人身攻撃となつて、盛に口邊沫を飛ばした擧句、甲女は、

「失敬ですが乙さん、貴女の御家では貴女が此處を御退しになつたら嘸御困りでせう。」

と言つたやうな意味で嘲弄した所が、乙女は眞赤になつて怒り出し、

「それなら退めます。」

と言つて其日は早退をしたが、もうそれ切出て來なかつたさうである……。といふと如何にも同院には意氣壯なる婦人ばかり揃つてるやうに聞えるが、決してさうではない。中にはかういふ可愛い出來事がある。

某課の受付係にKといふ若い頑固な男が、二三の少女と諸所の停車場から報告してくる書類の整理をしてゐた所が、一少女の不着書類覺書の記入方に就て、何か解らぬ箇所があつたとやらで例の頑固な調子で二言三言小言を言つた。生憎その人は氣の弱い温和しい女だつたものだから、辯解の言葉がなくK氏に通ずることが出來なかつたらしい。そこでK氏が、

「あなたは何日でも嘘をついて困る。」

とか遣つたものだから、少女は泣き出して了ひ、顔中涙で濡らしながら、包の仕度をしてもう歸ると言ひ出した。同僚が止めても却々聞かない。遂々主任がそれを見て、二人をその前に招び出して、一應Kの言を聞き、更に少女に、

「何故貴女は勝手に家へ歸るなどゝ我儘をいふのですか。」

と聞いた處が、少女は悲哀の絶頂に達してゐたと見えて、突如わアと泣き出したばかり。暫時あつて、

「あのKさんが私のことを嘘吐だつて言ひました！」

と涙聲、跡は泣き噦れるばかりだつたといふ珍談もある。

美人だつて決して少いことはない。クラシカルな丸ぽちやもゐれば、歌麿式の瓜核顔もゐる。楚々として踏むに堪えないやうな歩調をして、彼方此方と事務の都合で交渉して歩いてる姿はしほらしくもいたいけな

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ものである。女子判任官も五六人はゐやうが、その中には隨分社會の辛酸を嘗めた、男優りの女丈夫もゐるさうだ。年齡も相應に取つてゐるが、大抵獨身で、多くは父母弟妹の爲に、一身を犧牲に供してゐるらしい。立派な月給の五十圓も取つてゐる兄はありながら、少しも家の方を振り向いて呉れない許りに、老いて病める親を擁して、可惜嫁入盛りを一心不亂に働いて、徒に婚期を逸して了つた可憐な婦人もゐる。親一人子一人のしかも母は眼しひで些やかな用事をも足し兼ねるのを抱へて、朝參暮歸、出でゝは役所の事務に缺



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

掌し、入りては母に側へる傍、家事萬端を取り仕切つて又他念ない婦人もゐる。是等は何れも「明治孝婦傳」の幾頁を飾るに足るのみならず、優に遊惰な放埒な婦人の、良い龜鑑となるであらう。

自由ならんと欲するの情は、人間の天性である、況してや紅血燃ゆるが如き青年女子にあつては、更に更に切なるものがある、如何かして自由を得たい、少くとも家庭の煩雜から逃れたい、――かういふ希望の下に入つてくる婦人もあるらしく見える。けれどもこの希望は直に空想であつたとが解る、身體が役所の門をくゞるや否や、もう手も足も出ないほどに縛められて了ふ。家庭の干渉に比しては、より固くより冷たい拘束があるとが解る。猶男女間の秘事が時に暴露して同僚が衆の面前に赤恥を晒されてゐるのを目撃する。希望は忽ち失望となり、失望は變じて不安恐怖となるこゝも亦地球上の一廓、決してパラダイスではない。

只この機會は、月二回乃至三回の無賃乘車證下附に因つて幾分か逐げられてゐる。天高く空朗かに晴れたる日、彼等は競つて江島鎌倉又は水戸、長野の各方面へ向つて、樂しき一日の散策を得てゐる。日曜日大祭日は彼等の爲に、無上なる安息日であるとは、曾て學生時代に經驗したそれ以上の深き根柢と、方法とを有つてゐるのである。「汽車に無賃乘れて何處へでも行けていゝ。」とは遞信省あたりに勤めてゐる女子雇員が、鐵道院の人を羨んだ言葉として屢々耳にしてゐる。實際これに依つて彼等が如何に多くの慰藉をうけてゐるかは、推量するに難くないのである。あゝ鮮かに晴れた日曜日、思ひ〳〵の停車場に集つて行先々の想像談などを聞く時、誰か歡喜の共鳴を感じない者があらう

何處の官廳、會社へ行つてもさうだらうが鐵道院のやうに淘汰が多い所では、勢ひ、規定時間以外にまで居殘をして事務を處理しなければならぬ場合が多い。しかし會社とちがつて夜の八時九時まで居殘をしてもそれに對する報酬といふものは皆無だ。役所で辨當を二本食はねばならぬといふ場合、實際女子に同情せずには居られぬ。今まで女子の給料に就ては少しも云は

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

なかつたが、大抵は拾圓以下（判任官には十八圓二十圓の人もゐるが之は別として）の月給なのであるから迚も辨當などは食べられない。二回分持つてくるか、夜の分は歸宅まで延ばさねばならぬといふやうな面倒がつき纏ふ。この時はいつも男子等はいふ。

「ほんとに女も日給の廿五錢位で居殘をさせられちや溜らないね。」

それでも驛に勤める出札掛などに較べると、遙に安



心して事務が執れる。出札掛などになると、兎に角現金しかも比較的大金を取扱ふのであるから、終列車が通つて了つた後に拵へる「乘客賃日報」にピタリと合ふのを見ない中は安心が出來ない、萬一一圓でも二圓でも現金が不足の場合には、擔當者が辨償しなければならぬ。昨年の八九月頃だと覺えてゐるが橫濱の某女子出札掛が一日八圓某とか足りなくなつて、止むを得ず其の月の給料をその儘そつくり、泣く〳〵差出したと

いふ憐れにも氣の毒な話ぞ。同僚の分任出納官吏だつた人から聞いたことがある。

凡そ世の中に、『自分は兎に角、自分の腕で働いて飯を食つてゐる』といふ意識ほど嬉しいものはない。たとひそれが如何に細く小さくとも、自らの心に與へる滿足と誇矜との力は、何人も否む可らざる固い根柢を有つてゐる、神聖にして偉大なる物である。

鐵道院女子雇員諸孃、徒に虛榮富貴を追ふ勿れ、所謂華族富豪の令孃を羨むを止めよ、この偉なる滿足と誇矜とは、世の似非令孃等の夢にだも味ふことの出來ない、卿等特有の賜物である。

火災に就ての心得

日本の家屋は西洋のに比べて餘程不堅牢に出來てゐるから、火災が割合に多い樣である、從つて主婦は平素失火の注意と避難の方法を講じて置く必要があると共に煙草の吸殼、炬燵の火、火鉢の底の燒拔、佛前の燈明、湯殿の焚き落し、洋燈の火など餘程細心に注意を拂はればならぬ、火の用心の第一として夜分就寐せんとする時、煙草盆から火鉢乃至は竈火消壺まで一應見廻りをして置かればならぬ

それから火災の報があつたら先づ狼狽せぬ樣火元は何處距離は如何程、風の方向は何方ぞ、其吹き廻はし方は如何樣かと云ふことを確めて着々避難の用意に取りかゝらればならぬ、そして先づ第一に家人を立ち退かしめることが大切である、尙餘裕のあるならば大切な物品を順次に取出す事をしなければならぬ、又道具を出す際には見しらぬ人には決して托してはならぬ、簞笥などを運ぶことは出來ないと云ふ樣な場合には、一番上等の着物を着られる丈澤山着て足袋を穿き(足袋は如何なる火急の場合でも必ず穿かれば危險です)極大切の物品丈取纏めて信玄袋や風呂敷に纏め夫々身體に應じて持てる物を持つて出るが可い、風呂敷の足らぬ時には單衣物や浴衣のお召を取出し此中に物品を入れるのも妙である、兎に角平素から祖先傳來の寶物とか大切な證書とか云ふ物や紀念物とか其他大事の物品は藏ひ所を一定して直取出せる樣にして置かれがならぬ、

扨て親戚、知己の人が火災に遇ふた時には必ず見舞を贈られればならぬ、或は早々手廻しをして人を遣つて手傳はすなり、食物を贈るなりするのも品の高下に拘はらず臨機應變の處置として妙である、

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



病院でお産をした私の經驗

小柳幸子

（一）入院

五人目のお産、もう我家でしても善さゝうなものと自分も思ひ、左樣仰る方も有り升からと申しても、産に生み習ひ無しとか、之れ迄病院で産をして、今更取返しの付ぬ事になる、兎角世の中は保險を付た時船は無事、たま〳〵付ない時に沈沒するものだと仰るから此度も入院と定めた。

夜具の包、蠅帳、衣類の行李、茶道具類まあ澤山な荷物だ。では行て參り升、大人しくいたすのですよと半コートを着て、ギリシャレースのショールを持て玄關へ出る。

母樣早く歸つて頂戴よ、お土産をきつとよ、私は針箱とお人形、僕は鐵砲とラッパ、私はおまゝごとのお道具、僕は西洋繪具忘れては嫌よ。」と口々に云つて車の側まで付て來る。

若しお産が重くて之で歸られ無かつたら、と胸が一ぱいに成る、鶴龜々々其樣事が有つてたまらうか、之も身體の加減で神經が過敏に成つて居るからだらう、跡を何卒願ひ升と、玄關に立て被在る主に申と、二三日内に行よ氣を付てお出と仰る馴染の病院で手續も知れて居るから下女一人連れて行く。

「御機嫌よう、お早くお歸り遊ばせ。」

と、賑やかな聲を跡に車は動き出した。

言ひ置く事で忘れた事は無かつたかしらと、家の事子供のうへを考へてゐる間に、いつか一村越して漸々廣い野が開展した、實のりのよい稻穗がおもげに露を

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

帯びた芋の葉がビロードの造花の様だ、名の雅しい曼珠沙華が眞紅に咲きつゞく畔道、緑色のやさしい月草もところ〳〵に混つて、學校へ行く小童と、鍬を擔げた農夫がちらほら見える、左に折れると街道筋の小川の端に子供が糸を垂れてゐる、枸杞の實が青く赤く、蓮の白い花が冷さうな秋の水を覗いてゐる。もう向ふに停車場が見える。

(二)そゞろあるき

「奥様御運動に御出に成りませんか。」
と大野さんが檢温器と日誌を片付ながら云ふ。

大野さんは病院の甲種看護婦で、氣がきいて痒い處に手の屆くといつた樣な、而してハキ〳〵と嫌味の無い、江戸ッ兒風ないゝ看護婦、前の產の時この人の世話に成つて、大變氣に入つて仕舞つた、此度も幸手が明いてゐるので又賴む事に成つた。大きなお腹でぶらつくのも餘り見つとも宜く無いが、所在なさに本と頸つ引で御菓子計り食べて胃病に成つてもと、お腹かくしに銀鼠の華紋織の被布を引かけて、スリッパ引ずり乍ら廊下を出る。病室を覗かれるのは自分にも覺えが有つて、嫌なものと承知しながらつい少し開いてゐると鳥渡見る。

曲り角の室、昨日入院した樣で有つたが、室の外で看護婦が氷を割つて氷嚢へ入れて居る、大野さんお友達かして挨拶して小聲で話しをしてゐる、寢臺の傍の椅子に銀杏返しに鶉縮緬の羽織着た人がかけて居る、奥さんかしら、患者は大分惡想な、嘸心配だらう、大野さんが來た。

「御病氣は何?」

「自轉車から落ちて顏と手を負傷なさつて舌を嚙切つて、ブラ〳〵に成つたのを手術成さつたのですつて。」

「まあ危險い事。」

ふと主が自轉車で私の留守中にお怪我が有つたらと氣にかゝる、入院して今日で、一週間外出を禁じられて外が懐かしい、窓から往來を見ると、いろ〳〵の人が通つて走馬燈の樣、空は高くすんで麗らかな日影が

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

商ひの軒の張物に一ぱいあたつて居る、四ッ角から活氣に滿ちた正服の中學生が二三人歩調を揃へて話しながら來る。其後からみすぼらしい。若い支那人が辨髪を鉢卷にして、ネルの荷を擔いで來る、何れ外國へ渡るには、名を揚げ樣とか富を得樣とか、靑雲の志を抱いて來たので有うに、あんな姿をして異鄕に浪々してゐる。この頃遠大の抱負をもつて、米國へ行く靑年が澤山有るが、自分の技倆も思はず、米國とさへ云へば給料もよく金が落ちてゞもゐて成功する樣に思ふが腕一つで巨萬の富を致すは容易な事では無い、立身出世も覺束なく、大言吐きし親戚知己の手前、歸國も成らず、あたら靑春の幾年をさすらへてゐる人も有うとネル賣の哀れなさまを見てそゞろ肌寒い感がする。被布を着た愛らしい子が道の眞中で何かすねて泣てゐるのを、守がすかしてゐる、とう／＼負つて行て仕舞つた我家の花子も大人しく遊んで居るかしら、窓際の椅子に腰掛たら、お冷えに成るといけませんと大野さんが毛布を持て來て下さつた、少し腰の屈だ、白髮頭の老爺が菓子や團子を入れた荷を擔いで片手に茶瓶を下て人車の停車場近く荷を下した、其着付から容貌ものごし先年歌舞伎座で見た松助の白酒賣の新兵衛生寫し白玉の樣な娘が居り想に思はれる、見てゐる間に客待の車夫が一ぱい取卷て仕舞つた、自轉車が飛ぶ、引越車が行く、腕車が走る、女學生の一群、孫の手を曳た老人、カイゼル髯にモーニングの紳士、實に千種萬態である。餘り外を見て目がちら／＼して來た、ちと彼方へ行ませう。朝は大混雜な外來患者の溜りも午後は靜かだ、受付の見習生も暇さうに雜誌を讀で居る、各科の診察室は閉つて、和服白服の看護婦がちらほら見える、齒科にはまだ二三人患者が待て居る、背の高い金緣眼鏡の若先生が葉卷をくはへて新聞を見て居られる、玄關に車が待つて居る。婦人科から看護婦が往診箱を下げて來た、おやお產が居るのかしら人事とも思へない何だかお腹が動く樣だ、「大野さんもう室へ歸りませう。」

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

(三)看護婦

院長の廻診に、日誌片手にスリツパする〱と、うつむき勝ちの見習生を二三人連れた甲種の看護婦や、雪白の服を腕までまくつて、診察所のテーブルに寄り乍らペンを走らしてゐる處を見ると、却々氣がきいて見え、仲好らしいのが手を組むで英詩か何か小聲に唱ひながら、寄宿舍の後園を散歩して居る所や非番の休日を知己の訪問でも有う、思ひきつたハイカラな束髮に、お召揃ひの和服に吾妻草履をはいて身も心も輕さうに、出て行く處を見ると氣樂さうで鳥渡成つて見度も思ふが、昨夜聞た樣な、大患で二日も徹夜したとか、電報打つて、家族の來るまで死者の傍で一人夜を明したり、見習時代の苦勞や、意地の惡い同僚にいじめられるとか、其樣な辛抱は意志の弱い人には出來まい、して見ると婦人の獨立も却々難しいもの矢張重い丸髷を頂いて恁うやつてお產に來た方が宜いかしら。

(四)世はさま〲

まだストーブが欲しい程でも無いが、朝夕は大分冷冷して來た、今朝文樂座見物の御出かけに、持て來て頂いた「思ひ草」を讀でうつら〱して居ると、

「御免なさい。」と音なふ聲がする、左樣々々大野さんは髮を結ひに室へ行た樣だつたと、羽織を引かけて出て見ると、

「失禮で御座い升がお隣の患者は何方へ參りましたかと聞く。」

小豆色お召縮緬にオリブー色の博多の單帶、淡い髮の毛を根上りの束髮にして新ダイヤか何かギラ〱光るピンを揷して、手に繻珍の信玄袋を持つた頤の尖つた神經質らしい白靑い婦人。

「先程看護婦に運動に行くとか仰つて御出かけの樣でした。」

「あゝ左樣ですか夫では少し待つて居りませう、御邪魔を致しました。」と出て行く。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

向ふの室では退院らしい、店員風の若者が二人おづおづと荷物をこしらへて居る昨日可愛らしい聲で唱歌を歌つて、お父さんに叱られた活潑な御孃さんが友禪の振袖を着て嬉し想にはね廻つて居る、けふは乳母に抱かれた赤ちやんも見える

室の中から裾に友糸の縫模樣のある藍氣鼠の半コートを着て、白のショールを掛けた、鼻の高い凄い樣な美人が、指輪を澤山はめた白魚の樣な手を、看護婦に曳かれ輕い咳嗽をしながら靜かに出て來た「母樣早く行きませう。」



と待ち兼ねた御孃さんがまつはる、主で有うでつぶりと肥つた洋服の紳士と、皆連れ立つてこちらへ目禮しながら梯子を下りて行く。聞けば病院に居ても見込が無いので、科長の指圖で須磨へ轉地するさうな、あの樣子ではなかなか快方とは見えない、可愛らしい御子樣も御有りでお若いのにお氣の毒な、何となく其人の上が偲ばれる。

手術室の窓を斜に鮮やかな日影が庭一面映して、配合よく植てある若い草木に、そよ〳〵と風が渡る、一點の曇

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

りも無く、秋晴の空の色は實にいゝ色、着物に染度樣今日も無事、科長はもう間も無いと仰るが一向氣も無い、東京へ手紙を出す、運動ながら玄關のポストへ入れに行て、歸りに娯樂室へ寄つて新聞を見て居たら、大野さんが迎ひに來て下さつた。

「奥樣あの方がお隣の患者さんですと云ふ、年の頃卅五六、筑紫織の衣服も羽織も對で、葉卷を持つ手がキラリと光る、側に立て居る婦人今朝の奥樣とは違ふ、替り縞友下着のお召の袷に、白茶地に菊に雛の唐織の帶を締めて、漆の樣な澤山な髮を、大輪の銀杏返しにして、孔雀石の根掛に古渡り珊瑚八分玉の簪、襟をなめた樣な髱を金の松葉で止めて、背のすらりとしたまあ素人では無さゝう、赤のへりとりのハンケチで、顏をなでゝこちらを向いた、鼻すぢの通つた目元の愛らしい中々の美人。

あゝあれも浮世の樣か、遙々國元から案じて見舞に來れば病人は居無いので外出の出來る迄に成つたかと喜ぶ裏面には斯ういふ秘密がひそんで居樣とは。

看護婦や當直醫が玄關の方へ行く、入院らしい、鐵工所の印袢纏を着た人夫が、擔架を舁いで皆外科の診察室へ這入つた、器械で怪我をしたのだらうか、工場から知らせが有つて、家では親や妻子が嘸驚いてゐるだらう、あゝ氣の毒な、外科は經過次第で早く全治するさうだが何卒好結果であれよといのる。

物賣りの鈴の音がせはしさうに、工場の汽笛が鳴つて、夕榮の空に烟が長くも裾を引く我家では今頃子供等の入浴や夕飯で賑やかで有らう。

（四）出　　產

科長は靜に脈を見て、
「異狀が有りませんから室へ御歸りに成つて宜しう御座い升。」と仰る、では室へ歸りませうねえ、大野さんが用意されたゴム輪の運搬車に移され產婆と產室付の看護婦が付添ひ、大野さんが出生兒を抱いて產室を出た、掻卷を被つて目を閉いでゐる。

「御安產でお目出度う御座い升と云ふ聲がする、誰だ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

らう、エレベートルでもう二階の室へ歸つた。
目を開くと部屋は綺麗に片付て南のガラス窓にカーテンを引き顔元には赤酒の瓶が置てある。
傍に友禪の蒲團をかけて、可愛いゝものは寢てゐる、苦しい時はどちらでもいゝ、早く生れゝばと思ふが、さて愡う落付いて見ると矢張り男の子で主に喜んで貰ひ度い。
襁褓を組んで居た大野さん、時計を見て、
「もう旦那樣御出に成りさうなもので御座いますねえ、まだでせうか。」
「左樣ねえ、電報の着た時汽車の時間が惡いと二時間遲れますからまだでせう。」と云ふものゝ矢張り廊下の足音に耳をすます。
「御出に成りましたら、お起し申升から夫迄お靜におやすみなさいまし。」
と大野さんは後の方で何かしてゐなさる、汽車が間に合へばもうお出の筈と思ひ乍ら勞れてうと〳〵してゐると戸が開いてニコ〳〵した長男の顏とヤアーと滿足さうな主のお聲がした。


新婚の旅

（五）退　院

長い〳〵と思つた三週間もけふで二十一日、科長の許しがあつて明日はいよいよ退院、衣服を持つて初が迎ひに來た、入院の時

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

は單衣で有つたが、秋もはや半ば過ぎて、衣重ねる頃に成つた、出生のは本家の姉樣の御見立だつて、男らしい良い柄、まあ氣がきいてゐるわねえ、すつかり白裏で、帽子は東京からだつて左樣ハイカラだねえ、旦那樣から御手紙を差出す。

抱き乳母もよいのが出來まして明日お迎に參り升と云ふまづ〳〵安心、午後大野さんに出生兒を賴み初を連れてお土產を調へに行く。

秋の日の暮れやすく賄の膳部をはこび炊事場が賑はしく成る頃四季袋に一ぱい十何種かの土產物を買込で歸つて來た、嬰兒は大人しく大野さんに抱かれてすやすや寢入て居る、久し振て步いたので大層疲勞れた夕飯後廻診まで乳をふくませながら、一休みする、目を閉ると思へばもう我家の方へ。

明日の今頃は我家へ着いて子供等が喜んで、母樣母樣と飛付くであらう、主は私が仕立て置たあの結城の袷召して夕飯は久し振りで皆で食べませう、來る時より一人增る乳母も出來たから家の中が賑かに成たらう、庭は楓樹のやゝ色付、桂花の薰り身にしむ樣に花壇の菊も盛りであらう、おや電氣が點いた、初はお土產や衣服を行李へ詰合せて居る、大野さんが時計を片手に脉を見なさる、之も今晩で終い、嗚呼飽々した病院生活も今夜限りだと思ふと、流石に殘り惜しい樣な氣もする、夕方の廻診も申譯だけで濟だ、明日からお濱へのそゞろあるきと、波の上に見る月が今屋根の上に出た、派手な寢衣に羽織を着た患者が電燈ほのぐらき廊下のあちこちに見える、月にもの思ふ人、弱りゆく蟲の音に古里偲ぶ人もあらう、入院が有らしい田中さーんと、病室掛りを呼ぶ聲が遠く聞える。

入院退院、世の中の喜び憂ひを送り迎へ、九死の病者も名醫の手によつて一生を得、あはれ廢者となるべき大負傷者もドクトルの手術に不具を免かる、嗚呼尊き天職なる哉。



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

流行の時計

◎懷中時計は金側銀側を問はず携帶するに輕便なるため益々瘠身形が持囃され、男持はオメガ及び瑞西製の十六又は十七形の兩蓋が流行し居れるが、片硝子は四五年前より廢り氣味となり、粹向きには女持に見紛ふべき十三形が喜ばれ、女持は華美を衒ひて十一形より七形位の兩蓋の小形が上流間の好評を博し居れるが、總て格好の瘠形なるに伴ひて從來圓形なりし紐環、及び劍踊しが佛蘭西式の精楕圓形と變じ、記號もアラビヤ數字が見易きため益々用ゐらるゝに至り、純ニッケル製も廉價なるより一般に賣れ行き減ぜず、値段は金製五十圓より五百圓迄銀製八圓より十五六圓迄純ニッケル製三圓より五圓迄等なり、

◎目覺懷中時計はフランス形にて鐵及びニッケル側製の二種なるが、舊來の目覺置時計に比し頗る簡便にて、手數を要せず、劍覺しの作用にて微細の時刻にも適宜に鈴を鳴らし得るため、話談や旅行中には重寶なれば受け好し、

◎置時計は相變らず綠石及び大理石が持囃され、格好は大抵西洋家屋風にて中央に時計を嵌め、屋根柱等に人物或は草花模樣を彫刻し、寶石類を美々しく鏤めたるものが年々著しく進歩し、花輪童子、犬と猫、鳥と蜂等裝飾に趣向を凝らしたるもの續々製出さるゝに至り、殊に机上用として角形の硝子枠へ時計を嵌めたる文鎭置時計(定價三圓二十五錢)が一般に好評を博し居れり、亦鐵製黒塗及び木地塗の高彫り或は透し彫り等も賣れ行き減ぜざるも、比較的廉價にて持好き角形小判形厚硝子入オルゴール及びヘソ形目覺が最も多く歡迎され居れり

◎掛時計の上品向はメメ色、黒柿及び黒塗の木地に精巧なる彫刻を施したるものが流行し、彫刻模樣は唐草、西洋花鳥類等を高彫或は透し彫と爲し、竹又は草花を畫きたる硝子を嵌め、上部に鳳、果實などの彫刻物を飾付けしものにて益々裝飾に趣向を凝らすに至りしが、實用向きには箭木形、金筋線、面取等裝飾を省きたるものが持囃され居れり

社會觀察

雜誌店の學生客

桃割式部

店の大戸の開くを合圖に私も漸く床を離れる。

月が變つてよりは盆栽の楓もめつきり色を増して漸のかほりがなつかしい、御近所は賣出しといふので早朝から忙しさう。

昨日店に女學世界を買ひにゐらしつた山下さんの御孃さんのお髪――斯う前髪を高くふくらませて、根は低くクル〳〵巻いた――が、如何にも好い格好だつたから眞似してみたが、どうしてもうまくいかない、それにあんな氣取つたヘヤピンも無いんだし仕方がないとあきらめて、いつもの通りローマに結ぶ。

御母さんはまた例の「商人の娘はそんなハイカラなんぞより島田の方がいくら可愛いか知れないよ、吉野屋のお幸さんを御覧な、意氣で何とも云へないぢやないか」と目尻に皺よせて始めたけれど、うるさいから返事は何ともしないで置く。

小僧の嘉吉は御得意先へ新刊物を御屆けに出して私と利助とで店番する。

ズックの鞄を斯う肩から斜にかけた筒袖の尋常科らしいのが一群すぎると海老茶袴胸高にバンドしめた御茶の水が二人おもしろさうに笑ひながら通つた。

ロングコートの若紳士、印袢纏の勇み肌、胡麻鹽髯の中古腰辨や墨染衣の若い尼僧など程々雜多な人々が右往左往にゆきかふ中を滿員札かゝげた電車が絶間なくスー〳〵と走る。

筋向ふの唐物屋の飾窓が新しくかざられたのを遠目ながら見て居ると耳元で誰か

「オイ、北雷の「金融と財政」を呉れ」

みれば二十歳あまりの早稲田の制帽、

「は、田尻博士ので御座いませう？」

「北雷のだよ」

北雷ダッテ田尻博士だつてどうせ同じ人だからかま

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

はないと思つて一部さし出すと汚らしいレース絲の巾着からガラにもない手の切れさうな五圓紙幣をつかみ出してなげる様にほうり付けた。
　何て憎い人だらう、いまいましくてたまらないがこれでも御客と蟲を殺して我慢する。



けれど皮切がこんなぢやア今日は何せろくな日ではなからうと思つて居ると今度は長いマントに○○中學の制帽つけたのが七八人、ドヤ／＼と店頭に立つて手あたりまかせにパラ／＼見る。右から二番目のチックを匂はせたのが眼鏡越しにチョイ／＼横目つかふがよくわかる、け

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

れどわざゝ外方向いてすましてやつた。
二丁目の越後屋のお艶さんが稽古がへりらしい白菊の束を小脇にさげさして、御召の羽織か何かに雪駄ばき、意氣な銀杏返しでチャラ／＼ゆく、いくら別嬪でも尋常三年までぢやアどうもねえ………。
マントの連中は素見だと思つてたら意外、意外、大した獲物だ、例の横目は花袋の「田舍教師」に藤村の「新片町より」と斯う二册まで買つてくれる。青瓢簞の樣なのが艶草紙をくれと云ふ。
ほかの人も各々茶目のいたづら、「常識の基礎」、グラヒックなどを取つた。斯うと知つたら笑くぼみせる位惜しまなくてもよかつたものをと一寸後悔する。だつてそこらが商人の秘訣と常もお母さんから聞かされて居たんだのに……プーカ／＼ドン／＼／＼、黃や紫やさては赤、青といろさま／＼旗押し立てゝ國技館大菊花の廣告が過ぎると御隣りの吳服屋さんでも負けじと樂隊が曲を奏して冬着賣出しに景氣を添へる。
オヤ一體あれは何者だらう？　女教師にしちや馬鹿に粹だし女學生では無論無しと――アラ／＼今相場案內を與れと云つた中爺さんの同行だと見えて何やら戯れながら歩いてる、それにしては餘りに配合が奇拔ぢやないか、氣取つた束髮に白薔薇一輪、御召の綿入のお衿を斯う少し拔いて鐵納戸の袴つけた意氣な樣なハイカラな樣な若い別嬪と、四角然たる菊石親爺とが肩肩相摩すらん許りの有樣で步く姿は正に是れ天下の一奇觀、誰れも彼れもが振り向いて行くのも無理はない大方例のであらうと鑑定たは僻目か。
二十一二のヴアイオリン持つた女學生風が電車から飛び降りやうとして丁度店の前でしたゝか大地に打ちつけられた、賑やかな町だけに彌次馬がバラ／＼かけ付けて十重二十重にとう卷いてしまふ、電車も進行を止めるやら一時はなか／＼のさはぎで女は○○醫院へ連れられた。
「昨日も子供がひかれまして、また今日のさはぎほんとに恐ろしくなりますねえ」とお隣りの御內儀さんの聲がする私もこれから飛び降りは謹しまうとつく／＼

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

思つた。
網ッ曳きの自用車でわざ〳〵御立寄りの當世紳士がパックと繪草紙十枚の御買上げにもいさゝか驚かされたが、丸髪に半ヨートの若奥様が、「行政大觀」は、より以上猛烈だ。
有樂町の宇野さんらしいのが髯の生えた角帽と一緒に電車から下りて何やら面白さうに話しながらやつて來る、派手な羽織にショールかけて大層美しく見える



様だが人ちがひかしら、ハテナと見て居るうちに左隣のミルクホールへ入つてしまふ。
矢ッ張りまがひなしのS子さんだ鍋町女學校で同級に居た頃よりは二割は女が上つた様だが聲は依然としてドラ猫式、顔だけへ白いものをシコタマぬり込んだねづみいろにも變りはない、ハーテ、サテあの縮れッ毛の何處がよくてと、とんだ處で角帽どのが不憫に思はれた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

中學林の脊坊主が佛教概論はしはらしいが、ついでに演藝畫報を一冊とは一寸奇拔だ、頭は丸めても矢張り俗氣は拔けぬと見える。

電話のベルがチリ〱なる。膝に眠つて居た玉ちやん(猫)をほうり出して電話口に立つと眞砂町の櫻井様から眉山全集をとり寄せてくれとの註文だつた。

「あの――邦樂全集の第三編下さいな、それから靜江の繪はがきが有ればみせて頂戴、イーエ叶家のおやないの、林家の靜江……」

これは高島田の十八九、目元が素的滅法好い、靜江などよりはるか尤物だ、ダブ〱の洋服に色眼鏡かけたのやもみあげ青くそり込んでハイカラ振つた清國留學生が大きな口あけて見とれて居る。

畫板を横抱きの寫生歸りらしい束髪二人、海老茶の袴つけて丈の高い方のはかねて何かの口繪で御目にかかつた○○博士の愛孃らしいそれあれはたしかに女子美術學校の才媛とあつたと記憶して居るから間ちがひなからう。

「花ことば」と「みづゑ」とが賣れた。

火ともし頃また電話がかゝつて來る、太い男の聲で「僕は英法二年の杉山ですが七時までに脊木堂前で待つてますから出て來ませんか」といふ。

きつとまた誰かの惡戯なんだよ杉山さんは今病氣で大學病院へ入つてるんですもの電話なんか掛けられる筈はないから。

「私そんな方存じませんよ御人ちがひでせう、こちらは○丁目の△△ですよ」と云つてやつた。

夕暮の幕が靜かに垂れて軒並ガスや電氣で華やかに彩られると町はます〱賑やかにゆきゝの人も活氣づく。

二本條に柏の徽章が五六人、月照る路を足駄カラカラ。

「混濁の浪、逆巻きて、正義の聲の枯れし時……」とうたひながら店頭に立つて、前額にあざのある人が姉崎博士の「花つみ日記」を買つた。「工業界」を云つたのは大方二部の學生であらう書ハゲツチヨロケのか

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

すりずくめに御先祖代々と云つた樣な帽子を平氣で被つて居る。中にも目に立つは女奇人M樣L樣が殊のほか御氣に入りのAさんも斯くやとばかり、隨分獰猛なデコボコ頭、學士になつた曉にも御嫁にきてがないであらうと、餘計なことまで氣づかはれた。

入れちがひに何處の御隱居だか十六七の少女つれて切下げ髮の人品もさまで賤しくないのに、小さんの落語集を五錢引いとけは少々面喰はざるを得ない次第、『もう定價より割引きに願つてるんで御座いますから』と云つても、『よんでしまへば直つきに不用になるもんぢや、剛情云はずとまけときなさい』



お供の少女はまつかになつて默つて立つて居る。御隱居はます〳〵强硬な態度で肉迫する。

『いくら何とおつしやいましても是れより御引き申すとは出來ませんで御座いますから……』と云ひ切つたらばブツ〳〵云ひながら行つてしまつた。

御隣りの店頭では客呼びの蓄音器が今、太閤記十段目をうなりはじめたところ十分あまりの停電で、御退

屈の連中は電車の窓から首突き出して聞きとれて居る自働車が一臺プー〳〵と威勢よく走つて過ぎた。

海城中學の徽章つけた活潑らしい人が光村の「海軍」を夢中になつて立見して居る、短劍姿いさましき江田島生活に若き血汐をたぎらす一人でもあらうか？

　これも鍋町時代に同級だつた鹽澤さん、今は〇〇〇書記官の令夫人が、晩餐果てゝの御散歩か御夫婦御同列で店頭に立たれる。

　氣がついて私の方から會釋すると昔ながらのみそつ齒みせて、

「まあ暫く!!モルモン經つての頂戴な、それから野菜料理の何か珍しい本なくつて？」

　身分がちがふとて高ぶりもせず、實に無邪氣な方だけれど天井がキナクサイといつた樣な御身の格好で、あの美聲の旦那樣が戀女房(？)とはいさゝか奇蹟の感なき能はず。

「マクベスの御講義に夢中になつた時分がなつかしいわね、アラマアあなたの御手は冷いこと!!　チトお遊びにゐらして頂だいほんとに毎日淋しくてねえ」

　のべつ幕なしなか〳〵以て勿體がるなど思ひもよらず或はそのサクイところが背の君の御寵愛淺からぬ所以でもあらうが……これだから少々ぐらゐ二の町だとてスベタだとてあながち悲觀したものでもあるまい、何にしても御睦しいのが何よりだ。

　郵便脚夫が手紙を二通投げてゆく。

白地に銀ですゝきを畫いた細い封筒のは親友の夏子さんから。「かぐや姫の舞扇に今日も歌かきて暮し候」といふ一節があつて

「何となく悲しき夕べ草笛の、
　　　青きひゞきのたゞよひ來たる」

と、黄金色の銀杏の葉に薄墨で美しくかゝれたのがハラリとこぼれる。

　何て詩的な生活だらう、私の樣に日がな一日ほこりだらけの店のまん中に陣取つて御客相手にアクセクと忙しく過さねばならぬ境遇はしみ〳〵いやになつてしまつた、枯野の夕べに歌を想ひ、楓の小枝に琴爪かけてそれが風にきらぐのにまで興を起される友の身が實に實に——實に羨しくて堪へられぬ……と小僧達が店をしまひにかゝつたのも知らず友の文を握りしめた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



世話女房と獨身の女教師

宮澤澄子

女は心の狹い者であるといふ事は、昔からのおきまりで相應の敎育をうけた人でも、往々驚くべき行動を取つて天下の物笑を招く事があります、況して私のやうな學問も無い、經驗も乏しい者は、その日、その時、色々の悲哀や、疑惑が胸一つぱいを支配して、誰に向つて訴へるの勇氣もなく、取りとめた考がもと〳〵無いから、順序正しく、人樣に伺ふ事もならず、つひ其儘すべての思を葬り去らしめて、所謂泣ね入りの境遇に立到る、また已むを得ぬ次第でありませう。

◎

もう四五年經てば、初老といふ四十に手の屆く年をして嫉妬心も凄まじいが、私は幼少の頃から嚴格な武士的家庭に養はれて、娘盛りの時すら小說一卷手にせず音樂一つ敎はらずに、いはゞ堅くるしい漢學者の娘みたやうな風でこの家へ嫁ぎました、勿論見合は形式許りいや應なしで、高砂やとうたひ納められて、こゝに十幾年、何でも唯々諾々、御無理、御尤と通してきましたから、一度すら、顏を赤め合つた事もなく、當世風にいへばエンゲージリングを指にはめてより爾後、出るの引くのと申した事は御座いませんでしたが、今申した、嫉妬心！是は、私が文學なるものに對して呪うので、敢て人一人に對していふのでは、ありませんが悲しいのは遺傳で、私には、優しい詩歌の心が乏しくそれに向つて快樂を求め、其に對して憂愁を覺ゆるといふ觀念が起らないのです。（それでもこの頃は大分面白くなりました）私の夫は、或る官途に就いて、隨分

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

と忙がしい旅行がちな職をとつてをりますが、非常に文學的傾向を持つて居られて、先天的の才能さへあれば、役人なんかを止して、文學で飯を食ふがとよく申されてゐます、其位だから恐ろしい程故高山博士を崇拜して、私の家の書齋は博士の著述が大部分を占め、三保の松原や龍華寺附近の寫眞を、せめてものゆかりとして、額に飾つて御座います、女中にはこの室の洒掃もゆるしません、自分でいたされますか又は出張の折は、私に一分一厘も違はぬやう、舊の位置にしておいてくれ、お前は文學思想が無いから、美術心にも乏しい、己のやつておいた通りにしておけ、大町さんの議論は奇拔でよい、女房は信用のある留守居番也が氣にいつたといつて、から〱と笑はれ、然し、お前が己の書齋に對する留守居番はあんまり信用があるとはいはれぬ、出張の留守にそら、この「妻」といふのを讀んでおきなさい、婦人は夫と趣味の一致が必要だのに歌も出來ない、俳句も詠めない、文章もむづかしいがせめて、繪葉書位、歌の一つも書いて、出張先の寂しい旅館へよこしてくれゝば、己はどんなに慰藉を得るだらうに、それから、留守に由美子さんが見えたらこれを上げてくれろ、大層面白く拜見しましたと、いつてくれるだぞ、と、出張の前の夜は、是等の詞がくりかへされ、いつも〱由美子さんのお名が出るのです、基督敎の祈には、イエスの御名に因つて、きゝ給へ、救ひ給へといひます相ですが、私の夫は由美子さんの名で、心の寂寞を救はれて居られるのでせう、文學の女神は由美子さんに形を借りて、妻としての私の足らぬところを補つて下さるとさへ考れば、何の嫉妬所でせう、大に感謝をせねばならないのですが、弱きもの　爾女！私は妬ましく思はれて、すべての文學に對して呪ひ、同時に、由美子さんの御名を呪ふのであります。

○

由美子さんといふのは、事情あつて終生獨身でくらすを覺悟されて、もう三十近い方ですが、高等女學校で國語の先生をしてをられます、御商賣柄、和歌はお手

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

のもので、夫はこの方に國語のむづかしいところを伺ひます、それは〳〵お話上手な、表情とやらにたくみで、それにお化粧がお上手故、下田樣を遠見の三十とおもへば間違なし、紫紺の袴にふつくりとした前髪の出加減は、二十七や八とは見えません、とても古女房の私、子供の四人も生んだ所謂世帶じみた私とは、くらべものにはならない御容姿、時時二階の書齋で、しめやかに、歌ものがたりに、耽つてそらるゝ時は、私は針の運もしどろ、もどろ、用もないのに、女中をそつと、伺はせて、もしか御用は御座いませんでしたか、お湯は冷へはいたしませぬかと、探偵にやる事も御座います、さうすると、由美子さんは、奥樣はとおきゝになる相ですが、夫は、何案じて下さるな、家内は無學でとても貴女のお相手は出來ません、あれはお勝手の支配人と笑はれます相です。



◎私は口惜くて〳〵一度思ひきつて、かう申しました我ながら其大膽に驚く許りでしたが、一體由美子さんは人をふみつけに遊ばします、女教師の地位として、他人の夫と、卓をかこみ、よしや語るところ、文學にしろ歌語にしろ、よしない人の眼にとまれば何と評されます、あの物堅い、古風な校長樣の御耳へ入れば、御非難はまぬがれますまい、私は何故

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

か涙がこぼれて困ります、主婦といふものを無視なされた行動ではありませんか、(私とてもいつ迄も馬鹿ではありません、雜誌や何かで、澤山學問をしましたから)と、是等を婉曲に、辭令巧みに申しましたが、總體の意味はかうでした、由美子さんも、この時は私に謝られて、一方又怒れる夫を宥められて、私は感情といふ事を度外に置き一言の申譯もありません、奥樣の仰しやる通りです、私は白狀いたしますが、文學を學をおもふと同時に、異性の方がしたはしかつたのです、最初こちらへ參つた時、學校の先生方は誰も〳〵文學に趣味を持つた方なく、偶々其傾向を持たれても勤めに壓迫されて、其に遠ざからんと計つてをられます東京の高等師範の女學生でさへ、德富さんのや、田口さんのを讀んでいる位で、泉さんだ事の、藤村さんだ事の、猶其以上風葉さん、天外さん、其お名さへ知らないのが多いでせう、知つても知らん風で、忍ぶ戀路といふ格好ですもの、地方の女學校で獨歩集や、木下さんのを愛讀するといへば、社會主義者と、とんだ疑を受けて、敎員の椅子は一日も安全ではありません、それ故半年の餘も蟲を殺して、知らぬ顏の半兵衞さんをきめこんでゐたのです、ところがフトこちらの御主人と婦人會でお知己となり、お宅へ上がり始めてからといふものは、砂漠でのオイセス、それは餘りに古い形容です、地獄で佛もありふれた諺ですが、寂しい私の心に、一道の光明が輝いて、今こそ何もかも申上ますが、私は日曜日の來るのが待ち遠で〳〵、御主人樣にお目にかゝり、いろ〳〵伺ふ中に、御職掌外によくも、こんなに御修養が積まれたもの、それにしても何故、奥樣のお話相手を遊ばさぬかと、餘計な事だが、趣味の一致せぬ御夫婦はお氣の毒と存じまして奥樣の感情も何も度外視し、ひとへに旦那樣慰めて上げやう、又寂しい一週間の私の心をも慰めていたゞかうと思つたのが、大それたおもひちがひでした。しかし、奥樣、貴女はよくも二個月餘り我慢を遊ばしました事!二ケ月の今日の御宣告は餘りに情けなう御座います、しかし、もう一ヶ月遲ければ、取りかへしのつ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

かない境遇に到つたかも知れません、感謝いたします今日の御忠告、たしかにお受をいたしました、嗚呼私は、文學を愛すると同時に、異性に近づくのを欲したのでせう、藤村さんのだか、私の境遇とよく似たのが書いてあつたと思ひます、又七八年前の秋聲さんだか、花袋さんだかのにも、たしかに有つたと思ひます。

◎

して見ると、女の獨立は難いでせうか、下田さんや、嘉悦さん、英學者の津田さん、音樂家の幸田さん實に意志堅固に、獨立の旗をひるが



へしてをられます私も理あつて、生涯、獨身で通す覺悟ですから、あの方々にあやかつて、専心女子教育の爲に盡しませう何故の決心とおたづねなさるの、それはいはぬが花で御座いますからきかずにおいて下さいませ、と、さすがは教育者だけあつて理非の分別明らかに、無學の私の忠告を容れて下さいました、今更私は年甲斐もない、嫉妬心にかられた事を後悔し、美くしい心の人の前に、失禮の段を幾重にも詫びました。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

◎これは由美子さんに關した事ではありませんが、中年の獨身者の氣樂さ加減、私は屢々目擊して驚く許りです、それは外でもありませんが、上官の奥樣方にしろ又金滿家のお神さんにしたところで、偶々宅へ御來遊なされて、丁度新らしいお魚を貰つておいたとか、松茸の美事なものがあるとか季節に應じその品物を楯におひるでも上げたいと無理におとめする時は、絹布のお召や絹足袋の雪のやうなのを其儘、私もお手傳いたしませうと、仰つしやて、そこにある、娘の赤い襷でもおかけになるは世間普通の女心ですが、由美子さんにしろ、其外の方にしろ、澄ましたもので、お手傳の手の字も仰しやらず、私が臺所で泣く子をすかしながら、山出しの女中相手に、お茶碗の音、小皿の音かち／＼とたまには、大きな聲も出し、外の子供の喧嘩の仲裁もしながら、忙がしがつてゐるのに、花のお話、月のお歌、今度の新版物はどうだとか、女主人公の弱い心にはたまげるの、何のと、樣々の批評、私は氣が氣でなく、時計の針の進むにつれて、用意の膳の上おぼつかなきやういそがれますが、女先生は一向平氣、お御帶の間に、隱見する時計は何の爲でせう、家庭を持たぬ人は、これだから眞平々々、こんな方に家政學を學ぶ女生徒は、天下の不幸兒とつく／＼思ひました。西洋では、招待せぬかぎりは、お晝時分にならうが、お茶時にならうが、一向おかまひなしで、ふだんは單に用談のみ交換する相で、何と善い風習ではありませんか、文明を標榜してゐる新婦人でも、理論は實際と並行出來ぬものと見えて、時は金なりの文句も、敎場のみの格言では心服が出來ません。

◎

唯今は恰度、くれゆく秋の色、稻田は悉く刈り取られて、巨萬の富をあふぐべき桑畑も、これより永い、永い冬の前には、光輝ある實を呈する事が出來ません低い山には、立田姫の手なみの紅葉が、プライドのよそほひを殘してをりますが、日本アルプスの稱ある、信濃路の連峰には早くも白衣の天人が來りて、人の世

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

の紅き色を失つてをらるゝ心地がいたします、私は高原の暮秋仲（秋より冬の初にかけて）を眺めて、いつも由美子さんのやうな、女性の心持を現はしたものと思はれてなりません、白と紅のけじめ、天と人の境、是等の女性は此の如き間をさまよつてゐるのではありませんかしら、女は女らしく一家を克く整理して、こゝを王國とも城廓ともおもつてをれば、些の迷もなく尤も平穩な一生を送られると思ひます。（なか／＼さうは參りませんが、唯是だけを理想として）筆をおく前に、私は由美子さんが、虞美人草中の女詩人見たやうな我儘にならずに、穩健な國語の女敎員として、益々學を練り、どうか其中に地位ある人の家庭に入りて、直ちに母とならるゝを希望いたします、さういふ家庭は、善良なる妻と母を失つて、子女は優しい母君を、夫君は優しい後夫人を望んでをらるゝと思ひます、妻が死んで、大學生や嫁入前の令孃を持つてをらるゝ御父樣が、御自分の娘のやうな若いのを望み、後妻は若いので無ければ、非常な損失のやう思し召して、金のわらんぢで探がしてをらるゝ方があります、餘りに滑稽ではありませんか、されば大塚さんのお書きになつた「そらだき」の後夫人のやうに、若い息子の母として迎へられたるに非ずとか何とかこぢつけて、心ひそかに戀のほむらを燃やす淺間しい事になります、私共の心やすい、高等師範出の女の先生、この方はながい間、獨身生活をつゞけて、今度とう／＼良家庭にはゐられました、貴族院議員さんですとさ、其舊友の方々は、精々のところ、文學士か又は、檢判事の奧樣になつてをらるゝのは、最後の勝利を博されました、而しお嫁さんは四十一、お聟さんが五十五！三十からになる息子さんにはお孃樣の二人もある相ですから、其方は、すぐさま祖母樣になられたのでございます。（終）



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

寓言

馬鹿者

西洋の或田舍に一人の百姓が居ました。或日用事があつて旅に出る時に、樫の棒をこしらへて、さてお內儀さんに向つて、言ふには

「己は是から三日ばかり用足しに行て來るから己の留守に若し牛を買ひにでも來たら、三頭二百圓位でお賣り、夫より安くつてはいかぬぞ、己のいふことをきかずに下手なことをしたら此棒でぶちのめすから、よいか」

おかみさんはびつくりして「ハイ〳〵畏りました」といつて居りました其翌日果して牛を買ひに來ましたから亭主に言付かつた通り二百圓ですといふと、それでよろしいからと文句を言はずにせつせと牛小舍から引出して連れて行きますお內儀さんが

「もし〳〵まだお金子をもらひませんよ」と催促すると其男は澄まし切つて「ア、丁度今持合せがないから其抵當に此牛三頭の中を一頭置いてゆかう、そしてあした金は持つて來る」といひます、お內儀さんも抵當さへおいて行けば確だと思つたから「それならよござんすから明日はきつとお金子を持つて來て下さい」と言つて牛を二頭だけ遣つてしまひました、ところへ亭主が俄かに歸つて來て「牛は如何した」といふと「これ〳〵で抵當を入れて行つたから大丈夫だらうと渡しました」と言つたので亭主は大怒り、「そんな馬鹿な事をするから仕樣がない」とはや件の棒で打ちのめさうとしましたが、まてよこんな奴をいぢめるのも不憫とおもつて「汝のやうな奴が世間には未だあるかも知れない「己はこれから市へ行て探して來て、若もお仲間が在つたら許してやらう」と出かけてゆきました、やがて市へ行て道の側に休んで居ると牛車を挽いた女百姓がのそ〳〵とやつて來ました其樣子が如何にもをかしな風でしたからつく〴〵見て居ると女の方でも不思議に思つたか「お前さんは何故私をそんなに見るのです

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

かい一體何處の人ですか」「己か己は天國から落ちたのだ」と出まかせをいふと女は嬉しさうに「さうですかそれぢや私の亭主は三年前に死んで天國に行つてるさうだが知つて居ますか」「むゝ知つてるとも〳〵其人なら今は羊飼ひをしてゐるが着ものなんか破れてゐても裁縫師が居ないから隨分穢くなつて難儀をして居る」とさも眞實らしくいひますと其女は大變によろこんで「それぢや着物を托けて下さらないか」「いゝや天國では着物は門の入口で皆剝れてしまふ」「それぢや今日儲けたお金があるから今ちよつくら取つて來るから待つて下さい」とすたこら家へ歸へつて行きます。百姓は心の內で、ハヽア己の女房にも敗けない奴だなと一人でにこ〳〵しながら待つて居るとやがてやつて來て澤山のお金子を出して「どうぞよろしく」と　そのまゝ何處かへ行てしまひました。百姓は今度取つたお金子の勘定をしつゝ木蔭に休んで居るとむかふから若い男が馬に鞭つて大急ぎで來ました若者「もし〳〵貴郞、此邊に天國から來といふ人が居ませんでしたか」百姓「ああ、それは今しがた向の山の方から天へ昇ると言つて行きましたよと「又出たらめをいふと私は實は今お母さんから父さんが天國に居て、其人に托けをしたことをきゝ、もう少し天國の樣子をきゝ度いとおもつて大急ぎで追つて來たのだが……そりや惜しいことをしたな……お前さん誠にすまないが私は今日働き通しで疲れて〳〵やつと此處まで來たのだからとてももう追かけられない、どうぞ此馬を貸すから大急ぎで其人を呼んで來ては下さるまいか」といふ百姓は默つて聞いて居ましたが此奴もまた輪をかけた馬鹿ものだなとお腹のうちで笑ひながら「よし〳〵それなら行つて上げやう」と馬に跨り一目散にかけ出して家へ歸つてしまひました。家へ歸つて早速、女房に今日の始末を話してきかすと汝よりもまだずつとの馬鹿が居るから打つのはまアお預りにしておかうよ」といひながら上機嫌で安樂椅子にもたれながら、あゝ〳〵あんな馬鹿な奴があるお蔭でやせこけた牛の代りに、こんな澤山なお金子と肥えた馬とを手に入れたとはうまいわけだ、アヽ馬鹿もばかには出來ぬわいと一人笑壺に入ました。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



無爲に暮す田園の妻

若葉

夜來の雨はすつかり晴れて蒼天高き好天氣。南向の緣側からさしこむ太陽がまぶしいほどきら〳〵する。とはいへ風もない靜かな梢から黃色い木の葉の二葉三葉四葉音もなく落ちてくる景色はどうしても秋だ。秋!! 秋ももう終りに近い今に菊花うつろひ紅葉散り雪が降つて年がくれてお正月がきてまた一ッ年を重ねるのだ。この樣子でヅン〳〵行けば三十、四十、五十と重ぬる人生の夕べも雜作なくなるだらう。かくて生涯終らば人生とは案外平凡なものだ。なんだかこの頃はあき〳〵して仕樣がない。とまあ愚痴云ふたところでかう云ふ平凡な單調な無趣味な生涯を送るのが妾の運命、今更變化の多い活舞臺へ乘りだせるわけでもない。女學世界でも讀んで新らしい時代の匂ひを山の奧から嗅ぎませう。

まづ目次を見ると美顏術にいつて見た記。私の見合。高女三校評判記。お〻賑かだこと。文質絢爛記事豐富どれから讀まうと氣がうろ〳〵する。同じ女學雜誌でも妾などの書生時代に讀んだ女鑑や女子の友と比べるなら隨分長足の進歩をしたものだ。

女鑑はまだ小學校に通ふた時分其の頃東京御遊學中の兄樣から送つてくださつたのを有がたがつて再讀熟讀した雜誌。女子の友は女學校へはいつて歌よみ文作りはじめた頃ふと投書した腰折が天賞に撰ばれてから得意になつて天晴投書家氣どり愛讀者氣どり夜の目も合せず盛んに歌や文章を送つて揭載してもらふのを光榮とした雜誌だ。

いづれも既廢刊になつたさうな。廢刊となるにどんな事情があつたか田舍ものゝうかゞひ知るべき處でな

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

いが時代に遲れたといふ迄に一原因がきつとあるだらうと思ふ。して見ると其の愛讀者、投書家(?)たりし私なども旣に世の中から葬られたわけだ。

昨日も此の春東京の〇〇女學校卒業して歸つた從妹のつやさんがきて姉さんこんな田舍へひつこみきりに引つ込んでしまつちや、死んだのだか、生きてるんだか、わからないわね、私、今〇〇村の〇〇から求婚があるんだけれど、こんな田舍へ片附くのはいやだわ。春から半歳かうやつて居る丈でもあき〳〵したのです もの妾どうしても活社會へ住みたくつてよと大層な氣焰であつた。

ほんとに、東京の活社會に居られる方と比べたら自分なんか全く死んだも同樣。食べて息して居ると云ふまでゞ、妾なるものゝ此世に生存する爲めに、何等の影響を他に及ぼさないんだもの。これでも子供があつたら、間接になりと、幾分の反映を他に及ぼす事もあるのだらうけれど、……。

横へそれたり、さきへまはつたり、くりかへし立ちもどり同じやうな事考へ〳〵一日栽縫して居たら、頭が重くなつてきたから、夕方畑へ出ると、川向の雜木林が、ボッとして見えないほど霧がたつて、川添の道を白丁さげてバタ〳〵と寒げに歸つてゆく小娘の姿、隣境の垣根にヒョロリとすがつて居る赤い烏瓜、すべてあたりは春秋の光景を示して居る。オレンジ色の夕雲、霧にかくるゝ馬子の鄙歌、みんな畵中の景、詩中のものだらうけれど、毎日見馴れた目には、何等の感興も浮ばず、夕風が冷たいから、羹こしらへて良人のお歸りをまたうと、其處にある春菊を前掛へ一ぱい摘んで、急ぎ足に裏口から歸つてきた。

上り口に郵便物がおいてある。一ツは小包で一ツは大きな横封筒。大いそぎであけたら東京の信子さんから旦那樣とお子樣がたとお揃ひの寫眞。

この間御出産のお悦び上げた坊ちやんが、もうこんなに大きくなつて、さぞお樂しみな事であらう。それにしても信子さんのお若い事、前髮ふつくりと柄のいいお衣裳を、少しぬき衣紋にきたお衿のあたり、二人

のお子さんのお母さんで、三十近い方とはどうしても思へない。

手織木綿の綿入れに、同じ前掛しめて、春菊つみにゆく妾を見て、この若々しい美しい奥様と、對の矢がすりきて學校通した時代があると誰も思ふまい。

ほんとに、田舎の素封家なんてつまらないものだ。田が何十町ある、山が幾らあるといふたとて、それをどう活用してゆくわけでもない。たゞ祖先から頂いたものを、次の代へ傳へてゆく取次人番人のやうなものだ。得米が何百石あつたとて、妾が一日に食べるお米はやつぱり數合を過ぎないものを。……でも、人は財産があつて、厄介のない處へ嫁いて、お仕合だといふ。この間も、講師〇〇先生の處へ手紙さし上げる時、「門前の田畑、後庭の丘林、昨日も今日もかはりなき田舎家に何のかはりたる面白さもなき朝夕、たびたび都の空のみなつかしう、花やかなる活動場裡に勇ましう進み給ふらん君達の上を羨みながら、無爲平和なる境遇にあまへて、何のなす處もなく明し暮し居り候」と申上げたら、「無爲即有爲なり。車夫や郵便脚夫に等しき社交場裡の活動は、眞の活動にあらず。都の文明はたゞこれ波上に浮べる根なき花のみ。平和なる田園の家庭生活こそ人生の最大幸福に候はずや」といふお返事があつた。こんな生活が最大幸福では、人生大いに心細いわけだけれど、まあさう思ふて諦めて居なきやァ……。

暮れて後ながくおまちしたけれどお歸りがない。また地租輕減派の會合でもあつて、町へおとまりなのだらう。下部屋で男どもが濁酒飲んで賑かにさゝめいて居るのを聞きながら、廣い茶の間の隅で一人靜かに御飯しまつて、さつきの小包あける。札幌の農學校の勉さんから種物を送つてきたのだ。みんな英字で名がかいてある。夜長のひまつぶし、本箱の奥からデクショナリーひきだして、オ、さう〳〵、アスパラガスはまつぱうどでコーピーはふぢまめなとゞ讀んで見る。さんざ苦勞して習つた英語を、よくまあかう忘れたものだ。でもまだＡＢＣおぼえて居て字引が引けるのが不

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

思議。

たらちねはかゝれとてしもぬば玉の、家黒髪をなでずやありけん。習はせてくだすつた御両親も、敎へてくださつた先生も、こんなふがひないものにしやうとではなかつたであらうものを。

人間の一生、ことにも女といふものは、わからないものだ。小さい時から、内氣で、温和くて、女學校も東京へは出ないで田舎の四年程度で濟ませて、ちきお嫁にいつた妹のつや子は、覇氣の多い良人をもつて、浮沈定まらぬ世の波に揉まれて居るし、お俠で氣强いといはれた自分は、こんな田舎の手堅い家庭の妻になつて、質實な暮しをつゞけて居る。相愛の許嫁の君が征露の犠牲と斃れられた以來二十から二十五までの女盛りを、お白粉つけず、リボン飾らず、一管の筆に書き出す千紫萬紅の枝に身を委ねて、濁りにしまぬ白蓮の操高く、あの方こそは、天晴閨秀畫家として、獨身の生涯消く終らるゝであらうと思つた雪枝さんは。

『逢ふや柳因、わかるや絮果、何事も生を受けざりし以前よりの定めぞと思ひすつれば、恨みもなし、悲しみもなし。たゞ神のゆるし給ふ境遇のもとに、我が世安らかに送らばやと思ひ定め申候といつて、二三日前約婚の通知をよこした。

慰藉とし、天職として勵む特殊の藝能人にすぐれ、志操堅固なあゝいふ方でも、うらわかい婦人の獨身といふ事はむづかしいものかしらん。この間も何やら讀んで居たら、女の花は處女にある。四方に求める手があるからである女の權威は妻にある。夫の家といふ定まつた領域があるからである」とやら云ふ言葉があつた。花なき後の女は家庭といふ大地なしには安心立命が得られない。無意味でも平凡でも神のゆるし給ひし此の天地、この家庭、此の境遇に感謝して妻は温良な妻とならねばならぬ。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN



東京だより

夕ぼし

月見れば千々に物こそと、太平、和樂、安寧、安全……これでは、ちと、お祭禮の御神燈のやうですが、兎に角、樂觀なべての肉塊たる私でさへ、ともすれば我が身一つの秋にはあらねど、なんどゝ詩人ぶりたくもなる此頃の月！　噓ぢやなく何とも申されませんのね、あなたも御覽遊ばしたでせう、慥か、文藝倶樂部だかに、「雪月花」の中で何が一番好きかといふ、諸文士の嗜好が出てをりましたの、矢張り「月」の方が多うございますわね、「田山さんだつて「月」ぢやないのと、影でお噂遊ばしても、「ハクション」といふ改良自働無線電話が備へ付けてありますから、すぐ分明りましてよ。それに就て、不と思ひついたのは、高塔を立てゝ、火星へ無線電信を送らうと、劃てる世の中、もしかしたら、あなたの爛々たる御瞳が、あの月の中へ映つてゐやしまいかと見ましたけれども、終に、徒勞に歸し、もう一足で汽車へ乘りおくれたより、ヨリ以上落膽いたしました。

「吾人は須らく現代を超越せざるべからず」を、座右銘と遊ばしてらつしやるあなたに、此の樣な報告は、無用の長物でせうが……、何ぞと、言問はせ給へば、直ちに答へまする、運動會の模樣なのですの、ね、何卒お聞きあそばせな。

私だつて實は行きたくない……ではない、實は行き度い、そりやあ、表面では、あんな、身體裝飾の共進會なんかと、けなしては居りますけれど、やつぱし來賓の舞踏の時なぞ、五千に餘る、異樣に輝く瞳を奪つて、靜々と、思ひ切り振つた風姿に氣取つて、出ても見たいわ、あら、何故、さうお眼をお閉ぎ遊ばすの

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

？　いくらお美しいたつて、あなたのお瞳まで奪ひはしませんことよ。

　でも御存じの通りの境遇でせう、見せつけられるんだつて餘り……どころか堪らなく、大きい聲ではいはれませんけれど、妬ましいわ、潮風さんの仰有るやうに、目のお正月が出來ると、男子の方なら、それで澄ましてゐられませうが、同性の、況して、同じ年輩同じ教室で、同じ先生に、同じ教育を、うけた身ですものね。

　裁縫の師匠のお宅で、内田さんから、「運動會ね、二十日に決定つたんですつて。」といはれ時に、「まあ、さう。」と、嬉しくも胸が躍ると同時に、忽ち、黒雲が天ぢやない、私の心に漲りました。

　着物は如何しやう、と、もう、すぐ心の中では、相談が始まつてるんですもの、此の手紙を御覽あそばしたら、憫然に堪へないと、あなたは、屹と、お泣き遊ばすことでせう。

　でもね、都に居りましては、到底、超越は難しうございますのよ、それは、草子さん（私の名）が、意志が薄弱で、克己心が、グニャ／＼してゐるからだつて仰せもありませう、エヽ、大ていは、それなんです。が、第一、都の空氣は奢侈の色を、呈してをります、空氣を呼吸なくつちやお人間は生きてをられませんもの、嫌でも、應でもその、奢侈の色を帶びる空氣を、呼吸いたしませう、自然と身體中が、奢侈に出來て來るのは、當然ですわ、ね、徹底した、眞理でせう？ホ、、、我田引水の眞理は好い加減に切り上げて、運動會の模樣を早く申し上げませう、とにかく、順序として、語り彈きで御祝儀から始めます。

　袖付けへ繼ぎの當つてゐる銘仙の着物を、お別れする時、御一緒に、お茶の水で、寫眞を撮つた時の、彼の前世紀の、御召と取り替へて、僅かに、薄色の縮緬で隱して參りましたの、薄色と申せば、當今、流行の錚々たるものですが、これは、去年の暮、春着に仕立てますのに、其時分は、お納戸全盛だつたのでせう、ですけれども何だか、私、お納戸は、氣が向かなかつ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

て、鼠と、藤色がゝつたのにしましたのよ、それが、好い、案ばいに流行の神樣が、私に幸福をお授け給はつて……といふ來歷なの、まだ一度も、學校の集りへは着て行かないし、丁度、つい此間、三越で、買つて參りましたといふ風で、頗る體裁がいゝわね……、まあ、こんな內幕の、樂屋を曝露けてしまつちや芝居も面白くないわ、あなたを御信用申して、申し上げるのですから、何誰にも御吹聽あそばさないで頂だいな、どうも御氣の毒さまね、私のやうな親友をお持ちあそばして、

三越へ參りましたのは事實よ、この前の日曜日に。イヽエ、ま、女店員の觀察なんて……買物つて理由もなくいはゝ、田舍者の淺草見物と、同型ですのよ。

あなた、未だ市區改正で新築になつてから、ゐらつしやいませんわね、ほら、天長節の日だかに二人で參りました時、素的に氣に入つちやつたと云つた、〇〇の賣場の、あの西洋人みたいな、婦人の方ね、居りましてよ、何だか、イキナリ言葉でもかけて見たうございましたわ。

それから、光琳式の模樣ね……お話しが變になつたわ……いやあだ、運動會の模樣と、裾模樣を間違へたの、ついね、仍の女店員が心に浮んで、目先を離れなかつたものですから、始のお約束を、全然忘れてしまひまして、何とも申しわけがございません、滅相な、かつぐの、なんのつて……どうぞ、どうぞ、惡しからず御めん遊ばせ。

では、今晚は、揭示の時間も切迫仕りましたから直ちに大切りを、御披露仕りますの格で……エ？もう、お嫌やになり、遊ばしたの？　ちや仕方がありませんわ、なあにね念つて事もありませんのよ、太夫が違ふ丈で、千篇一律でございますもの。

ほんとうに、失禮申し上げましたわ、お定り文句の失禮だとお思召し遊ばさないで下さいな、まつたくなんですから。

例の印象的な、お短歌が、是非とも伺ひたうございます。さようなら深山のすゞき樣へ、東京にて草子。

肺病を驅逐せし實話

白菊女

「大層御馳走が出來たね。」と言ひつゝ良人は食卓に就かれた。上に置きし洋食の一皿は拵へたてのチキンシチウ、白い馬鈴薯に赤い胡蘿蔔、外に一二品。下手な料理だけれど、熱誠だけは籠めてあります。良人は會社から戻つて入浴を了へて、此晩餐に就くのが何よりの快樂で、小壜のビール一本で微醉機嫌の大滿足。之れで一日の疲勞を全く忘れて安らかに翌日の朝まで眠るのです。

「今日は助手が寢んで居りますので上手には出來ませんでしたが、まだ外に牡蠣のフライが御座いますから。」と私は白前垂をまだ脱さずに良人に言ひました。

「ウム、お竹の病氣は如何かな？」と良人は問ひ返された。

「どうも熱が出ましてね……それに咳が未だ止みませんで。」と私が答へますと、

「咳は未だ止まんかな。」と言ひつゝ唇の下まで持つて行かれた洋盃を俄に下に置かれて、何だか深き思ひに沈まれた。

ノートブックと首引して漸くに出來た牡蠣のフライ

「さア出來まして御座います、柚子が添へて御座いますから。」とフライの皿を持つて來て私は同じく食卓に就きました。

毎時もならば既う良人の顏は熱し、そろ〳〵微醉を認めるのに今宵は樣子が變つて居るので、私は不審に思つて、

「どうか、なさつておでゞ御座いますか。」と訊くと、良人は聲を潜めて、「俺は大變なことが出來たと思ふよ。」と云はれた。

「何で御座います？」と私は急き込むやうに訊ねますと良人は、

「お竹の咳の事でさ。」と意外の返答に、私は呆れて、

「おほゝゝゝ、あれは貴郎、風邪ですもの。」といふと

「さう單純に考へて、事を容易に濟した時代もあつた

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

が、今日の俺は然うは行かね、あの咳の工合が甚だ宜しくない。俺は醫者でないけれど、經驗上どうも……」といつて、續く言葉が淀みました。私はどうもをかしいと思つて、

「肺病だと仰有るのですか。」と問ひますと、良人は言ひ難さうに、

「先づ其樣だらう……」と言はれた。

けれ共私は此の言葉を信じ兼ねて、「だつてお竹の體格ですよ。」といふと、

「それはいけない、お竹の體格の健全なことも、兩親が壯健なことも、そりや分つてる、だから遺傳とは思はないが、しかし感染と云ふことは考へなければならない。」

「だつて、誰から感染しましたらう。」

「オヤ既う忘れて居るね、あれが家へ來る前に奉公して居た家は秋山とか云つたらう、其所の夫人が肺病であつたといふことを確かお前から聽いた筈だが。」

成程私は話した事がある。

「それに一體秋山家の女中の待遇法が非常に惡るかつたといふ事に就て色々話をした事もある筈だ。それだからあの咳工合で見るとどうも肺病ぢやないかと思はれてならないよ。」

今日凡そ主人と下女といふ問題位解決の區々なのはありますまい。隨分ひどい待遇もある樣で、一個の雇人として相當に遇する家庭は恐らく數へる程しかあるまいかと思はれます。

別して秋山とやらいふ家は聞けば、財產家ださうですけれど女中の扱ひはひどいもので、食事なども敢て美食せしめるには及びますまいが皆主人側の餘り物とは可愛さうではありませんか。奉公人は嫌がつて、半月と辛抱するのは無いさうですが、其所にお竹は一年餘り居て、大變夫人の氣に入つて居たさうで御座います。人の半月と辛抱し得ぬ家に、一年餘りも居たのですから、氣に入るのは尤でせうが、病氣の危險もあつたでせう。

そこの夫人は間もなく、亡くなられたからお竹は既

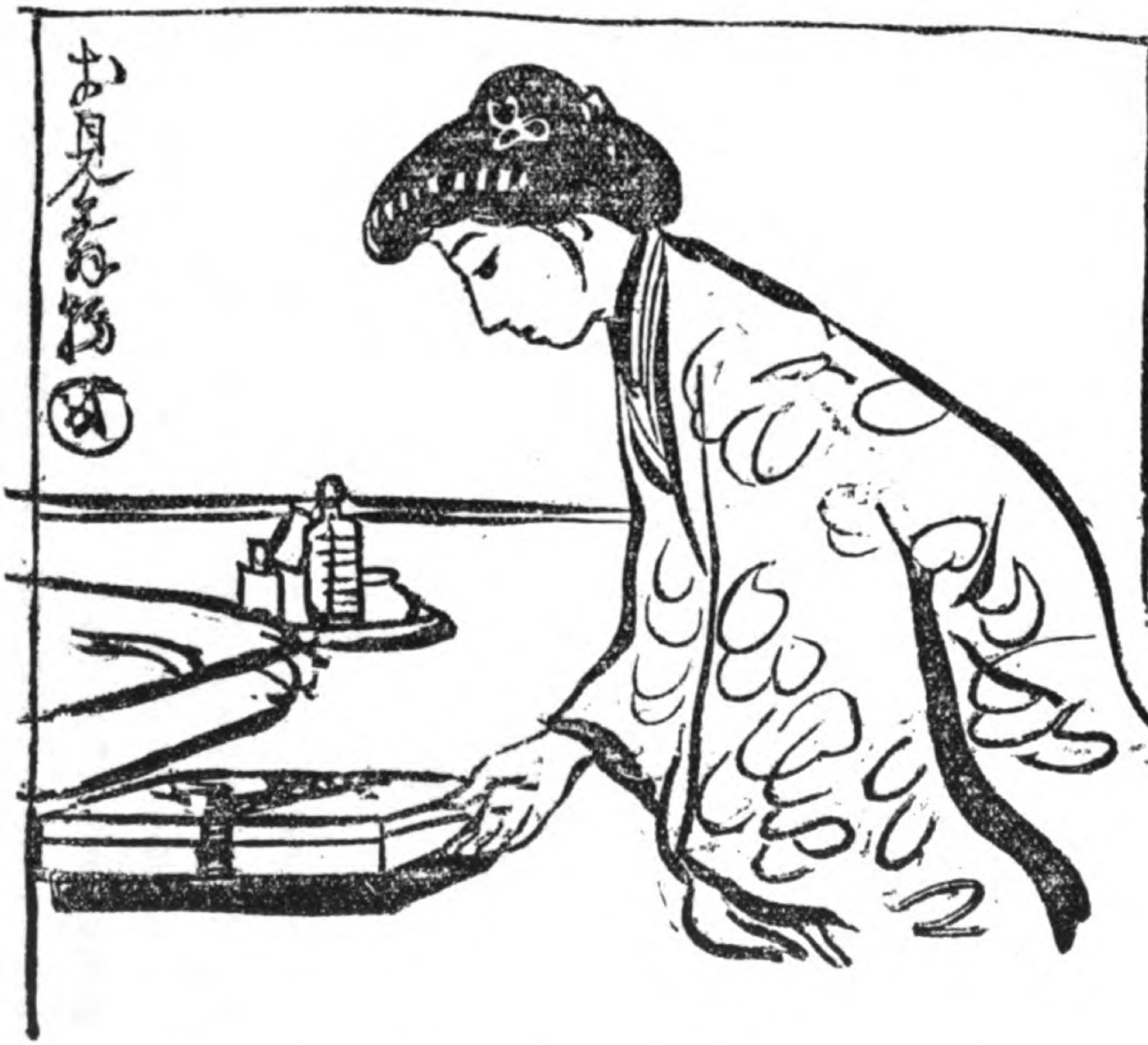
Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

う居る氣にならぬと言つて其所を暇を取つて我家へ來たのです。

『本當に感染したので御座いませうか。』と訊くと、

『良い醫者に診て貰つた上でなければ何とも云へぬけれど、あの咳工合では先づ感染したものと見るのが適當だらうね。』と良人は云はれた。

『感染した病氣だから我々に又感染しないとは云はれないよ、先の主人は、あれに感染させたが、今度の主人は



あれから感染させられるといふ場合だ。』

『然うで御座いますねそりや既う肺病は危險なことは私も豫て存じて居ます。』

『秋山の夫人はお竹に殉死させるのだ、我々が又その道連となる樣では困るが……』

『ぢやアお竹を解雇すのですか。』

早や私は可愛さうになつて來た。

『お竹は誠に忠實な女中で、何所の簞笥の何番目の抽斗には何を仕舞つてあるといふこと

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

まで殘らず承知して居て呉れる。まるで家族同樣の女ではあるけれど、これではどうも暇を取らせなければなるまい、病氣と聞いて解雇するのは、如何にも輕薄なやうで、情に於て忍びないが、我々二人の生命に關する問題で、お前が感染しても、俺が感染しても、どちらにしても困るのだから、一先引取らすのが宜からう、一應診察を受けさせた後に……」

お竹は私共には深い關係を有つて居る娘で、考へて見ると涙の種です。

良人が株式で失敗して伊豆の伊東に隱れて居た、其時代に、私一家の悲慘なる境遇に非常に同情を寄せて呉れた漁師の一家がありました。お竹は其漁師の娘なのです。

お竹は其頃まだ十歳位で、髮の毛は赤く、顏の色は黑くて、一寸見た所では男だか女だか分らぬ程でありましたが、何となく愛らしい處があるので、良人も私も非常に可愛がりました、すると其兩親は私共に向つて大變同情を寄せて呉れまして、風呂の水を汲むとか庭の掃除をするとかと色々世話をして呉れました。或は魚が獲れたから、餅を搗いたからと言つてはいろいろといたはつて呉れました。米屋が拂の滯りを口實に兵糧攻を試みた時に、向鉢卷で談判に行つて呉れたのもお竹の父でありました。私等が一番失意の時代に最も多く力を添へて呉れたのは、お竹の一家であつたのです。

ですから伊豆の伊東を去つて、大阪にも行き、臺灣にも行つて一勝一敗、浮世の波と戰ひましたが、勝つた時にも敗けた時にも必ず此一家を想ひ出しました。其後私共が東京へ移り住む事になりましたから、久々で伊東へ手紙を出して、お竹を引取つて女中ともつかず養女ともつかず、傍に置いて敎育をしたいと言つてやりますと、現今は東京の秋山といふ家に奉公して居るとの返事。それが前にも申した通り夫人の病歿を機會に逃げる樣にして我家へ來たのです。斯ういふ間柄ですから、通り一遍の下女が病氣になつたと同樣に家から出された譯ではありません、お竹の身になつて見れ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ば問題は生死に關するのです。と言つてこればかりは如何も其儘には出來ません。
『何うも暇を出すより他に方法はあるまい、其代り、出來るだけの事をして療養させやう……、此の病氣には海岸が良いといふから、家へ歸ればあの體格だから意外に全治するかも知れない……』
と良人はいはれた。
『如何も仕方が御座いませんね…………眞實感染しては困りますから。』と私は良人の強硬態度を見拔いて一先歸郷させるといふことに同意しました。
斯の如うにして近頃にない淋しい晩餐を了らうとしますと、咳が障子を一重隔てゝ聞えました。吃驚して



兩人が顔を見合せますと、續いて涙に咽ぶお竹の聲。あゝ立聞きして居たのでありました。
『お竹かへ？　お前まア如何して此方へ。』と私が問ひますと、
『奥樣、旦那樣、誠に私は相濟みません、惡い病氣を此方へ持つて參りまして……、もし萬一の事が御座いましたら本當に如何致しませう……』とたゞもう泣き入りました。
『や、未だ醫者にも診て貰はないのだから、さうとばかりも言へないだらう。』と良人は慰めました。
『いえ、思當ります、全く私が足りないからで御座いました。』

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

嗚呼、此位悲慘な事は多くありますまい、障子の外で云ふのですから、姿は見えないけれど、其様子が想ひやられて良人も私も堪らなくなりました。

不完全です、社會の組織が不完全です、其不完全の一つを形に現はしたのがお竹です。お竹は全く犠牲にされたのです。私はお竹を此方の座敷へ入れやうとしました。けれどもお竹は障子を押へて如何しても這入らずして、

「明日はお暇を願ひます。」と涙ぐみました。

其の翌日今日はお暇を頂きますと、云ふのを無理に引留めて、或る醫師の診察を受けさせますと、どうか感冒位であれかしと念じた甲斐もなく、醫師は首を傾げて今の内に海岸へ行つて靜養した方が宜からうと宣告しました。

お竹は却々氣の勝つて居る女で、宣告されてから却つて元氣づいて大釜に湯を煮沸らして、器物を悉く洗ひ清め、塵は殘らず焼捨て、蒲團は日光に晒らして立つ鳥の濁さぬ水の心掛然うして身支度を綺麗にしていよ／＼の暇乞に來ました。私の室の縁側に手をつかへて「色々御心配を掛けまして相濟みませんで御座いました。子供の内からの御恩を少しも報じませんで……」と眼をはらして泣きました。

「何も然う力を落さんでも……お前のは初期なのだらうから、充分に手當をして、全治したら是非又家へ來て貰ひたい」と良人が申しますと「治癒りますか如何ですか知れませんが、若し此世に縁がありましたら。」と後は又涙に咽びました。

譯を知らぬポチは、縁側へ首を載せて、鼻を鳴らして何かねだつてゐる。昔はゞ下女の出代りに過ぎないけれども、此様は悲劇が多くあらうかと、腸を寸斷寸斷に刻まれる心地がしました。

それから三年を經て本年八月から九月へ掛けて良人と私は思出多き伊東へ避暑に行きました。

痩せ細つたお竹を見て、又涙を流すのかと思ひの外非常に健全な姿を見て、嬉し泣きに泣きました。海岸生活が病魔を驅逐したので御座います。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

新刊紹介

△新文章講話　五十嵐力著

曩に文章講話を著はして多大の喝采を博せる五十嵐力氏は今回更にその規模を大にしたる新文章講話を完成するに至れり、此書は文章論としては其の組織頗る廣大なり、說明の材料は又頗る廣汎に亘り、古今東西のあらゆる文章を融合統轄してこれを一貫せる組織の內に包容し新舊各種の文章を咀嚼玩味してよく其の面目を發揮し以て現代文章に志す者をして多大の智識を享得せしむ、蓋し此の書の歡迎さるゝ所以は單に文章論として普通の理論を述ぶるにあらずして說明の方法頗る多趣味なるにあり、又その引例の多方面に亘り、各種の文章に出入して、あらゆる方面より活きた材料を捉へ來りて一々之に類別を施し解說を試みたるの點にあり、此の如き著作の方法は、著者に於て非常の努力を要するのみならず、多年の間、多方面の書を讀み、多方面の穿鑿をなし、多方面の事柄に趣味ある注意を加へつゝありし結果ならずんば到底出來得べからざる事業なり、著者は自ら稱して十年の苦心といへり、然り誠に半生の心血を注がざれば完成すべからざる事とおもふ、この書が新思潮に觸れたる青年の心情に影響するの大なるは勿論、國民の文章趣味を高むる事の大なる又言ふまでもなし、この書の如きは今の出版界に向つて眞面目の努力を爲したる一の有益なる業として稱讃に價するものなり定價一圓七十錢早稻田出版部版大學

△眞面觀的異說日本史　伊藤銀月著

銀月氏は一種の文才なり、小說家にあらずして小說も書き、論文家にあらずして論文も書き、歷史家にあらずして又歷史を書く、其他紀行文など尤も得意のものなり、されど吾人の見るところによれば氏の本領は警拔なる批評眼を有せる批評家として大なる希望を有つものなり、この一種の批評眼を以て日本の歷史を描きたるもの頗るおもしろき感じを吾人に與へたり、異說日本史即ち是れなり、歷史上の大なる人物、或は疑問となりし人物、神武天皇、武內大臣、菅原道眞、義經、尊氏、信長、秀吉、三成、是等の人物の一方面丈けを見ても頗る興味ある記事を成し得べきものなり、本書は即ちこれ等の興味に向つて筆を入たるものなり、正鵠か否かは別問題としてまづ著るしき興味を與ふるは確かに氏の批評家たるを證するものなり、定價七十錢、平河町白雲堂發行

○紅葉遺墨百人一首

故尾崎紅葉山人が武田桂舟畫伯の爲に揮毫されし小倉百人一首は、今回新橋際の新橋堂と木挽町の文祿堂とにて、山人の筆意を崩さぬやう其儘木版に附し、裝釘に意を用ゐ美麗なる箱入にし來春の家庭遊戯用として發賣せるが山人が小說を愛好する人々は、又此の遺墨を愛玩せらる成べし(定價一圓)

△高原

自然を愛し、自然を描くに獨特の筆を有する吉江孤雁氏の小品文集にして、特に山岳、湖水、谿流等所謂高原に關するものゝみを收む、著者が山を描けば雲霧到り、谿を描けば自ら遠かに飛瀑の響起る、氣持のよき書なり、定價金五十五錢日本橋區下槇町如山堂發行、

△明治四十三年重要日記　實業日本社

日記として編纂の體そのよろしきに叶ひ、剪採の上に尤も注意を加へ、重要なる項目も配列の仕方も頗る氣の利いたもので趣味と實用を兼ね備へた好日記である、定價五十錢

△佐朶式お伽だんろ

これは特許新案の煖爐なるが、從來の懷爐とは大いに構造を異にし、脚の冷へる婦人や、小兒の湯たんぽに代用が出來るのみならず、寒中作業中學校生徒等の足部の冷ゆるを溫むる事も出來、旅行用、汽車用なども至極適當なる携帶品なり、冷へ性の婦人などには時節柄尤も必要なるべし定價上製四十錢麴町區飯田町四丁目佐々木商會

△抒情唱歌 晚秋

歌は下田歌子女史の作にして、譜は澤田孝一氏の附する所共に能く田舍の暮秋を發揮して餘韻盡きず、定價金十五錢、京橋區銀座四丁目松本樂器店發行

△標註女中庸　附貞女のかゞみ

女中庸は植村玉枝女史の叔父渡邊氏が女德修養の爲めとて漢文にものして女史におくられしを廣く讀み易からしめんが爲に和文に編述せるものなるが、本書は文學士大林德太郎氏が更にそれに標註を加へたるものなり、時節柄一讀せば得る所あらん、定價金十五錢、芝區二本榎町高輪裁縫女學校發行

△お伽花束

作者は宇野靜春氏、姨捨山、鐵の指輪、恩馬物語等數十篇の各國お伽話を收めて子供の讀物としては誠に面白く、それに榊原蕉園女史の可愛らしき口繪、橋本邦助氏の挿繪數多ありて書物の體裁もよく出來たり、定價金六十錢、神田富山町左久間書房發行、

△數學俱樂部

毎月一回の發行にして頃日第三號を出したり主筆は理學士根津千治氏、僅か八頁の小雜誌なれど、內容は能く整ふ、定價金三錢、神田區神保町東京堂發行、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



女學世界



▲卷頭の装飾

新號初刊の卷頭を飾る口繪の意匠は、（第一）六色刷の美麗なる西洋草花。『蘭』是れは當代印刷術の妙技を示せるものにて、其の色の美麗なるとその形の奇拔なると双々相俟つて新春机上の賞觀たるべく（第二）精妙なる原色版に刷出せる『春の別莊』は、湖畔に聳ゆる春山の雪に對する別業の裕かなる生活を寫し出して、人をしてそゞろに別天地に逍遙せしむるの思ひあらしむ。（第三）普通色刷石版の一種にして、『新粧の佳人』と題するもの。是は當代表情畵家の手に成れる新夫人の冴えたる面影を寫したるものにて筆致の精妙なる、意匠の斬新なるよく現時代の精神を活躍せしむ、而して更に光澤寫眞版數葉を添附して盛裝せる『名家の令孃』の妍麗なる眉目と楚々たる風姿とを紹介す。

▲記事の概要

九重の奥（兩陛下の御平生並びに宮中御賭ひの次第）

皇后陛下新春の御すさび（宮中かるたの御遊び事）

上流社會の松の内（格式を貴ぶ大家庭正月の慣例）

貴婦人の世間話（日々變り行く世間に處する貴婦人の話）

歐洲貴婦人の社交談（交際社會の大山公使夫人の實話）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

の新年號

名流婦人の日常生活（江湖知名の婦人の趣味嗜好）

榮ゆる權門（華族、富豪の榮えある家庭生活を描けるもの）

新時代の敎育を受けたる奥樣の面影

大富豪の家庭（小間使の目に映じたる富豪の生活を描寫せるもの）

令孃の春遊び（女流天才の手になる令孃の正月日記）

各地正月物語（新舊を比較せる各地方の正月風俗）

外交官夫人の資格（表面には光榮あり、裏面には困難あり）

贅澤なる臺所ばなし

新婚の正月（才情双絶の稱ある某夫人の新婚の日記）

都下各女學校の校風くらべ

正月行事の由來

別莊の春遊（避寒地のあそび）

三都の娘風俗競べ

新年附錄

武内桂月畫

新撰 **婦人風俗双六**

極彩色美裝
石版五色刷



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



和歌

佐々木信綱先生選

一等

○　讃岐　衣輪すゑ子

秋の海白帆見ゆるをなつかしみ日毎上りぬまろき岡の上

評　秋晴のおたゝかく心地よき日、砂ま白なる岡の上にありて、遠く秋の海に夢のごと浮べる白帆を眺むらむ面影、おもひやるにも心地よき歌なり。

二等

○　丹波　孝子

まどひては過ぎにし夢をかくすやと山の落葉をかへしてぞ見る

評　思ひまどひてはかゝるはかなきわざもすべし。さるかたになつかしき歌。

二等

○　京都　木俣津夜子

砂白き磧に咲ける露草の泪すらしも紫あせぬ

評　露草の泪といふ句よし。原作二句磧にさきし、四句消するらしとあり。語法たがへるをもて改めつ。

三等

○　横濱　小豆澤清野

何ゆゑと思ひもわかぬ悲しさの身にせまり來ぬ秋の夕べは

評　措句かくいはればならぬ所ながら、いまだし。

三等

○　下野　石井てる子

世に二なきわが身をさへも信じえぬこの悲しさや誰にかたらむ

評　ある時はかゝるまどひもすべし。あはれなる歌。

三等

○　信濃　渡波奈子

雨吸ひて淺間の燒地にしきぬ今朝立つ冬の信濃高原

評　輕井澤小諸あたり。高原の初冬、よく寫し出でられたり。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

秀逸

○　　下総　小出保花子

遠方の湖上に消えし白鳥にわが思出のふとまぎれぬる

○　　群馬　林きみ子

鳥の巣の一つ残りて冬枯れし木立あらはに木枯の吹く

評　一首のいひざまいと拙なけれど、鳥の巣に目をつけられたるがよし。机上の作もしくは他の人の歌によりて作り出でられし跡なきをもして、秀逸のうちに加ふ。

○　　秋田　宮越志磨子

音静かに落つる音きけばいとけなき日の夢はのに浮く

○　　信濃　秋の

けものすむ荒野のはてに落日のあかきそのそむ寂しさに居ぬ

○　　豊後　加納豊子

夕暮の辻に獣して別れたる人をおもひぬ冬の雨の日

○　　小石川　田島正子

寒月や小さき並木の一やうにゐがける陰を馬車走らせぬ

評　画のやうなり。

○　　岐阜　金井浪子

めら〳〵と心の奥になにものかもゆる響の心地よきかな

評　竹取物語のかぐや姫は、火鼠のかはごろもの、目の前にめらめらと燒くるを、心地よげに眺め居たりき。今めら〳〵ともゆるは何にかあるらむ。

○　　北米　林秀子

萩の露砚にうけてつれ〴〵に秋の歌など書きていましぬ

評　萩の露わざとらしき嫌あり。しか古き個に囚へられし歌なうたはむよりはわが實際の感じ、もしくはわが四邊の風物境遇をうたひ出でられよ。こは此歌のみにつきていふにはあらず。

○　　伊勢　中村花子

その昔あらそひたりし友どちのこと〴〵嫁ぎ淋しうなりぬ

○　　大分　三原えつ子

秋風に堪へんたへじの我思ひかくて朽ちなんよわきむくろか

佳作

○　　岡山　林[illegible]子

遠地の叔母か情の御文をいたきて泣きぬいたつきの床

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

○　香川　衣輪たか子
漆の木いた／＼しくも裂れたる傷より出づる液を見て泣く

○　紀伊　佐田靜子
霜おけるまがきに匂ふ白菊の一とつを摘みてかざし見しかな

○　小田原　中田君代
秋ふかき籬ぶつゞきの袖垣に咲みたれけり黄菊白菊

○　伊勢　佐々木らく子
むつき干す隣の嫁と垣越に語かたらふ菊日和かな

○　埼玉　はる子
思ふ事おほき此の身ははら／＼と木の葉ちるさへいとゞかなしき

○　牛込　塚原爽子
久遠寺や七十七の石きだにはら／＼としも紅葉ちるかな
（身延詣での日）

○　伊勢　山中園子
野がへりの人に涙はかくしかれ落葉拾ひて姉と聞く鐘

○　靜月．阿山とし子
淋しき夜寒う冷たうしみ入りて胸に凝りぬ冬の夜の月

○　信濃　赤津梅子
さや／＼と秋風の吹く黄昏や廣野十里は薄芒にして

○　秋田　原田澄子
夜ぞ淋し淡き月てる湖の樹立かなかの水鳥のこゑ

○　山形　華園いつ子
夕日影うすきあたりにみ魂まだ遊び居まさむ秋風の丘

○　美濃　湖澤濱子
とやかくのあまたの思ひ惱じたる心地に夕べ落葉ふみゆく

○　伊勢　岡部かく子
蒼白き秋の海見る山頂の靈靜なり百舌鳥の鳴く

○　大阪　小泉眞子
いてふかげ胸ないだきて人知れぬ淋しきに居ぬ君まつ宵は

○　越後　明子
あてもなき若き思ひにしづむ身を淡く照らせる十六夜の月

○　豐後　奥志野綾子
京極の賣出しの旗おほらかに灯にひるがへり村時雨する

○　山口　澄子
美しく暮れ行く雲のひまるして友よびかはしかりなき渡る

○　羽後　佐藤ひさ子
十七のわかきおごりよさりながらふとわき出づるかなしみの聲

○　本郷　岡田もと子
つよきこと言ひて別れし故郷のたらちね戀し秋の夕暮

○　熊本　なでしこ
ありし日の嬉しき事をおもひいてゝひとりほゝゑむ時もありけり

○　名古屋　美登里子
あな戀し君がおんふみかい抱きて今宵の月にわれは泣くかも

○　鹿兒島　ゆかり子
小舟にて蘆間をわけてのぼり行く人うら若し秋の夕ぐれ

○　豐前　草野たづ子
草庵にかへりも行くか修道者の網代の笠に夕日うするゝ

○　長門　くづせみ
浮雲をはらひ／＼て大空にさしのぼる月をむともがな

○　芝　穗子

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

かゝる夜は足らぬ我が身を思ひいでゝ祈りますらん故郷の母

○　東京　山上洋樹

山寺の木魚の音に日は暮れて雁の聲聞く秋の淋しき

○　臺北　武弁豐子

とまらんとしてはたゆたふあきつ見て涙ながしぬ日の暮るゝ時

○　麹町　牧野鳳水

秋風は軒にならべる梓色の瀬戸の藁屋の陶物を吹く

○　美濃　觀井とみ子

秋風や内より暮き山にゐて勤行すなる伯父思ふ時

○　尾張　霜田美野流

野に立てば陰り行く日に灰色の雲は流れぬあなうすら寒

○　同　同

わびしさと戀しきことの中ほどに在りて冷たき雨の音聞く

○　同　同

秋の雨古りにし戀の抜けがらの文のいろ／＼見ればさびしき

○　同　同

北風に粉雪まじりの街はづれ酒をかゝへて少女小走る

○　京都　綾子

糸車ひく音のとかにきこゆなり鳥影うつる南のまど

○　信濃　野上貞子

又見じと別れて一人笑みながら猶今更に涙こぼるゝ

○　和歌山　明渡華子

あめのあし風ふきゆるぐ簾にもふとぞ驚く君をまつ夜は

○　札幌　中山さち子

つれ／＼に紫うすき野花をなつかしと見る小春日の緣

散り殘る紅山茶花に時雨して折り戸わびしくたそかるゝ日や

○　丹後　衣子

臥しぬれば髪に小肩にくちづけてしのびかに來る夕月もよし

○　丹波　英子

菊畑に露ふみ給ふよき人のびんのほつれに朝風清き

○　兵庫　松尾りつ子

栗ひろふ男の子も見えず風つよき秋の一日はたそがれてゆく

○　小石川　高橋ちか子

かくてあゝ淋しく暮るゝ空のはて仰ぎて悲し歌うたはまし

○　下總　小澤まゆみ子

秋深く木の葉ちりにし夕空に君を思ひて我一人なく

○　香川　藤村すがえ

汽車にして行きずりに見し高丘のひともと楢の木忘すられもせず

○　四谷　味方こう子

貴よろづ御空の奥に棲うてるいづれの星で母の御魂は

○　芝　藤掛常子

野も山もたゞ灰色にうら枯れし梢に淡く冬の日うかびぬ

○　美作　光成晉子

散積る木の葉の上に音立てゝ夕さひしくふる時雨かな

○　群馬　林きみ子

枯の露に染まらで清く柴垣に匂ふも床し白菊の花

○　中河内　西村千代子

とく來りとく去るものゝ一人にわれをよびける君はなに人

○　青森　小野寺美能惠子

○　岡山　高杉矢須

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

見分きぬ見ままよひぬふたりして秋の花野を踏うつるまで

○ 東京 萩枝

逢ふ夜ふと北の御空にみみてます七つの星のよろこびとひぬ

○ 四谷 味方てい子

俄にげに眼には顯るれと煙突のけむりは悲し市暮るゝ時

○ 東京 てふ子

許されし性のひとつとともすれば涙を見する幸人よ

○ 大阪 野口たつ子

幼顔に吾百合抱きてねむる子の笑みふく朝の風やわらかき

○ 大阪 玉村百合子

朝ふた廊にちりきぬ秋風を知りそめたるはいづれなるらむ

○ 攝津 和久かつ子

眼にかちほこりたる征者のさま夕日に立てり黄金銀杏樹

○ 福岡 大庭たか子

宮殿に去年の夢追ふ月今宵歌へとやうに波さゞめきぬ

○ 飛驒 和田貞子

同じこと思ひながらも語り得ぬうつけなる子は相向ひゐぬ

○ 大阪 和子

何十里北風ふきてなみしろくまたひとしきりあしの花ちる

○ 信州 吉野富美子

草がくれの小さき花よ淋しさを語らまほしく來れてありぬ

○ 京都 みち子

逝ゆける人と見るべき今ながらなどでや胸のうちさわぐらむ

○ 大阪 露花

思ひいづる過ぎにし秋の月の夜に友と別れし白はぎの路

○ 靜岡 小宮花子

色も香も愁のひぬ間の朝顔のはかなき夢を吾も追ふ哉

○ 大阪 愛花

君にさへ語らでとはに秘めおかんよべ見しゆめのあまりかなしき

○ 近江 大角末子

霜とけし佛師の庭に木像のあまた咲くなり冬温き日よ

○ 本郷 松井とみ子

さら〱と落葉する夜を一人ゐて昔の重さに泣く身となりぬ

○ 鹿兒島 渡邊椿子

あけのとばりすこしかゝげて龍田姫時雨の糸を簾とならす

○ 赤坂 森白萩子

物思ふことなど知らで月の夜を見うたひしむかし戀しも

○ 伊賀 龜山敬子

おとろへし己がむを葬りたる鏡によせてもの思ひにき

○ 三[illegible] 藤鍋常子

草の香の漂ふあたり夕月にほの見しひとのわすられぬかな

○ 神戸 西尾紅瓢

病める身を柱にもたれ物思ふ我にふるはし霜枯の菊

○ 小田原 中田靜江

呉竹の葉末にあまる白露にやとればはやかて月そこほるゝ

○ 兵庫 山崎八重子

君かりし其日を思ひほゝゑみてうづもれはてし今の身ながら

○ 鹿兒島 渡邊椿子

淡月や島の少女の化粧する窓の簾出てゝ月よふ夜かな

○ 大阪 みどり

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

いまぎよく涙をさめて嫁ぎゆく姉と別れを惜しむ宵かな
三重　小川こう
○
三とせまへ君とあゆみし心地して高丘の上に足をとゞめぬ
大阪　前澤はつれ
○
白菊の氣高きまゝに似かよひし君は逝きたり秋雨の日に
大阪　稲澤靜子
○
紅葉がり繪の樣の牛車去りたるあとにふる時雨かな
信濃　吉川多美子
○
薬草を頭に懸けて野に立ちしこの思ひ子を醉と呼ばずや
金澤　吉川たつを
○
萎びたる一本菊を愛でつゝも淋しみ踞る秋の夜中かな
横濱　菅藤子
○
打ちわびて友呼びかはす濱千鳥たち來る濱にむれて鳴なり
鹿兒島　樋口文子
○
ふるさとの人など思ふ旅の夜の白き枕に月はてるかな
横濱　小豆澤愛野
○
病みやみて黄泉にゆきし姉君のおくつきどころ蟲なきしきる
宮城　加藤篤子
○
たらちねの御足摩ろふ節さむ夜み空にたかく鴈かりの聲
口之津　南しな子
○
立田姫そめし紅葉の色ことにふかく成行秋そしらるゝ
紀伊　松島千枝
○
誰だれのかめにさゝんときて見れはをるには惜しき園のしら菊
紀伊　田中富美子
○
夕つかたとぼそによりてちぎれ雲を見つゝ過去をば思ふ我かな
口之津　本多泉子
○
今朝よりは峰のあらしの音かへてしくれとともに冬は來にけり
福井　露子
○
秋の夕日うすく荒野にかゝる時人の運命の衰へを思ふ
小石川　高橋やす子
○
夕日うすくコスモスの花かたむきて我か宿の秋いまくれんとす
大阪　かつら子
○
只一人尾花が原にたゝずみて君とわかれし夜をしのぶかな
赤坂　鈴木晨峡
○
うれひあるむねをいだきておばしまに凭りさしびき秋の夜ふけぬ
讃岐　安藤たか子
○
火の外の夜の障子を來ては打つ蟲を憐れぬさびし秋の夜
羽前　野口南
○
さやかなる月の光と若人の瞳をはぢて木蔭あゆみぬ
臺北　武井豐子
○
木がくれてかなしき聲に鳥はなく今我が胸に入らんとするや
陸前　馨子
○
秋の夜の空は曇れどしたはしき友のこゝろの月をこそ見れ
長野　浅輪久子
○
少女子が野中にかほる白菊を摘みてながめて何思ふらん
千葉　吉松香芽子
○
雛鳥の親子いこへる古寺に小鳥群れゐる霜白き朝
神戸　岩子
○
ちかひてし友は來まさず獨のみ物思ひ居れば冬の雨ふる
仙臺　南豊子

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

日出でたる朝の空より鶴に蒔きし米ほど初雪のしぬ
○　能登　高橋　瀾

宵夜ふけて時雨のふると聞つるはあらしのさそふ落葉なりけり
○　山形　松田かれゑ

にはとりの足あとみえてぬかるみの背戸のほし菜に夕日さすなり
○　丹後　小橋つる子

遠き世の如く覺ほゆ牧人の角など吹きて暮すを見れば
○　信濃　愛　子

まゝごとをするをさな子に見とれてはほのに浮びぬいとけなき日の
○　牛込　小林芳子

寂しう野は薄暮して夕ぐれの鐘の響のほのにきこゆる
○　東京　保坂朝子

そことなく木犀にほひ白壁のほのにあかるき夕月夜かな
○　門司　岡吉気葉子

或る時は悲しきことも身をつくる歌へのごとく思ひけるかな
○　麹町　酒井ゆき子

暮れてゆく淋しき街を一人行けば異暴きものゝ我れを追ひ來る
○　上總　太田春江

母君のあやまちけるかしからぬか世のわづらひの中に生れし
○　釜山　朱雀ちが子

暁の霧のなかよりさはやかに天地をうむ秋のうれしさ
○　磐城　北郷　繁

なにげなきわが言の葉をひがみてはよく涙ぐむ君なりしかな
○　東筑　梶羽千枝子

小鳥だにもの思ふことのありとみえて　しきりにくびをかしげては泣く
○　大阪　西村奈美子

ともかくも筆をとりたる墨の香の匂ひようこそ悲しみは來れ
○　埼玉　荻野くに子

むらさめはいづちゆきけんまどみればきよくも月の影のうつれる
○　埼玉　荻野松鶴

進みゆく世におくれじといそしめど學の道は奥ふかくして
○　東京　中村千代子

病む母の藥の代となるをさな子が辻占ひさぐ冬の夜の月
○　常陸　和田嘉根子

野の末の丘の木立の冬枯れてふたまた銀杏ひとり木高き
○　美濃　酒井とみ子

そことなく木犀薫る麗日の日影をふみて人を思ひし
○　札幌　光　子

そゞろにも菊の香せまる朝の姿鏡にほゝ笑む人美くしき
○　兵庫　北野きよ

やはらかき秋の日さしを背にあびて母の肩うつこの夕べかな
○　廣島　伊達ます代

朝寒や垣根淋しく山茶花のこぼるを見れば涙ながるゝ
○　伊賀　服部うた子

夕げたくわら屋の煙末暮れて時雨るゝ空に千とりなくなり
○　奈良　中宮よしみ

二羽三羽鳥とびたちて芒原しゞまにかへる遠く秋のくれ
○　新潟　五十嵐みつ子

馬子唄は並木はるかに遠ざかり殘月淡き霜の朝かな
○　京都　大野幸子

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

この五日寝覚により木の葉散る夕もあまり泣かず過ぎにき
○ 信濃 吉岡多美子
ゆきずりにふと見し青きひと草に心ひかれぬ冬がれの路
○ 磐城 北郷麗子
ことさらに星などみつめおもひてのふかきがやうによそほへる君
○ 同 人
美しう遠きおん眉のことさらに胸にうかび来君を思へば
○ 新潟 岩木芳子
晩秋や思ひで多き夕まぐれ君ます方へ雁なき渡る
○ 伊豫 はる子
いまゝかの風にも胸の波たちて涙多くみるこの日頃かな
○ 長崎 天野春子
山風や紅にほふ夕雲の其境にも入らまく思ふ
○ 宮城 沼倉霞
わくらはを身にあびながら眺めけり霜に香うせぬ庭の白菊
○ 北海道 熊谷喜美子
並び行く影を嬉しみ虫の音に君と歩みぬ月あかき庭
○ 豊後 菅原芳子
思ひ出の胸にせまりておばしまに一人泣く夜を木枯のふく
○ 美作 杜金草代
秋悲しはかなく去にし人の上思へと長く夜はなりにけり
○ 北多摩 猿島かれ子
今一たび手まりつきつゝ戯れし幼心になるよしもがな
○ 秋田 波奈子
君とわれかたりあかしゝ其夜半も木枯ふきて淋しかりけり
○ 大阪 梅村薫花
露ゆけば紙燭は消えぬ亡き母に逢ふかとぞ思ふ秋の風の夜
○ 中河内 西村千代子
森の上に月影澄みて大空を吹きしきるなり木枯の音
○ 青森 平山はる
病める身は夜半に寝ざめて安らげの人の寝息に涙してゐぬ
○ 石見 青柳秀子
小春日の海道白くかすみつゝ松が枝ごしに富士淡く見ゆ
○ 若狭 津田汐汀女
のみたらひ乳ぶさはなれしちごの如帆ひとつゆたに漕いで行く
○ 同 人
野に棲むる大青鷺にたく許のありとやうにも春の風す
○ 長野 みきな
葉がくれの小さき花よさびしさを語らまほしく寄れてありぬ
○ 麹町 牧野銀杏庵
たれも聞け我友あらじ小春日の清きあしたをわびしらに泣く
○ 美作 福原静代
秋の夜の芭蕉にそゝぐ雨の音は恋もつ子の胸にひゞきぬ
○ 越後 胡蝶女
鳴く虫に亡き友の日と思ひ出て歌よむ心そゞろ乱れぬ
○ 丹後 小橋つる子
落葉みな枯れよ死れよと嘆きて我れを呪ひぬ夕暮の森
○ 岐阜 山田集子
秋の寒夜病む妹がうは言に心淋しき雨の夜半かな

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



短文

(甲)　客待ち

東京　若紫

「不景氣つたらありやしねえ、オイ焚火でも仕樣」、と鬮りの仲間をつゝつく、何處からか箱の破れを持つて來てマッチをすつてポッとつけた、「今日は己ら芝迄行つたきりよ、此んなぢや商賣にならないなあ」、「本當だ、こんな事つちや、やがて車屋の干物が澤山出來るぜ」、「さうしたら目ざしにするか、へゝゝ……」と勢のない笑ひ方をすると、横から空風が吹いて來て、遠くの方へ聲を持つて行く、だん〳〵夜がふけて電車の音も繁かなくなつた、人と言つたら影さへ見えない。

(乙)　お里びらき

上總　敬子

花片の如く重なりしおん襟、水やたらむ許りのお髪にはえて、やゝ伏目に、金屏をお背に、姉上たゝせ給ふ、お召かへ在すとて、小紋重れし仲人の君のゐとにつゞくお、前に後に、かひ〳〵しう乳母やのそひまつりつ、いく間か襖はづせるかなた、衣桁短衣のとり〳〵あやなる中に、立ちいで給ふ、母上祖母上のおん笑顔とけなむ許り、水餡の香沁みいるかとあやしまれて、青疊に引きたまへる、お裾の鶴も舞はめ、繪にも似てとあかず見まつりぬ、いざこれより琴とりてなどゝの伯父上の仰せもいでむを、いかゞしてむと胸のとゞろきて、居間にかへり來れば、何時の間にのがれ給ひしぞ、從兄樣嫁近き小机にうつぶさせ給へるに、如何してと覗きまつれば、たゞ「頭重し」と許り、去りもやらず、わづらふ程に、彼方のぞめきゆめの樣にも聞えて、はと赤うなりし大鳳の一群におどろけば、うす暗せまるこかひの廊下を、誰ぞや燭とりてすぎぬ。

(丙)　寄宿舍の秋の夜

四谷　清野愛子

月が硝子窓からさし込んで、筆立てにさした孔雀の羽を青白く照して居る、明日は點取りが有るので、平常呑氣な菊地さんも、至極眞面目で大鏡評解と云ふ立派な本を讀んでお居でなさる、大島さんの本立ての上に飾つたコスモスが、風も無いのにはら〳〵と散つて、白い葩はお髮の上に、赤い葩はお机布の上に止まつた、心持ち左になかしげになつた衿元が誠にお美くしい、さつき二階の寢室に上つた萩野さんが、澄み行く水にを歌ひ出された、すると菊地さんはばたりと本をとぢて、アーメンと頓狂な聲を出したので、一同どつと笑つた、之で一時勉强もお止めで、各々勝手な熱を吹き出す、とばたり〳〵と舍監樣の足音がした、えへんえへんとてんでに少さな咳拂ひをして又ぞろ殊勝げにやり出す、月は益

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

益冴えて脊元がぞく／＼する。

栗の香

丹波　紅の花

香ばしい栗の香は籃を離つて一室を漂よふ、なつかしい栗の匂、忘れ得ぬ其昔、かつて昔の其の夜は、爐に炭火赤々と賑やかさは、春風のみちみちて居る様で御座いました、兄様や其友達の中學生活のやんちやの御話やなんかに興わいてはやがては書齋から父様を引つぱり出して來るのが常で御座いました、御ひざにもたれた私の頭をなぜながら、御話して下すつたやさしい父様の御顔は、冷たい土の下にかくれ、つゞいて、水々しい島田まげの姉様の御姿も石と變つて、今は兄様一人白鷺城下でどんな夢を見てゐらつしやるでせう、いつも母様は少尉の姿を父様に御見せ申したいとおつしやいます、秋の夜は靜かで、夜寒むにや、蟲は墻へ入るばかりに土の中でチチロ／＼とないて居ます、小刀の手つきあやふく、皮をむき／＼母様を窺へば、かつては姉様のそれであつた、はでな長襦袢、襟ともなくじつと見つめてゐらつしやる、かあさんとよべば、あゝ、と矢張り見つめたまゝさびしい御聲。（秀逸）

樂しき朝

長野　あざみ

冷やかな秋風を身に受けて、露けい野路をたどりながら毎朝此搾乳所へと參りますと、六十八歳の今日迄は未だ一度もお日様よりおくれて起きた事のないと云ふ此處のおばアさんはいつも、にこ／＼して、早速暖い乳をコツプについで持て來てくれます。私は、其れを呑みながら朝毎に配達される新聞の讀み物と、雜誌の一つ二つを、おばアさんに讀むでやります、夫に逝かれ、愛子に先立たれた寂しきおばアさんには、此私の寸志が如何程嬉しく滿足なのでせう、いつも歸りには、門に立て、私の姿の見えなくなる迄見送てくれます、あゝかくして私は、自然に惠まる新しい空氣と、老ひ先短いおばアさんの滿足とを得て、平和な朝を家路にと急ぎます。（秀逸）

樂しき家庭

牛込　寺村榮子

シヨボ／＼と雨が降つてゐる、母様は次の御座敷で御仕事、弟の敏雄は一生懸命に栗を燒いてゐる、時々ポン／＼と爆れるので目をパチ／＼させてゐる、……久しく繙かぬ書物をくりひろげた、母様は時々私の方を御覽になつてはクス／＼笑つてゐらつしやる、何がそ可笑しくつてと伺つたら、何ネ、明日も雨が降らなきやよいとおつしやる。今までいろりの端で頭をこくり／＼やつてた作助爺やはたまげた目をして、アニ明日は御天氣になりますペーよ、といつたので、一度にどつとふき出した。（秀逸）

久々で逢ひし友

澁谷　野ぎく

眞友が再三の御手紙にてぜひ／＼御出をまつとのなつかしい御仰せに、ついひまのない身も無理から一日のいとまを得て伺ふ事となり、途すがらもどんなにして居らつしやるのかしら、さぞ赤さんも可愛らしい事だらうと、そんな事ばかりに氣をはしらして、やう／＼尋ねあて嬉しやと思ふ時、垣根の間からちらと私しの姿を見た友の、急ぎ出てまあよくと

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

御出有るかと思ふたら、大急ぎに御宴席で御召かへの御様子、或しは何となく物たりなく思ひました。（秀逸）

防禦策

近江　山上露子

京都の櫻田さんから端書が來た、何氣なく讀んで見ると、要件を書いた末に、「御滯京中は例の方面にて、大分御活動被遊、其結果大々的御發展の趣き云々」と書いてある、先方が氣を利かして、態と御役所宛にしてあるのを、配達夫が外のゝ序に、宅へ持つて來たのらしい、實に由々しい大事だ、御歸りになつたら、充分取つちめて上げなければと、手ぐすね引いて待ちかまへてゐると、やがて歸つていらした、「貴君おはがきが」と差出したのを、「さうか」と何氣なく受取つて、其まゝ奥へいらしたが、暫らくして、食事に出ていらしたお顏を見ると、いつにない恐いお顏付で、碌々ものもおつしやらない、此態度はいつも出る主人の唯一の防禦策なのです。（秀逸）

一と朝

麹町　淺井ゆき子

銘仙の羽織の上から西洋前掛をしめて、冷たい手に草箒を持つた、廊の方からお玄關前、裏の方と掃き乍ら、草臥れて、度々腰を延すので、兄様が窓から「困つた女中だ、而し詩的さ」なんてお口の惡さ、半時もして漸く掃き集る、紅の山茶花の花瓣にお茶の花の白いの、黄菊野菊の散つたの、柿や杉葉の鈍色、丁度山程、只の塵と違つて五色の美しさ、捨てるのが惜しくて立つて居ると、又兄様の入らつしやる様子、又惡口を云はれてはたまらないと大急ぎて掃捨てゝしまふ、ほんとうに肩までも寒くなつた。（秀逸）

囚人

大阪　京林花子

黄ばんだ銀杏並木の細い道を、一人の囚人がもの寂しげにしと〳〵と行く。をり〳〵今來し道を、振り向いて眺める。後より入字笠の巡査が、ついて行く。やはらかな秋の日は腰の劍に反射して、きら〳〵と光る。二人の影は片わらの畑へ淋しく〳〵、幻の様に寫る。囚人は我影を見て、深く〳〵思ひに沈みつゝ、頭を項垂れた。草鞋の音は淋しさうに、靜かな通りに響く。突然、後の森で百舌鳥が鳴いた。囚人はへッと、歩む足をとめて、百舌鳥の鳴く後の方を、ぢつと眺めた。銀杏の葉は風にさそはれて、二葉三葉ちら〳〵と散る。（秀逸）

懐かしき友に

仙臺　あをば

木枯が吹きすさんで、美くしい公孫樹やポプラの葉をむしり去るなかに、月は青白い光をなげて、超然と木枯の上にさえて居ります、あゝこんな夜、そしられるやうな氣のするは私ばかりでせうか、この感じ、母に訴へたとて解してはくれません、兄弟に訴つたとて例の響もありません、あなたがいらしたらば、同じ思ひにふけらんものを、……今宵はなくまでにおなつかしく思ひます。（秀逸）

お琴

四谷　石田まき子

今日は日曜日なので、皆様は大分おしやれしてお出でなさつた、いつも

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

廂髪の相原様は、今日は文金高島田、聞けば來月御結婚なさるとか、先づ以てお目出度い、石井さんと清水さんは、伊勢屋のガラス戸に出てる鉄鍋が安いとか高いとか、罪の無い事を爭つてお居でなさる、昨日から江の島をお始になつた佐野さんは、中々はかどらない、お師匠さんは少少ぢれ込んで來られた、お弟子逹はおど〳〵してゐる、外で豆腐屋が不意に喇叭をプーツとならした、皆などつと笑つた、佐野さんは眞つ赤になられた。(秀逸)

さもしい心

大[illegible]もみじ

綾ッ子やぽよ……、表では男の子の ガヤ〳〵騒ぐ聲がする、私はソツトあしたとか都へ嫁入る友の事思ひ出して 縫ひさしの針を止めて店の格子の合間からそつと見る、前の八百屋の御内儀さんが店の御客をつかまへて、「財産は有あまるほどあるですとさ。それでれ姑はなし、小姑はなしで、また陸軍の大學校とかへ通つてゐるんですとさ、だからあの娘子さんは幸福でさあね」、聞くともなく聞いた友の身の上、更に〳〵水のたれるような高島田、江戸褄模様の御振袖、キユツト白茶の厚板の帶を矢の字に脊負つた御姿を目の前に見た時は……、あゝ私はなぜこんなさもしい心になつたらうと 思へば思ふほど涙は止度なく出る……………(秀逸)

試験の後

長野　淺輪久子

鐘が鳴つた、――もうこれ迄と思ひ切つたらしく、皆は答案を先生の許に出す、と、先生は一通り生徒を御覧になつて出て行かれた。

まさかと思つてゐたのに、今日あんまり不意に試験をやられたので、皆、不安の面もちして無言の儘教室内に控へて居る、ほんに靜かだと思つてゐると、突然後の方で「アラ私が……それよりか貴女こそ大丈夫、乾度保險つきよ」「オホヽまあひどい事を……まるでランプのホヤぢやあるまいし」、頓狂な聲で小野さんが滑稽なことを言つたので、今迄しずんでゐたのが、急に賑やかになつた。

長座客

牛込　寺村留子

柱時計が チン〳〵と十一時を打つた、今朝起ぬけにいらつした平井さんはまだ悠然と話しこんでなか〳〵やみさうもない、ほんとうに何て氣の長いお方だらう、折角樂しみにしてゐた今日の日曜のお約束もお陰でお流れになつて終まつた、叔母先生中々そんな事氣づきさうもない、靴刷毛の様なお髮をひつぱり〳〵お自分獨りお承知の例の大氣焔、女中松やがこぼし〳〵お飯の仕度をしてゐる、サアどうぞつてお進めしたらナアー僕ですか、僕はその自然に任かしておくですと仰しやる、ほんとうにいやな方だ、オヤもう四時、そろ〳〵又夕飯のお仕度。

ある日

赤坂　成富安子

「庭の千草も蟲の音も」、いゝ聲でお隣の美代子さんが、唱つて被居るのを、ぢつと聞きながら、色づいたお庭の紅葉を、眺めて居ると、「姉様！静子さんからこんなものが參りましたよ」、といふのを見ると、白菊の枝にお文が結びつけてある、あらといゝながら拜見すると、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

むづくしの菊の花今真盛りに候、必ずよ明日は御入あれ、例の四畳
中には松風の音たてゝまち参らせ候。

まあ愛らしい君の御風流ー、さらばとばかり御返事は紅の色燃ゆるばかりの、紅葉の枝に結びつけてさしあげる。

眞か僞か

豊後 中村空蟬

例の馬子が得意の追分をそこら近所の谷に響かして出て行く、つい真手の小流は何か自分に秘密でも囁くやうに枕に音をたてる、夜の夢が、若しと思ふと、氣が沈むでくる、まさかそんな事はと、自分からきめて起る、すると花ちやんがけたゝましゆう走つてきて、自慢にまだ露のある白菊を見せたが、何だか氣が浮き立たないので默つて居ると、「あら姉さん何うしたつて」と、鋭い眼を胸に刺す、「花ちやん母ちやんが」とその場をつくる、妹は再び垣の外に出た、縁に置いたさつきの菊をちよと嗅ぐ、またあの夢が氣になる、嗚呼眞か僞か。

詩

大藪もみじ

御母さんが襖の内はと仰しやるのを無理に〳〵せがんで買つて頂いた花弁の模様を、いつも日竹具ばかし掛けて桃割れに結つてるのを今日は根髪を入て大輪の銀杏返に締つて掛けた、合せ鏡をして獨りでほゝ笑んだ紺御召の一枚袷、菊弁の衿の麻の葉紋が仲々着物に寫つて塗ぶい白羽二重へすみ繪で矢竹の模様ある丸帯、御納戸色五ッ紋絽縮緬の單羽織、くるりの羽織紐が光るので氣に成る、玄關に立つと千代が、まあ……と目を丸くしてゐる、矢がすりや、銘仙ばかりの中だから、さぞ皆様が驚

きなさるだらう。

友

中河内 西村千代子

とし子さんは只私の親友と云ふ計りではない、いつ迄も姉様と云はして下さい妹と呼びませうと互にかたくちかつた仲、他人からは眞の姉妹かとも云はれる程であつた、さうして樂しかつた一年はすぎて二年目の秋とし子さんは御家庭の都合で上海へ御出でになる事になつた、あゝ其時の悲しさ、自分は人に召使れの身、御見送りして充分に御別れを惜むこともならず、さりとて胸もはりさく計りの此悲しさをどうして其まゝに出來ようか、そと裏庭へ出て涙もつきよと計り只もう泣きに泣いた、それから上海へ御つきになつて二度たよりを得たが、其後は御たよりもなく自分も此片田舎へ入つたのですつかり音信は絶えて 今はどこに居らつしやるやらそれさへも、分らなくなつて了つた、けれども〳〵私はいつまでもとし子さんの事は忘れない、いやどんなことがあつても忘れ得ないのです。

花壇

京都 愛子

嚴父君の朝每にこの花壇に出させ給ひ、御よろこびの色面にあふれ、この鉢はよい。この花はめづらしいなどくりかへし〳〵宣ひし、八十路にむまる老のお身をなぐさめまつりし朝顔の花、葉末にむすぶ露けさまさると共に少くなりてけさはたゞ三ツのみ、私は姉妹の手すさびしコスモスの延て垣根と等しく打しめりし夕べの雨けさはれて、あはれうす紅の一葉ほゝゑみぬ。うれしさこよなし、前の日曜に北野の里にてつみかへ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

りし寂さ野菊の一もと、八千草の蔭に一入の色を添ふこよひ七日の月光この花園を訪れるそのかげに、今日来ます従姉上の笛のしらべのしのばるゝ、折から心地よく袂をはらふ秋の朝風は音もなし。

羅漢山の岩穴

熊本　小　姉

羅漢山の岩穴は恰度お月様位に見える、芳っちやんと見てゐるとやがて穴が真暗くなつた、不思議に思つてみてゐると又ぽつかり見えた、そして上の松林に人の姿が二つあるいてゐる、と芳っちやんが姉さん羅漢山に人が登つてるはとけたゝましく叫んだ、寫眞をなさいなと私はわめいた、あいよ姉さんは直ぐに寫眞機を携へて出てこられた、が残念、たそかつた、人影は早や去つて見えなくなつてゐる、ほんとうだつたんかいと姉さんは苦笑して見かへられた。

初島田

満洲　をみなへし

髪結さんが来た、無理やりに鏡臺の前へ坐らされて島田に結つた、髪結はそら御覧遊ばせこんなにお似合なさるんですものと お世辭たつぷり歸つていつた、間もなく兄様が御歸り遊ばした、きまりわるくてお歸りあそばせといふや否や逃ぐるが如くに部屋へかくれた、氣になるので鏡を出しては見てゐると、皿がお湯があきましたといふ、濃化粧してあがつて御飯の方へゆくと、兄様がナアとおつしやつたが、思ひ出したやうにほんとに大きくなつたものだれ、此間まで俺が何處からか歸つてくると兄さんお土産〳〵と頸にすがつてゐたのになア へゝゝゝゝゝとおつしやる、私は眞赤になつた姉様はそれにしても母様がまだ御丈夫でゐらしつたならどんなにか お喜びなさるでせうにとお聲はうるんできこえた。

噫私の姉

京都　大野幸子

露ちやん〳〵と黄色い聲して姉さんが呼んで被居る、ハイと直にもいつて上げるのはよく知つてる、けど下女も暇して了ふた今日、二人の妹と一人の弟を、御老年の父上との面倒を見て行かねばならぬのだもの、却却一通りではない、ハアハ今参りますよと小さな聲、温めて居た牛乳をコップに移し、含嗽のお湯と共に丹塗りの盆にのせた、さア姉さんに乳を召上れと呼んで、ゐらした事は知らぬ顔で行く〳〵、姉さんも忘れて被居るアラ露ちやん、私お乳はいやー とこわい顔、まアさう云はないで、ないと姉さんの御病氣がと、私はもう涙聲、イーエ私ちつともよくなりたかないの、皆なにいぢめぬかれて、死んで行くのだわと、さめ〲〵とお泣きになる、まア姉さんは……といつたきり遂に私も目の堤が切れて了ふた。

瓶中のばら

越後　ふ　さ　子

何とも分らぬ古瓶に、無造作に活けた一枝のばら、實にうら恥かしい、乙女の様である、パサリ……、いとかすかに音して花は一輪笑つた、そしてホロリと、水晶の様な露を落したのであつた、其得ならぬ匂に醉ふて居たが、やがて硯の中に落ちし白露にて墨すりて、文を物せしに香墨に移りて筆に匂ある心地す、我文の匂なきを惜しむ。

秋の夕ぐれ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

牛込　栄子

淋しさは、秋の夕ぐれならまし、たえかれて庭そゞろあきするに、そこゝより蟲の音いと〳〵あはれに聞ゆ、花だんにたちよりて見るに、うつくしかりし昔はいづこ、花もなき小町草のうなだれて、やり水にうつせみの息つなぎ居るあはれ、げに、古しへの卒塔婆小町の、うつろひし姿、水にうつしてかへらぬ昔の永き日をかこちけるにさも似たり。

造り花

大阪　美さを

歳日友がりゆきしに、美はしき櫻の花を床に生けあり、其枝ぶりのをかしさ、何にたとへん樣なく、暫し打眺め居りて、居間の春を昔ぐる鶯の居らぬが惜みなれと云へば、主人笑をふくみて、東風吹く野邊に出すとも、春を知る鳥は止まるまじ、先づ近寄りて眺め給へと云はるゝまゝに進み近寄り見れば、こは縮ひきや紙にて巧に造れる花なりき。

御出まし前十分間

本郷　さゆわ子

御仕度が今出來上つた、御ぐしはマガレットの扱ひ付きたい樣なのにリボンは先達て巴里の御兄上樣から御贈きのを一の字にギウツと御結びになつて、御召物は藤色に縮ひきり高く染め出した亂菊御模樣の御三稱に、目も覺める樣な鴇紅色地に金糸と何かの大管の紋を出した、厚板御み帶をやの字に遊ばした配合が如何にもよい。

大姿見の前にズーといらした、御化粧遊ばした麗しい御顏が氣のせいか、ニツコリと…、定めし御滿足なんだらう、「そろ〳〵出かけ樣」とスーツー召して御廊下に御出になる。

本當にどうしてかうも御綺麗なんだらう、丁度女學世界の口繪に出てある美人が拔け出した樣だとスラリとした御後姿に今更ながら見惚れて居る。

貧しき家

京都　京子

十四を頭に、六人の子供と、其兩親は、三疊と四疊半との破れ家に雨露をしのいでゐる、惣領娘と次ぎの娘は朝早く星のあるうちに家を出て、油にしみた着物で紡績會社へ通ひ、夕には六時の汽笛をまちかねて頭には綿ぼこりをのせて、月を負ふて歸る、其留守に母親は十になる男の子に去年生れの子供を負はせ、六ツと三ツの手を引き、大きな籠を肩に掛けて、日々の烟となる柴を取りにと山へ行く、鳥がねぐらをいそぐ頃には、重たさうに積み上げて歸る柴の下籠のそこには多くの作物がひそんでゐて、夕食の膳にも乘るらしい、父親は馬丁で大酒のみの年中眞赤な顏をしてゐる。

霜の朝

岩代　藤袴

山茶花の葉に、白う、霜が置かれて、手水鉢には初めて薄氷がはつた、もしやと、菊の花を氣づかつて、霜柱の立つた庭をザクリ〳〵と庭下駄のまゝ行つて見ると、霜にもまけずなほ白い色香を、獨り花壇に誇つて居る、カラコロと、足音がするので、何氣なく生垣のすき間からのぞいて見たら、まー早いこと、お隣のよつちやんが……、私の居るのが氣ついたのか、さも氣まり惡るげに、お辨當かゝへて、朝な〳〵の工場通ひあゝよつちやんも、今頃までお父樣が死なずに入らつしやつたら、あん

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

な苦勞はしまいものを、お友達にあふ度每に、どんなに胸が……、嘸さぞつらいでせうと思つたら、沈むやうに行く後姿が氣の毒でならない、又ものびあがつて見送つたら、もう姿は見えなくなつて、紅葉した楓の葉が霜によはつてか、二ひら三ひら緋色のした垣をかすつて、ほろ〳〵と地に落ちた。

初冬の夜

麻布　すゑ子

三聯隊の消燈喇叭がかすかに聞えて、人足稀な屋敷町は一しほひつそりした、宿題の西洋史年表もおほかた出來たので、捨てる様に筆を置く、窓を開けると空は一點の雲も無く晴れて銀の紛を散した様な、星は寒さうにまたゝいて居る、ぼんやりして杉の木立を眺めるともなしに眺めて居ると、柿の葉が二ひらさら〳〵と障子を打つ、遠くで按摩の笛の音がして寒さは身にしみる、此時時計は九時を報じた、茶の間では未だ母様がお仕事を爲して居らつしやると見えて時々鋏の音がする。

机上の花

札幌　淑　子

美智子さんに御手紙を認めてると、折々机上の白菊がゆかしい香を送つてる、あゝ、この菊、樺太に居ますこの君に送つたら、きつと、あのおやさしいお顔に微笑を湛えられるであらう、そして去年此の菊を毎日私と對にかざしにして、登校された當時の事どもを、追想さるゝだらうと思つた待務つてから早速郵のいゝ、そして花瓣の圓相してるのを一輪もぎ取つて封入した、どうか當地につくまで、無事であつてくれゝばいゝ、

秋の夕

信濃　赤津梅子

日本アルプスの名高き乘鞍、槍ヶ岳の峯にはもう初雪が眞白くかゝつてゐる、中腹から麓へかけては、一面にもみぢ葉である。麓の小村、茅ぶきの家からは夕烟が、細くなびいて帶の様な夕雲が山の腹を蔽ふてゐる。

お嫁入りを見る

淺草　さだ子

外へ出た妹がすぐ内へかけこんできて、「姉さん嫁入いよむかうの方がネヅミのお嫁入り見たいな」と云ひながら、妾の袖をひつぱつて行くから、何んだらうと思つて行て見たら、往來の兩側に羽織袴の方達がてんでにちやうちんを持てなにか待つ様子なので、妾も好奇心にかられて立ち止まつて人の見る方を見て居たら、向ふの三ッ角からゴム輪の車が七八臺つゞいて來た、誰れだか後の方で「お嫁さんだよ」と云ふ聲がする其の内車は妾の前を通つた、三臺目の車がうはさのお嫁とわかつた、夜目にてしかとわかられど無垢の五ッ紋の御召白襟正しく着こなして夫れに似あはしい白き顔、うつむきながら恥かしさうに行く其の姿を見送つた妾は、云うに云はれぬ一種の感じが胸にひゞいた。

栗を贈るに添へて

岐阜　山田榮子

姉さん何かと忙しくつてね、つい……堪忍してよ、あゝ姉さんもう田舍にはいつか、淋しい秋がきたわ、野路には、秋草が美しく咲き亂れて、林には鈴蟲が、鈴をふるやうな微妙な聲で歌つてゐるの、けど妾獨りで淋しくつて〳〵、昨夜もね、姉さんの事許り思つて、清い月影を仰ぎな

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

がら、蟲の音の冴え渡るまで、庭に立ち盡してゐた、ホントニお變りはありませんか、父母樣ともに、健全ですから安心して、風邪一つひかぬ樣身體を大切に一生懸命に勉强して下さいよ、この包の栗は、今妾が裏の畑で落してきた儘なの、蟲の喰はぬうちにれ、勉學の暇にでも上つてどうか故鄕の秋を偲んでください、さよなら。

手紙

東京　田鶴子

上野の鐘がゴーンと鳴つて、桐の葉が一ツバツサリと落ちた、淋しい夕暮である、柱にもたれてボンヤリ西の空を眺めて居ると、郵便!!、我を忘れて飛び立つた、二ケ月前、遠き國へ赴任された夫からである、叮嚀に開いた、うれしい言葉なつかしい文字で滿ちたこの文、私は幾度となく、讀み返して元の封筒へおさめる時、何の涙かハラ〱と男々しい文字の上に落ちた。

朝寒

武藏　里子

寢飽きた妹に鼻突つかれて眼が覺めた、丁度五時、大急ぎで床を離れる、寒暖計は何度だらう、今朝は特別に寒いこと引窓を開けると五つ六つの星がねむさうに光を放つてゐる、外は未だ薄暗く、畑には霜柱が一面、牡丹色の豆菊が行儀わるく咲いてゐる、今に妹が起きるとこの中をざく〱歩くのだらうと思ひながら凍た繩をグーッと引くと、滑車がツー〱〱と音高くなる、竈の下へ手をかざすと、今朝は寒いね……と母の聲がする、妹の唱歌も聞えればお隣の戸も開いた。

小春日

美作　草地つね子

顔を格子に押あてゝ凝と見てゐた、小春日の穩かな日光が背のあたりを照すのでほこ〱暖い、光さんが着物を縫つてゐる、紫のリボンが美しい、ふと欠伸が出た、そして瞼には涙を盛つた目で、うつとりと格子の方を見ると、はたと私の視線と出合した、「あら！ 秀さん默つて……まあ知らなかつた」。笑を含んだ頰がほんのりと色付いた。

お風呂

本鄕　千代子

廣い湯船に新しい木の香をかぎながら、じつと肩までしづむと、氣がのんびりして何だかねむくなるやう、積み上げた小桶から斜に板敷へポッカリ日影が映じて、窓の硝子越に紺碧の空がのぞかれる、體を浮かしかげんにふと鏡を見ると、立ち昇る湯氣のひまにポッと浮き出したやうな顔の、襟の濃白粉が頸から頰にボツとぼけて櫻色に殘ながら美しい、色艷、思はずにつと笑んであはてゝふりむくと、幸ひだれも居ないのでまた一すすました顔を寫して見る、朝のお風呂は香氣で好いこと。

色

豐後　熊谷ゆき子

生氣の色は綠で、現代の若い人の心は灰色である、紫は親の情けの色で黄は黄金の色、戀の色はむかし鮮紅であつたが、今では唐紅に變つた、白は卽ち辨護の心で、黒は老人の悩みの色である、そして今の世に最も榮えるのは黄と唐紅とである。

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

笑話

○ハイカラ娘の寫眞

兵庫　松尾りつ子

ハイカラ嬢寫眞を取らんとして鏡に向ひ、髮、リボン、眼鏡を直して其の位置に就く、寫眞師レンズの蓋に手をかけ、『ハイ寫ります〓』「アヽ一寸待つて下さい、未だ香水かけるのを忘れましたから」。（秀逸）

○氣の利かぬ女中

本郷　桃井春枝

奥様「お鍋や、山田さんの奥さんは髮の毛が澤山有るつて大層御自慢なさるが、妾の方が澤山あるだらうね」、鍋「それは奥様の方が少しだわね」、鍋「どう致しまして、奥様の方が澤山有りますよ」。（秀逸）

○若い時の子

大阪　白菊女

今年五つになる敏子さんがお母さんの所からお祖母さんの傍へ走つて來て、「お祖母さん、お母さんが私を叱るからお祖母さんの子にして頂戴よ」、「お祖母さんは笑ひながら「こんなに年を取つてから敏子さんのような小さな子供があると笑はれます」、敏子さん「いゝわ、人に聞かれたら若い時の子ですつて云へば」、（秀逸）

○ハイカラ紳士

「兄さんはなぜあんなにハイカラな姉さんをもらつたの、御父様も母様もひさし髮は、臺所の事がちつとも出來ないから、困るつて云つてるのよ」、兄「イヤ僕は早速丸髷に結せるからいゝよ」、

○三度目は失敗

大阪　山田芳枝

妹「おかあさま」、母「ハイ」、妹「ボカーン、……お姉様」、「姉ナーニ」、妹「ボカーン、… 兄様」、兄「ボカーン」、

○無邪氣

茨城　大田季子

セツになる妹の千代子、母上が御嫁にいらしやつた時の着物を見て、「これ誰の」と聞きますから、これは母ちやんのお嫁入の時のお仕度よと云ふと、「おや姉ちやん、母ちやんのお嫁入の時を見たの……、私一度も見なかつたわ」、

○お母さんの教育

母「梅ちやん三ツから二ツとるといくつ？、」梅「二ツだわ」母「まあ梅ちやんはかんしんだことたつた一ツより違はないよ」、

○孝行の終

山口　若子

子「御母さん、からだに傷をしないのは孝行の始めだつて今日先生にきゝましたよ」母「全く其通りですよ」子「ぢやー孝行の終りは何でせう？」母「傷をしないのが孝行の始めだから、傷をしたのが孝行の終りです」、

○すゞめの算術

淺草　木村きよ

先生が生徒に向ひて「皆さん木の枝にすゞめが五羽とまつて居るのを二羽うちをとしました、木には何羽のこつてをりますか」、生徒「のこつてをりません」、先生「なぜです」、生徒「音でをどろいてにげました」

○足を燒いたら

母が火箸を知らずにおさへて、あつちゝと耳を、つかみましたと、そばに見て居た子供「お母さん、足を燒いたらどうするの」、

○トンダ美顏術

小嬢「お母さん、近頃は美顏術が流行りますすれ」、母「ホヽお前も少し、鼻を高くしてはどうだえ」、嬢「それはさうと私ごく手數のいらないしかたを、考へましたからお母さん一つお顏の皺をのばして上げませうか？、」母「お前で、出來るなら、私もまだ大した老婆でないから笑み皺は兎に角八の字だけでもなほしておくれよ」、嬢「ハイかしこまりました、一寸待つて下さいれ今コテを燒いて參りますから」、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

讀者倶樂部

▲記者樣、私は長き御誌の愛讀者でありますが余子先生の「古今の和歌にあらはれたる菊の花」を御揭げ下されたのを深くお禮申上げます、前號の「秋の月」といひ私は大へん有益に拜讀いたしました、歌はむつかしいものでとても私共には分らないとばかり思ひまして斷念して居つたのですが、斯ういう風に平たくさうしておもしろく御書きになつてあると、むつかしいものでなく中々興味の多いものとつく〴〵嬉しく感じました、どうぞ每號御願ひいたします（小石川すが子）

▲北見國倍太英子樣、とりおくれましてさぞお心持惡くゐらせられますう、早速御返事申上ませうと存じて居りますと、親類に病人や何かございまして、何とも申しわけがございません、どうかこれにおこりなくお交際をおれがひ申上ます（牛込區佐内坂三七平塚白百合）

▲橫濱芙蓉花樣、妾も病身の爲め女學校へ入學する機會をうしなひ、小學校を出まして後は宅にばかり居り、琴、活花、茶の湯を習ひ、此頃はヴアイオリンを稽古致しまして居りますが、お友達らなく淋しくて成りませんし又自分の無教育が恥かしく、何だか世間からふり殘されて、しまつた樣に思ふて悲しくて成りません、何卒以後は御交際の程願ひます（大阪名もなき花）

▲皆樣、記者樣に少しおたのみして、ハイカラ卷の髮の結ひ樣いろ〳〵出して戴かうでは御座いませんか、私達は田舍に居て分りませんから、どうか誌上で東都令孃の髮の結ひ樣を御示し下さい（山口縣代表者）（當地令孃方の髮の結ひ振りは本誌每號の口繪に依つても知られますが、尚ほ其内樣を見て揭げる事に致します）

▲衣かつぎの女と八月號にお名のり遊ばした御方樣、私は幸ひ只今の所では毛髮の心配も致しませぬが、私の母が頭部の中程が、丸で、ぬけて居るものですから、髮結のすゝめにまかせ、羽二重へ毛を植ゑたものをハゲ丈けの大きさに作らせ、カスザイ膏と申すのではりつけて置きますと、次の結日迄は其まゝで居ります、右のはり毛は大ていのかもじやにて作りますが、あなた樣は東京の御方ならば淺草馬道の大野と申すかつら師へ御相談に成つて御あつらひ遊ばしたら如何ですか、他所よりも上手で御座いませうと存じます、御存知かも知れませぬが御同情のあまりに、（以後此の欄をもつと廣くして頂き度う御座いますわれ）（東京靜江）

▲記者樣に一寸おたづね申上ます、和歌短文の甲乙丙秀逸の賞品は有名無實ですか、私外三人入賞いたしましたけれども、今に賞品は參りませんが、いかなる方法で御送り被下ものでありますか、次號の賞品の所に一寸御かきそへおき被下ますことは出來ますまいか、たつも外三人）（賞品を送らぬ樣な事は決して致しません、たゞ住所を明記してない場合には、送りたくとも送られませぬから、御投書の際に十分御注意を願ひます、そして不着の時は住所氏名等を明記して御照會を願ひます、）

▲橫濱の芙蓉さん、同情いたします、私も同じ悲しみに泣いた事のある女でした、今では法學士の妻となつて何の悲しみも知らず、三年の月日を、面白く樂しく澤山の家内と共に、春の樣に暮して居ます、實に我家の樣なのをこそスヰイートホームと云ふのでせう、私は何にも知りませぬかはりに、眞心と誠と深切と笑顏とを忘れぬ樣にして居ます、此樣な幸福な月日を送りますのも皆師と仰ぐ女學世界のおかげです、そして私は第一卷第一號から愛讀して居ます、此先も本誌のつゞくかぎり私の生きてるかぎり何時までも〳〵愛讀いたします、今度芙蓉花さんの通信を見て同情しますと共に、記者樣にも深く御禮を申ます。（かえで）

▲讀者諸孃方に御願が御座います、家内の[illegible]

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

が先日から病氣の爲に私は朝早くから臺所で女中手傳て居升ところが、毎日の献立に困りますのは、父樣は殊に、洋食が好みですから、私は學校で習つた、ビステーキとか、コロツケー、シチーユーなどの品で毎日同じ物ばかりで、困つて居り升が、完全な西洋料理の本をお知らせ下さい、(長府みつじ)(本館發行佐々木章氏著西洋料理などがよいでせう)

▲仙臺の米倉たよ子樣、お尋ね下さいまして有り難う存じ升、仰の通り私は御地の木町通小學校に暫くお世話になりました者で御座います、其の時分の先生方や同級の方々は今はどうして居らつしやるだらうか始終〳〵思ひ出しまして仙臺といふ字がなつかしくてなりません、どうぞ寒さの時分柄御身御大切に(大分縣加納暫子)

▲女學世界增刊日露壯烈談、同六卷第三號、婦人世界第一卷五、六號、二卷三號、御不用の方がありましたなら、誌上にてお知らせ下さい(越後岩本芳子)

▲私禮儀作法を習ひたいと思ふんで御座ますが適當な本はございませんでせうか、皆樣方のうちで御存じの方がありましたらどうぞ御敎へ下さいまし、甚だ恐入ますが(日本橋古登子)(本館發行中島幾一氏著新選日用女禮式・同新選女子作法書などがよろしいでせう)

▲私は今年三月大阪府下の某女學校補習科を卒まして目下自家に居りまして母の手傳をいたして居りますが、いかにもして勉强し志を立てとげたき心算で御座いますが、あまり家事がゆたかでもありませんのでどこへなりとも事務員となりましてかたはら勉强いたしたく思ひますが、御當地にはしろ人もなく實にかなしく日を送つて居ります、お手かず乍らよき處が御座いましたなら御周旋を願ひます(大阪府下泉國一苦學女生)

▲「近親結婚の害」といふことはよく耳にいたすところで御座いまして、箇程まで有害なものかと常々と考へて居りましたので、今春ある書物を見ましたところ「癩病、氣狂、不具、癈疾等は多く血族間から來るものであるから近くて六等親位でなければならぬ」とかう御座いましたが、近頃從兄弟同士の結婚はよくある樣に存ぜられますが、いかゞなもので御座いませう、たしかいとこは四等親だつたと思ひますのですが書物だつて一筋には信ぜられませんが?どうぞすみませんが御心當りの御方は是非共本欄に於て御敎示下さいませんですか(女郎花)(從兄弟姉妹の間は四等親です、民法では四親等から以上は結婚を許して居ますが、衛生上から申せば成ろべく遠い方がよいので、全く血統上の關係のない方が理想的です、)

▲リーランドの佐々木樣、ため子樣のお手紙をよくお見せ下さいました、私もうれし泣きを致しました、お互に異域に居りますと故鄕の空がなつかしく、特に、寢ても覺めても忘れられないのは家族の身の上で御座います、私は十七の年に父に逝かれました時は、次ぎは妹で十歳、其下に二ツ違ひの四人の弟妹が御座いました、私は直ちに某所に勤めを授りまして、十二年の間母と共に隨分色々の苦勞を致しながら、不幸な子供等にも一通り讀書きの出來る者と致し、上の者はだん〳〵母の手扶けとなり、季の妹も十二歳になりました、卅九年は彌生のなかば、私は多年希望の米國へ參りました、右樣の間柄ですから、今でも弟妹を敎育する事には怠りません、(北米メコにて愛讀者)

▲暮ゆく秋の口繪美しう御ざいました事、何度拜見してもあきません、私美麗のあまり筆を取つて書いて見ましたけれども駄目でした、記者樣今度から女學世界の偶にでもよう御座いますから何か畫に關して記事でもお載せ下さいましては……、皆々樣も如何でございませうか(札幌菊香子)

▲私は尼にならうと思ふのですが、學問はどの位の程度で、如何いふ手つゞきをしたらいゝで

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

せうか、お存じの方は御なさけと思召して何本お教へ下さいまし(みなし子)

▲名古屋の弁出千草様に申上ます、あなたは各地の方言をお集めになるさうですが、私のむづいたのを一二申上ます、サリンサイ(下さい)、トナモ(大層)、ナコマイカ(よしましよー)、オマヘン(あなた)、シナロタンサイ(して下さい)(岐阜中川靜子)

▲別に珍らしい事でも御座いませんが、お魚の鱗の固くなつて取れにくい時に、生大根を以てこすりますとよく取れます、皆様ためしに遊ばして御覽なさいまし(福井渡出ふぢ子)

▲岡山石田みつ様に申上げます、貴女は蠶をお飼遊ばしたら皆死んださうですが、私などは別にけいこもいたしませんし、春の蠶なればひとりで出來るものと位に思つて居ります、けれども彼れも生物ですから筋道も知らずに飼つて居ても出來さうな筈が御座いません、ですから蠶を飼ふ道筋だけ御覽になつて違つて御覽遊ばせ、必ず佳い繭が取れますよ、失禮で御座いますけれど「改良養蠶法」と言ふのを持つて居りますから、御住所お知らせ下さいますれば直ぐ差上げます(京都府南桑田郡馬路村荒田しぐれ)

▲私は自分の小遣錢の内で買物して五厘といふはしたの出た時は遣はずに箱に入れてしまふ事ときめました、實行してから本年の十一月三日六年目になるので、開けて見ましたら、五厘錢ばかり二圓七十九錢五厘ありましたから、これに五厘たして來年一ヶ年分女學世界を註文の考へです(淺草木村きよ)

▲皆さんも御存じの通り、小豆を湯出るには永い時間を費しますが、竹の葉か竹の皮を入れると大變早く煮えます、どうぞ御ためしなさつて下さい(埼玉のしるこ屋)

▲千葉の百合子様、御親切に難有く存候、手術により全愈遊ばし候由承り、思はずうれし涙にかきくれ候、私のみかは兩親よりも厚く御禮申上候何れ入院の上尚必要の事御伺ひ申上度候(芳子)

▲記者様に伺ひます、私は目下近眼五度で、常に眼鏡はかけてをりますが、誠に不自由で困ります、矢張催眠術で近眼はなほりますかしら、是非〳〵次號で御答へ下さいまし(東京近眼女)

(催眠術ではなほりません、專門醫師の手術を受ければ少々はよいかも知れませぬが、それでも全然なほすことはむづかしいでせう)

▲私は毎夜〳〵鼾をかいてしかたがありませんが、如何なる譯でせうか、何かよい法があればお教へ下さいませんか(新宿の心配女子)

(身體が壯健だからでは御座いませんか御心配には及びますまい)

▲麻布の春代さんへ御答します、「ヘメケ」の治療法は糸左近氏著「通俗治療法」(本館發行)に詳しく書いてありますから一本買つて御覽なさい

▲秋篠榮さんへお答します、御尋れの主意はよく分りませんが、もし果して「胎毒」ならば根本療治が必要です、無暗と買藥などしてはいけません。本館發行家庭衛生叢書の第七編をお求めあつてよく御覽なさい。

▲靜岡鹿子さんへ　腋臭の治療は前記糸氏の通俗治療法にも詳しく出て居りますが、腋臭にも程度がありますから、詳しい治療法は一遍の通信では出來兼ます

▲尾張金山春子さんへ、御端書丈けでは一寸分り兼ますが、多分汗の多い勢だらうと存じます

▲私は今年の六月から毎月書店へ頼んで本誌を取り寄せて貰ひ今では女學世界を唯一の友達として毎日々々愛讀して居ます誠に不束者で御座いますがどうか紙上で御交り下さいませ(土佐宿毛町大黒きくぢ)

▲理容館大阪支部の所在地を教へて下さい(大阪島之内淑子)(京橋區竹川町十二番地理容館本部へお問合せなさいまし)

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

懸賞募集

マダム振り

一名 新奥様の幸福なる生活

（〆切十二月二十日）

マダムは女性が理想の一部を現實したるものにて婦人光榮の表彰なり、光榮のあるところは嫉みの集るところなり、マダムは女性の品位なり、又權威なり而して又歡樂を伴ふ、由來歡樂の滿つるところに患難生じ來たる、女性はマダムとなつてこの光榮と嫉みを受け、この歡樂と患難を受く、彼女は如何にしてこの間に處すべきか、吾人は光彩あるマダム振りの描寫によつてその暗示を得んと欲す。

賞金

一等	五拾圓	一名
二等	參拾圓	一名
三等	貳拾圓	二名
四等	拾圓	五名
五等	五圓	十名

規定

△文體は各種隨意
△紙數は二十枚内外の事
△當選したる文は明春一月上旬發行の本誌に掲載
△賞金は發表の當日發送す

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

讀者文藝 懸賞募集（〆切十二月十日）

▲樣々の社會觀察

▲各地風俗の變遷

▲こゝろの日記

▲我家の料理法

▲笑話 ▲短文 ▲和歌

▲讀者倶樂部

投稿規則◎笑話、和歌、短文、讀者倶樂部は端書に限る但し一枚の端書に二種以上は採用せず◎名宛は博文館內「女學世界」とし原稿に其種類を明記する事

賞金

△社會觀察 一等貳拾圓 二等拾圓 三等五圓

△風俗の變遷 一等拾圓 二等七圓 三等五圓

△こゝろの日記 一等七圓 二等五圓

△我家の料理 一等五圓 二等三圓

△和歌、短文、笑話 甲 一圓 乙 七十錢 丙 五十錢 秀逸 三十五錢

每月廿六日發兌

定價表

一冊（紙數二百八頁）……金二十錢
四冊（三ヶ月分）……前金七十五錢
八冊（半ヶ年分）……前金一圓四十五錢
十六冊（一ヶ年分）……前金二圓八十錢
定刊數……十二冊
內（增刊四回…一、五、九、十一月價格同一）

郵税 一冊 二錢

廣告料

廿四字詰	特等	一等	二等	三等
一行	……	……	……	五十錢
四半頁	……	……	十圓	七圓五十錢
半頁（卅三行）	……	廿三圓	十九圓	十四圓
一頁（六十四行）	五十五圓	四十五圓	三十八圓	二十八圓

▲等級の位置〆切日等御照會次第御報可致候

註文略規

●本館發行の圖書は都て前金の外送本せず
●御拂込の前金相切れ候節は送本を停止す
●郵券代用は一割增にて五厘一錢の切手に限る
●總目錄御入用の方は二錢劵相添申込あれ

明治四十二年十一月廿六日印刷納本 第九卷第拾六號

編輯兼發行人 松原岩五郎

印刷人 山田英二

印刷所 博文館印刷所 東京市小石川區久堅町百八番地

發行所 東京日本橋區本町三丁目 博文館

電話本局 三百三番 千十八番 二千六百二十番 三千二百廿九番

不許複製

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

豫告

博文館發行
十五大雜誌

新年號

第十六巻
太陽
毎月一回
一日發行

●大判（四六判二倍大）本文紙數二百五十六頁
●寫眞版｛三色刷二頁光澤紙四頁 普通……十二頁 ●外に本文中寫眞版數十箇挿入す
▲正價一冊金參拾錢郵稅一冊（内地）二錢五厘

▼本誌は雜誌界に於ける日本現代の代表產物たるを以て自任す。
▼本誌は國家社會各方面の活問題に對する日本の代表的高等批評壇たり。
▼本誌は倫理、道德及文藝に關する世界最新思潮の中介たり先驅たり。
▼本誌は近世科學の進步と其貢献を敬重し斯界の趨勢を一目瞭然たらしむ。
▼本誌は新興文藝の代表舞臺たり創作飜譯共に第一流の作家を網羅す。
▼本誌は世界大勢の縮圖たると同時に世界の雜誌界に帝國を代表す。
▼本誌は新年號より右內容の充實に努力し殆んど其面目を一新したり。

○新年大附錄 短篇小說

島崎藤村。田山花袋。
小山內薰。正宗白鳥。

（後付の一）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

（綴付の二）

第九巻

商工世界 太平洋

毎月二回
一日、十五日發行

●大判（四六判二倍大）本文紙數百十二頁
●光澤紙寫眞版四頁挿入
▲正價一冊金拾貳錢郵稅一冊（本誌に限）貳錢

見よ!! 各欄の大革新大整備、愈々堂々たる大雜誌の新面目

▼大家欄（財界、抱負、修養、經驗）本誌が中外に重きを爲す根本玆に在り
▼地方問題欄（忌憚なき大家の評論、地方人士必讀の文字）
▼商工實務家（益々本欄を擴張す）
▼實業見聞欄（明年より各府縣實業界の大調査に着手）
▼發明界（最近の發明家と發明界の消息）
▼學校就職欄（父兄と學生との必讀文字）
▼半ヶ月の財界（貿易界、金融界、事業界、株式界の消息觀ろが如し）
▼奮闘美譚（眞に模範的の奮闘談）
▼人物欄（之れ久しく本誌特有の壇場）
▼海外欄（貿易品の研究、海外起業案內、發展者の新天地）

●新年大附錄◎實業家の一大分類（系統、黨派別、學派閥、各種工業家の大類別、輸入派と輸出派、三府問屋の一覽表、發明家一覽、海外の店人等四十餘頁全國數千の實業家を網羅す。）●

第四巻

實業少年

毎月一回
一日發行

●大判（四六判二倍大）本文紙數七十二頁
●光澤紙寫眞版四頁
▲正價一冊金拾錢郵稅一冊（本誌に限）壹錢五厘

新年大景品

▼實業界子弟の立身の相談相手は本誌なり
▼實業界の子弟に方向針路を指導するは本誌なり
▼實業界の子弟に獨習の師たるは本誌なり

◎世界交通全圖

極彩色航路鐵道電信等の線路一切を收め特に日本帝國民發展の狀況を知らしむる

最新の大地圖なり

▼實業界の子弟に生きた教訓を與ふるは本誌也
▼本誌を讀むものは必ず時代進步のにおくるゝことなし
▼本誌はすべて浮華をさけて實用實益のみを旨とす

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

第五卷

農業世界

本誌發刊せられてより茲に五星霜早くも内外の好評を博し、本邦農業雜誌中の大王を以て目せられ、發行部數の巨多なる、勢力の旺大なる、他の雜誌に比しては恰も群山を凌ぐ富岳の如き觀あり、是れ時運の宜しきを得たるに因るも抑も亦た讀者愛顧の賜なり。依て本誌は更に其の厚意を報ひん爲め來年よりは更に有益にして興味津々たる材料を滿載する事を期すべし、其の内容は之を一月の初號に見るべ

每月一回
十日發行

●菊判本文紙數二百四十頁
●寫眞版（光澤紙…四頁 普通…二頁）
●彩色石版畫（植物標本）
●原色寫眞版（動物標本）
▲正價一冊金貳拾錢　郵稅一冊（本誌に限）二錢五厘

▼▼▼新年大附錄●農家年中曆
彩色美麗 趣味多大▲▲▲

●本誌は農業、林業、水產に關する朝野名家の有益斬新なる明論卓說」耕種園藝、釀造、養蠶、畜產、土地改良、林業、水產、副業、等の各事項に涉れる各專攻の學者實際家の執筆に係る學說實驗」農政問題、自治農村、產業組合、耕地整理等に對する意見と經驗」とを掲げ、斯界を改良指導することを期すべし、
●本誌には農業林業、水產業者の人物經歷、事業言行逸話等」農家が家庭に要すべき育兒、攝生、娛樂、料理、雇人待遇、家風、家法等」を掲げ一は農界の人物を奬勵し、一は農家の家庭を改善することを期すべし
●本誌には各地方に於ける冠婚葬祭、祝事娛樂・奇蹟奇談等の風俗習慣」農界に行はるゝ俳句俗謠、俚歌より詩歌講話小話の類」を掲げて文藝的趣味と娛樂の念とを與ふべし。
●本誌には內地に於ける農林水產に關する狀況及時事を明かにし、尙滿韓西比利亞、南北亞米利加、布哇に於ける各國の農事の模樣移民の狀況」等を詳記して讀者の參考に供すべく、讀者より提供する各種の質問に對し一々叮嚀親切に解答して其良師たるを期すべし

第十六卷

文藝倶樂部

每月一回
一日發行

●菊判本文紙數三百二十頁●原色寫眞版一枚
●寫眞版（光澤紙（二色刷）二頁 普通……八枚）●木版摺錦繪一枚
▲正價一冊金廿五錢　郵稅一冊（本誌に限）三錢

新年大附錄

●●年中重寶壽語祿

山中古洞氏筆

着色五度摺 鮮麗無比

時世の變化に俟ら十年一日の如態度を持し來りし點に於て、文藝倶樂部は東都唯一の大雜誌と信じ申候、左れば年爰に改まると共に旗幟は一層鮮明なるべく、繪畵の精巧口繪の美觀寫眞の艶麗等は今更事珍しく氣に吹聽致すべき限りに無之候へども只爰に一言致すべきは、新年大附錄の義に、明年度より舊曆を廢せられ候爲め日常不便を感ぜらるる向も不尠と存候て、編輯員が慘憺たる苦心を以て作成致したる年中重寶壽語祿は五節句は元より其他農商家に必要なる季節・新舊對照して一目瞭然たらしめ候へ、家庭遊戲の裡知らず知らず暗記せらるるの便あるのみならず使用後壁上に貼付し置かれなば復雜なる曆本を一々繰り返へさるよりも一層簡便なるべく、眞に之れ年中重寶の名に負かざるものと存候、しかもその繪畫と印刷の兩々相俟っていかに美麗なるかは爰に行々しく豫告致すべく必要・無之かるべく候

（後付の三）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

第三卷

冒險世界

每月一回
五日發行

◎新年號に限り一月一日發行
●大判（四六判二倍大）本文紙數百二十八頁
●三色版口繪一枚●光澤紙寫眞版四頁
▲正價一冊金十五錢郵稅一冊（本誌に限）二錢

見よ見よ

新年大附錄●マラソン競走双六―押川春浪案、小杉未醒筆―本誌八倍大彩色極美麗

冒險世界は健闘男子の戰友、英雄崇拜主義の大雜誌である。
新春號は特に全部を色刷とし、壯絶快絶の記事を滿載して、
初日出と同時に全國書林に現はるべし。刮目して待て！

新年記事●卷頭冒險小説 押川春浪 舌の英雄豪傑 河岡潮風 世界七大探檢記 七大文士其他如山

第五卷

幼年畫報

每月一回
五日發行

◎新年號に限り一月一日發行
●菊判美麗畫本 ●石版極彩色刷十六頁
●活版寫眞入二度刷十六頁●寫眞版四頁
▲正價一冊金十錢郵稅一冊（本誌に限）一錢

幼年畫報は、お正月から又新らしい衣服を着ます、石版刷の繪は、ますます、美しくなり、記事にもおもしろい事が多くあります、みなさんおなじみの小波のおぢさんが、今度アメリカの旅行を終つて目出度くお歸りなさいましたから、澤山のおみやげは、之から每號の雜誌で皆さんのお目を樂ませるのです、そこでお正月の雜誌にはこんな面白い附錄があります、アラ太郎さんは犬のお馬から落こちました、お花さんもポチを馬車にのせて引ぱつて居ます、アラほんとにおかしいぢやありませんか、さア早く見ないと、ポチもジヨンも逃げてしまいますよ。

▶新年大附錄◀



（後付の四）

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

第十六巻

少年世界

●●●少年世界は今や第十六巻の齡を重ね、●●●主筆巖谷小波氏新に歸朝して椽大の筆を振ひ、雜誌界空前の偉觀を呈すべし、即ち◉表紙畫は近く全國の少年の美術家より募りし傑作を用ゐ◉口繪原色版は泰西名家の新作を揭ぐべし◉石版畫は一は生物一は風景とし、西野、大下二氏交互に其得意の妙腕を振はる。

毎月一回
一日發行

●菊判本文紙數百二十八頁（内十六頁着色二度刷）
●原色寫眞版一枚 ●石版數色刷一枚
●寫　眞　版　四　頁　挿　入
▲正價一冊金十錢 郵稅一冊（本邦ニ限ル）一錢五厘

●記事＝卷頭さゞなみ主筆のお伽噺は更に其趣味を倍加し、特別寄稿家の學藝談、冒險小說、立志小說等各獨得の筆を以て、新春の誌上を賑かならしむ、又懸賞文受賞者は從來の倍數とし、特に初等科の兒童に適すべき投稿欄を加へたるが如き、其他每號各種の懸賞問題を揭げて趣味の助長を圖り、口繪寫眞版を增加して四頁とせし等、面目全く一新せり。

新年大附錄 少年丸世界一週双六

巖谷小波立案
竹波國觀揮毫

第五巻

少女世界

毎月一回
一日發行

●菊判本文紙數百廿八頁（内十六頁着色二色刷）
●石版口畫二頁 ●光澤紙寫眞版四頁
▲正價一冊金十錢郵稅一冊（本邦ニ限ル）一錢五厘

●少女お伽噺…巖谷小波
▽長命と食物……横山理學博士
▽女皇の幼時……岡本文學士
●春の歌…與謝野晶子
▽妹のリボン……沼田笠峰
▽艦上の君ヶ代……黑田湖山
▼五卷の春…（表紙）……太田三郎筆
▼狆が妹姉…（口繪）……中澤弘光筆
▼少女姿…（口繪）……梶田半古筆
▲少女會館はます／＼盛況です
●腕輪の行衛　押川春浪
▽英文少女の歌……鹽谷榮
▽少女小說……西村渚山
●少女小說……三宅花圃
▽少女お伽噺……武田櫻桃
▽正月の學問……木村小舟

新年大附錄 女學校すごろく

岡野榮
榊原蕉園 合作

（後付の五）

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

第十卷

女學世界

新年大附錄

竹内桂舟畫

新撰婦人雙六

大判極彩色 無類の美彩

((内　容))

▼宮中の御平生
▽皇后陛下新春の御すさび
▼上流社會の松の内
▽外人の觀たる日本の正月
▼貴婦人の世間話
▽歐州貴婦人の社交談
▼名流婦人の日常生活
▽伊太利皇室と大山公使夫人
▼榮ゆる權門
▽新時代の教育を受けたる奥樣の面影

▼令孃の春遊び
▽裏より見たる女子大學
▼各地の正月風俗
▽外交官夫人の資格
▼正月行事の由來
▽都下各女學校の校風較べ
▼新婚の正月
▽別莊の春興
▼三都の娘風俗競べ
▽新春の化粧法

毎月一回
一日發行

●菊判紙數二百〇八頁 ●原色寫眞版一枚
●寫眞版（光澤紙 八頁）●石版（精巧彩色畫二枚 筆蹟鉛筆畫毛筆畫二頁）
▲正價一册金貳拾錢郵税一册（本號に限）貳錢五厘

（後付の六）

第十三卷

中學世界

毎月一回
十日發行

◎新年號に限り一月一日發行
●菊判本文紙數二百四十頁
●寫眞版（光澤紙…四頁 普通…四頁）●水彩畫、ペン畫鉛筆畫色鉛筆畫六頁
▲正價一册金貳拾錢郵税一册（本號に限）貳錢五厘

新年大附錄

◉日本學生の歌……（大懸賞當選披露）

（日本學生の代表歌……歌へ歌へ、歌つて大に青年の志氣を鼓舞せよ）

賞を懸けて汎く江湖に募りたる、わが日本學生の歌は、現代青年學生諸君の大歡迎を受け、邦土到る處に應募者あり　其總數實に一千餘數に上れり。新渡戸博士、芳賀博士、島崎藤村氏、大町桂月氏等の選者親しくこれが鑑賞批判の任に當られ、一等當選歌以下數十通の秀逸歌詞を得たり。雄大、文雅、高潔、剛健、あらゆる理想を歌ひ盡して、殆んど餘蘊なし。作曲は、田村音樂學校教授擔當し、本誌新年大附錄として、新年號の卷頭を飾るべし。これ本誌が明年度に於ける、劈頭の新事業なり。

▼**内容**は只充實と多樣と適切とを期す。有益にして興味多き記事滿載せらるべし。諸學校に於ける懸賞と水彩畫の募集とは明年度に於て益々其の**特色**を**發揮**せらるべし。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

第五卷

文章世界

每月一回
十五日發行

▲論説　朝野の名家大家の高論卓説を收む◎文章界の新問題及びこれが解決は獨り本誌の此の欄に依つて知るを得べし。
▲創作　短篇小説、小品、紀行文、寫生文、史論、時論、詩歌俳句等、何れも中央文壇に名ある人の新作を掲ぐ。
▲飜譯　西洋近代の新作にして、最も價値あるものを選擇し、可及的原作に近き國語より飜譯すべし。
▲談叢　時事に觸れたる諸種の問題について各方面の大家の高話を聞くべし◎座らにして大家の風丰、口吻を偲ぶに足るべし。
▲月旦　各方面の文學者、文章家もしくは文壇の新運動に對して徹底せる評論を試むべし。
▲時評　中央文壇の新思潮、新機運は勿論、月次の新作について責任を以て批評の筆を揮ふべし。

▲文章講壇　―專ら文を作る上についての心得を說くべし◎時評の一般文壇的なると兩々相俟つて本誌の主張を見るべし。
▲文範　東西古今の名文を擧げて註釋を施すと共に批評すべし。
▲評釋　文章詩歌俳句等各其の道の大家に囑して懇切なる評釋を揭ぐべし。
▲資料　名句新選、詩語、雅語、俗語、科語其の他諸種の難解なる熟語の解釋文章顧問等此の欄に收む。
▲評傳　東西古今の文豪を傳し且つ許す◎執筆者は論壇の大家。
▲文叢　文叢は滿天下の青年文士の錦心繡腸の文字を集む◎其の選評は親切丁寧を極む。

●菊判本文紙數二百四十頁●原色寫眞版一枚
●寫眞版（光澤紙：四頁／二色刷：一枚）●石版　水彩畫一枚
▲正價一冊金貳拾錢郵稅一冊（本誌に限る）貳錢五厘

○新年大附錄（四十頁）島崎藤村、德田秋聲、正宗白鳥、中村星湖、田山花袋の諸氏が苦心に成る新作を收む。明治四十三年文壇劈頭を飾る最も價値ある產物也。

第四卷

英語世界

每月一回
五日發行

◎新年號に限り　一月一日發行
●菊判本文紙數　七十二頁
●光澤紙寫眞版　二頁
▲正價一冊金拾錢　郵稅一冊金壹錢

●新渡戶博士英語研究談◎頭本元貞氏英文筆蹟（寫眞版）

◎和文英譯　時文斷片　武信由太郎
◎マクスオレル　諷刺論文講義　今井信之
◎新年に關する英作文手引　元田作之進
◎アクセント講話　岸本能武太
◎作文本位讀書法　上條辰藏

◎論文譯解　增田藤之助
◎會話練習　村井知至
◎譯註　血天井　深澤由次郎
◎慣用句法　神崎保太郎
◎英譯　大陸文　譯註　山崎貞

○商業用英語
○英語の謎々
○外國の新年
○試驗詳解
○英語の形式
○英文通信
○質疑答解
○讀本手帖

○慣用句の使分
○和文英譯法
○世界タイムス
○日英タイムス
○ナショナル講義
○懸賞文發表
○懸賞新課題
○第三卷總目次

▲新年大附錄＝西洋お伽七頭龍……長井氏最譯註▼

（後付の七）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

第四卷

數學世界

毎月一回
十日發行

●菊判本文紙數百二十八頁
●光澤紙寫眞版二頁●木版密書數十箇挿入
▲正價一冊金拾五錢　郵稅一冊壹錢五厘

（後付の八）

新年大附錄
智惠くらべ
數理の駒飛

來る庚戌の初めなり大發展大飛躍を試むべき本誌の內容は左の如し

▲研究資料　數學の研究に資すべき斯學大家の名說を載す

▲雜纂　數理に關するもの一切を網羅して其應用に至らしむ

▲數學講話　初等數學は獨習書に讓り高等數學の簡易なるものを解き又課題と質問を掲載す

▲寄書欄▲自問自答▲質問研究▲質問研究解義▲試驗問題　諸官立學校入學試驗問題を收む

▲懸賞問題……每號掲載

第四卷

鉄道汽船 旅行案內

毎月一回
一日發行

●菊版紙數約二百頁　▲携帶至便▼
●石版二度刷表紙美本
▲正價一冊金拾錢郵稅一冊（本邦に限）一錢五厘

抑も世に旅行の案內として發行する、雜誌は體裁舊式を脫せずして携帶に便ならず校正杜撰にして時間に誤り多し、加ふるに紙質粗惡印刷不鮮明にして、案內雜誌たる價値を有するもの絕無と云ふも誣言に非らず、弊館玆に見るあり精確なる材料と新機軸の體裁とに依り、携帶に便に、捜索に利なる組織を以て本誌を發行し來れり、蓋し本館は東洋唯一の印刷機械と千餘名の職工を有する製本工場とを備ふるを以て、最も發行日に近き發着時間の改正も、必ず訂正を加へ完全無缺の者を發行し得べし、是を以て大に旅行家の歡迎信頼を得、世の片々たる案內雜誌をして後に瞠若たらしむに至れり、弊館は之に甘んせず四十三年より一層改良を計り以て江湖の眷顧に報ひんことを期す

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

閑却すべからざる俳壇の珍本

今井柏浦君選

古今女流俳句集

榊原蕉園女史口繪

全一冊　菊半裁美本　貳百五十頁　近日出版

女流の俳句は、男子の俳句に較べて、放膽、豪宕の氣に乏しいが、纖細、優婉、溫情自然に溢るゝ、天眞流露の趣は、到底男子の遠く及ばぬ處がある。畢竟女子は男子に比べて、思想の緻密なると共に、感情の溫柔なる處が多いから、俳句なり、歌なり、女性的と男性的とは瞭然とした區別があつて、其觀察點も抒情の經路も違つてゐる、即ち女性的俳句の特色は、男性的よりも多く同情に富める點にある。この書に蒐めた俳句は、古今を通じて女流の佳吟名什約三千、其秀逸なるものに至つては優に男子を凌駕するものがある、俳句を學ばんとする婦女諸君は固より、女性の俳句を究めんとする人は是非一本を備へねばならぬ。

(東京本町)　博文館發行　(振替二四〇番)

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

女學世界
(明治四十二年十一月廿六日發行 毎月一回廿六日印刷納本) 第九卷第拾六號 (明治卅三年十二月廿五日 第三種郵便物認可)

◎何ぜ此ンナ目藥ガ出來タカ

(第一)醫學と藥學は年々進歩して行くから後に出來た物は自然に善ひ物が出來る道理であります

(第二)後から出來た物は先に出來た物よりも善ひ物で無くては今日の世の中で競爭は出來ぬ

井上博士處方

大前藥學士督製



効能 のぼせ目、はやり目、トラホーム、ほし目、ち目、たゞれ目、つかれ目、こり目、かわき目、つき目、かすみ目、ごろ／＼する目、はれ目、めぼし、くもり目、ものもらい、黑玉たゞれ等に奇効あり但しそこひには効なし

特色 ロート眼藥には消毒したる布と新案の點眼器を添付しあり

定價 大瓶廿錢 小瓶十錢

◎胃病は萬病の本なり

とは獨逸博士ボアース氏の格言である胃があつて人の身體に營養分を供給し營養分があつて人間が生て居るのであるから此胃に故障があつたら全身の機關に故障が出來て種々の病を引き起すのは當然である

陸海軍醫五名 合議製劑



●**効能** 胃弱●溜飲●胃痛●腹痛●胸痞●食傷●胃加答兒 消化不良●惡心嘔吐●宿醉●慢性胃弱等胃病一切に効あり

胃活錠は胃活を加減して目下歐米に流行する新式の種劑となしたるものなり

●定價 胃活錠 ○壹圓 ○五拾錢 ○貳拾錢 胃活 ○壹圓○六拾五錢○四拾五錢○廿五錢○拾錢

發賣本舖 東京銀座一丁目廿三番地 大阪南久寶寺堺筋東 山田安民藥房

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

監修
小山静子　KOYAMA Shizuko
京都大学大学院教授

女学世界（じょがくせかい） 明治期復刻版⑫
明治42年11月（第9巻第15号）、12月（第9巻第16号）

2009年12月10日　第1刷発行　　定価（本体20,000円+税）

監　修　小山静子
発行者　富澤凡子
発行所　柏書房株式会社
東京都文京区本駒込1-13-14（〒113-0021）
電話　03-3947-8251［営業］03-3947-8254［編集］
協　力　株式会社博文館新社
印　刷　株式会社友美社
製　本　有限会社青木製本

ISBN978-4-7601-3737-4　C3321

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

A 1,134,303

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN